



令和 2 年度

第 61 回

県政に関する世論調査

報 告 書

令和 3 年 5 月

千 葉 県

は し が き

この調査は、県民の皆さまの生活意識や、県政に対してどのような関心や、期待などを持っておられるかを把握し、県政推進の基礎資料とするため、昭和50年度から実施しています。

平成18年度からは年2回実施しており、今回は令和2年度第2回目の調査で、県内在住の満18歳以上の男女3,000名を対象に、昨年11月から12月にかけて郵送法・オンライン調査法で実施しました。

具体的内容としては、「県政全般に関する意識調査」、「災害時における県民の備えや意識」、「災害ボランティア等」、「ワーク・ライフ・バランス」、「高齢期の住まい」、「県民の治安に対する意識と警察に求めること」、「犯罪被害者等支援」、「サイバー空間の安全対策」、「都市農業」の9項目について調査を実施しました。

この報告書が、県の施策立案や諸事業の推進などに活用されるだけでなく、広く県民の生活意識や県政に関心を寄せる方々にご活用いただければ幸いです。

結びに、この調査にご協力いただきました県民の皆さまを始め、関係の方々に厚くお礼申し上げます。

令和3年5月

千葉県総合企画部長 鎌形 悦弘

目 次

調査の概要	1
調査の結果 調査結果の解説	9
1 県政全般に関する意識調査	9
(1) 防災に関する意識	9
(2) 暮らしの安全・安心に関する意識	14
(3) 医療・福祉・健康に関する意識	19
(4) 文化芸術・スポーツに関する意識	25
(5) 環境問題に関する意識	28
(6) 子育てに関する意識	34
(7) 教育に関する意識	40
(8) 千葉県の魅力発信に関する意識	46
(9) 地域生活に関する意識	51
(10) 商工業に関する意識	54
(11) 農林水産業に関する意識	59
(12) 雇用・労働に関する意識	64
(13) 県の基盤づくりに関する意識	68
(14) 情報通信技術（ＩＣＴ）に関する意識	74
(15) 人口減少の対策として県で必要な取組	78
2 災害時における県民の備えや意識について	82
(1) 災害時の停電に備えた準備	82
(2) 停電時の情報入手手段	84
(2-1) 携帯電話・スマートフォン・タブレットでの主な情報の 入手手段	86
(3) 停電時に必要な情報	88
(4) 災害時の避難方法の認知状況	90
(5) 地域に浸水のおそれがある場合の避難方法	92
(6) 避難に備えた新型コロナウイルス感染症対策	94
(7) 避難所において安心できる新型コロナウイルス感染症対策	96
3 災害ボランティア等について	99
(1) 市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度	99
(2) 令和元年に県で発生した一連の災害での災害支援活動の参加経験	101
(2-1) 参加した災害支援活動の内容	103
(3) 今後の災害支援活動への参加意向	105

4	ワーク・ライフ・バランスについて-----	108
	(1) 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度 -----	108
	(2) ワーク・ライフ・バランスの実現度 -----	110
	(2-1) 職場において支障となっている点 -----	112
	(3) 新型コロナウイルス感染症対策としてのテレワークの実施状況 ----	114
	(3-1) テレワークを実施していない理由 -----	116
5	高齢期の住まいについて-----	119
	(1) 高齢期の住まいで重要なこと -----	119
	(2) 高齢期に住みたい住宅 -----	121
	(3) 高齢期に備えた住宅の建て替え、買い替え、リフォームの必要性 --	123
	(4) 介護が必要になった時に望む住まい方 -----	125
6	県民の治安に対する意識と警察に求めることについて-----	128
	(1) お住まいの地域の犯罪発生状況 -----	128
	(2) 自身や身近な人が巻き込まれる危険性に不安を感じる犯罪 -----	130
	(3) 警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪 -----	133
	(4) 安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと -----	136
7	犯罪被害者等支援について-----	140
	(1) 犯罪被害者等の権利利益の保護を目的として制定された法令等の 認知度 -----	140
	(2) 犯罪被害者等のための相談窓口の認知度 -----	142
	(3) 犯罪被害者等のための施策の認知度 -----	144
8	サイバー空間の安全対策について-----	147
	(1) ネット犯罪への危機感 -----	147
	(2) 危険性や不安を感じるネット犯罪 -----	149
	(3) ネット犯罪に関する防犯情報の入手方法 -----	151
	(4) F r e e W i - F i (公衆無線LAN) の利用状況 -----	153
	(5) インターネット空間の安全確保に向けて期待する警察活動 -----	155
9	都市農業について-----	158
	(1) 千葉県の都市農地の保全意向 -----	158
	(2) 千葉県の都市農業・都市農地に期待する機能や役割 -----	160
	(3) 都市農地を守るために行いたい支援 -----	162
	(4) 都市農地を保全するために行政が行う必要がある施策 -----	164
10	自由回答-----	167
	(付) 調査票および単純集計結果 -----	172

調 査 の 概 要

1. 調査の目的

この調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の項目

県政の主要課題

- ① 県政全般に関する意識調査
- ② 災害時における県民の備えや意識について
- ③ 災害ボランティア等について
- ④ ワーク・ライフ・バランスについて
- ⑤ 高齢期の住まいについて
- ⑥ 県民の治安に対する意識と警察に求めることについて
- ⑦ 犯罪被害者等支援について
- ⑧ サイバー空間の安全対策について
- ⑨ 都市農業について

3. 調査の設計

- (1) 調査地域 千葉県全域
- (2) 調査対象 満18歳以上の男女個人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックごとに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

- (5) 調査方法 郵送法・オンライン調査法の併用
(郵送配付－郵送・オンライン回収)
- (6) 調査時期 令和2年11月27日～令和2年12月18日

4. 調査機関

株式会社 マーケティングリサーチサービス

5. 回収結果

標本数 (A)	3,000件
総回収数 (B)	1,532件
有効回収数 (C)	1,529件
うちネット回収数	364件
無効回収数	3件
うちネット回収数	0件
回収率 (B / A)	51.07%
有効回収率 (C / A)	50.97%

標本抽出方法

調査対象：千葉県内の市町村に居住する満18歳以上の男女個人
標本数：3,000人
地点数：市部 193地点
郡部 7地点
計 200地点
抽出法：層化二段無作為抽出法

〔層 化〕

1. 県内を、次の11地域に分類した。

地 域 名	該 当 市 郡 名
①千葉地域	千葉市、市原市
②葛南地域	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、浦安市
③東葛飾地域	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市
④印旛地域	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、印旛郡
⑤香取地域	香取市、香取郡
⑥海匝地域	銚子市、旭市、匝瑳市
⑦山武地域	東金市、山武市、大網白里市、山武郡
⑧長生地域	茂原市、長生郡
⑨夷隅地域	勝浦市、いすみ市、夷隅郡
⑩安房地域	館山市、鴨川市、南房総市、安房郡
⑪君津地域	木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市

2. 各地域内においては、
さらに市部、郡部に分け、層とした。

（注）ここでいう市とは、
令和2年4月1日現在市制施行の
地域をさす。



〔標本数の配分〕

各地域・市郡規模別の層における満18歳以上の人口（令和2年4月1日現在の推定数）に対して、3,000の標本数を比例配分した。

〔抽出〕

1. 平成27年国勢調査時に設定された調査区を、第1次抽出単位となる調査単位として使用した。
 2. 調査地点の抽出は、調査地点が2地点以上に割り当てられた層については、

$$\left(\frac{\text{層における調査区数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right)$$
を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。
 3. 抽出に際しての各層内における市町村の配列順序は、平成27年国勢調査時の「標準地域コード一覧」に従った。
 4. 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地等を指定）を、住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。
- 以上の結果、各地域・市郡別（層別）の標本数・調査地点数は、次のとおりである。

地域 市郡	市部	郡部	計
①千葉地域	1,066,091 585 39	0 0 0	1,066,091 585 39
②葛南地域	1,424,395 795 53	0 0 0	1,424,395 795 53
③東葛飾地域	1,288,978 720 48	0 0 0	1,288,978 720 48
④印旛地域	582,691 330 22	36,303 15 1	618,994 345 23
⑤香取地域	66,268 30 2	30,304 15 1	96,572 45 3
⑥海匝地域	140,981 75 5	0 0 0	140,981 75 5
⑦山武地域	137,952 75 5	40,882 30 2	178,834 105 7
⑧長生地域	77,355 45 3	52,172 30 2	129,527 75 5
⑨夷隅地域	48,879 30 2	14,719 15 1	63,598 45 3
⑩安房地域	102,252 60 4	6,905 0 0	109,157 60 4
⑪君津地域	279,667 150 10	0 0 0	279,667 150 10
計	5,215,509 2,895 193	181,285 105 7	5,396,794 3,000 200

（注）上段は満18歳以上の人口（令和2年4月1日現在）、中段は標本数、下段は調査地点数である。

調査地点一覧

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
①千葉地域	千葉市中央区長洲２丁目	15	①千葉地域	市原市ちはら台西６丁目	15
	千葉市中央区鶴沢町	15		市原市深城	15
	千葉市中央区中央港１丁目	15		市原市玉前	15
	千葉市中央区弁天１丁目	15	②葛南地域	市川市鬼高４丁目	15
	千葉市中央区松ヶ丘町	15		市川市平田３丁目	15
	千葉市中央区仁戸名町	15		市川市本北方１丁目	15
	千葉市中央区生実町	15		市川市田尻４丁目	15
	千葉市花見川区花園４丁目	15		市川市市川１丁目	15
	千葉市花見川区幕張町５丁目	15		市川市本北方３丁目	15
	千葉市花見川区朝日ヶ丘３丁目	15		市川市市川南１丁目	15
	千葉市花見川区幕張本郷４丁目	15		市川市市川２丁目	15
	千葉市花見川区三角町	15		市川市南大野２丁目	15
	千葉市花見川区柏井４丁目	15		市川市妙典２丁目	15
	千葉市稲毛区黒砂１丁目	15		市川市曾谷４丁目	15
	千葉市稲毛区小仲台５丁目	15		市川市宝１丁目	15
	千葉市稲毛区千草台１丁目	15		市川市北国分２丁目	15
	千葉市稲毛区小仲台９丁目	15		市川市行徳駅前１丁目	15
	千葉市稲毛区山王町	15		市川市南行徳２丁目	15
	千葉市若葉区西都賀２丁目	15		市川市香取２丁目	15
	千葉市若葉区加曽利町	15		市川市相之川１丁目	15
	千葉市若葉区都賀の台２丁目	15		船橋市本町５丁目	15
	千葉市若葉区千城台東４丁目	15		船橋市宮本６丁目	15
	千葉市緑区おゆみ野中央６丁目	15		船橋市栄町２丁目	15
	千葉市緑区鎌取町	15		船橋市二子町	15
	千葉市緑区下大和田町	15		船橋市西船３丁目	15
	千葉市緑区あすみが丘８丁目	15		船橋市山手３丁目	15
	千葉市美浜区磯辺７丁目	15		船橋市夏見７丁目	15
	千葉市美浜区浜田１丁目	15		船橋市行田町	15
	千葉市美浜区高浜５丁目	15		船橋市藤原４丁目	15
	千葉市美浜区新港	15		船橋市金杉台１丁目	15
	市原市南国分寺台１丁目	15		船橋市八木が谷２丁目	15
	市原市野毛	15		船橋市大穴北１丁目	15
	市原市辰巳台東２丁目	15		船橋市大穴南１丁目	15
	市原市青葉台６丁目	15		船橋市芝山４丁目	15
	市原市五井中央西１丁目	15		船橋市習志野台６丁目	15
	市原市東五所	15		船橋市西習志野４丁目	15

地域	調 査 地 点 名	標 本 数	地域	調 査 地 点 名	標 本 数
② 葛南地域	船橋市二宮 2 丁目	15	③ 東葛飾地域	野田市中野台	15
	船橋市三山 5 丁目	15		野田市上花輪新町	15
	船橋市前原東 4 丁目	15		野田市春日町	15
	習志野市袖ヶ浦 1 丁目	15		野田市親野井	15
	習志野市香澄 1 丁目	15		柏市中央 2 丁目	15
	習志野市奏の杜 1 丁目	15		柏市明原 2 丁目	15
	習志野市大久保 3 丁目	15		柏市戸張	15
	習志野市本大久保 1 丁目	15		柏市新富町 1 丁目	15
	習志野市東習志野 6 丁目	15		柏市西町	15
	八千代市緑が丘 1 丁目	15		柏市松葉町 4 丁目	15
	八千代市米本	15		柏市増尾 7 丁目	15
	八千代市村上南 2 丁目	15		柏市南増尾 8 丁目	15
	八千代市萱田町	15		柏市東中新宿 4 丁目	15
	八千代市八千代台南 1 丁目	15		柏市西原 7 丁目	15
	浦安市猫実 2 丁目	15		柏市花野井	15
	浦安市北栄 1 丁目	15		柏市高柳	15
	浦安市東野 3 丁目	15		流山市古間木	15
	浦安市堀江 1 丁目	15		流山市向小金 1 丁目	15
	浦安市入船 5 丁目	15		流山市木（大字）	15
	浦安市明海 4 丁目	15		流山市西初石 4 丁目	15
③ 東葛飾地域	松戸市吉井町	15		流山市南（大字）	15
	松戸市二十世紀が丘美野里町	15		流山市西深井（大字）	15
	松戸市南花島 2 丁目	15		我孫子市我孫子 1 丁目	15
	松戸市稔台 8 丁目	15		我孫子市つくし野 1 丁目	15
	松戸市二十世紀が丘戸山町	15		我孫子市天王台 2 丁目	15
	松戸市古ヶ崎 4 丁目	15		我孫子市中峠	15
	松戸市上本郷	15		鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷 2 丁目	15
	松戸市金ヶ作	15		鎌ヶ谷市東中沢 2 丁目	15
	松戸市日暮 3 丁目	15		鎌ヶ谷市丸山 1 丁目	15
	松戸市主水新田	15		鎌ヶ谷市くぬぎ山 5 丁目	15
	松戸市新松戸 3 丁目	15	④ 印旛地域	成田市花崎町	15
	松戸市新松戸 1 丁目	15		成田市加良部 4 丁目	15
	松戸市小金清志町 1 丁目	15		成田市中台 1 丁目	15
	松戸市八ヶ崎 7 丁目	15		成田市公津の杜 1 丁目	15
	松戸市五香西 3 丁目	15		成田市西三里塚	15
	松戸市横須賀 1 丁目	15		佐倉市山崎	15
	松戸市東平賀	15		佐倉市染井野 6 丁目	15
	野田市瀬戸	15		佐倉市王子台 6 丁目	15

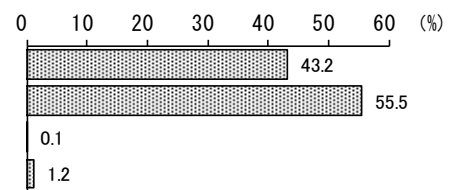
第61回県政に関する世論調査（R2年度）

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
④ 印旛地域	佐倉市上座	15	⑦ 山武地域	山武市蓮沼ホ	15
	佐倉市西ユーカリが丘3丁目	15		大網白里市みどりが丘4丁目	15
	四街道市栗山	15		山武郡九十九里町真亀	15
	四街道市四街道1丁目	15		山武郡横芝光町横芝	15
	四街道市千代田3丁目	15	⑧ 長生地域	茂原市町保	15
	八街市大関	15		茂原市大芝	15
	八街市八街へ	15		茂原市六ツ野	15
	八街市四木	15		長生郡睦沢町大上	15
	印西市原山1丁目	15	⑨ 夷隅地域	長生郡長柄町立鳥	15
	印西市西の原1丁目	15		勝浦市鵜原	15
	印西市松木	15		いすみ市東中滝	15
	白井市堀込2丁目	15		夷隅郡大多喜町久我原	15
	白井市富塚	15	⑩ 安房地域	館山市長須賀	15
	富里市根本名	15		館山市沼	15
	印旛郡酒々井町馬橋	15		鴨川市横渚	15
				南房総市池之内	15
⑤ 香取地域	香取市大島	15	⑪ 君津地域	木更津市清川2丁目	15
	香取市上小堀	15		木更津市東太田2丁目	15
	香取郡東庄町笹川い	15		木更津市大久保4丁目	15
⑥ 海匝地域	銚子市東小川町	15		木更津市江川	15
	銚子市芦崎町	15		君津市北子安2丁目	15
	旭市鎌数	15		君津市北子安5丁目	15
	匝瑳市八日市場ハ	15		君津市久留里	15
	匝瑳市栢田	15		富津市青木三丁目	15
⑦ 山武地域	東金市南上宿	15		袖ヶ浦市坂戸市場	15
	東金市滝	15		袖ヶ浦市久保田	15
	山武市富口	15			

回答者の属性

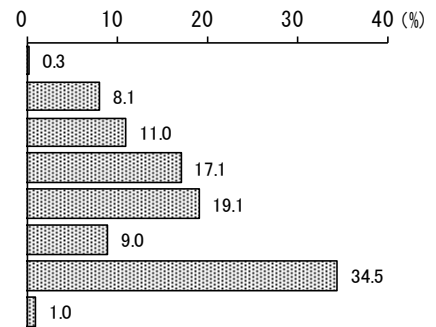
1. 性

	基数	構成比
1 男性	661	43.2
2 女性	849	55.5
3 その他	1	0.1
(無回答)	18	1.2
全 体	1,529	100.0



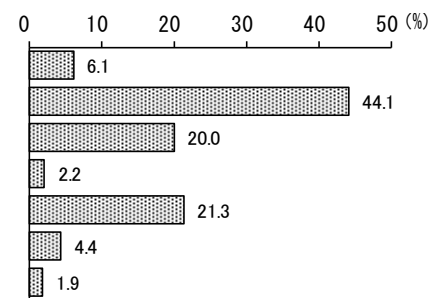
2. 年 代

	基数	構成比
1 18～19歳	4	0.3
2 20代	124	8.1
3 30代	168	11.0
4 40代	261	17.1
5 50代	292	19.1
6 60～64歳	137	9.0
7 65歳以上	527	34.5
(無回答)	16	1.0
全 体	1,529	100.0



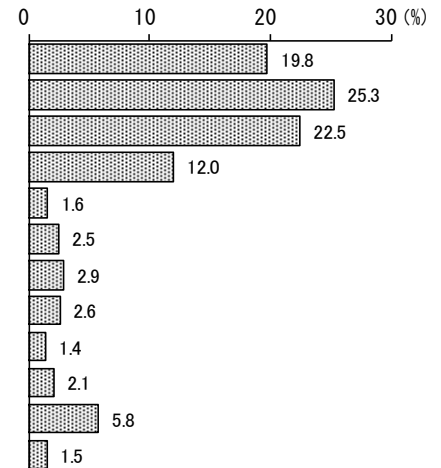
3. 職 業

	基数	構成比
1 自営業者	93	6.1
2 勤め人	674	44.1
3 主婦・主夫	306	20.0
4 学生	34	2.2
5 無職	326	21.3
6 その他	67	4.4
(無回答)	29	1.9
全 体	1,529	100.0



4. 地 域

	基数	構成比
1 千葉地域	303	19.8
2 葛南地域	387	25.3
3 東葛飾地域	344	22.5
4 印旛地域	184	12.0
5 香取地域	24	1.6
6 海匝地域	38	2.5
7 山武地域	45	2.9
8 長生地域	39	2.6
9 夷隅地域	22	1.4
10 安房地域	32	2.1
11 君津地域	88	5.8
(無回答)	23	1.5
全 体	1,529	100.0



（報告書の見方）

本報告書を読む際に、次の点に留意してください。

- （１）比率はすべて百分比で表し、小数点以下第２位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100%にならないことがある。
- （２）基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- （３）１人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- （４）選択肢を合わせた表記の回答割合は、選択肢の回答者人数を合わせた値を、全回答者で割った値を採用しているため、選択肢の回答割合を単純に足した値と異なることがある。
- （５）地域別、性・年齢別の分析において、サンプル数の少ない属性の分析については、グラフ上で数値が高いものでも有意差がなく、分析で触れていない場合がある。
- （６）この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数（サンプル数）
 P = 回答比率

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率（P） 基数（n）		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
総数	1,529人	± 2.17	± 2.89	± 3.31	± 3.54	± 3.62
千葉地域	303	± 4.87	± 6.50	± 7.45	± 7.96	± 8.12
葛南地域	387	± 4.31	± 5.75	± 6.59	± 7.04	± 7.19
東葛飾地域	344	± 4.57	± 6.10	± 6.99	± 7.47	± 7.62
印旛地域	184	± 6.25	± 8.34	± 9.55	± 10.21	± 10.42
香取地域	24	± 17.32	± 23.09	± 26.45	± 28.28	± 28.86
海匝地域	38	± 13.76	± 18.35	± 21.02	± 22.48	± 22.94
山武地域	45	± 12.65	± 16.86	± 19.32	± 20.65	± 21.08
長生地域	39	± 13.59	± 18.11	± 20.75	± 22.19	± 22.64
夷隅地域	22	± 18.09	± 24.12	± 27.63	± 29.54	± 30.15
安房地域	32	± 15.00	± 20.00	± 22.91	± 24.49	± 25.00
君津地域	88	± 9.04	± 12.06	± 13.82	± 14.77	± 15.07
男性	661	± 3.30	± 4.40	± 5.04	± 5.39	± 5.50
女性	849	± 2.91	± 3.88	± 4.45	± 4.75	± 4.85

調査の結果 調査結果の解説

1 県政全般に関する意識調査

（1）防災に関する意識

◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈自助・共助・公助の取組により、災害に対して安心して暮らせる地域になっている〉で3割台半ば

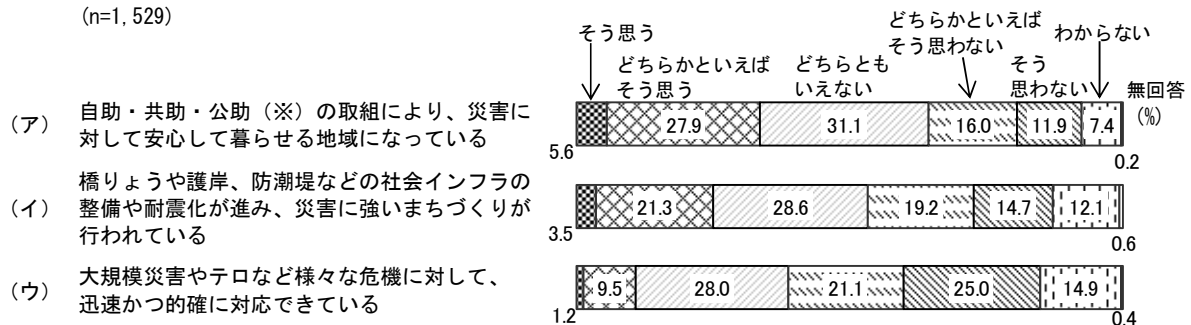
中長期的な視点に立った県政運営の基礎資料とするため、日頃、県民の皆さまが感じていることや思っていることについてお聞きいたします。

問1 あなたは、防災に関する次の項目についてどう思いますか。（○はそれぞれ1つ）

（※）自助・共助・公助…「自助」とは、日頃から家庭で災害に備えるなど、自らの身の安全を自らが守ること、「共助」とは、近隣住民が助け合い、災害から自らの地域を守ること、「公助」とは、消防・警察や自治体による救助や支援のこと。

＜図表1－1＞防災に関する意識

(n=1,529)



防災に関する3つの項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(ア) 自助・共助・公助の取組により、災害に対して安心して暮らせる地域になっている」(33.5%)で3割台半ばとなっており、以下、「(イ) 橋りょうや護岸、防潮堤などの社会インフラの整備や耐震化が進み、災害に強いまちづくりが行われている」(24.9%)が2割台半ば、「(ウ) 大規模災害やテロなど様々な危機に対して、迅速かつ的確に対応できている」(10.7%)が1割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が最も高いのは、「(ウ) 大規模災害やテロなど様々な危機に対して、迅速かつ的確に対応できている」(46.0%)が4割台半ばとなっており、以下、「(イ) 橋りょうや護岸、防潮堤などの社会インフラの整備や耐震化が進み、災害に強いまちづくりが行われている」(33.9%)が3割台半ば、「(ア) 自助・共助・公助の取組により、災害に対して安心して暮らせる地域になっている」(27.9%)が約3割となっている。（図表1－1）

【地域別】

地域別にみると、「（イ）橋りょうや護岸、防潮堤などの社会インフラの整備や耐震化が進み、災害に強いまちづくりが行われている」の『そう思わない（計）』は“長生地域”（56.4%）と“夷隅地域”（54.5%）が5割台半ばで高くなっている。

「（ウ）大規模災害やテロなど様々な危機に対して、迅速かつ的確に対応できている」の『そう思わない（計）』は“長生地域”（61.5%）が6割を超え、“千葉地域”（51.2%）が5割を超えて高くなっている。（図表１－２）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「（ア）自助・共助・公助の取組により、災害に対して安心して暮らせる地域になっている」の『そう思わない（計）』は男性の65歳以上（33.6%）が3割台半ばで高くなっている。

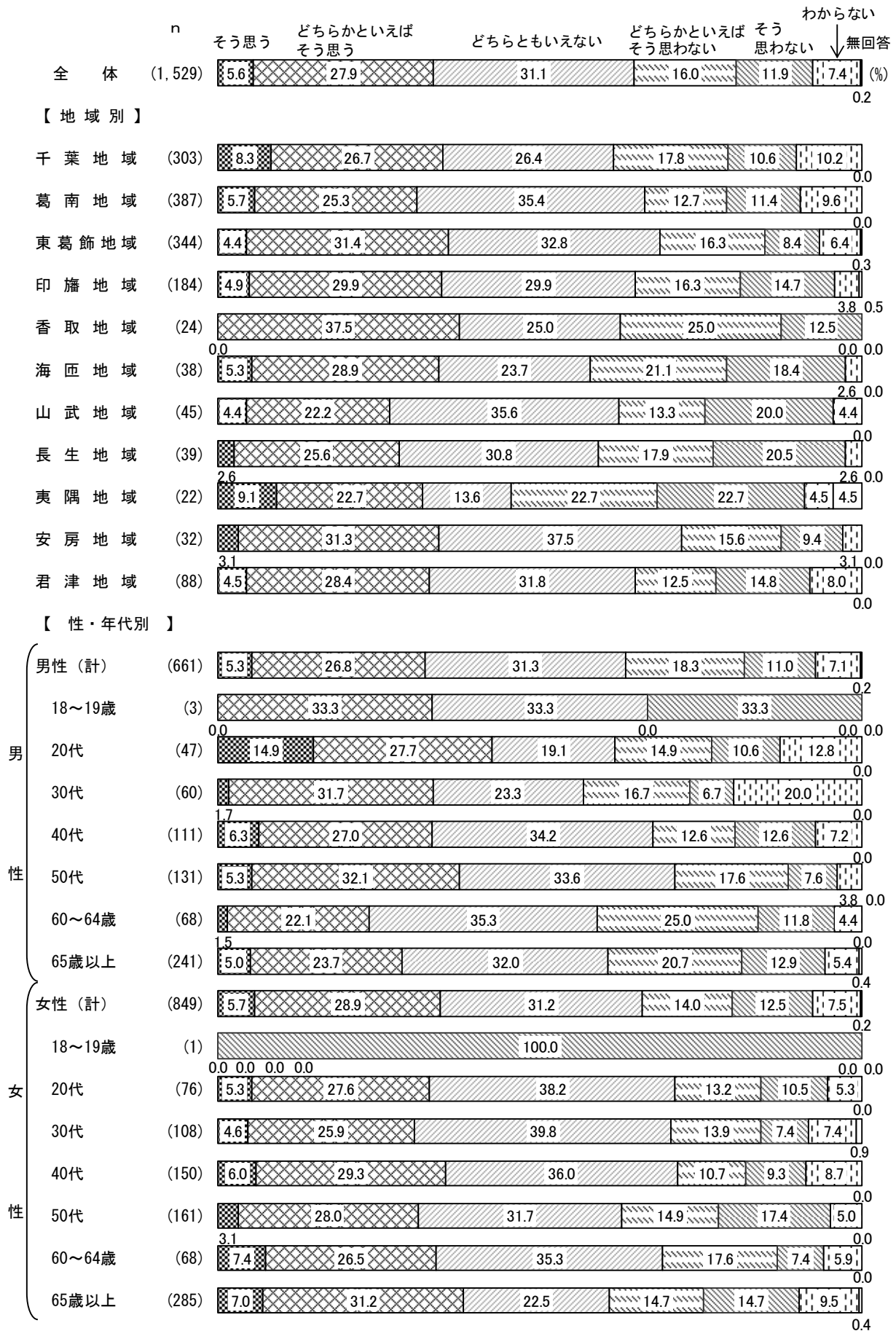
「（イ）橋りょうや護岸、防潮堤などの社会インフラの整備や耐震化が進み、災害に強いまちづくりが行われている」の『そう思う（計）』は男性の50代（34.4%）が3割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の65歳以上（39.4%）が約4割で高くなっている。

「（ウ）大規模災害やテロなど様々な危機に対して、迅速かつ的確に対応できている」の『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（60.3%）が6割で高くなっている。（図表１－２）

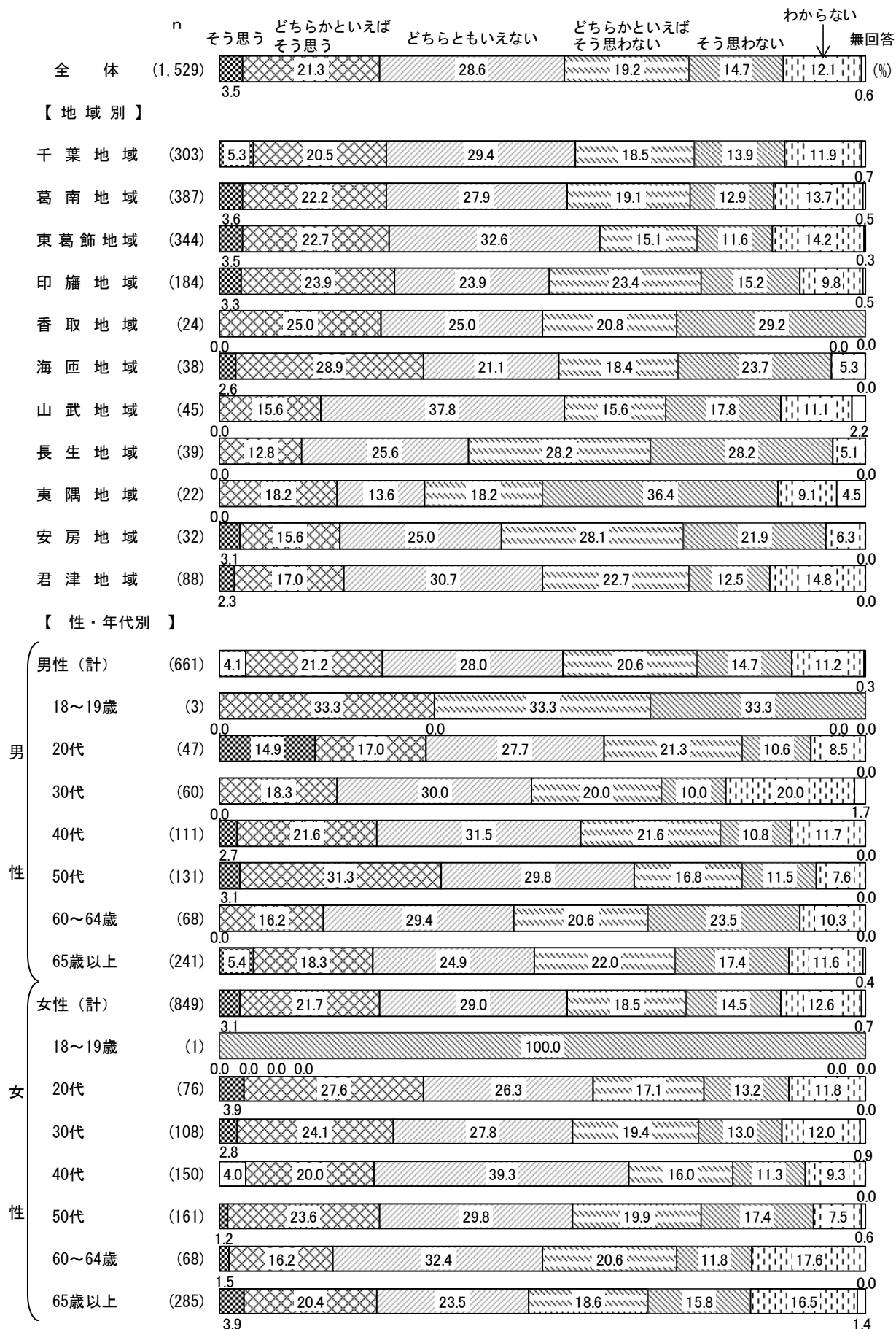
<図表 1-2-1>防災に関する意識／地域別、性・年代別

（ア）自助・共助・公助の取組により、災害に対して安心して暮らせる地域になっている



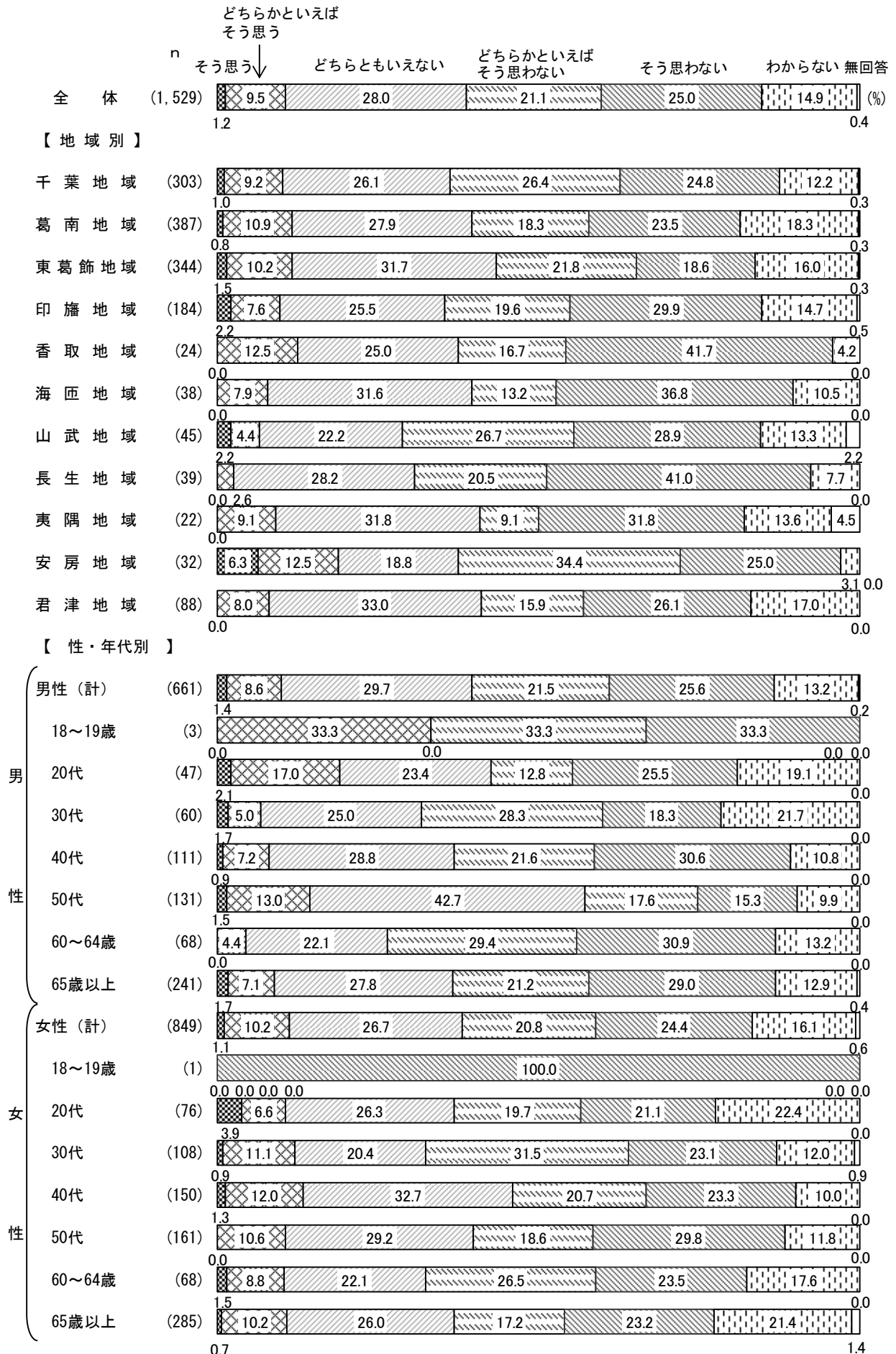
<図表１－２－２>防災に関する意識／地域別、性・年代別

（イ）橋りょうや護岸、防潮堤などの社会インフラの整備や耐震化が進み、災害に強いまちづくりが行われている



<図表 1-2-3>防災に関する意識／地域別、性・年代別

（ウ）大規模災害やテロなど様々な危機に対して、迅速かつ的確に対応できている



（２）暮らしの安全・安心に関する意識

◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈自主防犯団体が行う防犯パトロールなど、行政と地域住民が連携した取組により、犯罪が起きにくいまちづくりが行われている〉で約４割

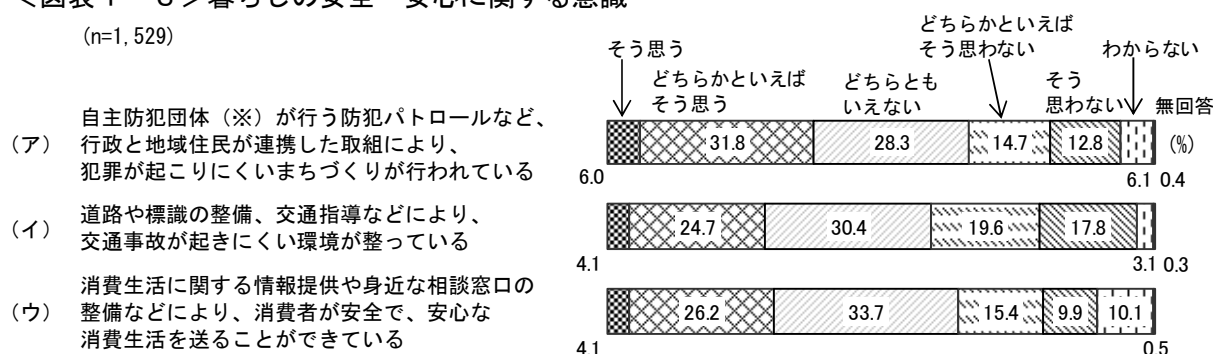
問２ あなたは、暮らしの安全・安心に関する次の項目についてどう思いますか。

（○はそれぞれ１つ）

（※）自主防犯団体…地域の犯罪防止のために自治会などが結成する組織のこと。

＜図表１－３＞暮らしの安全・安心に関する意識

(n=1,529)



暮らしの安全・安心に関する３個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(ア) 自主防犯団体が行う防犯パトロールなど、行政と地域住民が連携した取組により、犯罪が起きにくいまちづくりが行われている」(37.8%)で約４割となっており、以下、「(ウ) 消費生活に関する情報提供や身近な相談窓口の整備などにより、消費者が安全で、安心な消費生活を送ることができている」(30.3%)が３割、「(イ) 道路や標識の整備、交通指導などにより、交通事故が起きにくい環境が整っている」(28.7%)が約３割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が最も高いのは、「(イ) 道路や標識の整備、交通指導などにより、交通事故が起きにくい環境が整っている」(37.4%)が約４割となっており、以下、「(ア) 自主防犯団体が行う防犯パトロールなど、行政と地域住民が連携した取組により、犯罪が起きにくいまちづくりが行われている」(27.5%)が約３割、「(ウ) 消費生活に関する情報提供や身近な相談窓口の整備などにより、消費者が安全で、安心な消費生活を送ることができている」(25.3%)が２割台半ばとなっている。

（図表１－３）

【地域別】

地域別にみると、「（ア）自主防犯団体が行う防犯パトロールなど、行政と地域住民が連携した取組により、犯罪が起こりにくいまちづくりが行われている」の『そう思う（計）』は“東葛飾地域”（42.4%）が4割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“香取地域”（50.0%）が5割で高くなっている。

「（ウ）消費生活に関する情報提供や身近な相談窓口の整備などにより、消費者が安全で、安心な消費生活を送ることができている」の『そう思わない（計）』は“海匝地域”（42.1%）が4割を超えて高くなっている。（図表1－4）

【性・年代別】

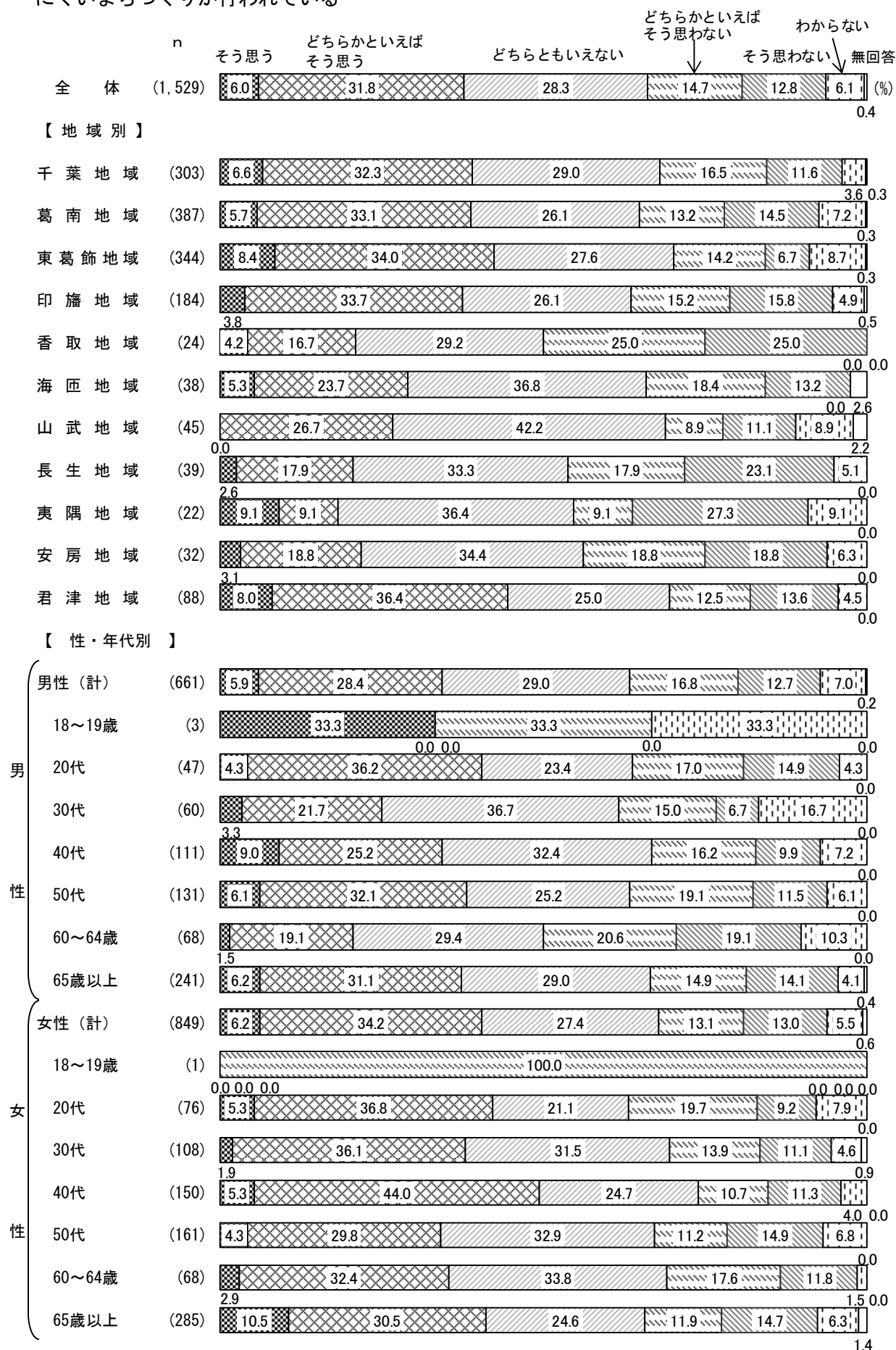
性・年代別にみると、「（ア）自主防犯団体が行う防犯パトロールなど、行政と地域住民が連携した取組により、犯罪が起こりにくいまちづくりが行われている」の『そう思う（計）』は女性の40代（49.3%）が約5割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（39.7%）が約4割で高くなっている。

「（ウ）消費生活に関する情報提供や身近な相談窓口の整備などにより、消費者が安全で、安心な消費生活を送ることができている」の『そう思う（計）』は男性の20代（46.8%）が4割台半ばで高くなっている。（図表1－4）

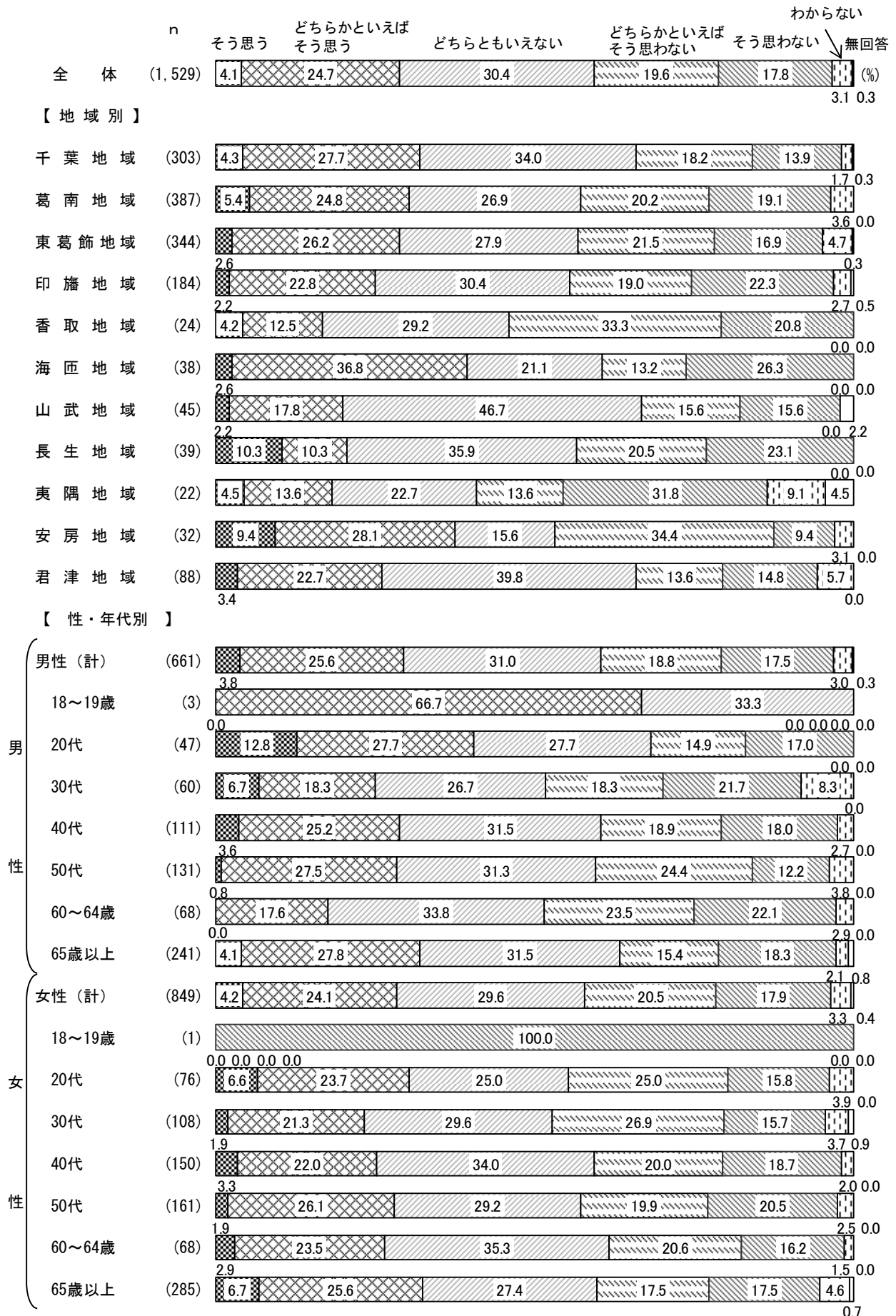
<図表1-4-1>暮らしの安全・安心に関する意識／地域別、性・年代別

(ア) 自主防犯団が行う防犯パトロールなど、行政と地域住民が連携した取組により、犯罪が起こりにくいまちづくりが行われている



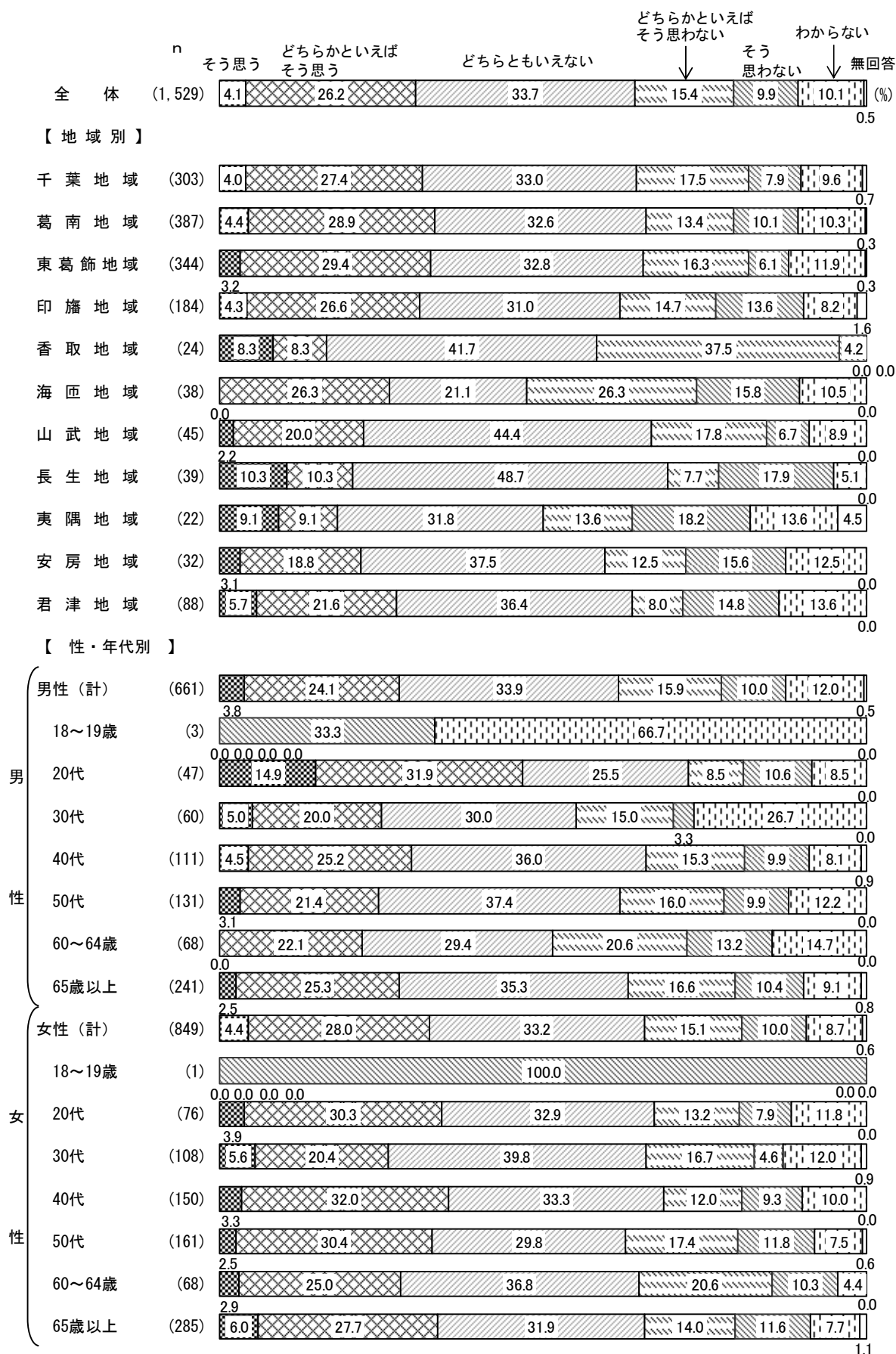
<図表 1-4-2>暮らしの安全・安心に関する意識／地域別、性・年代別

（イ）道路や標識の整備、交通指導などにより、交通事故が起きにくい環境が整っている



<図表１－４－３>暮らしの安全・安心に関する意識／地域別、性・年代別

（ウ）消費生活に関する情報提供や身近な相談窓口の整備などにより、消費者が安全で、安心な消費生活を送ることができている



（３）医療・福祉・健康に関する意識

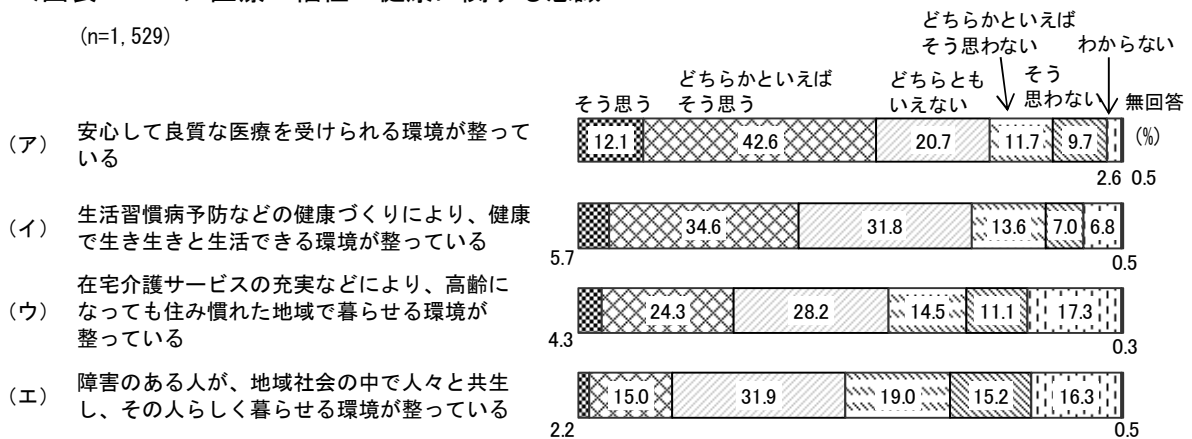
◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈安心して良質な医療を受けられる環境が整っている〉で５割台半ば

問３ あなたは、医療・福祉・健康に関する次の項目についてどう思いますか。

（○はそれぞれ１つ）

＜図表１－５＞医療・福祉・健康に関する意識

（n=1,529）



医療・福祉・健康に関する４個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(ア) 安心して良質な医療を受けられる環境が整っている」(54.7%)で５割台半ばとなっており、以下、「(イ) 生活習慣病予防などの健康づくりにより、健康で生き生きと生活できる環境が整っている」(40.3%)が４割、「(ウ) 在宅介護サービスの充実などにより、高齢になっても住み慣れた地域で暮らせる環境が整っている」(28.6%)が約３割で続く。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が最も高いのは、「(エ) 障害のある人が、地域社会の中で人々と共生し、その人らしく暮らせる環境が整っている」(34.2%)が３割台半ばとなっており、以下、「(ウ) 在宅介護サービスの充実などにより、高齢になっても住み慣れた地域で暮らせる環境が整っている」(25.6%)が２割台半ば、「(ア) 安心して良質な医療を受けられる環境が整っている」(21.5%)が２割を超えて続く。

（図表１－５）

【地域別】

地域別にみると、「(ア) 安心して良質な医療を受けられる環境が整っている」の『そう思う（計）』は“東葛飾地域”（60.5%）が6割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“海匝地域”（47.4%）が約5割、“長生地域”（35.9%）が3割台半ばで高くなっている。

「(イ) 生活習慣病予防などの健康づくりにより、健康で生き生きと生活できる環境が整っている」の『そう思わない（計）』は“海匝地域”（36.8%）が3割台半ば、“長生地域”（33.3%）が3割を超えて高くなっている。

「(ウ) 在宅介護サービスの充実などにより、高齢になっても住み慣れた地域で暮らせる環境が整っている」の『そう思わない（計）』は“海匝地域”（52.6%）が5割を超え、“山武地域”（40.0%）が4割で高くなっている。

「(エ) 障害のある人が、地域社会の中で人々と共生し、その人らしく暮らせる環境が整っている」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（20.7%）が2割で高くなっている。（図表1－6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 安心して良質な医療を受けられる環境が整っている」の『そう思う（計）』は女性の20代（67.1%）が約7割で高くなっている。

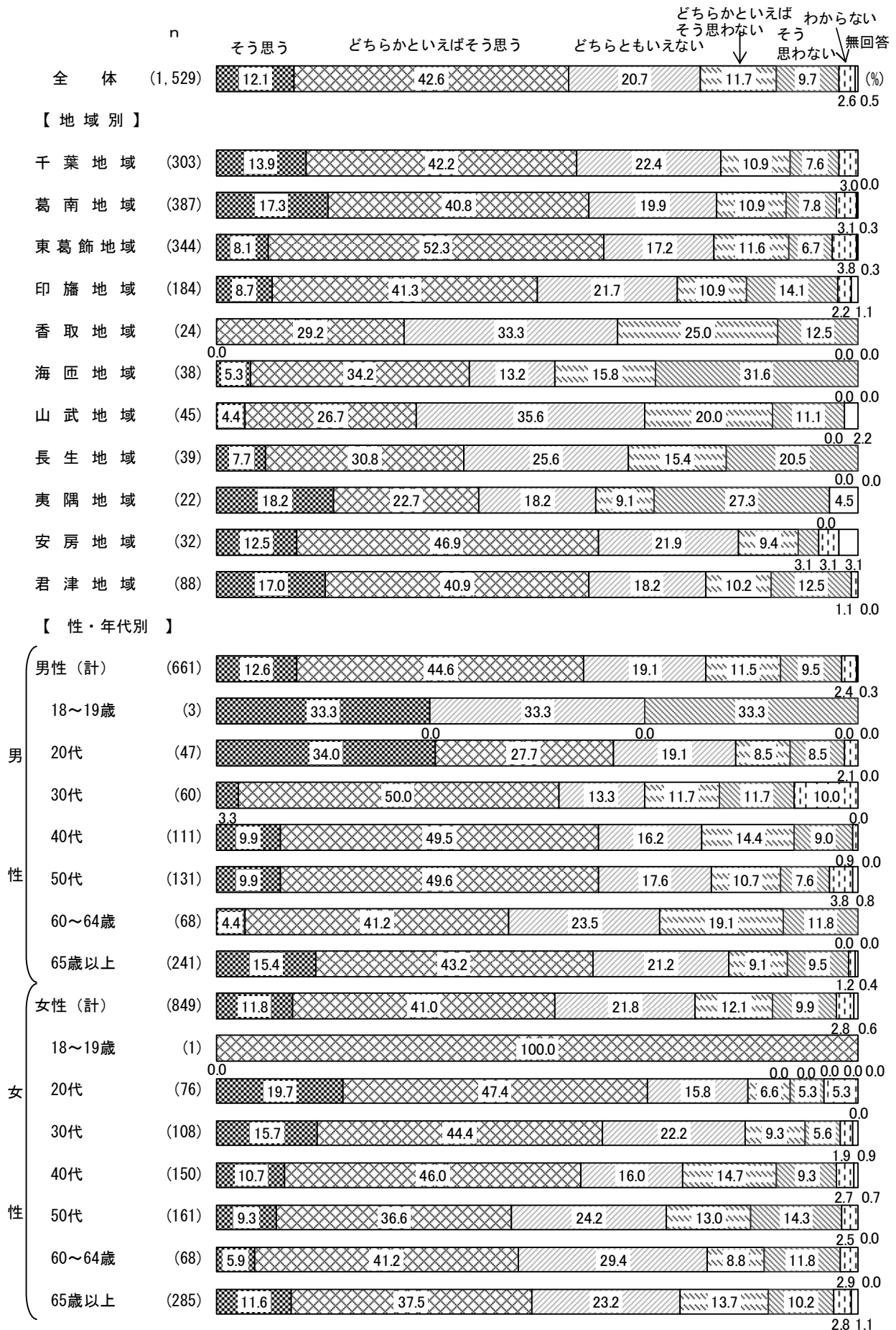
「(イ) 生活習慣病予防などの健康づくりにより、健康で生き生きと生活できる環境が整っている」の『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（38.2%）が約4割で高くなっている。

「(エ) 障害のある人が、地域社会の中で人々と共生し、その人らしく暮らせる環境が整っている」の『そう思う（計）』は男性の20代（31.9%）が3割を超え、女性の20代（28.9%）が約3割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（52.9%）が5割を超え、女性の50代（41.6%）が4割を超えて高くなっている。（図表1－6）

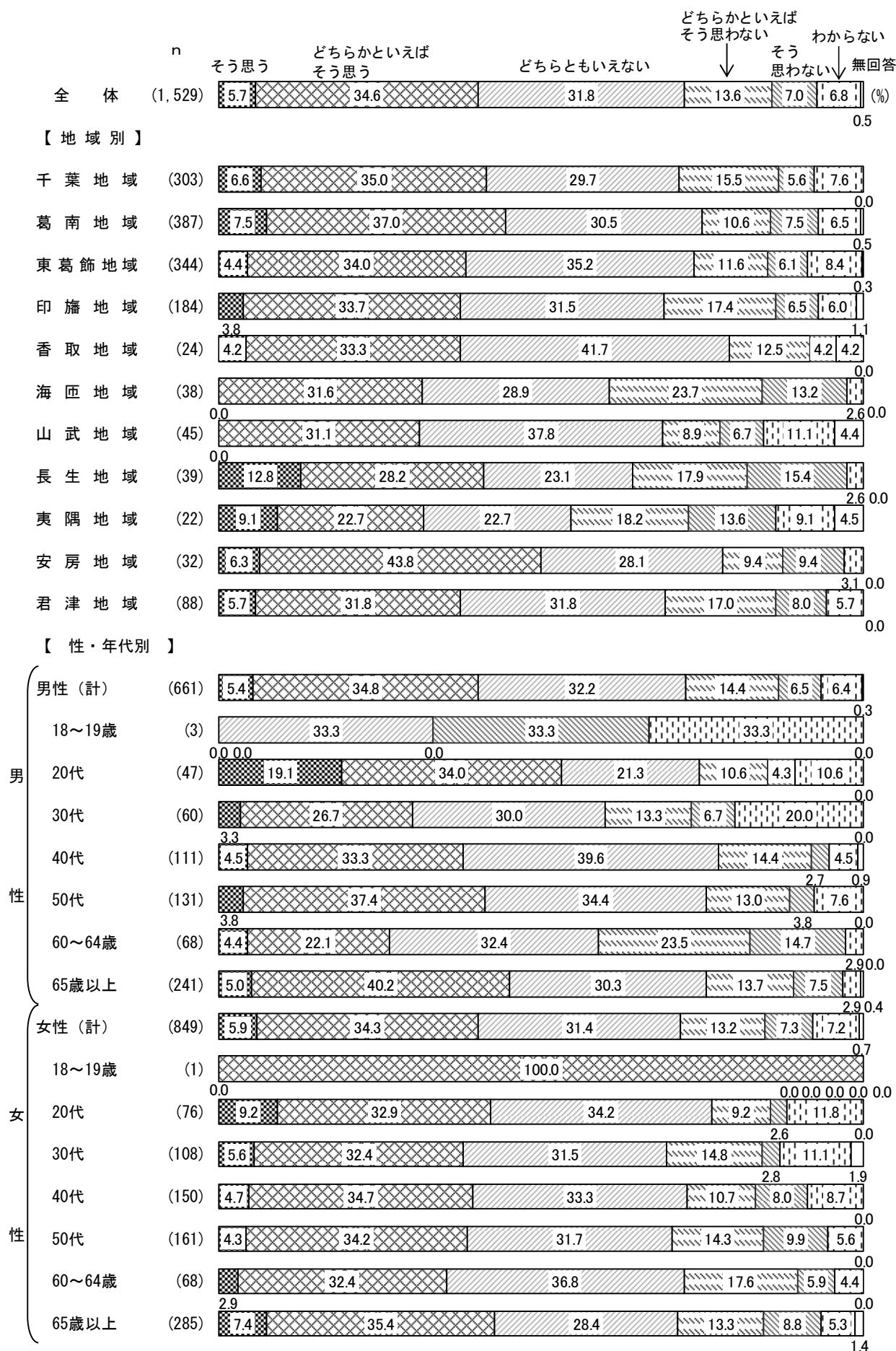
<図表 1-6-1>医療・福祉・健康に関する意識／地域別、性・年代別

(ア) 安心して良質な医療を受けられる環境が整っている



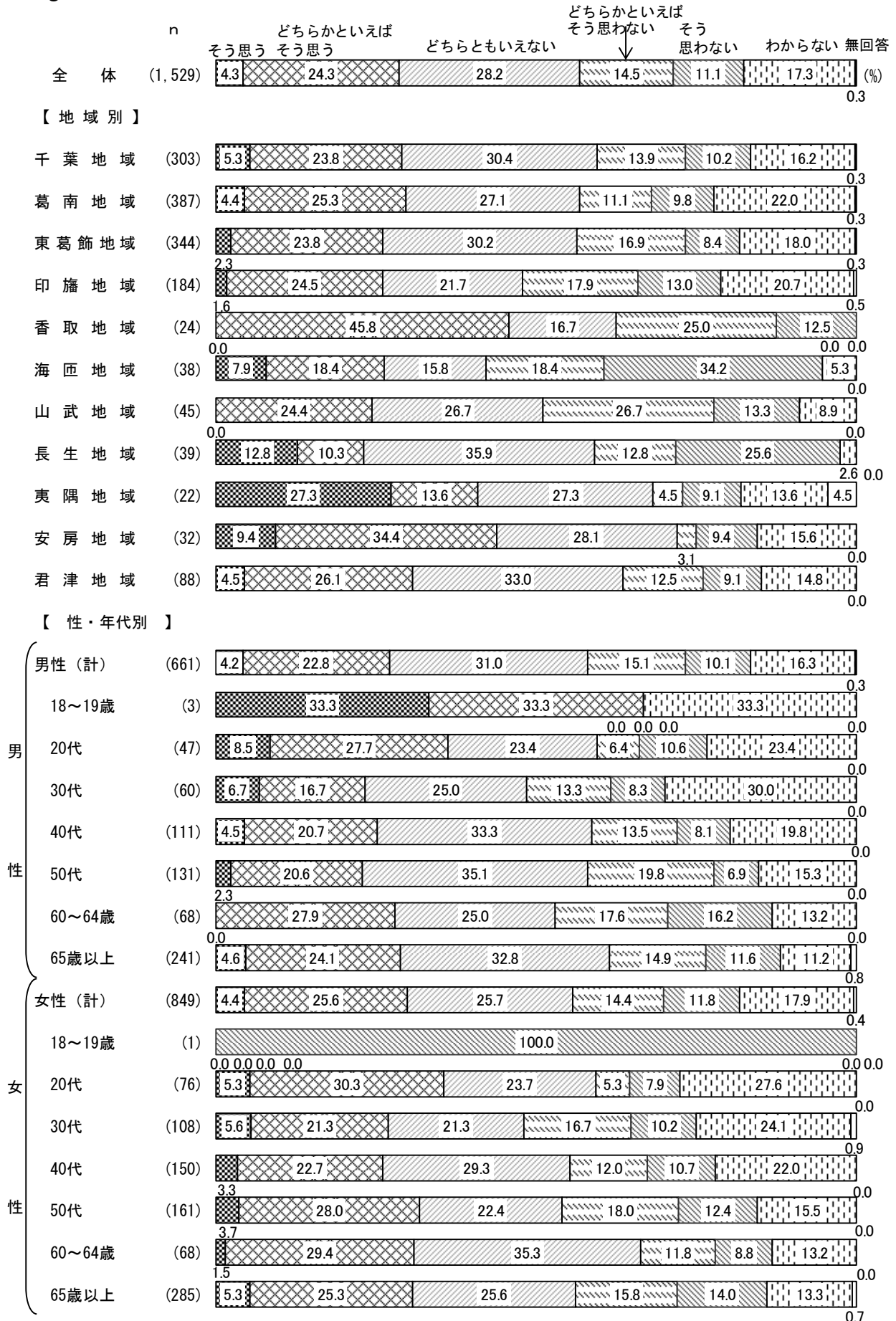
<図表1-6-2>医療・福祉・健康に関する意識／地域別、性・年代別

（イ）生活習慣病予防などの健康づくりにより、健康で生き生きと生活できる環境が整っている



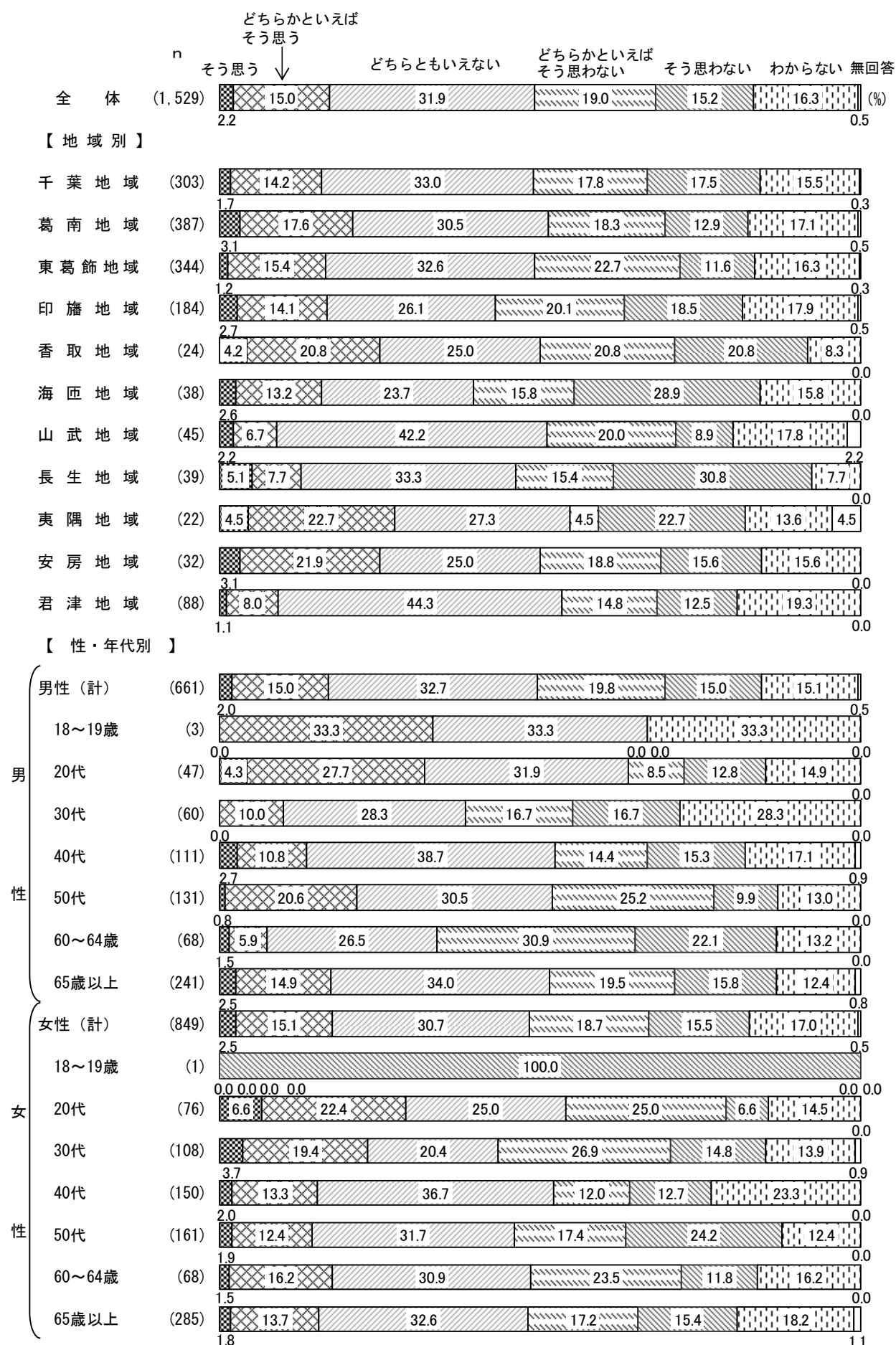
<図表 1-6-3>医療・福祉・健康に関する意識／地域別、性・年代別

(ウ) 在宅介護サービスの充実などにより、高齢になっても住み慣れた地域で暮らせる環境が整っている



<図表1-6-4>医療・福祉・健康に関する意識／地域別、性・年代別

（エ）障害のある人が、地域社会の中で人々と共生し、その人らしく暮らせる環境が整っている



（４）文化芸術・スポーツに関する意識

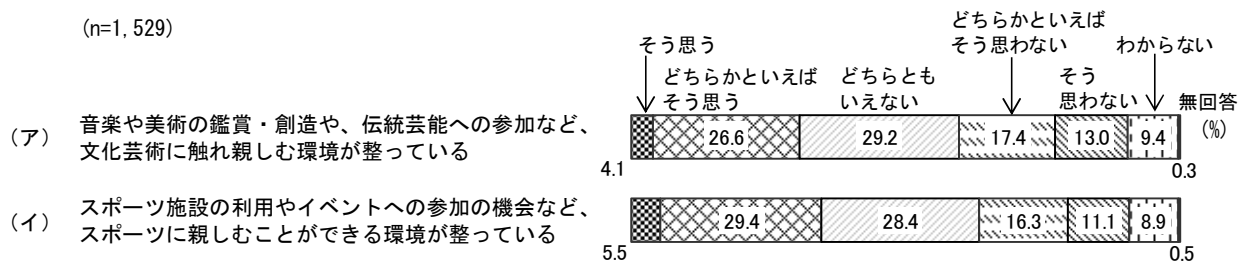
◇『そう思う（計）』が高いのは、〈「スポーツ施設の利用やイベントへの参加の機会など、スポーツに親しむことができる環境が整っている」で３割台半ば

問４ あなたは、文化芸術・スポーツに関する次の項目についてどう思いますか。

（○はそれぞれ１つ）

＜図表１－７＞文化芸術・スポーツに関する意識

(n=1,529)



文化芸術・スポーツに関する２個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が高いのは、「(イ) スポーツ施設の利用やイベントへの参加の機会など、スポーツに親しむことができる環境が整っている」(34.9%)で３割台半ばとなっており、次いで「(ア) 音楽や美術の鑑賞・創造や、伝統芸能への参加など、文化芸術に触れ親しむ環境が整っている」(30.7%)が３割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が高いのは、「(ア) 音楽や美術の鑑賞・創造や、伝統芸能への参加など、文化芸術に触れ親しむ環境が整っている」(30.4%)が３割となっており、次いで「(イ) スポーツ施設の利用やイベントへの参加の機会など、スポーツに親しむことができる環境が整っている」(27.3%)が約３割となっている。（図表１－７）

【地域別】

地域別にみると、「(ア) 音楽や美術の鑑賞・創造や、伝統芸能への参加など、文化芸術に触れ親しむ環境が整っている」の『そう思う（計）』は“千葉地域”（35.6%）、“葛南地域”（35.1%）が３割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“海匝地域”（55.3%）が５割台半ば、“安房地域”（46.9%）が４割台半ばで高くなっている。

「(イ) スポーツ施設の利用やイベントへの参加の機会など、スポーツに親しむことができる環境が整っている」の『そう思わない（計）』は“海匝地域”（47.4%）が約５割、“印旛地域”（33.7%）が３割台半ばで高くなっている。（図表１－８）

【性・年代別】

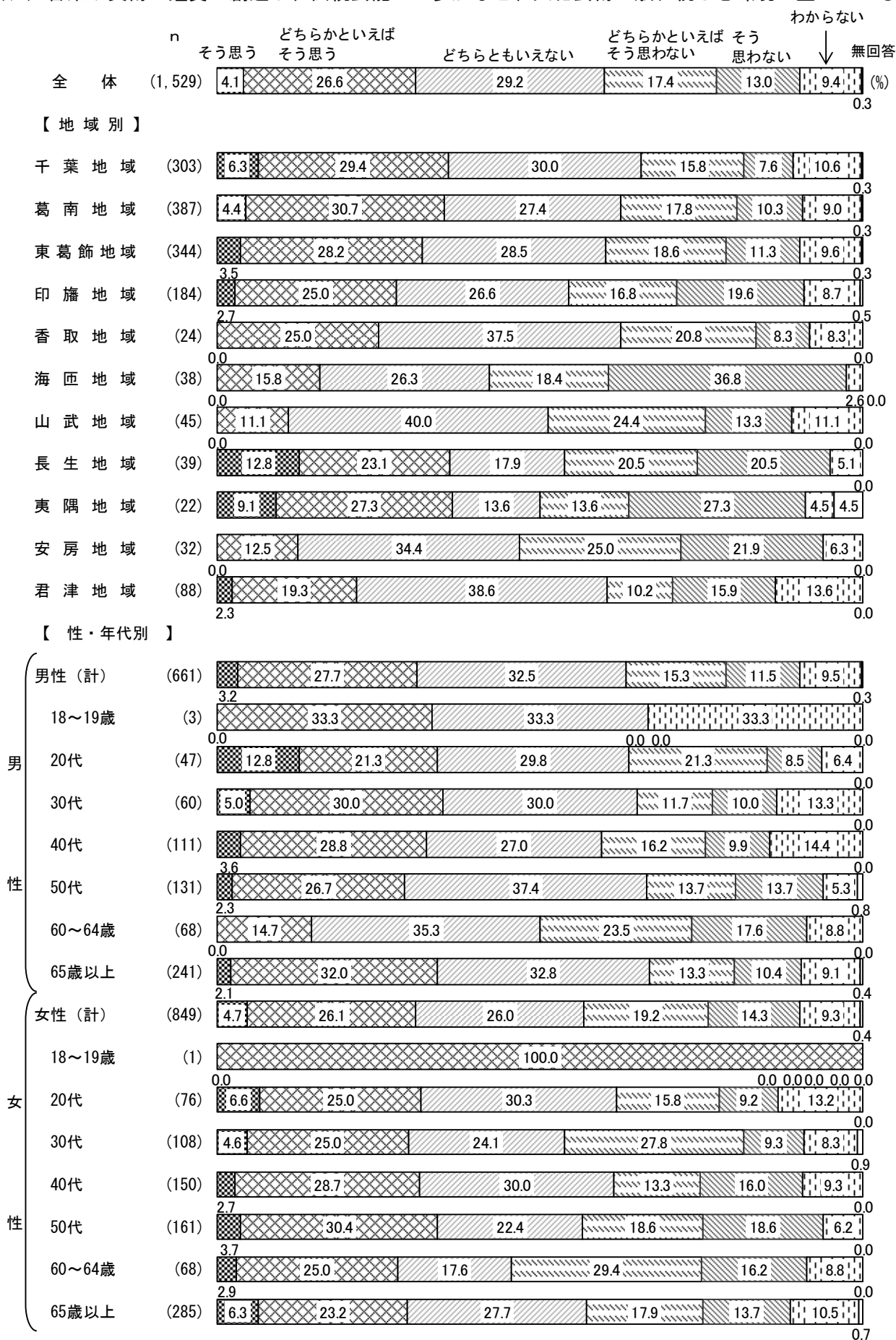
性・年代別にみると、「(ア) 音楽や美術の鑑賞・創造や、伝統芸能への参加など、文化芸術に触れ親しむ環境が整っている」の『そう思わない（計）』は女性の60～64歳（45.6%）が４割台半ば、男性の60～64歳（41.2%）が４割を超え、女性の50代（37.3%）が約４割で高くなっている。

「(イ) スポーツ施設の利用やイベントへの参加の機会など、スポーツに親しむことができる環境が整っている」の『そう思う（計）』は男性の40代（45.0%）が４割台半ばで高くなっている。

（図表１－８）

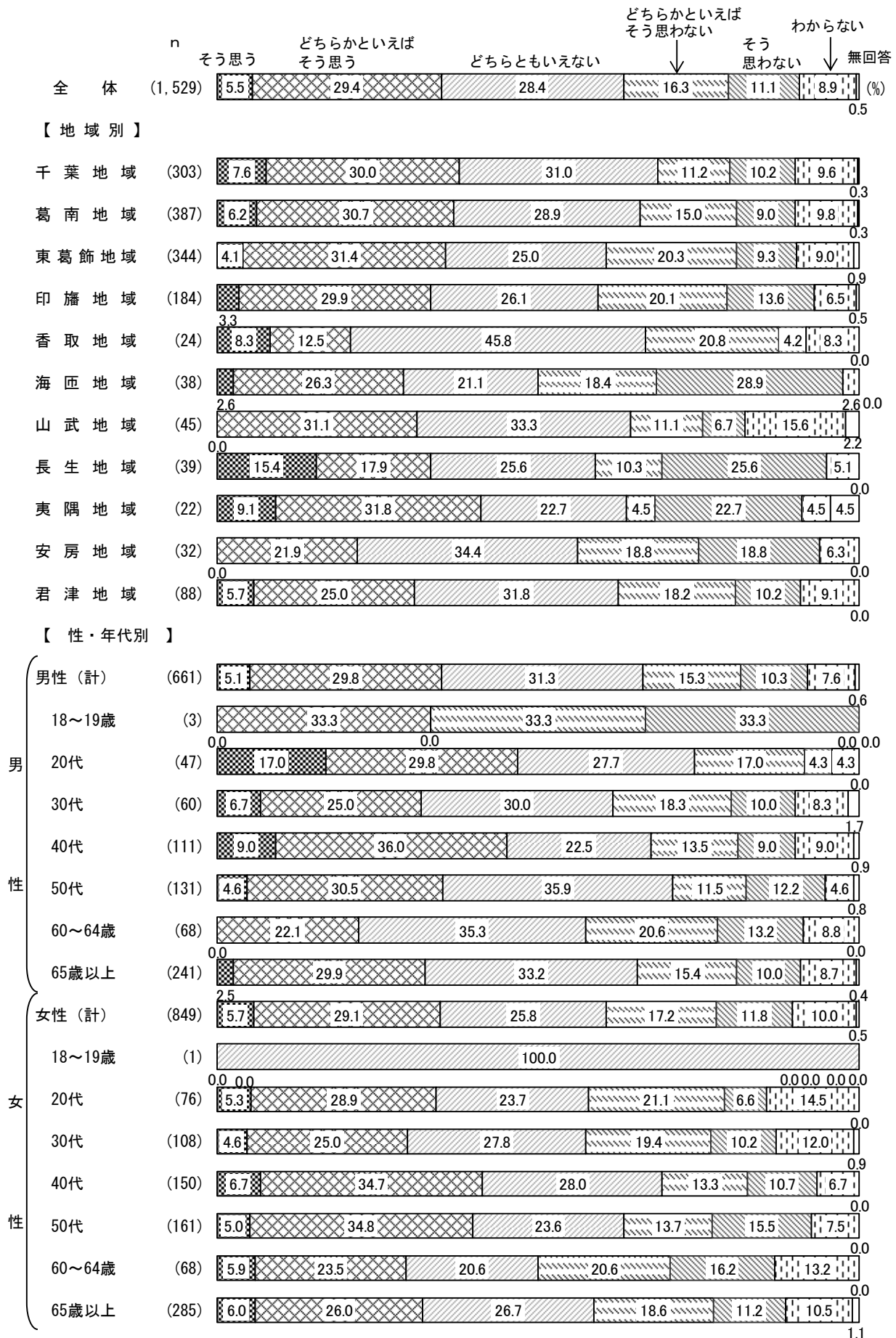
＜図表1－8－1＞文化芸術・スポーツに関する意識／地域別、性・年代別

（ア）音楽や美術の鑑賞・創造や、伝統芸能への参加など、文化芸術に触れ親しむ環境が整っている



＜図表１－８－２＞文化芸術・スポーツに関する意識／地域別、性・年代別

(イ) スポーツ施設の利用やイベントへの参加の機会など、スポーツに親しむことができる環境が整っている



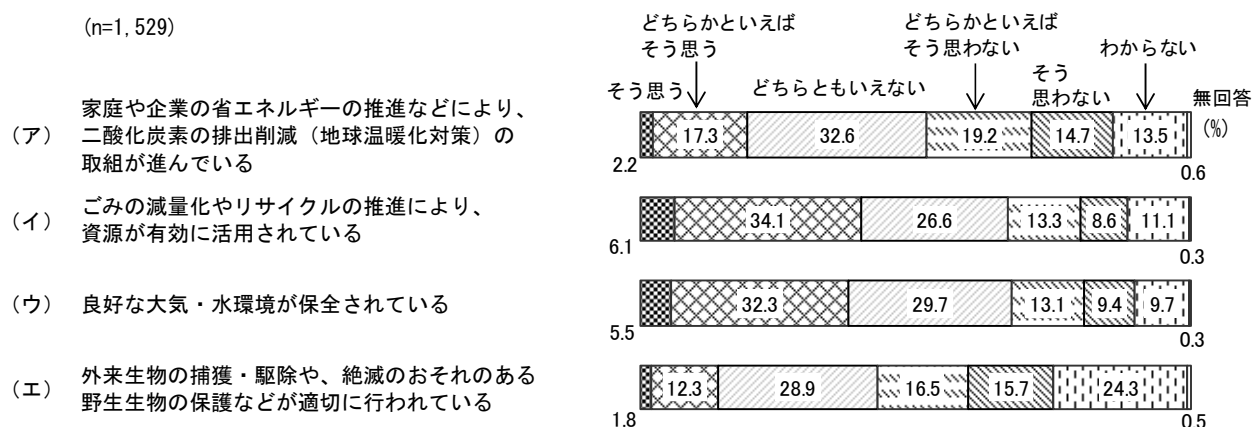
（５）環境問題に関する意識

◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈ごみの減量化やリサイクルの推進により、資源が有効に活用されている〉で４割

問５ あなたは、環境問題に関する次の項目についてどう思いますか。（○はそれぞれ１つ）

＜図表１－９＞環境問題に関する意識

(n=1,529)



環境問題に関する４個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(イ) ごみの減量化やリサイクルの推進により、資源が有効に活用されている」(40.2%)で４割となっており、以下、「(ウ) 良好な大気・水環境が保全されている」(37.8%)が約４割、「(ア) 家庭や企業の省エネルギーの推進などにより、二酸化炭素の排出削減（地球温暖化対策）の取組が進んでいる」(19.4%)が約２割で続く。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が最も高いのは、「(ア) 家庭や企業の省エネルギーの推進などにより、二酸化炭素の排出削減（地球温暖化対策）の取組が進んでいる」(33.8%)が３割台半ばとなっており、以下、「(エ) 外来生物の捕獲・駆除や、絶滅のおそれのある野生生物の保護などが適切に行われている」(32.2%)が３割を超え、「(ウ) 良好な大気・水環境が保全されている」(22.4%)が２割を超えて続く。

(図表１－９)

【地域別】

地域別にみると、「(ア) 家庭や企業の省エネルギーの推進などにより、二酸化炭素の排出削減（地球温暖化対策）の取組が進んでいる」の『そう思わない（計）』は“印旛地域”（41.3%）が4割を超えて高くなっている。

「(イ) ごみの減量化やリサイクルの推進により、資源が有効に活用されている」の『そう思わない（計）』は“海匝地域”（42.1%）が4割を超え、“山武地域”（35.6%）が3割台半ば、“印旛地域”（27.7%）が約3割で高くなっている。

「(エ) 外来生物の捕獲・駆除や、絶滅のおそれのある野生生物の保護などが適切に行われている」の『そう思う（計）』は“夷隅地域”（31.8%）が3割を超え、“印旛地域”（19.0%）が約2割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“香取地域”（54.2%）が5割台半ば、“長生地域”（51.3%）が5割を超え、“君津地域”（42.0%）が4割を超えて高くなっている。（図表 1－10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 家庭や企業の省エネルギーの推進などにより、二酸化炭素の排出削減（地球温暖化対策）の取組が進んでいる」の『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（58.8%）が約6割で高くなっている。

「(イ) ごみの減量化やリサイクルの推進により、資源が有効に活用されている」の『そう思う（計）』は女性の65歳以上（48.4%）が約5割で高くなっている。

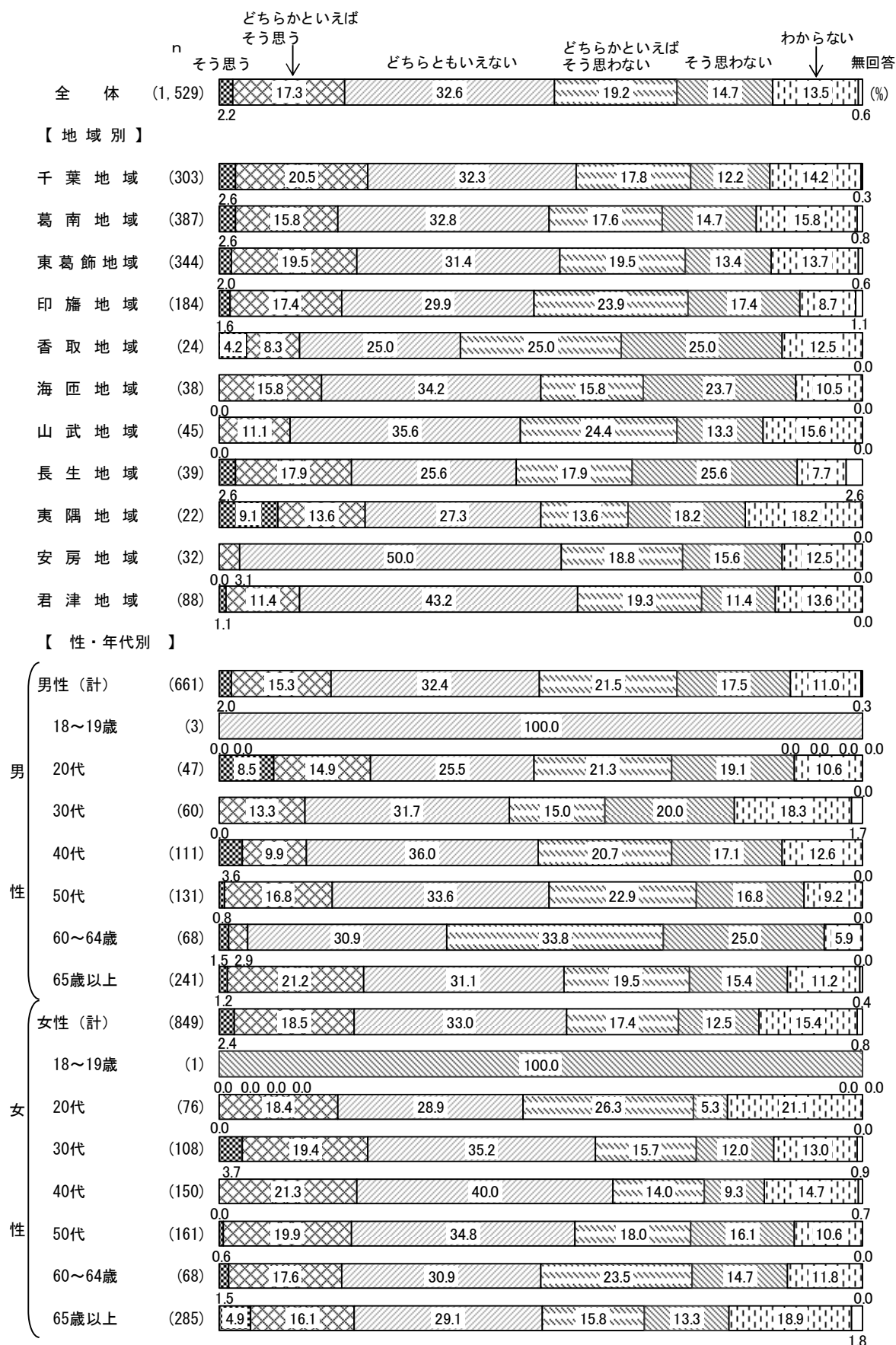
一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（35.3%）が3割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 良好な大気・水環境が保全されている」の『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（36.8%）が3割台半ば、女性の30代（30.6%）が3割で高くなっている。

「(エ) 外来生物の捕獲・駆除や、絶滅のおそれのある野生生物の保護などが適切に行われている」の『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（52.9%）が5割を超え、男性の65歳以上（44.4%）が4割台半ば、男性の50代（40.5%）が4割で高くなっている。（図表 1－10）

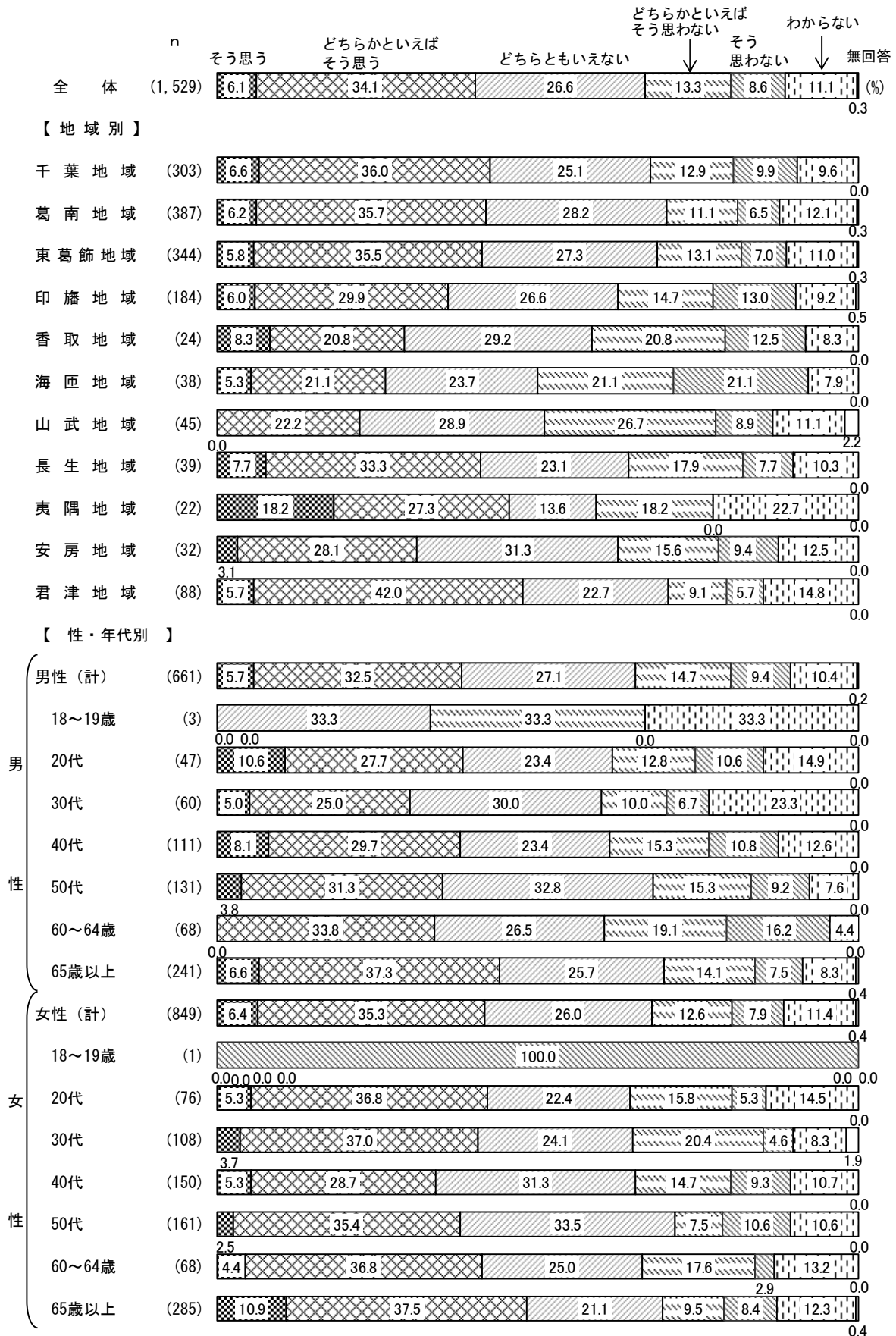
＜図表1-10-1＞環境問題に関する意識／地域別、性・年代別

（ア）家庭や企業の省エネルギーの推進などにより、二酸化炭素の排出削減（地球温暖化対策）の取組が進んでいる



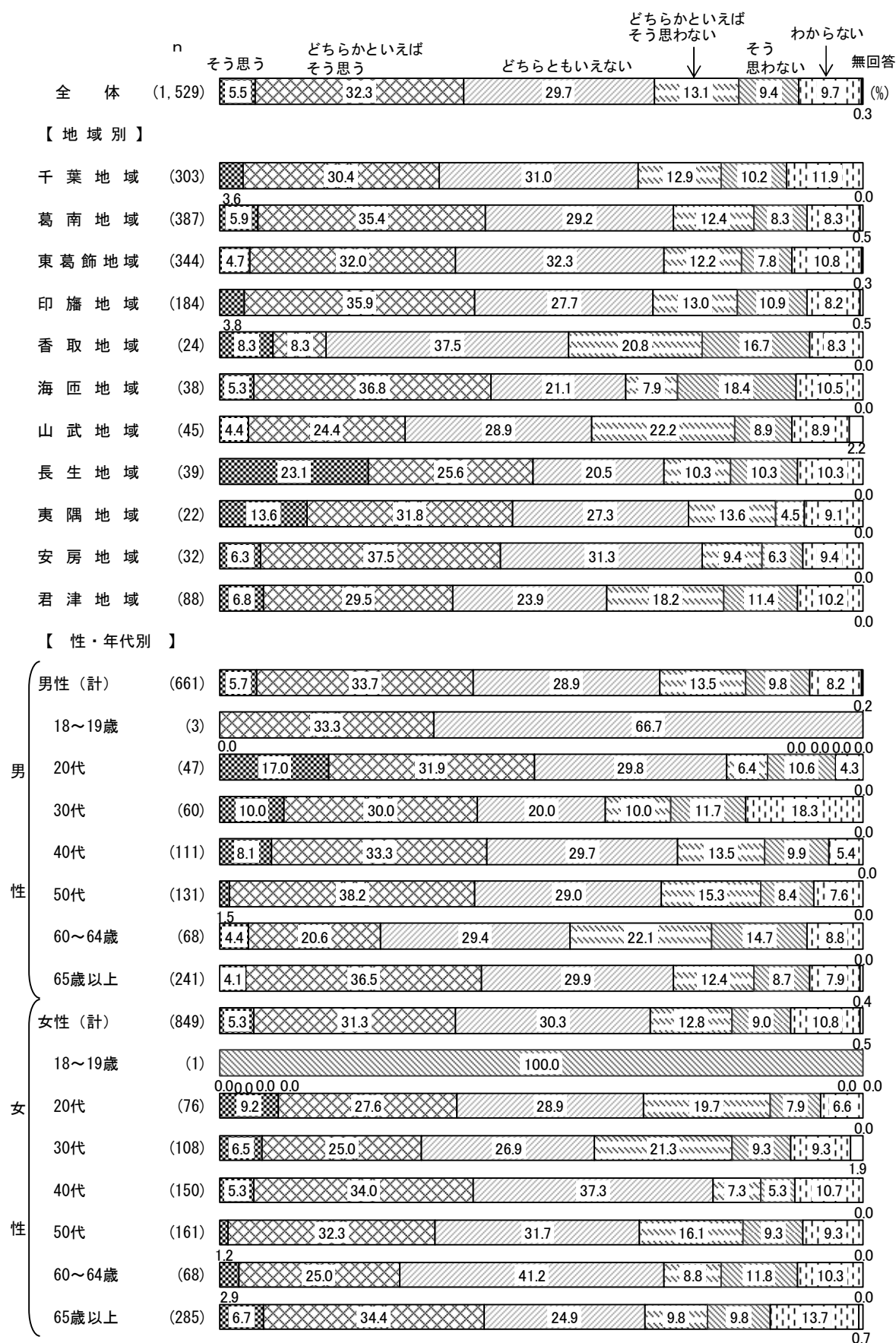
＜図表 1－10－2＞環境問題に関する意識／地域別、性・年代別

（イ）ごみの減量化やリサイクルの推進により、資源が有効に活用されている



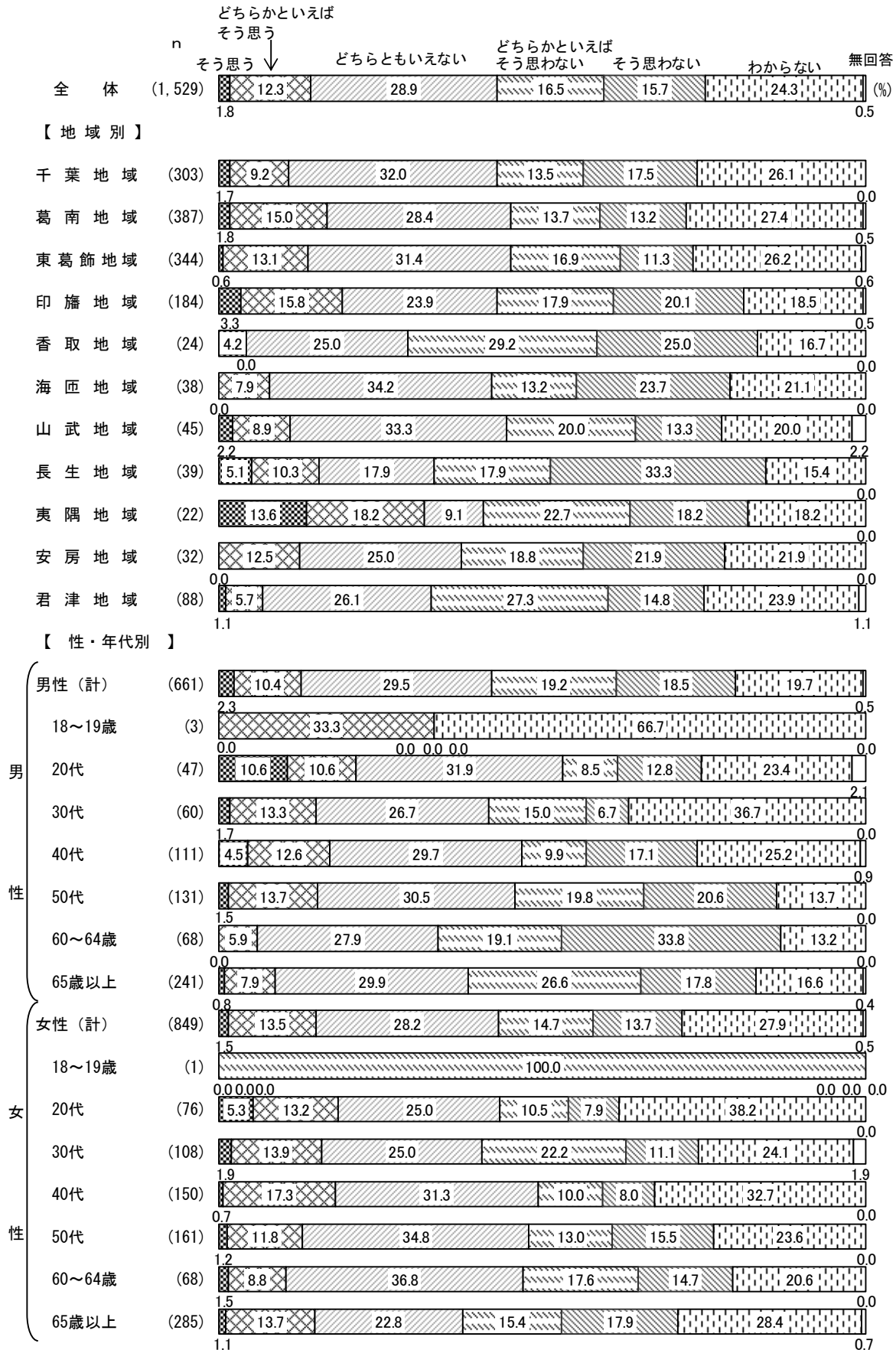
＜図表１－１０－３＞環境問題に関する意識／地域別、性・年代別

（ウ）良好な大気・水環境が保全されている



＜図表 1－10－4＞環境問題に関する意識／地域別、性・年代別

（エ）外来生物の捕獲・駆除や、絶滅のおそれのある野生生物の保護などが適切に行われている



（6）子育てに関する意識

◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈（イ）保育所の整備などにより保育サービスが充実し、子育てを支える環境が整っている〉で3割台半ば

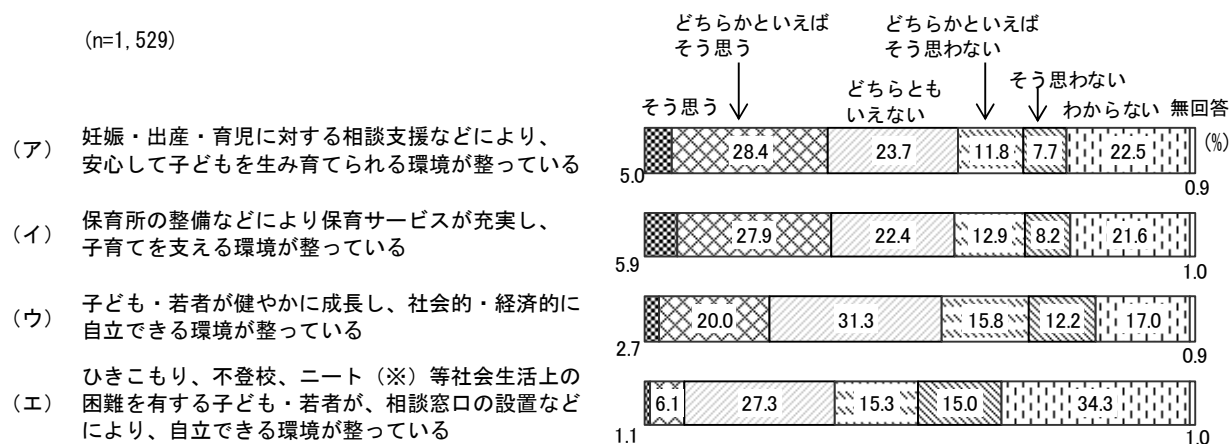
問6 あなたは、子育てに関する次の項目についてどう思いますか。

（○はそれぞれ1つ）

（※）ニート…就職せず、就職活動もしていない人のうち、家事も通学もしていない15歳から34歳までの人のこと。

＜図表1-11＞子育てに関する意識

（n=1,529）



子育てに関する4個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「（イ）保育所の整備などにより保育サービスが充実し、子育てを支える環境が整っている」（33.7%）で3割台半ばとなっており、以下、「（ア）妊娠・出産・育児に対する相談支援などにより、安心して子どもを生み育てられる環境が整っている」（33.4%）が3割を超え、「（ウ）子ども・若者が健やかに成長し、社会的・経済的に自立できる環境が整っている」（22.8%）が2割を超えて続く。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が最も高いのは、「（エ）ひきこもり、不登校、ニート等社会生活上の困難を有する子ども・若者が、相談窓口の設置などにより、自立できる環境が整っている」（30.3%）が3割となっており、以下、「（ウ）子ども・若者が健やかに成長し、社会的・経済的に自立できる環境が整っている」（28.0%）が約3割、「（イ）保育所の整備などにより保育サービスが充実し、子育てを支える環境が整っている」（21.2%）が2割を超えて続く。（図表1-11）

【地域別】

地域別にみると、「(ア) 妊娠・出産・育児に対する相談支援などにより、安心して子どもを生み育てられる環境が整っている」の『そう思わない(計)』は“香取地域”(37.5%)が約4割、“海匝地域”(34.2%)が3割台半ばで高くなっている。

「(イ) 保育所の整備などにより保育サービスが充実し、子育てを支える環境が整っている」の『そう思う(計)』は“長生地域”(48.7%)が約5割で高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は“海匝地域”(34.2%)が3割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 子ども・若者が健やかに成長し、社会的・経済的に自立できる環境が整っている」の『そう思う(計)』は“葛南地域”(27.9%)が約3割で高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は“海匝地域”(55.3%)が5割台半ば、“長生地域”(43.6%)が4割台半ばで高くなっている。

「(エ) ひきこもり、不登校、ニート等社会生活上の困難を有する子ども・若者が、相談窓口の設置などにより、自立できる環境が整っている」の『そう思う(計)』は“印旛地域”(12.0%)が1割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は“海匝地域”(50.0%)が5割で高くなっている。(図表1-12)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 妊娠・出産・育児に対する相談支援などにより、安心して子どもを生み育てられる環境が整っている」の『そう思う(計)』は女性の30代(44.4%)と女性の40代(44.7%)が4割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は女性の20代(28.9%)が約3割で高くなっている。

「(イ) 保育所の整備などにより保育サービスが充実し、子育てを支える環境が整っている」の『そう思わない(計)』は女性の20代(34.2%)が3割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 子ども・若者が健やかに成長し、社会的・経済的に自立できる環境が整っている」の『そう思う(計)』は男性の20代(44.7%)が4割台半ば、女性の40代(30.7%)が3割で高くなっている。

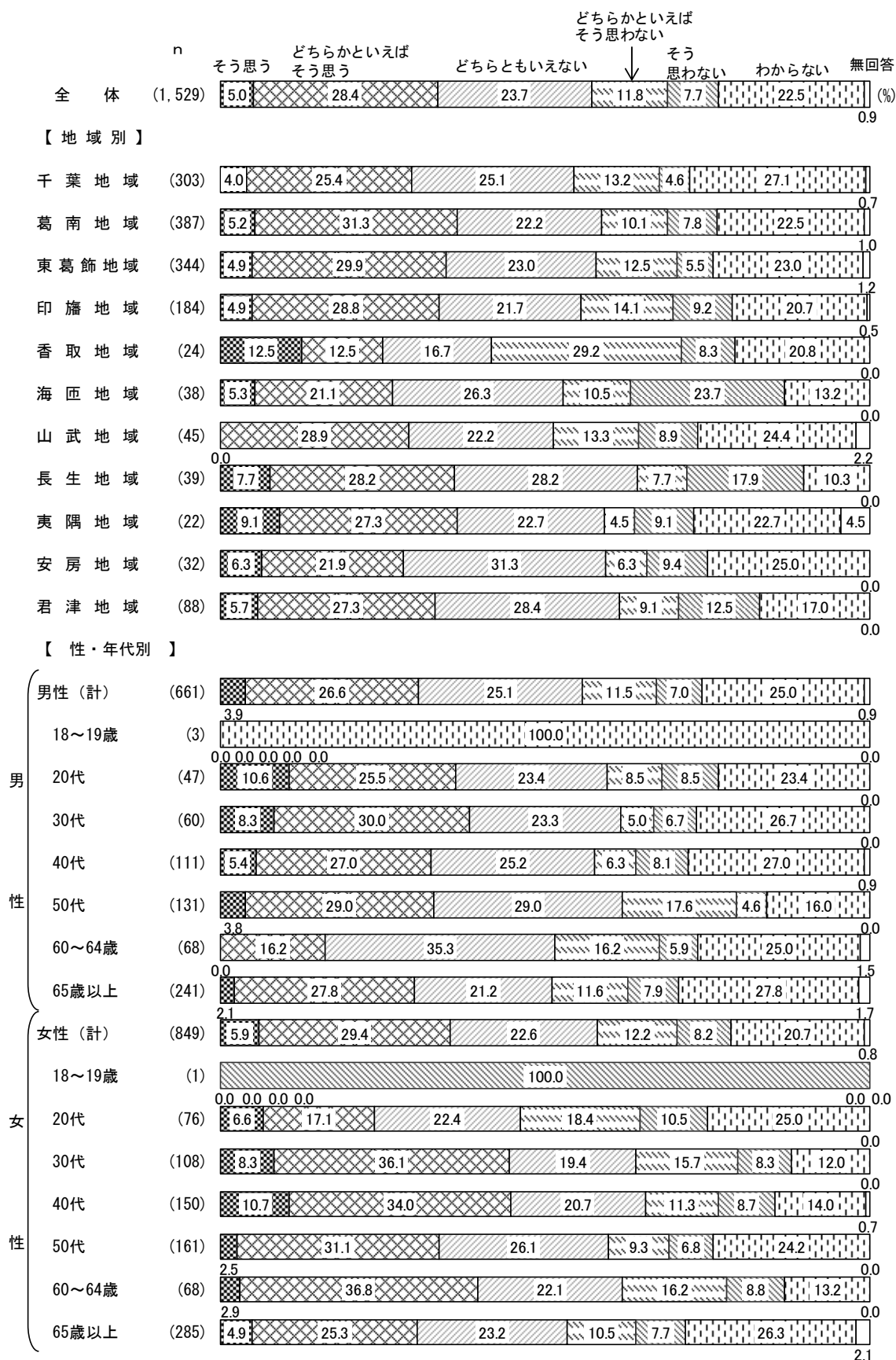
一方、『そう思わない(計)』は女性の60～64歳(39.7%)が約4割で高くなっている。

「(エ) ひきこもり、不登校、ニート等社会生活上の困難を有する子ども・若者が、相談窓口の設置などにより、自立できる環境が整っている」の『そう思う(計)』は男性の20代(14.9%)が1割台半ば、女性の30代(13.0%)が1割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は女性の60～64歳(45.6%)が4割台半ば、男性の60～64歳(41.2%)が4割を超え、男性の65歳以上(36.5%)が3割台半ばで高くなっている。(図表1-12)

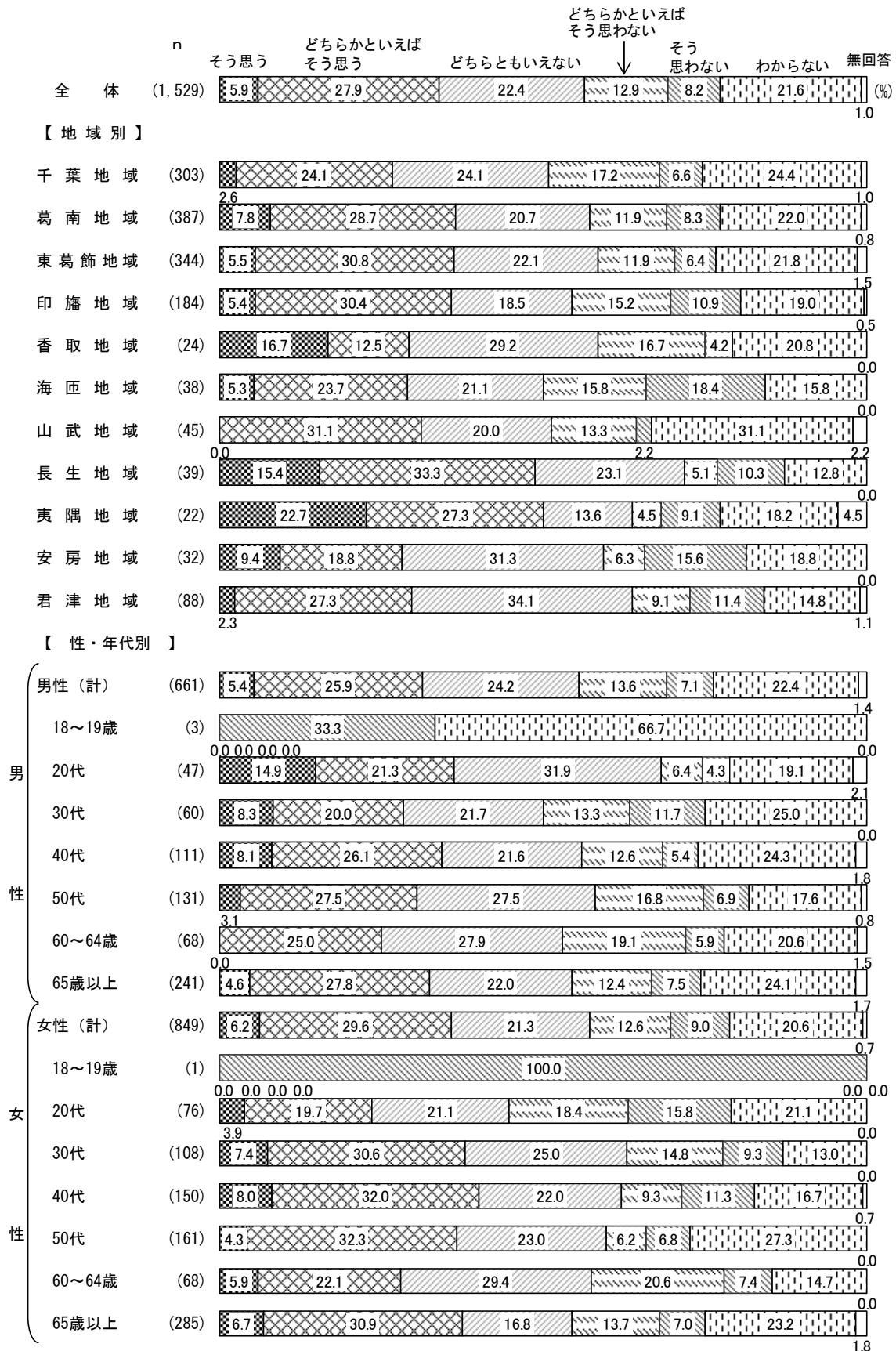
＜図表1-12-1＞子育てに関する意識／地域別、性・年代別

（ア）妊娠・出産・育児に対する相談支援などにより、安心して子どもを生み育てられる環境が整っている



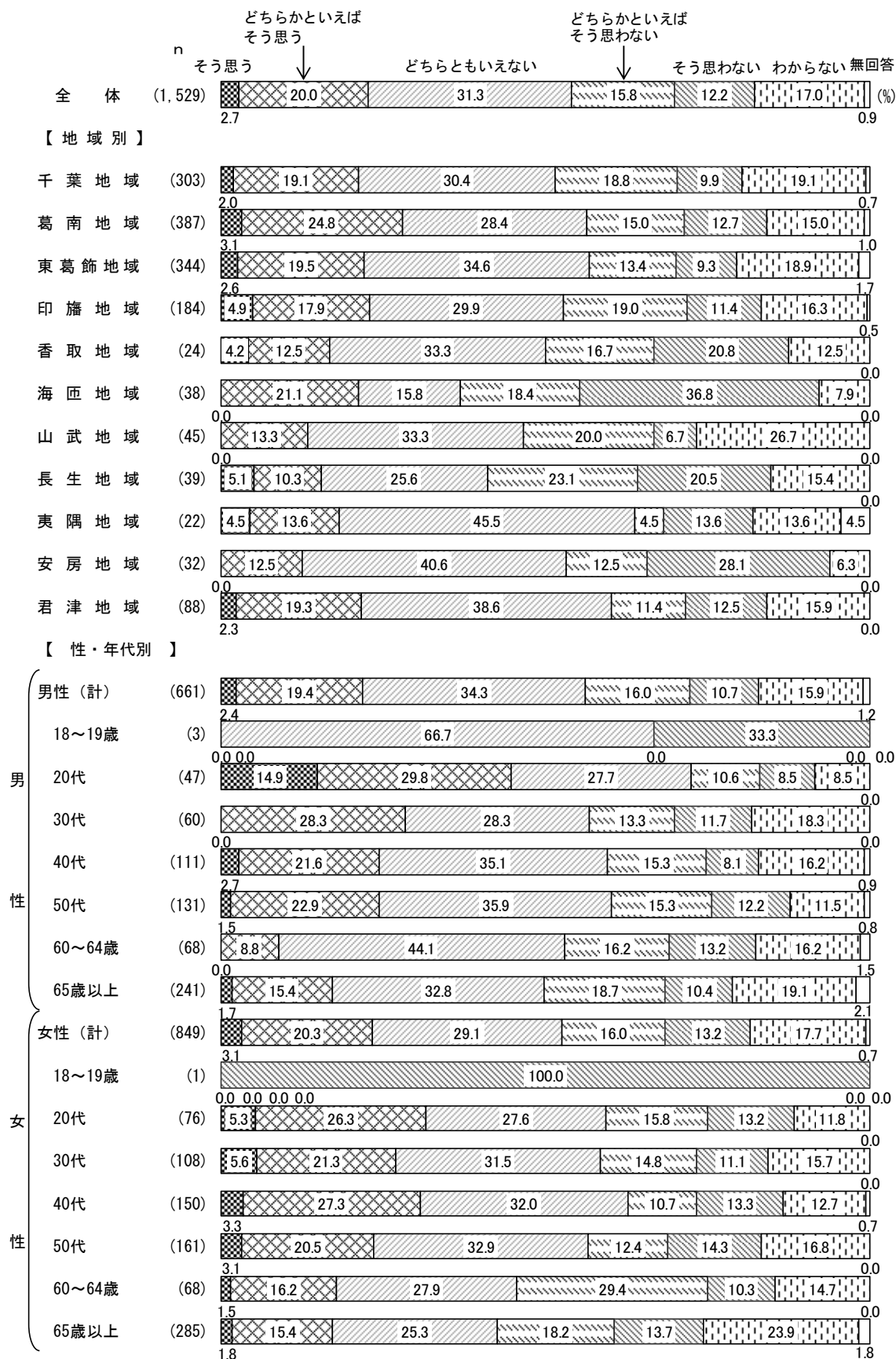
<図表 1-12-2>子育てに関する意識／地域別、性・年代別

(イ) 保育所の整備などにより保育サービスが充実し、子育てを支える環境が整っている



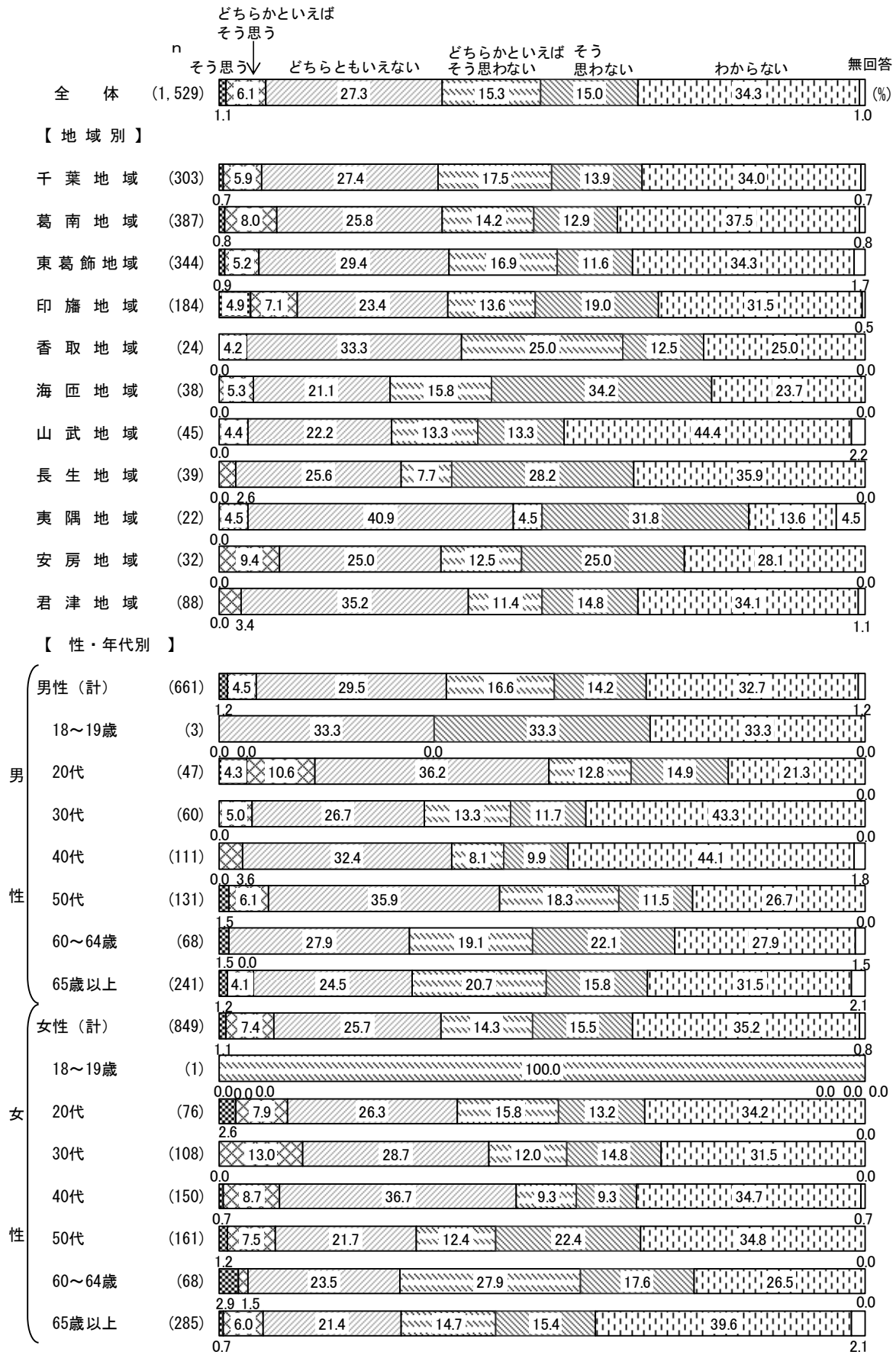
＜図表1-12-3＞子育てに関する意識／地域別、性・年代別

（ウ）子ども・若者が健やかに成長し、社会的・経済的に自立できる環境が整っている



＜図表1-12-4＞子育てに関する意識／地域別、性・年代別

（エ）ひきこもり、不登校、ニート等社会生活上の困難を有する子ども・若者が、相談窓口の設置などにより、自立できる環境が整っている



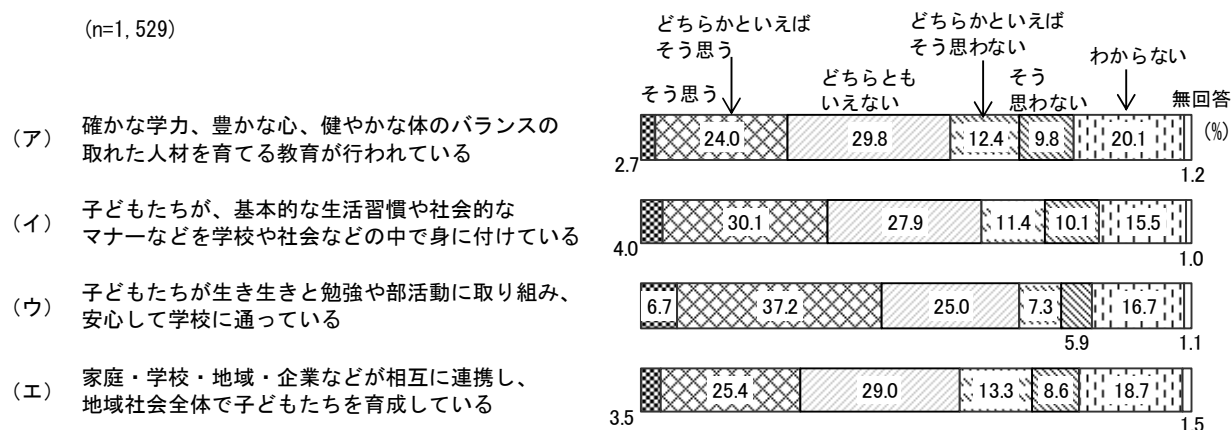
（７）教育に関する意識

◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈子どもたちが生き生きと勉強や部活動に取り組み、安心して学校に通っている〉で４割台半ば

問７ あなたは、教育に関する次の項目についてどう思いますか。（○はそれぞれ１つ）

＜図表１－13＞教育に関する意識

(n=1,529)



教育に関する４個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(ウ) 子どもたちが生き生きと勉強や部活動に取り組み、安心して学校に通っている」(44.0%)で４割台半ばとなっており、以下、「(イ) 子どもたちが、基本的な生活習慣や社会的なマナーなどを学校や社会などの中で身に付けている」(34.1%)が３割台半ば、「(エ) 家庭・学校・地域・企業などが相互に連携し、地域社会全体で子どもたちを育成している」(28.8%)が約３割で続く。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が高いのは、「(ア) 確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスの取れた人材を育てる教育が行われている」(22.2%)、「(エ) 家庭・学校・地域・企業などが相互に連携し、地域社会全体で子どもたちを育成している」(21.9%)、「(イ) 子どもたちが、基本的な生活習慣や社会的なマナーなどを学校や社会などの中で身に付けている」(21.5%)が２割を超えている。（図表１－13）

【地域別】

地域別にみると、「（ア）確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスの取れた人材を育てる教育が行われている」の『そう思わない（計）』は“安房地域”（37.5%）が約4割、“印旛地域”（29.9%）が約3割で高くなっている。

「（イ）子どもたちが、基本的な生活習慣や社会的なマナーなどを学校や社会などの中で身に付けている」の『そう思わない（計）』は“千葉地域”（26.1%）が2割台半ばで高くなっている。

（図表1－14）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「（ア）確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスの取れた人材を育てる教育が行われている」の『そう思わない（計）』は女性の60～64歳（32.4%）が3割を超えて高くなっている。

「（イ）子どもたちが、基本的な生活習慣や社会的なマナーなどを学校や社会などの中で身に付けている」の『そう思う（計）』は女性の30代（48.1%）が約5割、女性の40代（44.7%）が4割台半ばで高くなっている。

「（ウ）子どもたちが生き生きと勉強や部活動に取り組み、安心して学校に通っている」の『そう思う（計）』は女性の30代（54.6%）が5割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は女性の60～64歳（22.1%）が2割を超えて高くなっている。

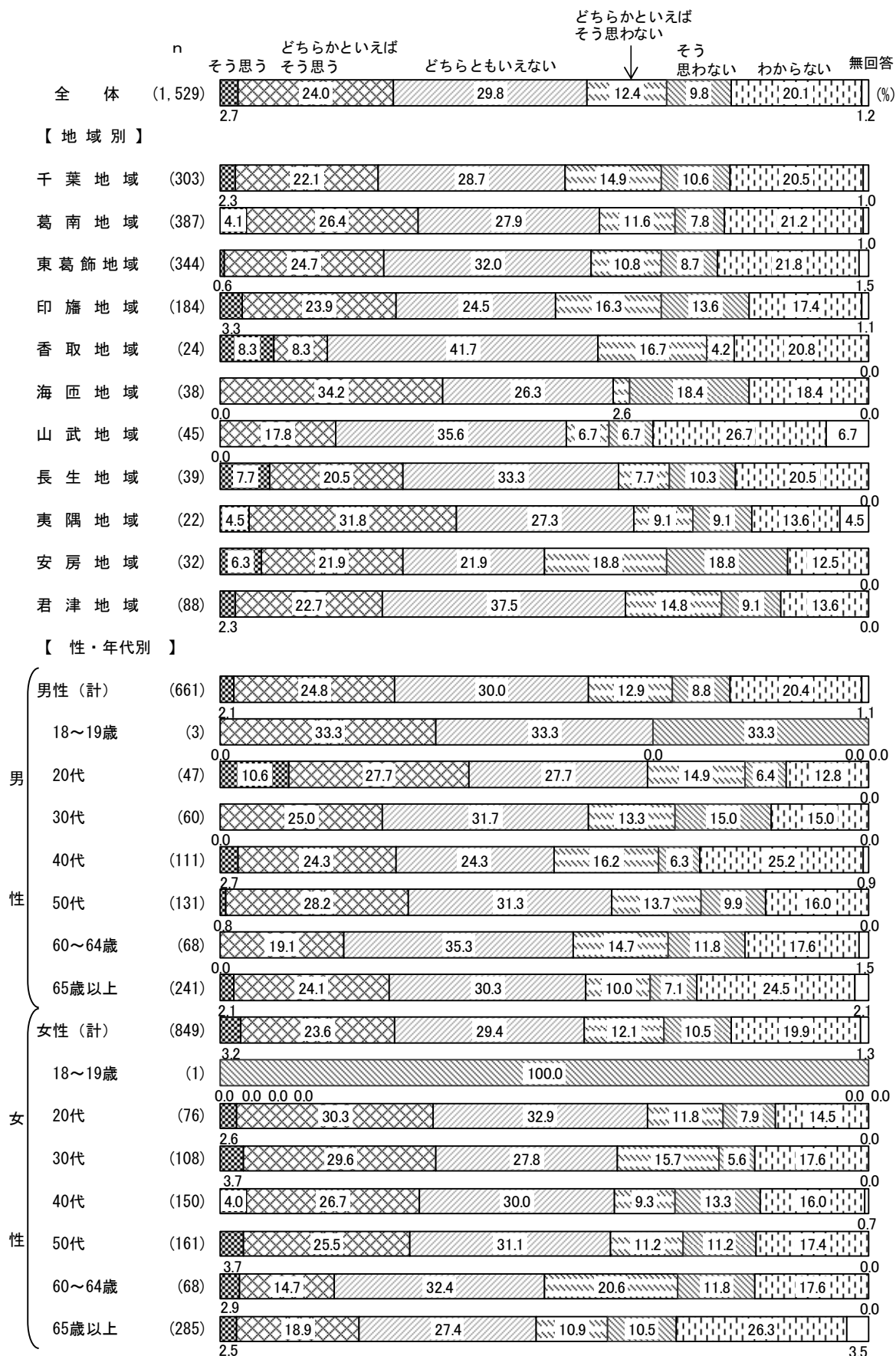
「（エ）家庭・学校・地域・企業などが相互に連携し、地域社会全体で子どもたちを育成している」の『そう思う（計）』は女性の20代（39.5%）が約4割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（35.3%）が3割台半ばで高くなっている。

（図表1－14）

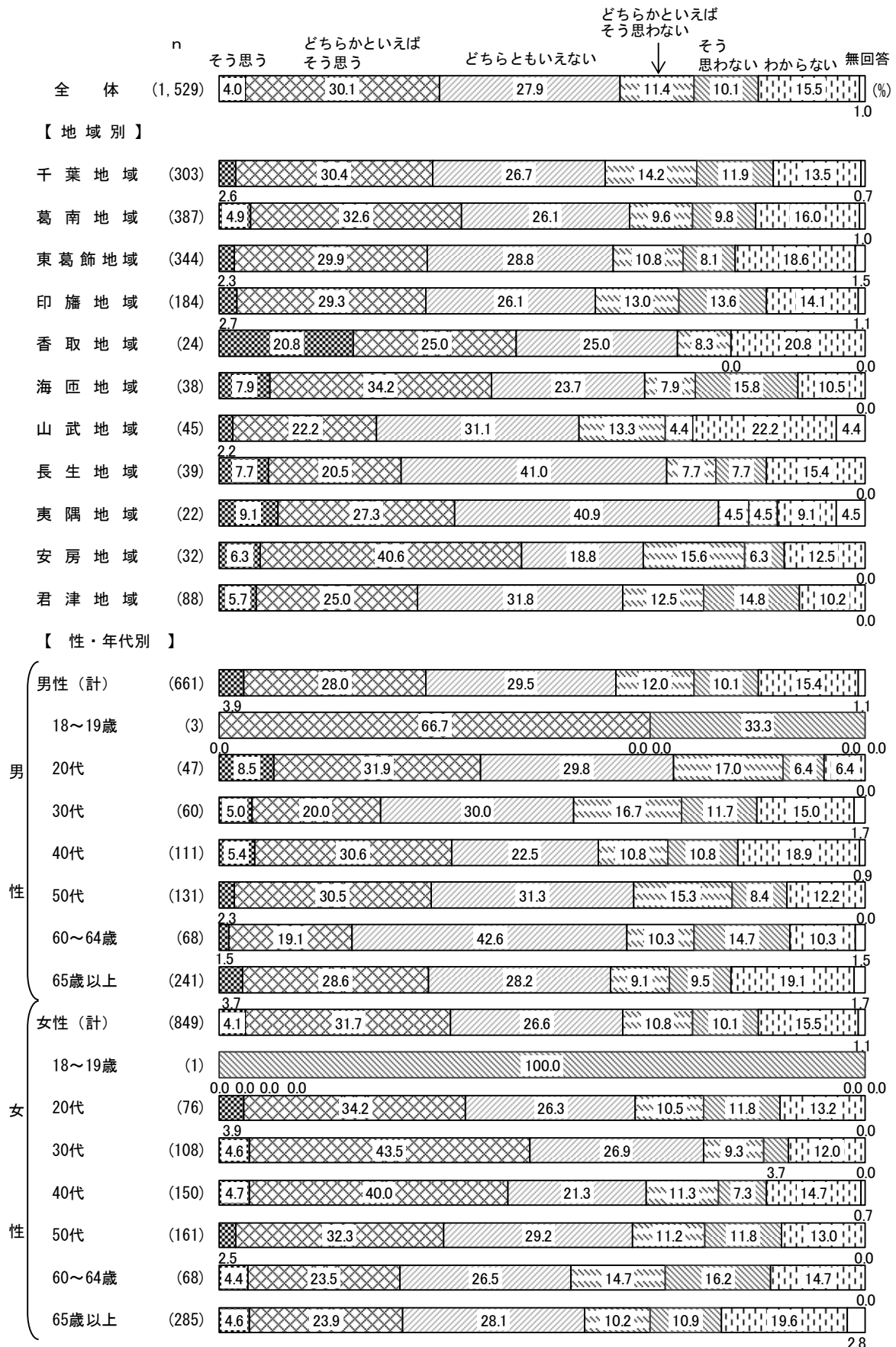
<図表１－１４－１>教育に関する意識／地域別、性・年代別

（ア）確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスの取れた人材を育てる教育が行われている



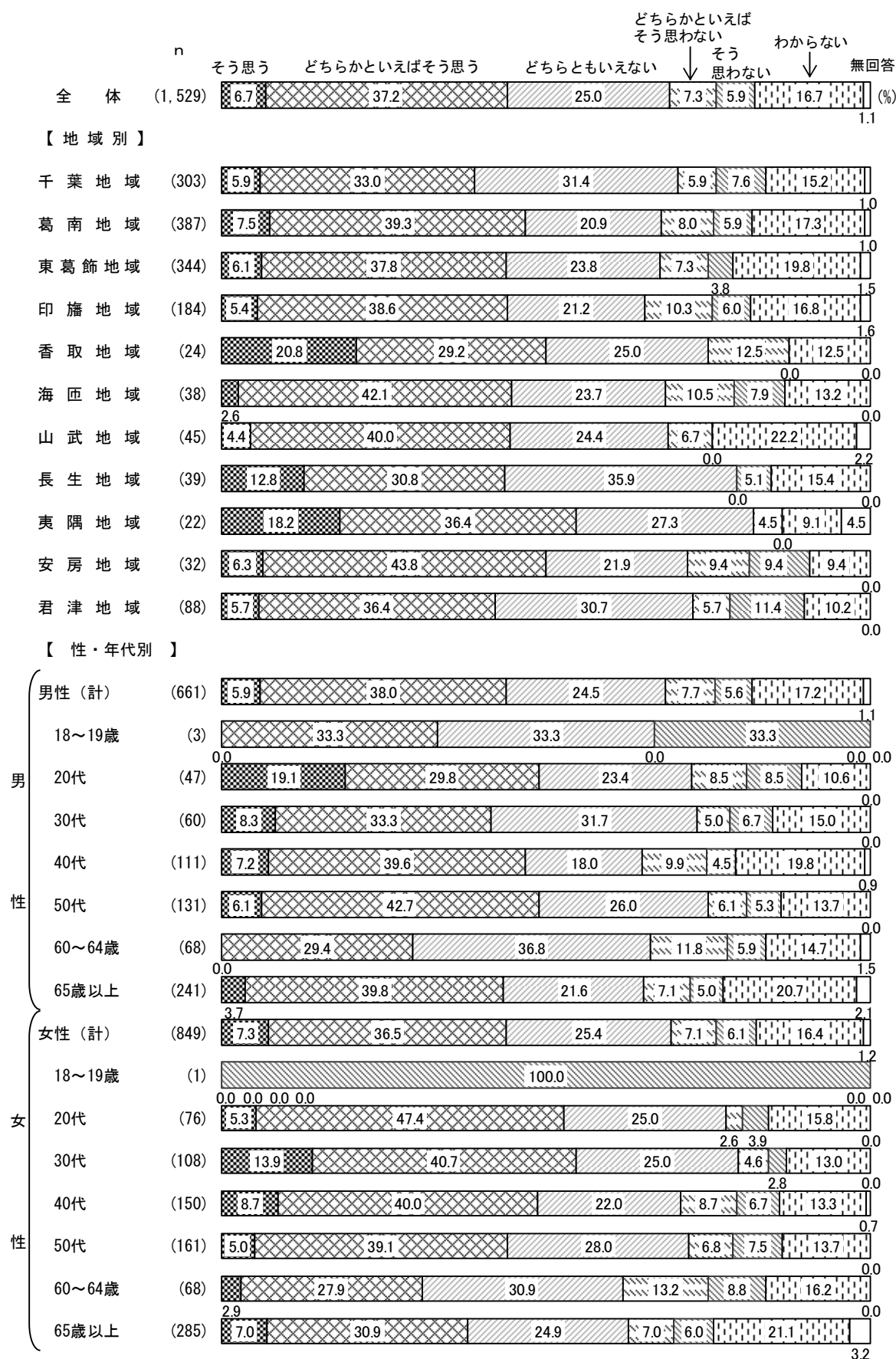
＜図表 1-14-2＞教育に関する意識／地域別、性・年代別

(イ) 子どもたちが、基本的な生活習慣や社会的なマナーなどを学校や社会などの中で身に付けている



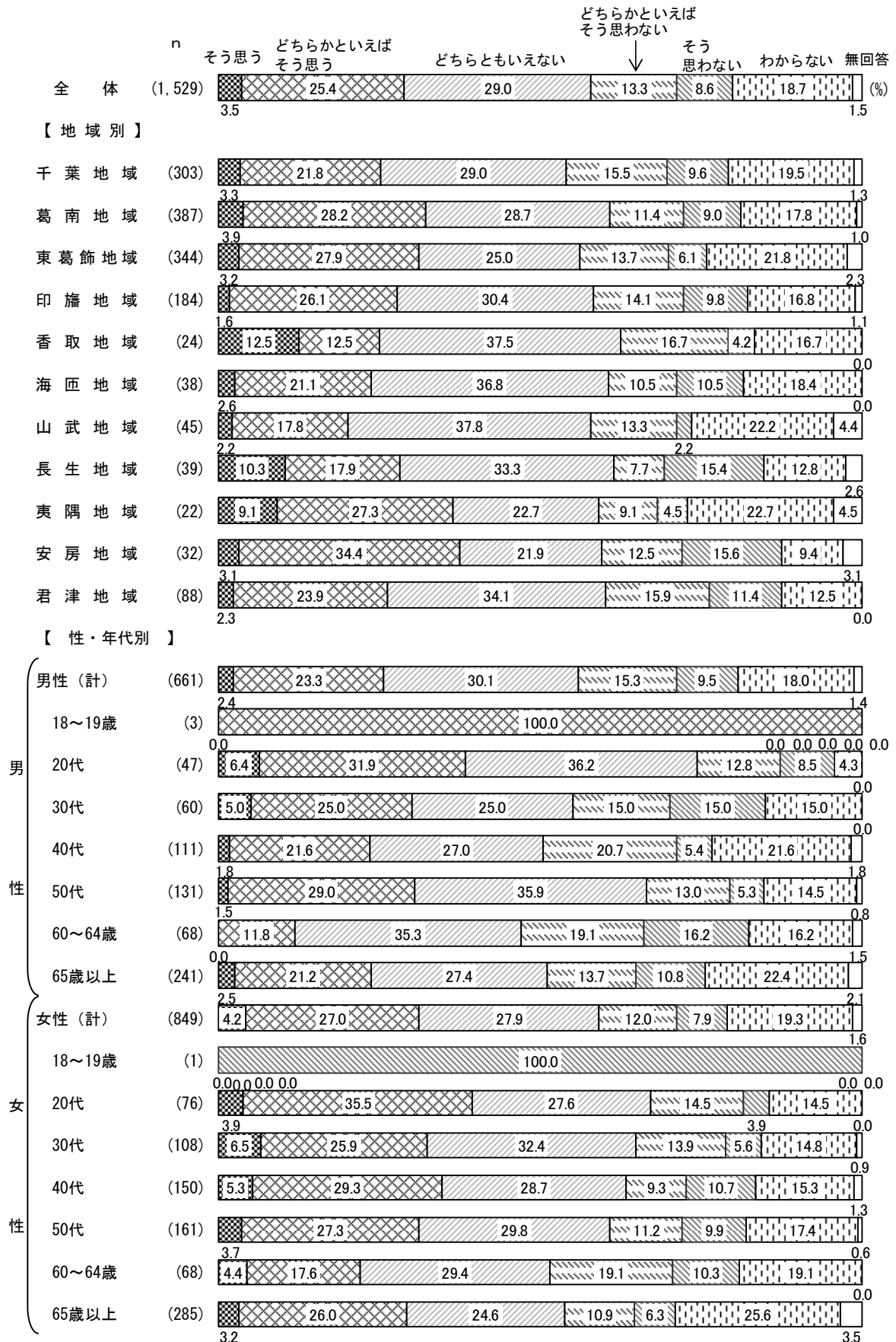
<図表１－14－３>教育に関する意識／地域別、性・年代別

（ウ）子どもたちが生き生きと勉強や部活動に取り組み、安心して学校に通っている



＜図表1-14-4＞教育に関する意識／地域別、性・年代別

（エ）家庭・学校・地域・企業などが相互に連携し、地域社会全体で子どもたちを育成している



（８）千葉県の魅力発信に関する意識

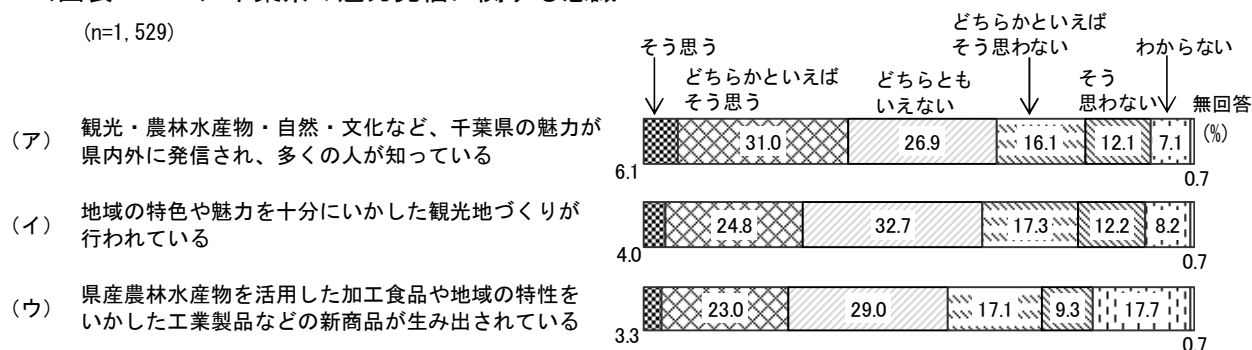
◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈観光・農林水産物・自然・文化など、千葉県の魅力が県内外に発信され、多くの人が知っている〉で約４割

問８ あなたは、千葉県の魅力発信に関する次の項目についてどう思いますか。

（○はそれぞれ１つ）

＜図表 1－15＞千葉県の魅力発信に関する意識

（n=1,529）



千葉県の魅力発信に関する３個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(ア) 観光・農林水産物・自然・文化など、千葉県の魅力が県内外に発信され、多くの人が知っている」(37.1%)で約４割となっており、以下、「(イ) 地域の特色や魅力を十分にいかした観光地づくりが行われている」(28.8%)が約３割、「(ウ) 県産農林水産物を活用した加工食品や地域の特性をいかした工業製品などの新商品が生み出されている」(26.3%)が２割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が高いのは、「(イ) 地域の特色や魅力を十分にいかした観光地づくりが行われている」(29.6%)と「(ア) 観光・農林水産物・自然・文化など、千葉県の魅力が県内外に発信され、多くの人が知っている」(28.2%)が約３割、以下、「(ウ) 県産農林水産物を活用した加工食品や地域の特性をいかした工業製品などの新商品が生み出されている」(26.4%)が２割台半ばとなっている。

（図表 1－15）

【地域別】

地域別にみると、「（ア）観光・農林水産物・自然・文化など、千葉県の魅力が県内外に発信され、多くの人知っている」の『そう思う（計）』は“安房地域”（56.3%）が5割台半ばで高くなっている。

「（イ）地域の特色や魅力を十分にいかした観光地づくりが行われている」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（33.1%）が3割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“海匝地域”（55.3%）が5割台半ばで高くなっている。

「（ウ）県産農林水産物を活用した加工食品や地域の特性をいかした工業製品などの新商品が生み出されている」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（31.3%）が3割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“海匝地域”（44.7%）が4割台半ばで高くなっている。

（図表 1－16）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「（ア）観光・農林水産物・自然・文化など、千葉県の魅力が県内外に発信され、多くの人知っている」の『そう思う（計）』は女性の50代（47.2%）が約5割で高くなっている。

「（イ）地域の特色や魅力を十分にいかした観光地づくりが行われている」の『そう思う（計）』は男性の20代（44.7%）が4割台半ば、女性の30代（37.0%）と女性の50代（37.3%）が約4割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の65歳以上（36.5%）が3割台半ばで高くなっている。

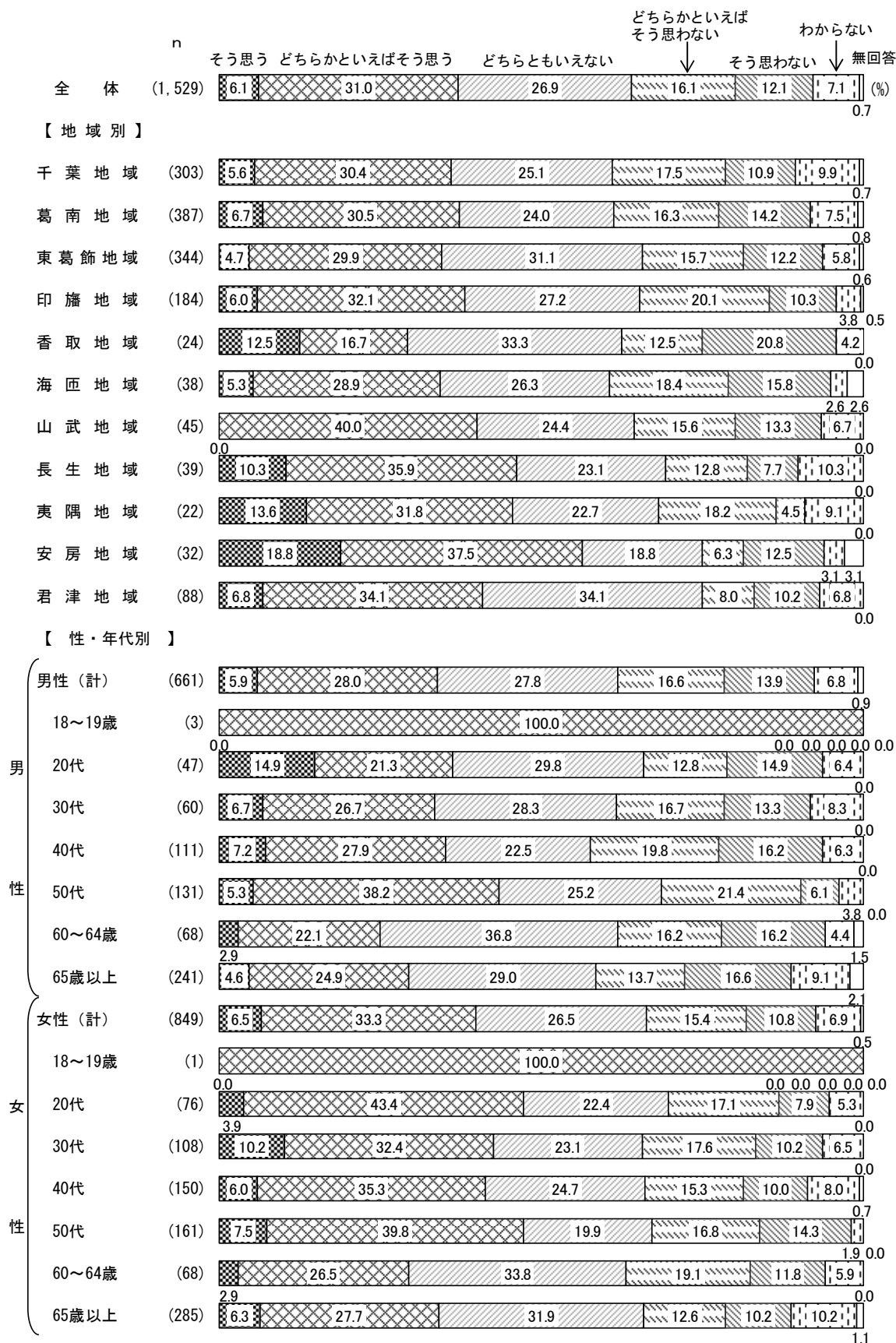
「（ウ）県産農林水産物を活用した加工食品や地域の特性をいかした工業製品などの新商品が生み出されている」の『そう思う（計）』は男性の20代（40.4%）が4割、女性の20代（38.2%）と女性の50代（39.1%）が約4割、女性の40代（35.3%）が3割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の65歳以上（34.0%）が3割台半ばで高くなっている。

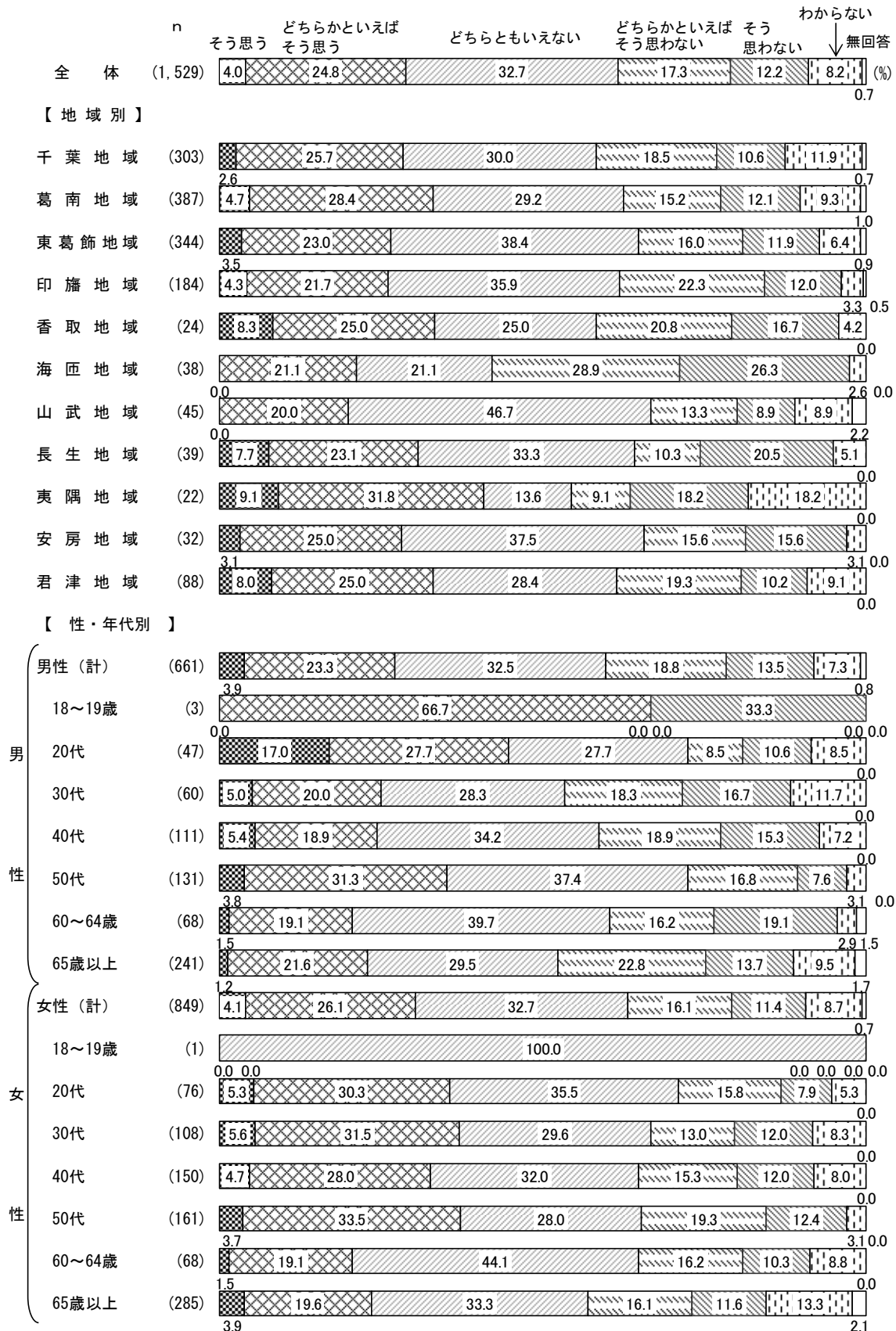
（図表 1－16）

＜図表１－１６－１＞千葉県の魅力発信に関する意識／地域別、性・年代別

（ア）観光・農林水産物・自然・文化など、千葉県の魅力が県内外に発信され、多くの人が知っている

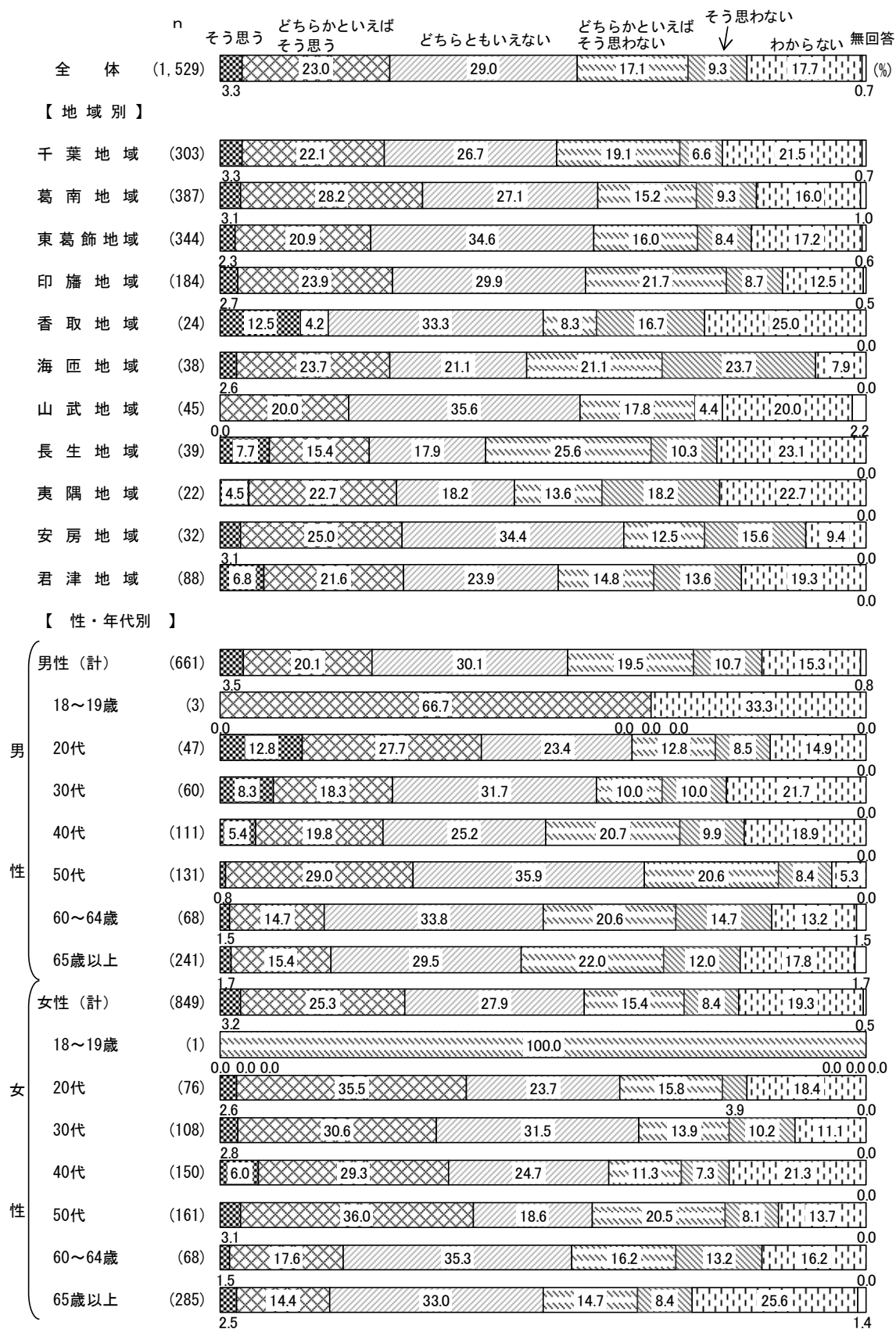


＜図表 1－16－2＞千葉県の魅力発信に関する意識／地域別、性・年代別
（イ）地域の特色や魅力を十分にいかした観光地づくりが行われている



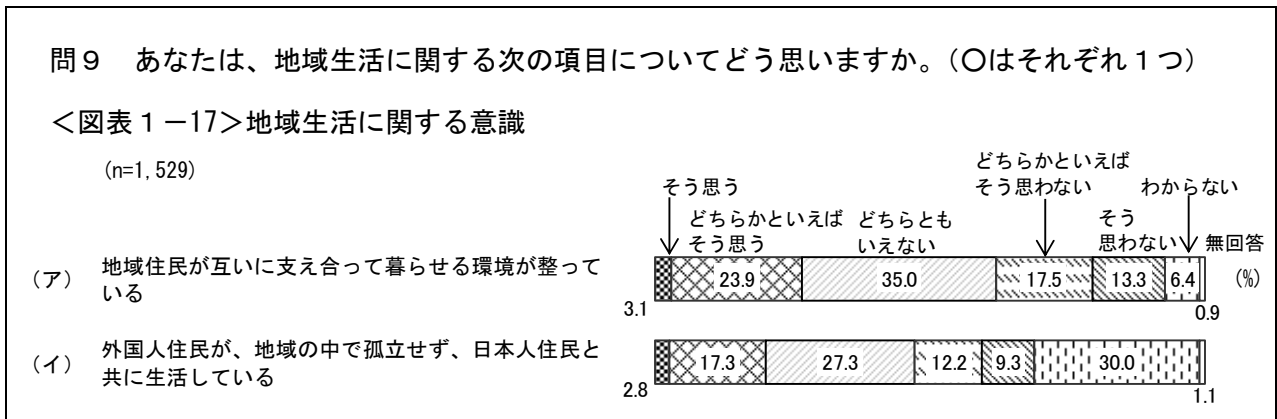
＜図表１－１６－３＞千葉県の魅力発信に関する意識／地域別、性・年代別

（ウ）県産農林水産物を活用した加工食品や地域の特性をいかした工業製品などの新商品が生み出されている



（９）地域生活に関する意識

◇『そう思う（計）』が高いのは、〈地域住民が互いに支え合って暮らせる環境が整っている〉で約３割



地域生活に関する２個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が高いのは、「(ア) 地域住民が互いに支え合って暮らせる環境が整っている」(27.0%)で約３割となっており、次いで「(イ) 外国人住民が、地域の中で孤立せず、日本人住民と共に生活している」(20.1%)が２割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が高いのは、「(ア) 地域住民が互いに支え合って暮らせる環境が整っている」(30.7%)が３割となっており、次いで「(イ) 外国人住民が、地域の中で孤立せず、日本人住民と共に生活している」(21.5%)が２割を超えている。（図表１－１７）

【地域別】

地域別にみると、「(ア) 地域住民が互いに支え合って暮らせる環境が整っている」の『そう思う（計）』は“安房地域”（43.8%）が４割台半ばで高くなっている。

「(イ) 外国人住民が、地域の中で孤立せず、日本人住民と共に生活している」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（23.8%）が２割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“海匝地域”（42.1%）が４割を超えて高くなっている。

（図表１－１８）

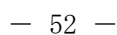
【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 地域住民が互いに支え合って暮らせる環境が整っている」の『そう思う（計）』は男性の20代（42.6%）が４割を超えて高くなっている。

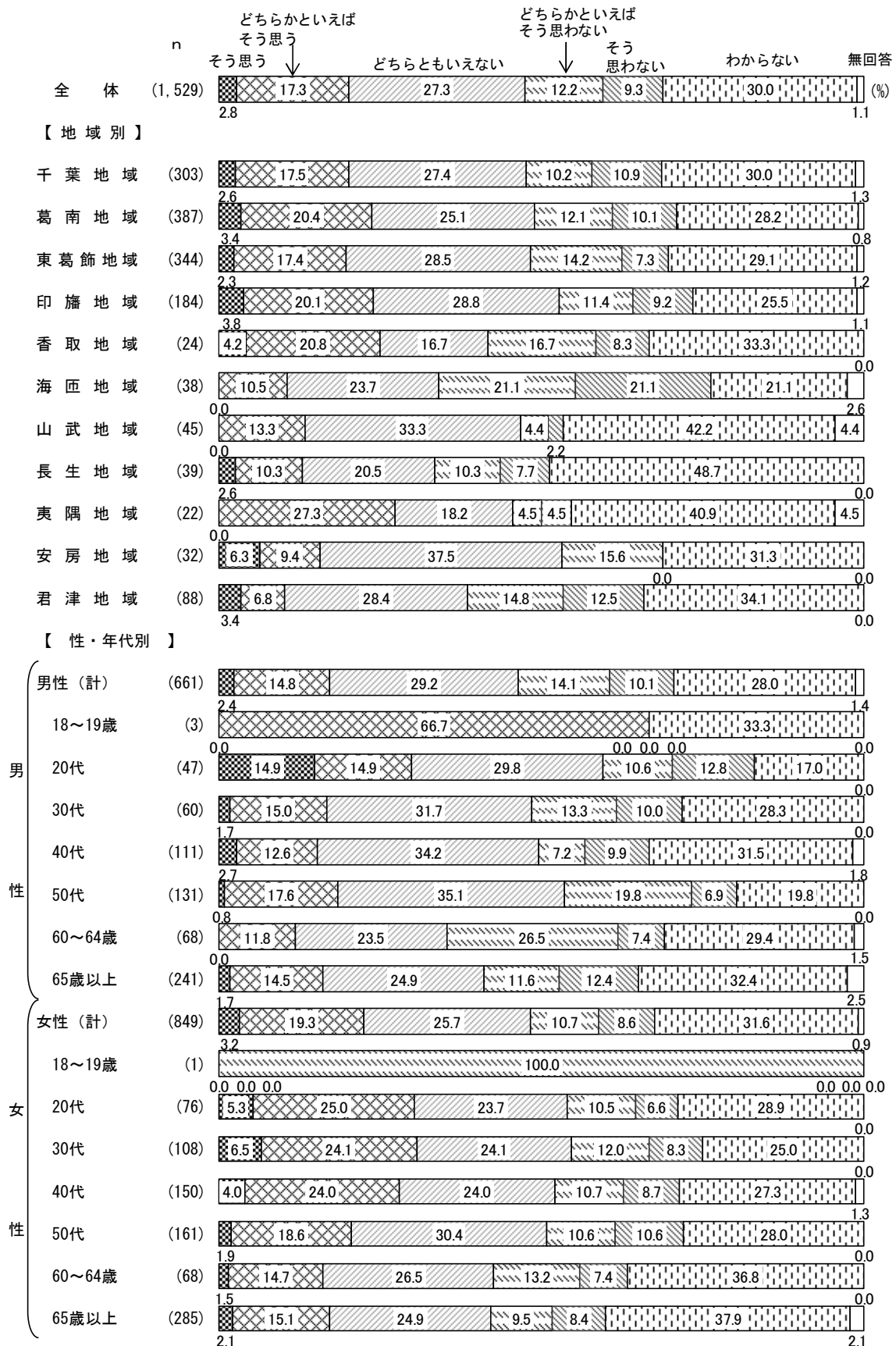
「(イ) 外国人住民が、地域の中で孤立せず、日本人住民と共に生活している」の『そう思う（計）』は女性の20代（30.3%）と女性の30代（30.6%）が３割、女性の40代（28.0%）が約３割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（33.8%）が３割台半ばで高くなっている。

（図表１－１８）



＜図表 1－18－2＞地域生活に関する意識／地域別、性・年代別
 （イ）外国人住民が、地域の中で孤立せず、日本人住民と共に生活している



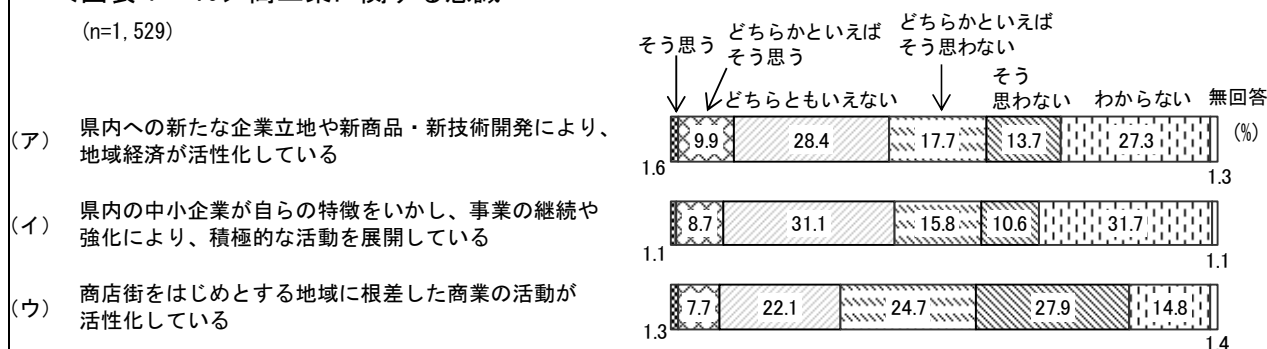
（10）商工業に関する意識

◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈県内への新たな企業立地や新商品・新技術開発により、地域経済が活性化している〉で1割を超える

問10 あなたは、商工業に関する次の項目についてどう思いますか。（○はそれぞれ1つ）

＜図表1－19＞商工業に関する意識

(n=1,529)



商工業に関する3個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(ア) 県内への新たな企業立地や新商品・新技術開発により、地域経済が活性化している」(11.6%)で1割を超えており、以下、「(イ) 県内の中小企業が自らの特徴をいかし、事業の継続や強化により、積極的な活動を展開している」(9.8%)と「(ウ) 商店街をはじめとする地域に根差した商業の活動が活性化している」(9.0%)が約1割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が最も高いのは、「(ウ) 商店街をはじめとする地域に根差した商業の活動が活性化している」(52.6%)が5割を超えており、以下、「(ア) 県内への新たな企業立地や新商品・新技術開発により、地域経済が活性化している」(31.4%)が3割を超え、「(イ) 県内の中小企業が自らの特徴をいかし、事業の継続や強化により、積極的な活動を展開している」(26.4%)が2割台半ばとなっている。(図表1－19)

【地域別】

地域別にみると、「(ア) 県内への新たな企業立地や新商品・新技術開発により、地域経済が活性化している」の『そう思う（計）』は“君津地域”（18.2%）が約2割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“長生地域”（56.4%）が5割台半ば、“海匝地域”（52.6%）が5割を超えて高くなっている。

「(イ) 県内の中小企業が自らの特徴をいかし、事業の継続や強化により、積極的な活動を展開している」の『そう思わない（計）』は“長生地域”（51.3%）が5割を超え、“海匝地域”（44.7%）が4割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 商店街をはじめとする地域に根差した商業の活動が活性化している」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（13.4%）が1割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“海匝地域”（76.3%）が7割台半ば、“安房地域”（71.9%）が7割を超え、“長生地域”（69.2%）が約7割で高くなっている。

（図表 1－20）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 県内への新たな企業立地や新商品・新技術開発により、地域経済が活性化している」の『そう思う（計）』は男性の20代（31.9%）が3割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（45.6%）が4割台半ばで高くなっている。

「(イ) 県内の中小企業が自らの特徴をいかし、事業の継続や強化により、積極的な活動を展開している」の『そう思う（計）』は男性の20代（34.0%）が3割台半ば、女性の20代（17.1%）が約2割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（39.7%）が約4割で高くなっている。

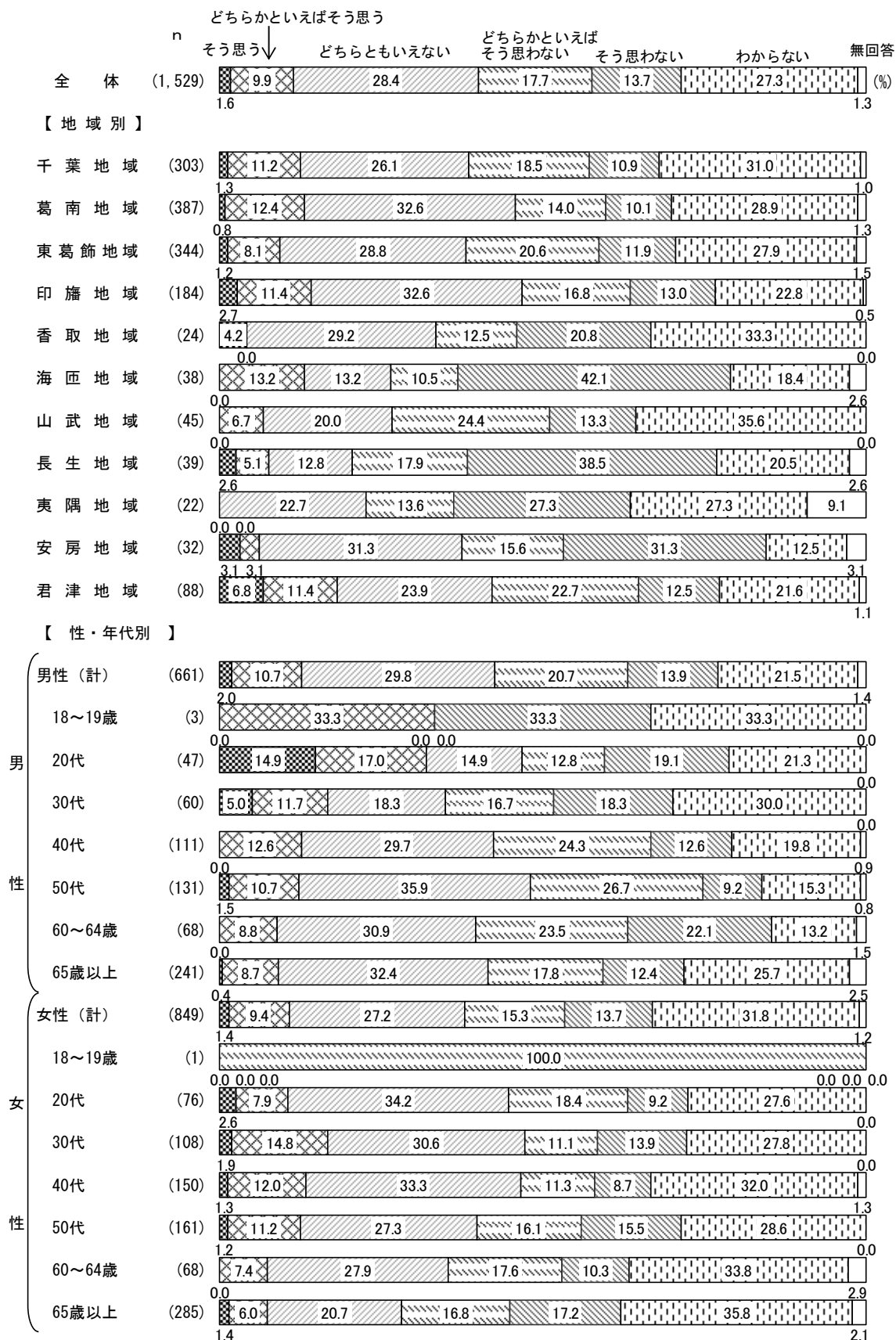
「(ウ) 商店街をはじめとする地域に根差した商業の活動が活性化している」の『そう思う（計）』は女性の20代（15.8%）と女性の30代（14.8%）が1割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（67.6%）が約7割で高くなっている。

（図表 1－20）

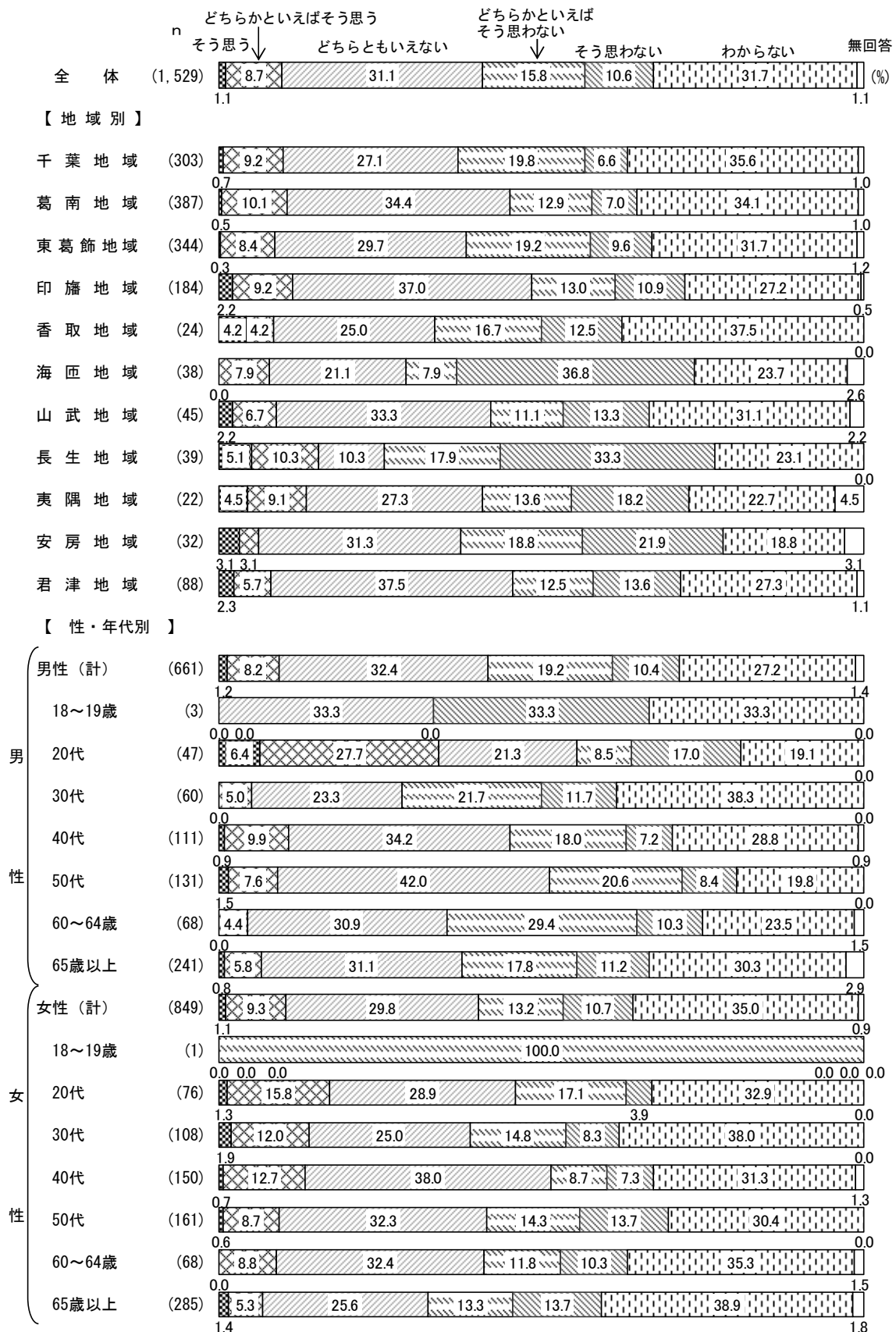
<図表1-20-1>商工業に関する意識／地域別、性・年代別

（ア）県内への新たな企業立地や新商品・新技術開発により、地域経済が活性化している



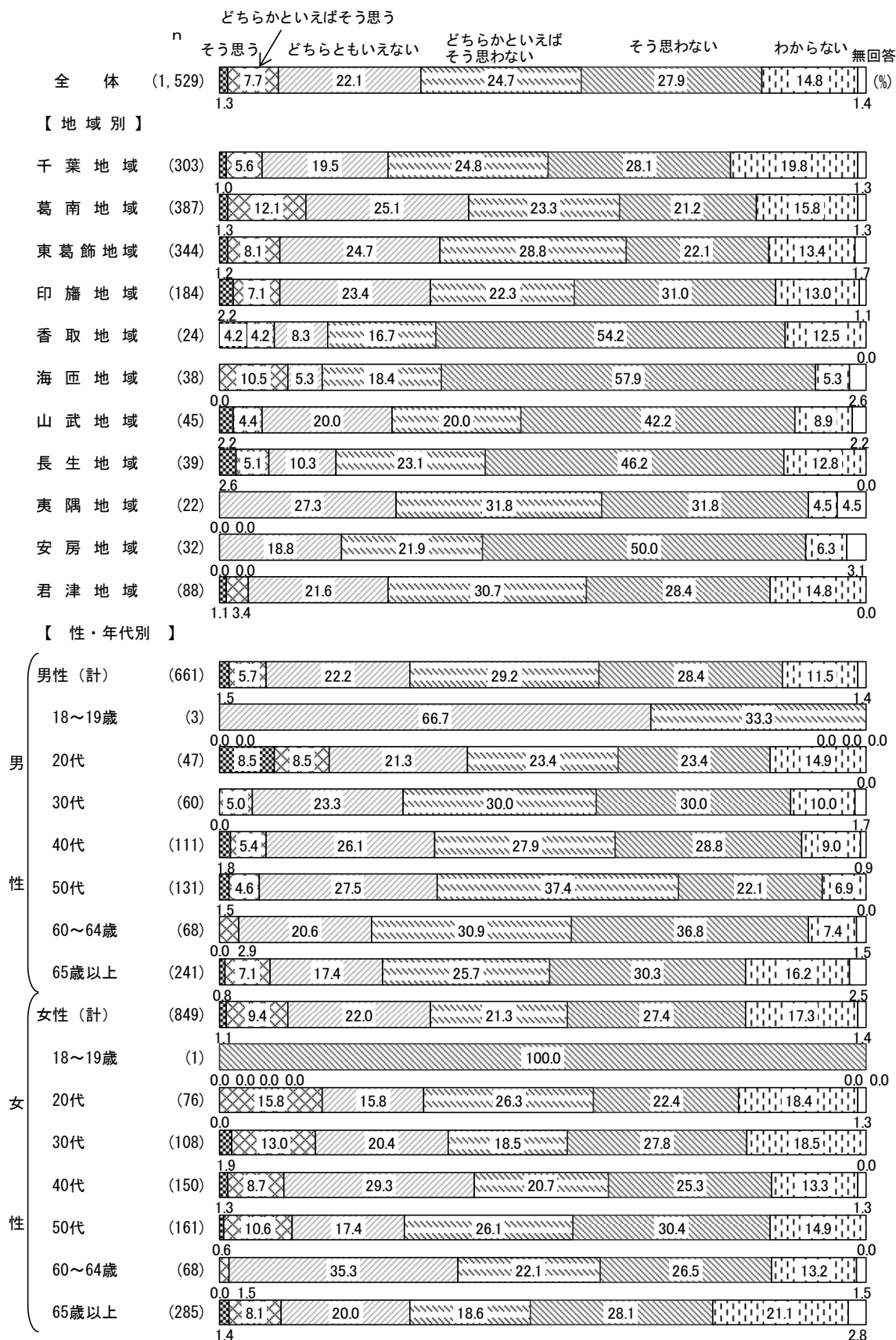
＜図表 1-20-2＞商工業に関する意識／地域別、性・年代別

(イ) 県内の中小企業が自らの特徴をいかし、事業の継続や強化により、積極的な活動を展開している



＜図表1-20-3＞商工業に関する意識／地域別、性・年代別

（ウ）商店街をはじめとする地域に根差した商業の活動が活性化している



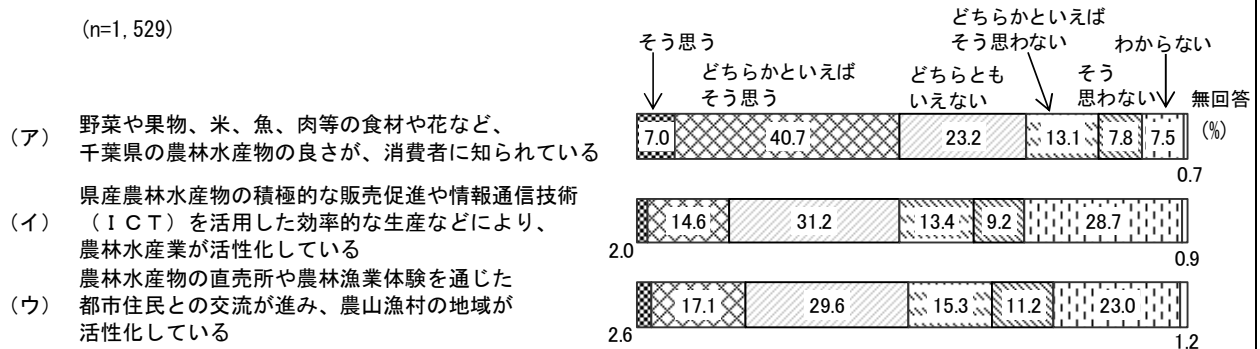
(11) 農林水産業に関する意識

◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈野菜や果物、米、魚、肉等の食材や花など、千葉県の農林水産物の良さが、消費者に知られている〉で約5割

問11 あなたは、農林水産業に関する次の項目についてどう思いますか。（○はそれぞれ1つ）

＜図表1-21＞農林水産業に関する意識

(n=1,529)



農林水産業に関する3個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(ア) 野菜や果物、米、魚、肉等の食材や花など、千葉県の農林水産物の良さが、消費者に知られている」(47.7%)で約5割となっており、以下、「(ウ) 農林水産物の直売所や農林漁業体験を通じた都市住民との交流が進み、農山漁村の地域が活性化している」(19.7%)が約2割、「(イ) 県産農林水産物の積極的な販売促進や情報通信技術（ICT）を活用した効率的な生産などにより、農林水産業が活性化している」(16.6%)が1割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が最も高いのは、「(ウ) 農林水産物の直売所や農林漁業体験を通じた都市住民との交流が進み、農山漁村の地域が活性化している」(26.5%)が2割台半ばとなっており、以下、「(イ) 県産農林水産物の積極的な販売促進や情報通信技術（ICT）を活用した効率的な生産などにより、農林水産業が活性化している」(22.6%)と「(ア) 野菜や果物、米、魚、肉等の食材や花など、千葉県の農林水産物の良さが、消費者に知られている」(21.0%)が2割を超えている。（図表1-21）

【地域別】

地域別にみると、「（イ）県産農林水産物の積極的な販売促進や情報通信技術（ＩＣＴ）を活用した効率的な生産などにより、農林水産業が活性化している」の『そう思わない（計）』は“香取地域”（41.7%）が４割を超えて高くなっている。

「（ウ）農林水産物の直売所や農林漁業体験を通じた都市住民との交流が進み、農山漁村の地域が活性化している」の『そう思わない（計）』は“香取地域”（45.8%）が４割台半ばで高くなっている。（図表１－22）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「（ア）野菜や果物、米、魚、肉等の食材や花など、千葉県の農林水産物の良さが、消費者に知られている」の『そう思う（計）』は女性の20代（60.5%）が６割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（30.9%）が３割で高くなっている。

「（イ）県産農林水産物の積極的な販売促進や情報通信技術（ＩＣＴ）を活用した効率的な生産などにより、農林水産業が活性化している」の『そう思う（計）』は男性の20代（34.0%）が３割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の50代（32.8%）が３割を超え、男性の65歳以上（29.0%）が約３割で高くなっている。

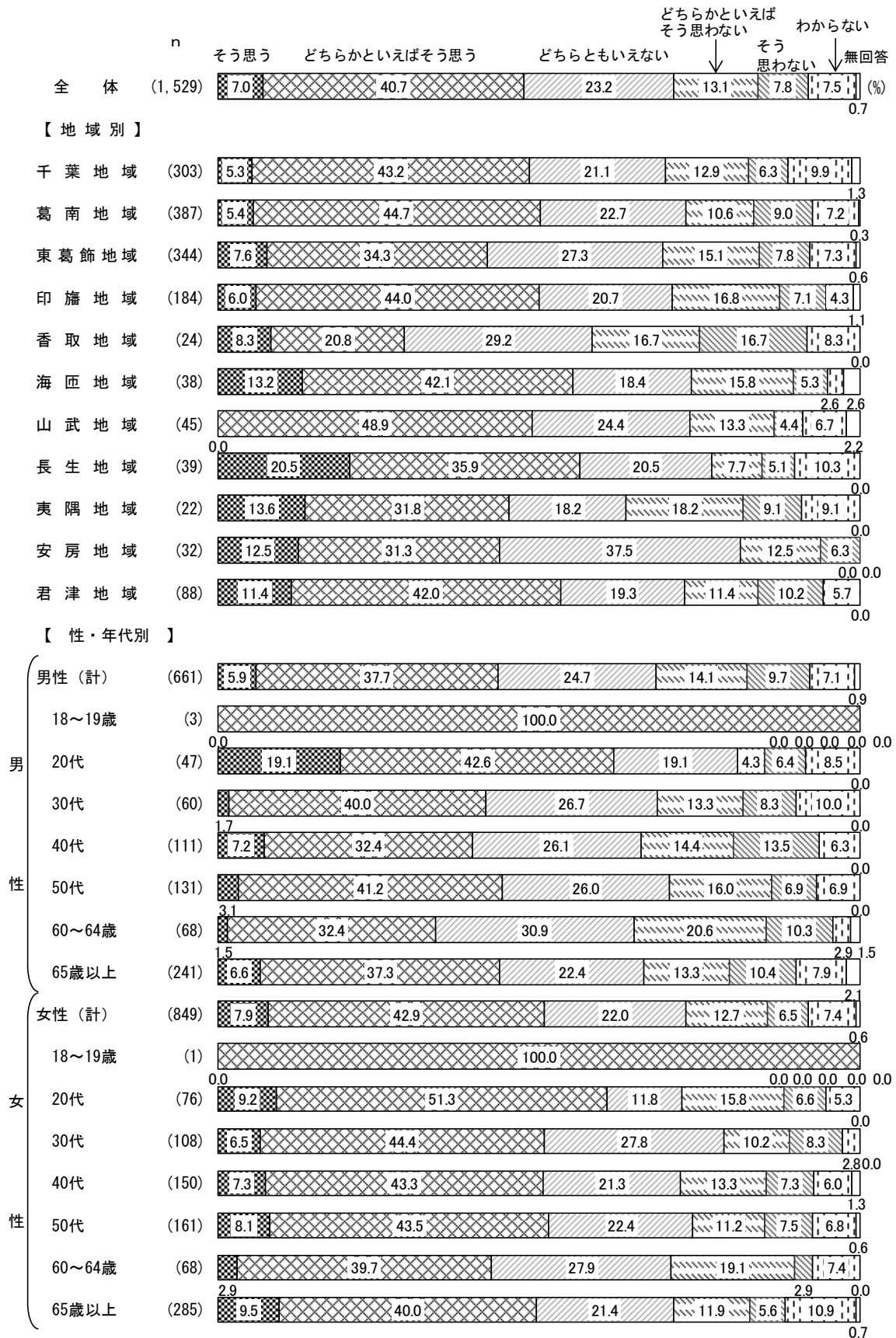
「（ウ）農林水産物の直売所や農林漁業体験を通じた都市住民との交流が進み、農山漁村の地域が活性化している」の『そう思う（計）』は男性の20代（31.9%）が３割を超え、女性の40代（30.0%）が３割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の65歳以上（34.4%）が３割台半ばで高くなっている。

（図表１－22）

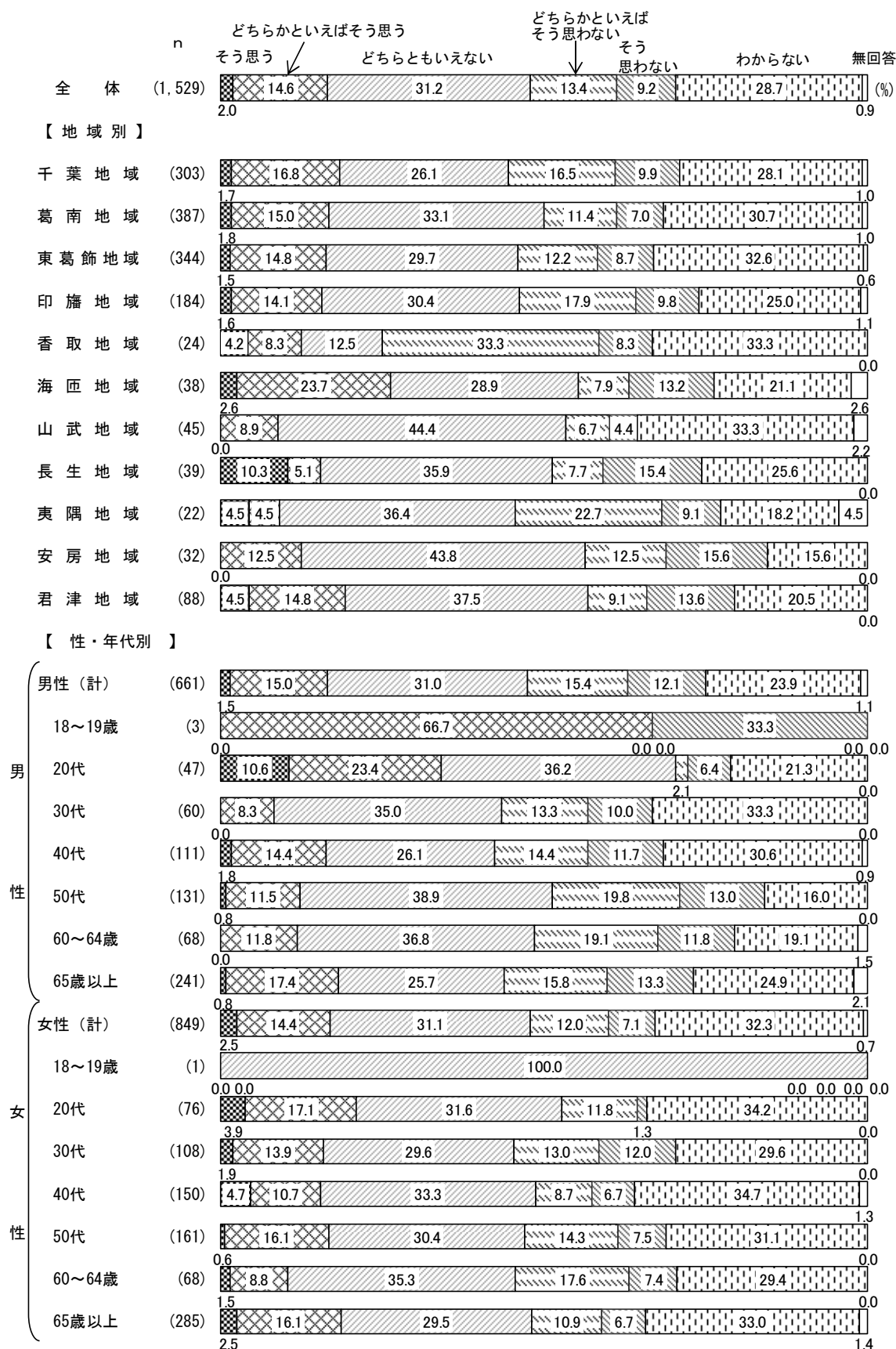
＜図表 1－22－1＞農林水産業に関する意識／地域別、性・年代別

（ア）野菜や果物、米、魚、肉等の食材や花など、千葉県農林水産物の良さが、消費者に知られている



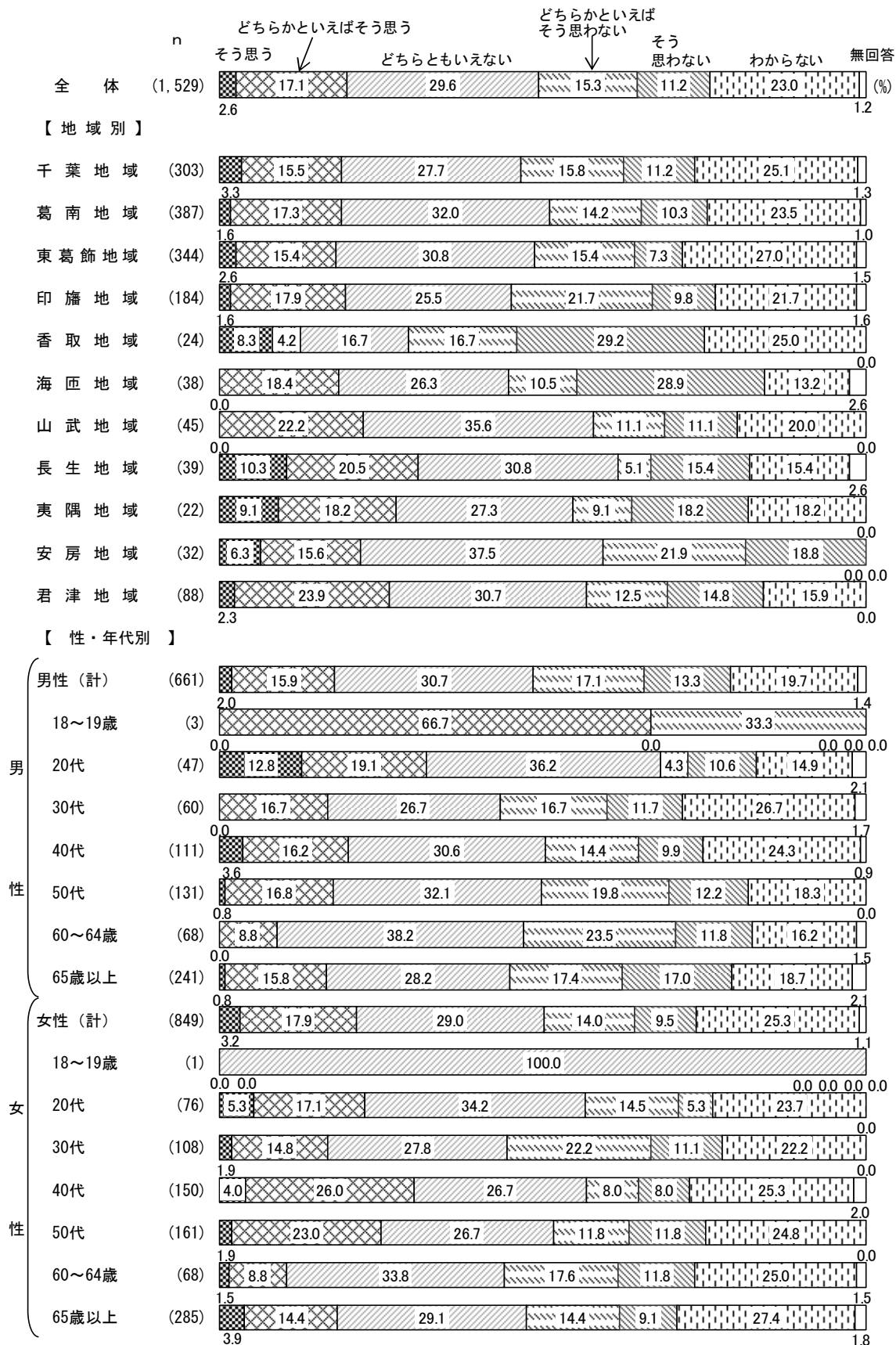
＜図表１－２２－２＞農林水産業に関する意識／地域別、性・年代別

（イ）県産農林水産物の積極的な販売促進や情報通信技術（ＩＣＴ）を活用した効率的な生産などにより、農林水産業が活性化している



＜図表 1－22－3＞農林水産業に関する意識／地域別、性・年代別

（ウ）農林水産物の直売所や農林漁業体験を通じた都市住民との交流が進み、農山漁村の地域が活性化している



（12）雇用・労働に関する意識

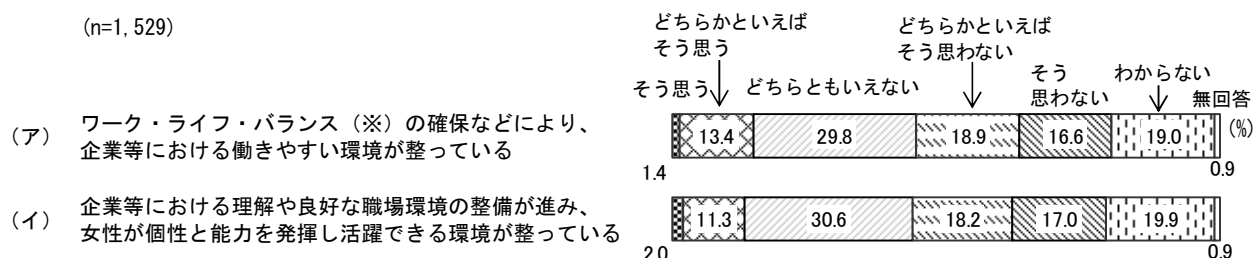
◇『そう思う（計）』が高いのは、〈ワーク・ライフ・バランスの確保などにより、企業等における働きやすい環境が整っている〉で1割台半ば

問12 あなたは、雇用・労働に関する次の項目についてどう思いますか。（○はそれぞれ1つ）

（※）ワーク・ライフ・バランス…老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態のこと。

＜図表1-23＞雇用・労働に関する意識

(n=1,529)



雇用・労働に関する2つの項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が高いのは、「(ア) ワーク・ライフ・バランスの確保などにより、企業等における働きやすい環境が整っている」(14.8%)で1割台半ばとなっており、次いで「(イ) 企業等における理解や良好な職場環境の整備が進み、女性が個性と能力を発揮し活躍できる環境が整っている」(13.3%)が1割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』は、「(ア) ワーク・ライフ・バランスの確保などにより、企業等における働きやすい環境が整っている」(35.5%)と「(イ) 企業等における理解や良好な職場環境の整備が進み、女性が個性と能力を発揮し活躍できる環境が整っている」(35.3%)が3割台半ばとなっている。(図表1-23)

【地域別】

地域別にみると、「(イ) 企業等における理解や良好な職場環境の整備が進み、女性が個性と能力を発揮し活躍できる環境が整っている」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（17.1%）が約2割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“海匝地域”（52.6%）が5割を超え、“印旛地域”（42.4%）が4割を超えて高くなっている。（図表1－24）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) ワーク・ライフ・バランスの確保などにより、企業等における働きやすい環境が整っている」の『そう思う（計）』は女性の20代（26.3%）が2割台半ば、女性の30代（23.1%）が2割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は女性の20代（46.1%）が4割台半ばで高くなっている。

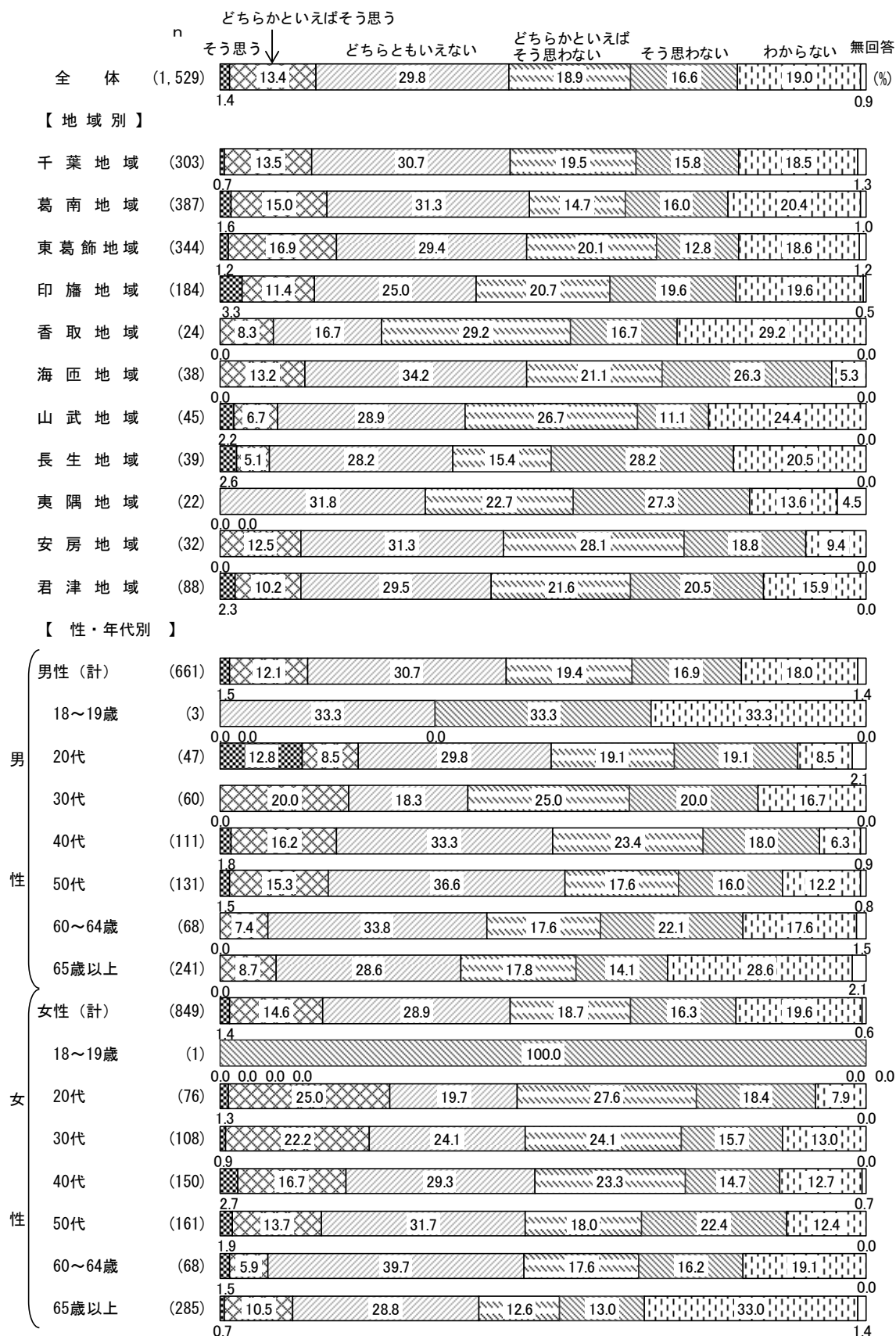
「(イ) 企業等における理解や良好な職場環境の整備が進み、女性が個性と能力を発揮し活躍できる環境が整っている」の『そう思う（計）』は男性の20代（34.0%）が3割台半ば、女性の20代（25.0%）が2割台半ば、女性の30代（20.4%）が2割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は女性の50代（42.2%）が4割を超えて高くなっている。

（図表1－24）

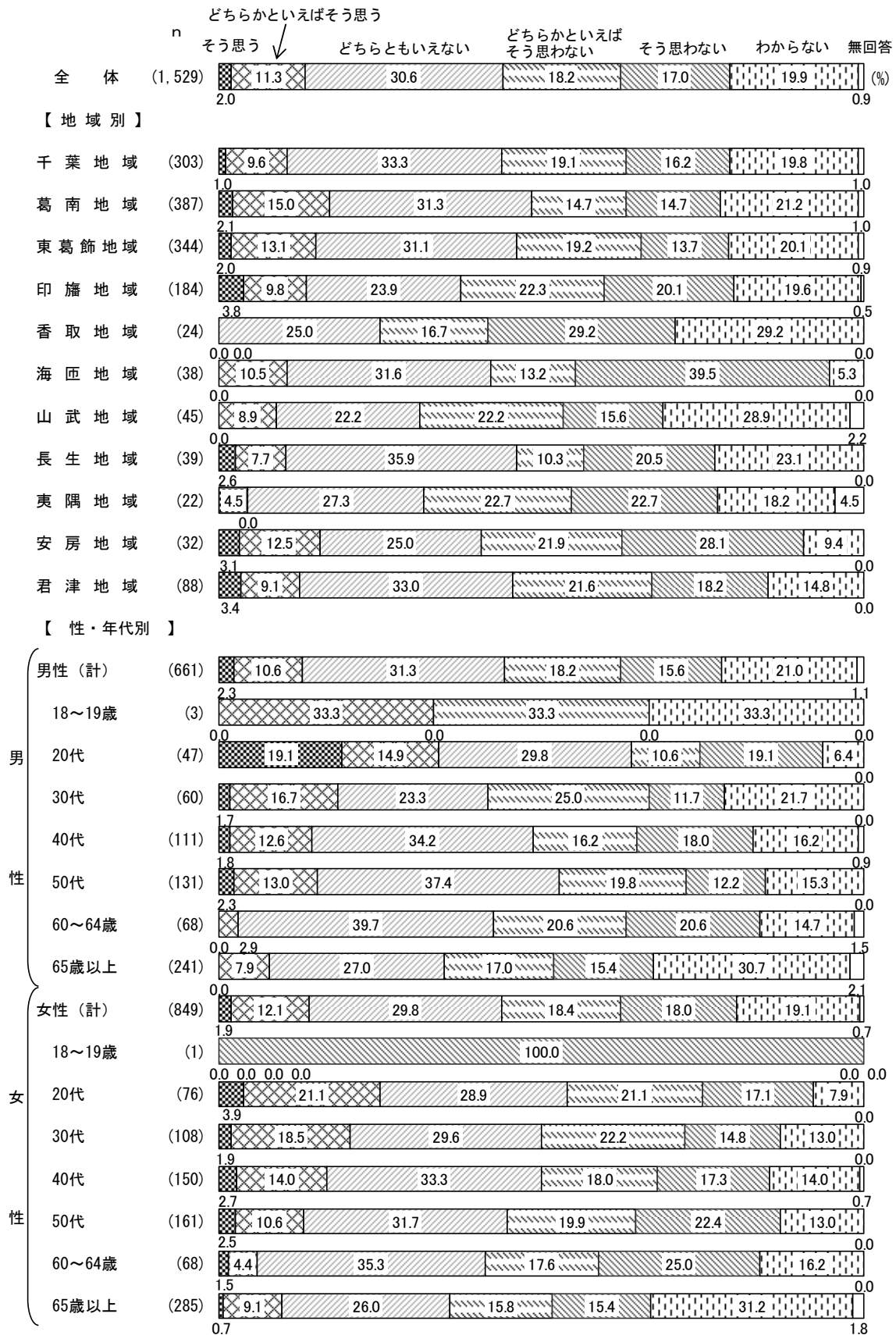
<図表1-24-1>雇用・労働に関する意識／地域別、性・年代別

(ア) ワーク・ライフ・バランスの確保などにより、企業等における働きやすい環境が整っている



<図表 1-24-2>雇用・労働に関する意識／地域別、性・年代別

(イ) 企業等における理解や良好な職場環境の整備が進み、女性が個性と能力を発揮し活躍できる環境が整っている



（13）県の基盤づくりに関する意識

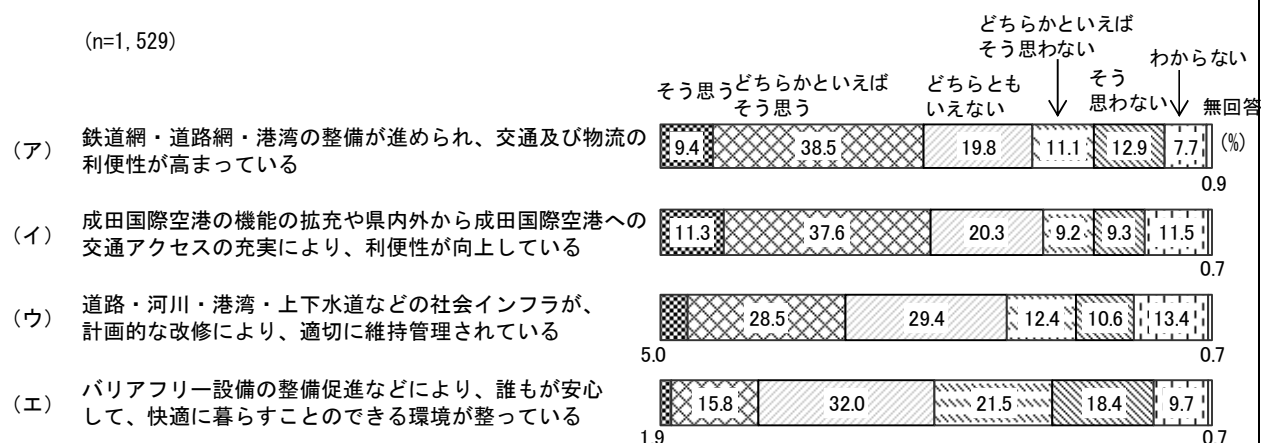
◇『そう思う（計）』が最も高いのは、〈成田国際空港の機能の拡充や県内外から成田国際空港への交通アクセスの充実により、利便性が向上している〉で約5割

問13 あなたは、県の基盤づくりに関する次の項目についてどう思いますか。

（○はそれぞれ1つ）

＜図表1-25＞県の基盤づくりに関する意識

（n=1,529）



県の基盤づくりに関する4個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が最も高いのは、「(イ) 成田国際空港の機能の拡充や県内外から成田国際空港への交通アクセスの充実により、利便性が向上している」（48.9%）で約5割となっており、以下、「(ア) 鉄道網・道路網・港湾の整備が進められ、交通及び物流の利便性が高まっている」（47.8%）が約5割、「(ウ) 道路・河川・港湾・上下水道などの社会インフラが、計画的な改修により、適切に維持管理されている」（33.5%）が3割台半ばで続く。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』が最も高いのは、「(エ) バリアフリー設備の整備促進などにより、誰もが安心して、快適に暮らすことのできる環境が整っている」（39.9%）が約4割となっており、以下、「(ア) 鉄道網・道路網・港湾の整備が進められ、交通及び物流の利便性が高まっている」（23.9%）が2割台半ば、「(ウ) 道路・河川・港湾・上下水道などの社会インフラが、計画的な改修により、適切に維持管理されている」（23.0%）が2割を超えて続く。（図表1-25）

【地域別】

地域別にみると、「（ア）鉄道網・道路網・港湾の整備が進められ、交通及び物流の利便性が高まっている」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（55.6%）が5割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“海匝地域”（55.3%）が5割台半ば、“安房地域”（46.9%）が4割台半ば、“香取地域”（41.7%）が4割を超え、“印旛地域”（31.5%）が3割を超えて高くなっている。

「（イ）成田国際空港の機能の拡充や県内外から成田国際空港への交通アクセスの充実により、利便性が向上している」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（54.8%）が5割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“海匝地域”（42.1%）が4割を超えて高くなっている。

「（ウ）道路・河川・港湾・上下水道などの社会インフラが、計画的な改修により、適切に維持管理されている」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（40.6%）が4割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“海匝地域”（39.5%）が約4割で高くなっている。

「（エ）バリアフリー設備の整備促進などにより、誰もが安心して、快適に暮らすことのできる環境が整っている」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（21.4%）が2割を超えて高くなっている。

（図表 1－26）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「（ア）鉄道網・道路網・港湾の整備が進められ、交通及び物流の利便性が高まっている」の『そう思わない（計）』は男性の20代（36.2%）が3割台半ばで高くなっている。

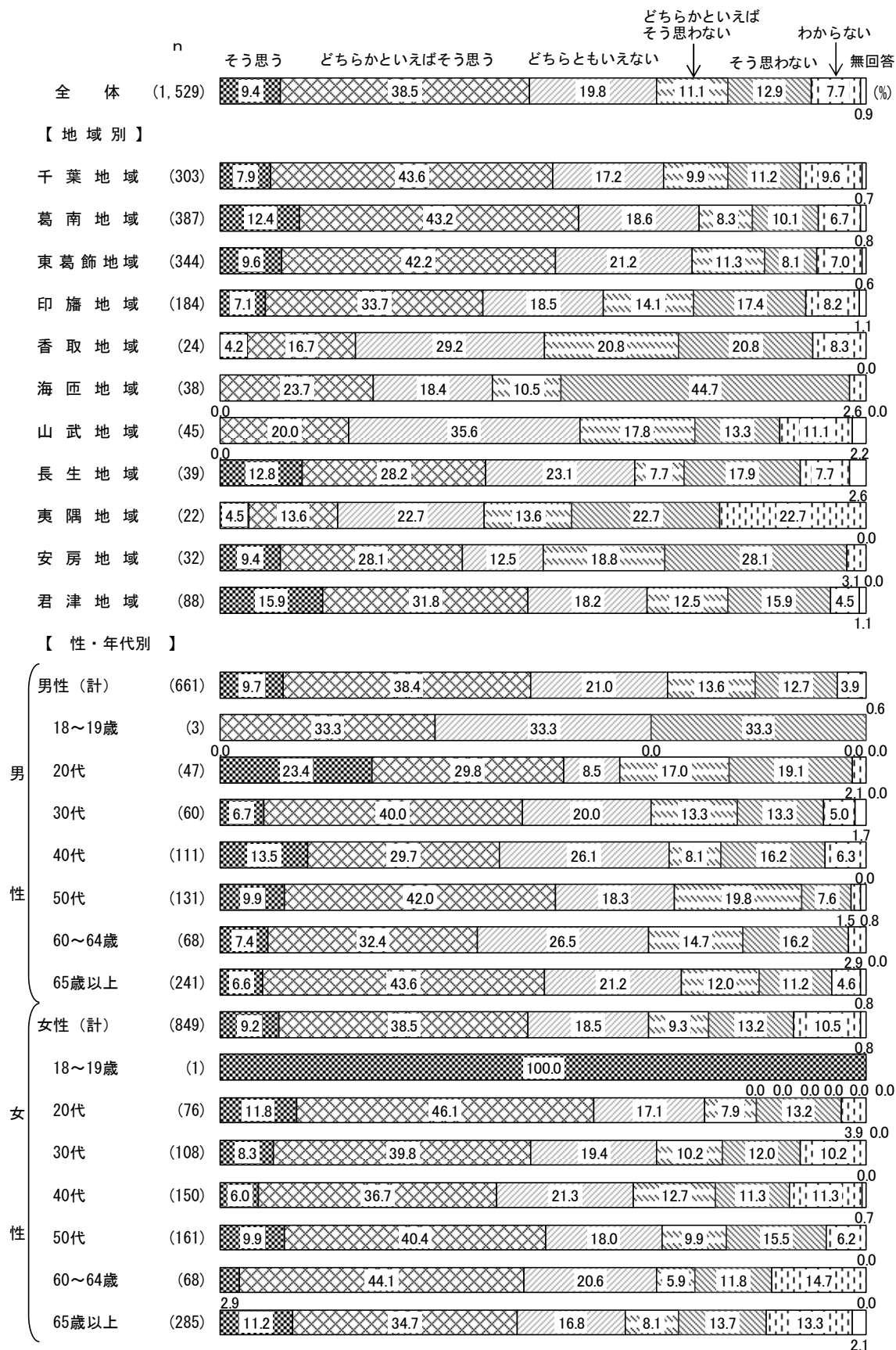
「（イ）成田国際空港の機能の拡充や県内外から成田国際空港への交通アクセスの充実により、利便性が向上している」の『そう思う（計）』は女性の20代（63.2%）が6割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（29.4%）が約3割、男性の50代（26.7%）が2割台半ばで高くなっている。

「（エ）バリアフリー設備の整備促進などにより、誰もが安心して、快適に暮らすことのできる環境が整っている」の『そう思う（計）』は男性の20代（38.3%）が約4割、女性の20代（35.5%）が3割台半ばで高くなっている。（図表 1－26）

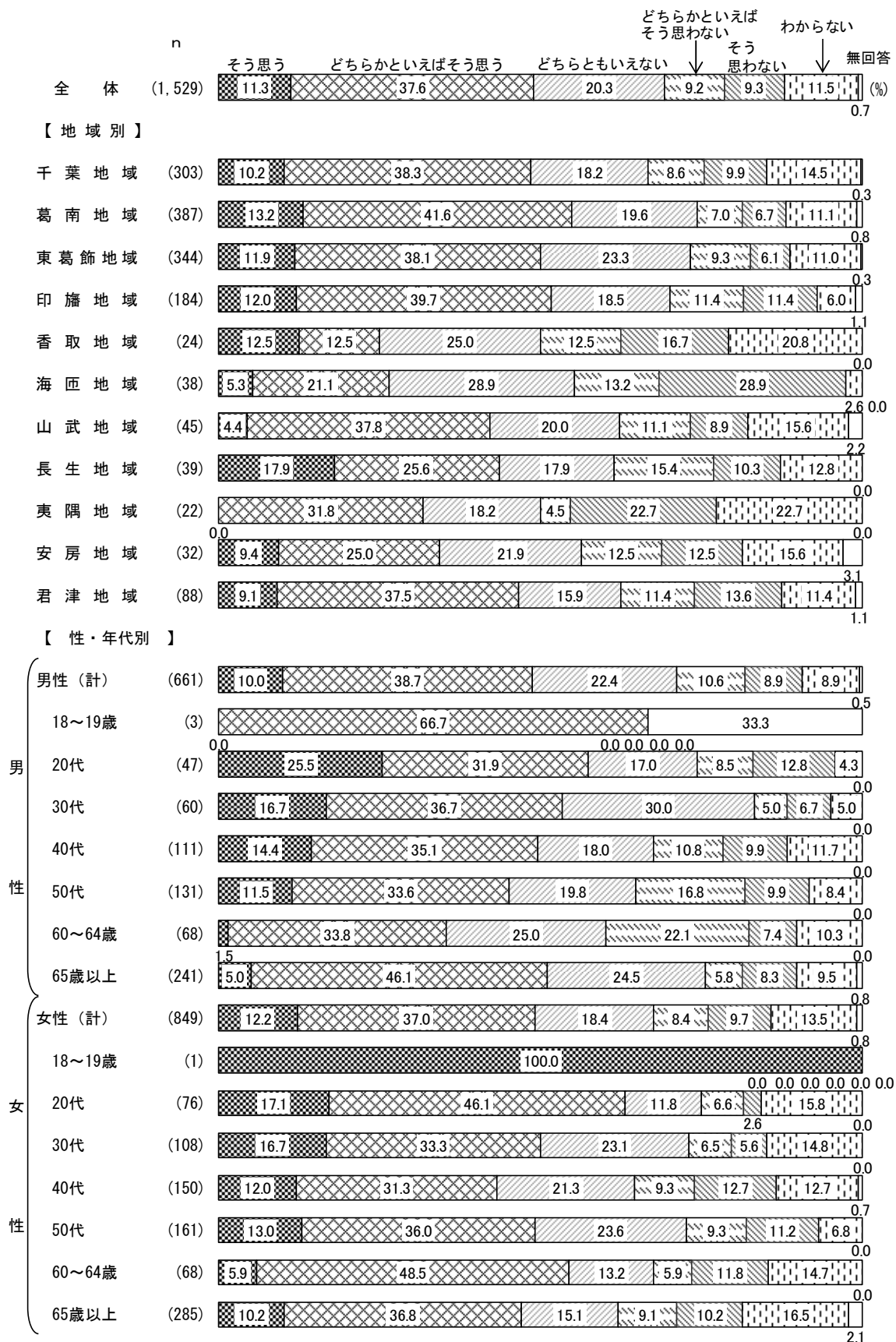
<図表1-26-1>県の基盤づくりに関する意識／地域別、性・年代別

(ア) 鉄道網・道路網・港湾の整備が進められ、交通及び物流の利便性が高まっている



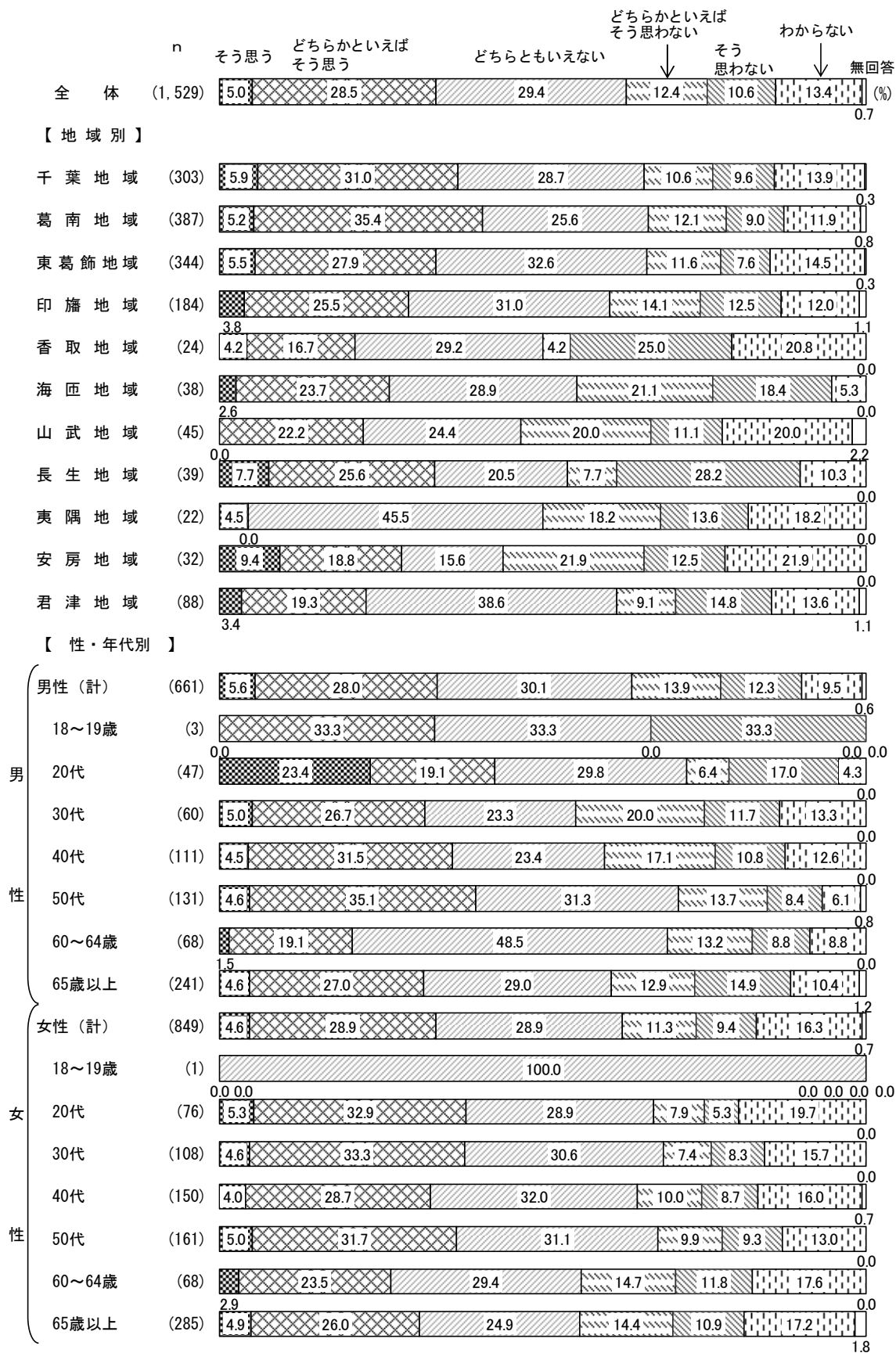
＜図表 1-26-2＞県の基盤づくりに関する意識／地域別、性・年代別

(イ) 成田国際空港の機能の拡充や県内外から成田国際空港への交通アクセスの充実により、利便性が向上している



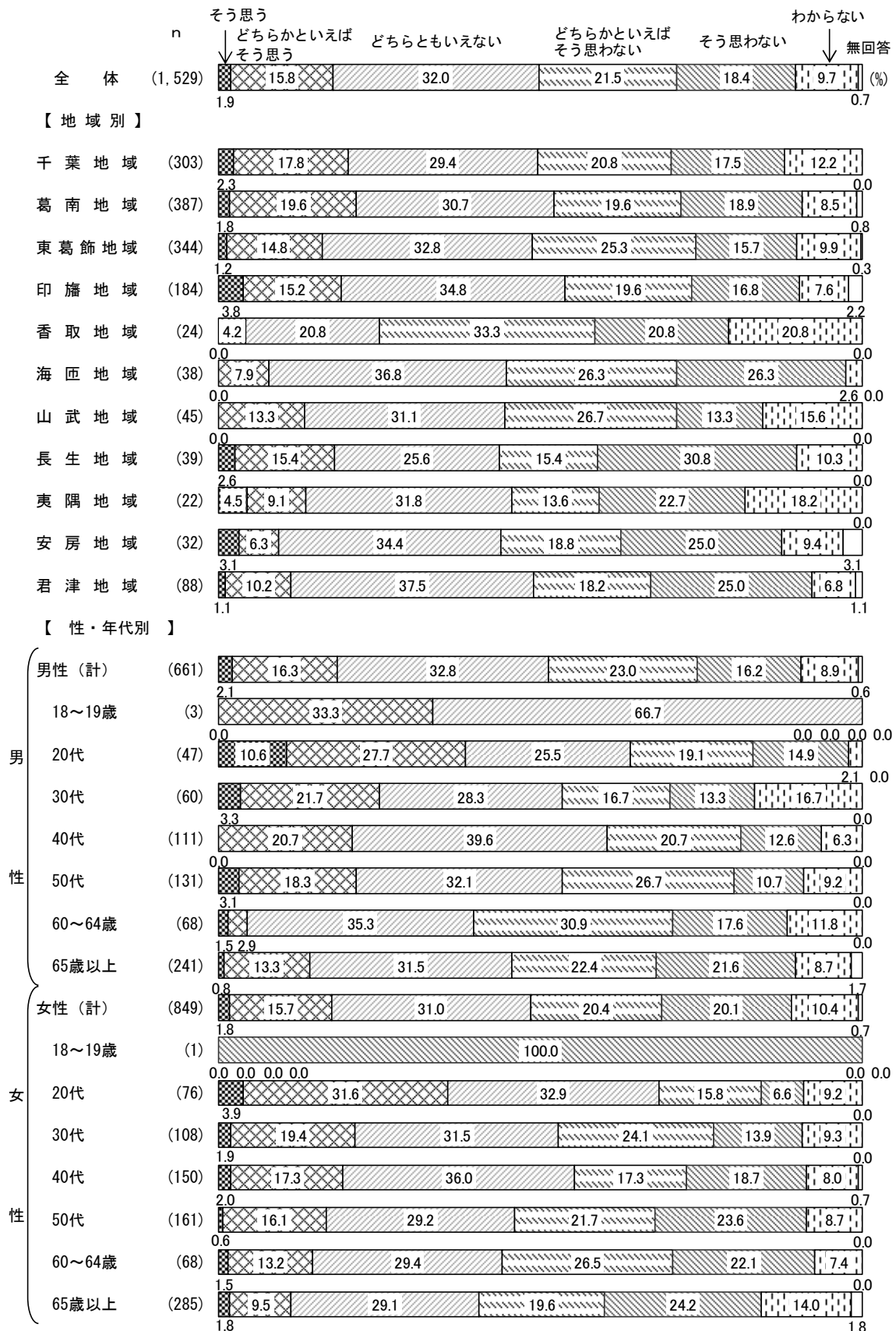
＜図表1-26-3＞県の基盤づくりに関する意識／地域別、性・年代別

（ウ）道路・河川・港湾・上下水道などの社会インフラが、計画的な改修により、適切に維持管理されている



＜図表 1-26-4＞県の基盤づくりに関する意識／地域別、性・年代別

（エ）バリアフリー設備の整備促進などにより、誰もが安心して、快適に暮らすことのできる環境が整っている



（14）情報通信技術（ICT）に関する意識

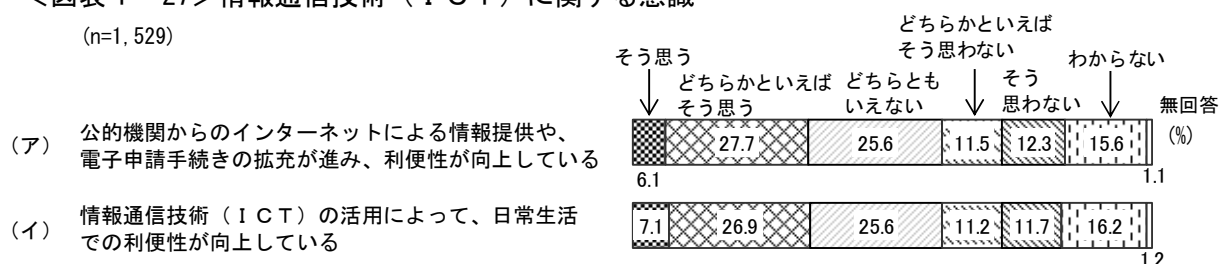
◇『そう思う（計）』で「公的機関からのインターネットによる情報提供や、電子申請手続きの拡充が進み、利便性が向上している」「情報通信技術（ICT）の活用によって、日常生活での利便性が向上している」がともに3割台半ば

問14 あなたは、情報通信技術（ICT）に関する次の項目についてどう思いますか。

（○はそれぞれ1つ）

＜図表1-27＞情報通信技術（ICT）に関する意識

（n=1,529）



情報通信技術（ICT）に関する2個の項目について、それぞれの意識を聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』は、「（ア）公的機関からのインターネットによる情報提供や、電子申請手続きの拡充が進み、利便性が向上している」（33.9%）と「（イ）情報通信技術（ICT）の活用によって、日常生活での利便性が向上している」（33.9%）ともに3割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』は、「（ア）公的機関からのインターネットによる情報提供や、電子申請手続きの拡充が進み、利便性が向上している」（23.8%）が2割台半ば、「（イ）情報通信技術（ICT）の活用によって、日常生活での利便性が向上している」（23.0%）が2割を超えている。（図表1-27）

【地域別】

地域別にみると、「（ア）公的機関からのインターネットによる情報提供や、電子申請手続きの拡充が進み、利便性が向上している」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（39.3%）が約4割で高くなっている。

「（イ）情報通信技術（I C T）の活用によって、日常生活での利便性が向上している」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（40.1%）が4割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“長生地域”（38.5%）が約4割、“海匠地域”（36.8%）が3割台半ば、“君津地域”（31.8%）が3割を超えて高くなっている。

（図表 1－28）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「（ア）公的機関からのインターネットによる情報提供や、電子申請手続きの拡充が進み、利便性が向上している」の『そう思う（計）』は男性の20代（51.1%）と女性の20代（51.3%）が5割を超え、男性の30代（48.3%）と女性の30代（48.1%）が約5割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（33.8%）が3割台半ば、男性の40代（32.4%）が3割を超えて高くなっている。

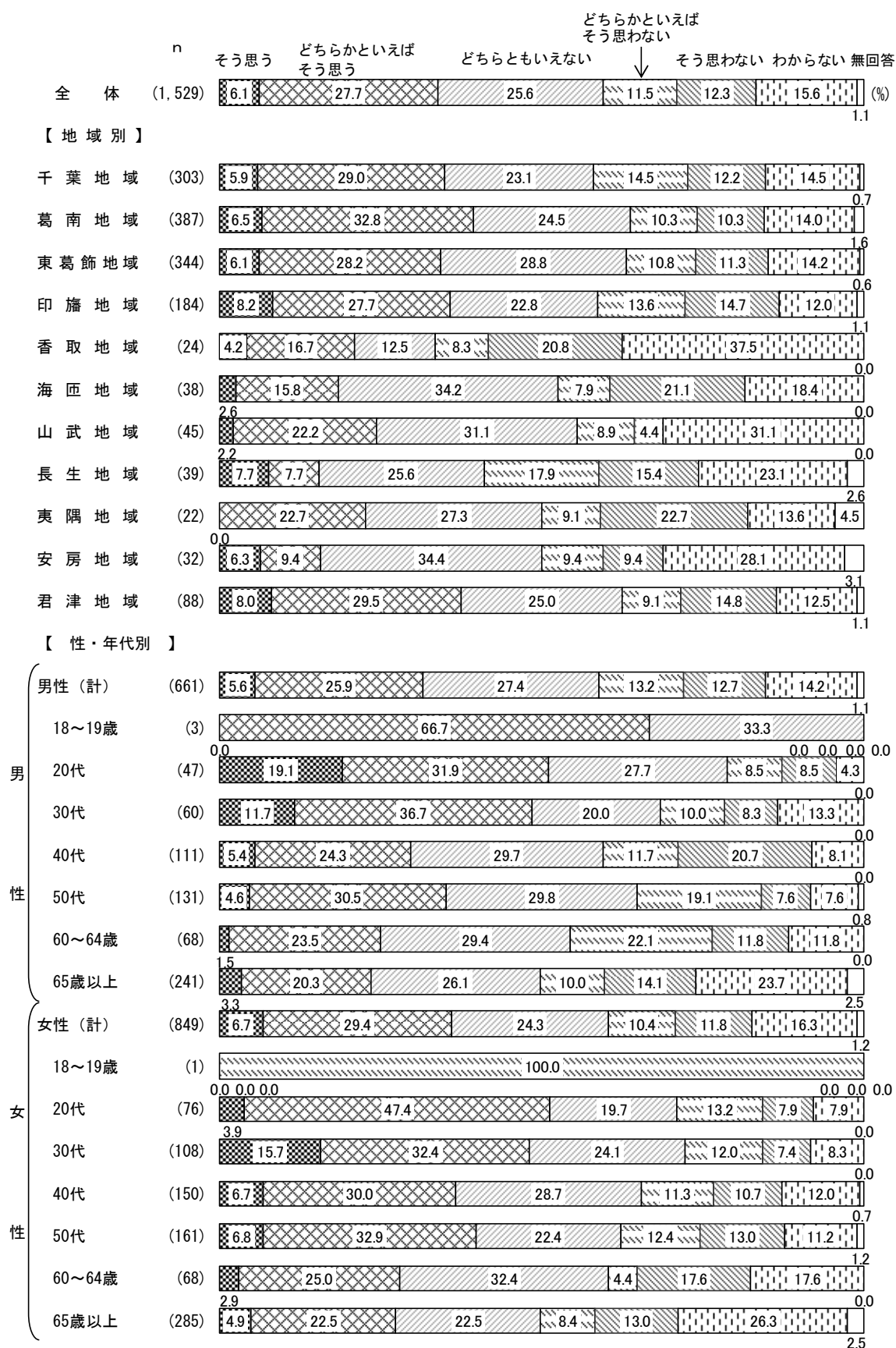
「（イ）情報通信技術（I C T）の活用によって、日常生活での利便性が向上している」の『そう思う（計）』は男性の20代（55.3%）が5割台半ば、女性の20代（52.6%）が5割を超え、女性の30代（45.4%）が4割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の40代（30.6%）が3割で高くなっている。

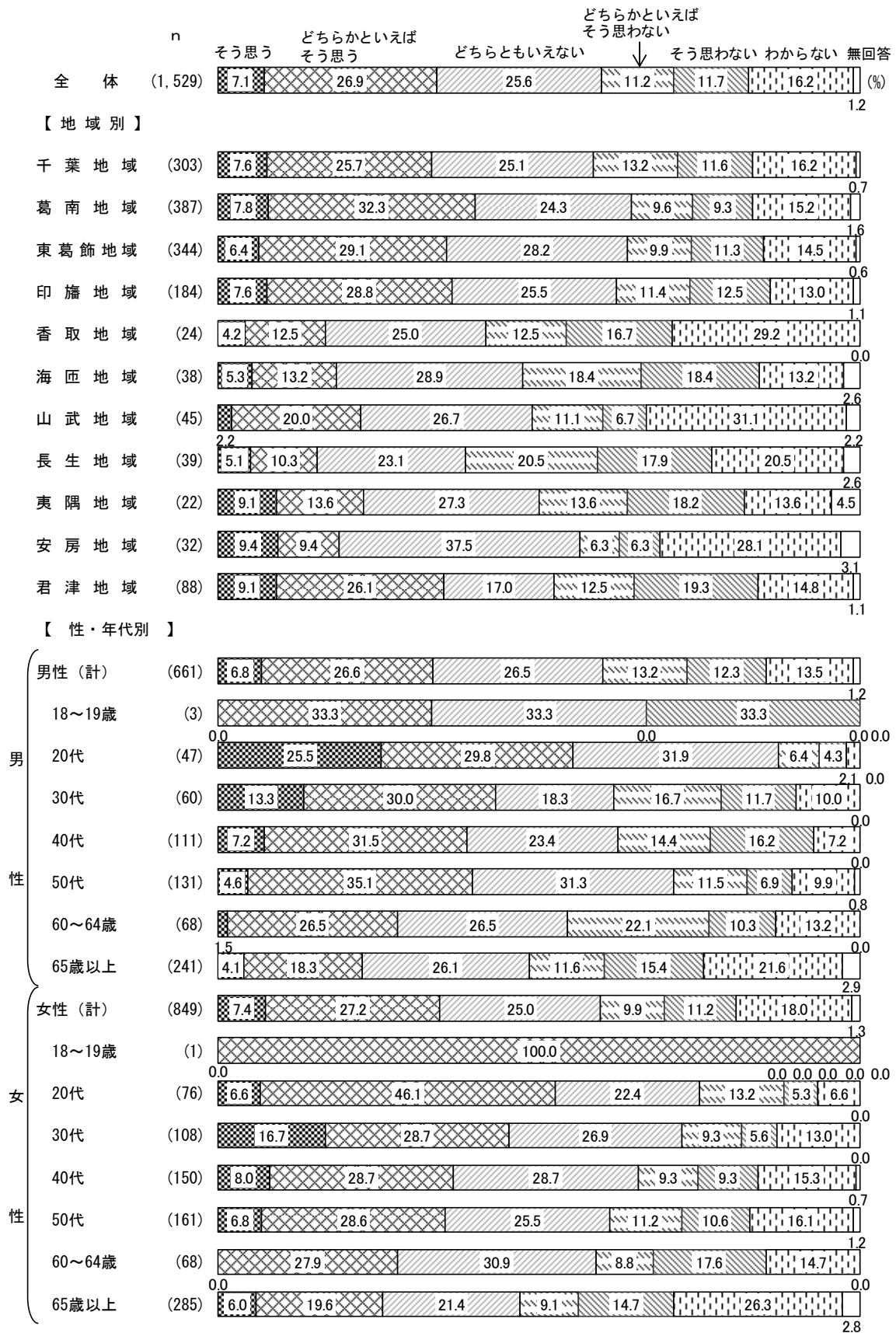
（図表 1－28）

<図表1-28-1>情報通信技術（ICT）に関する意識／地域別、性・年代別

（ア）公的機関からのインターネットによる情報提供や、電子申請手続きの拡充が進み、利便性が向上している



＜図表 1－28－2＞情報通信技術（ＩＣＴ）に関する意識／地域別、性・年代別
 （イ）情報通信技術（ＩＣＴ）の活用によって、日常生活での利便性が向上している

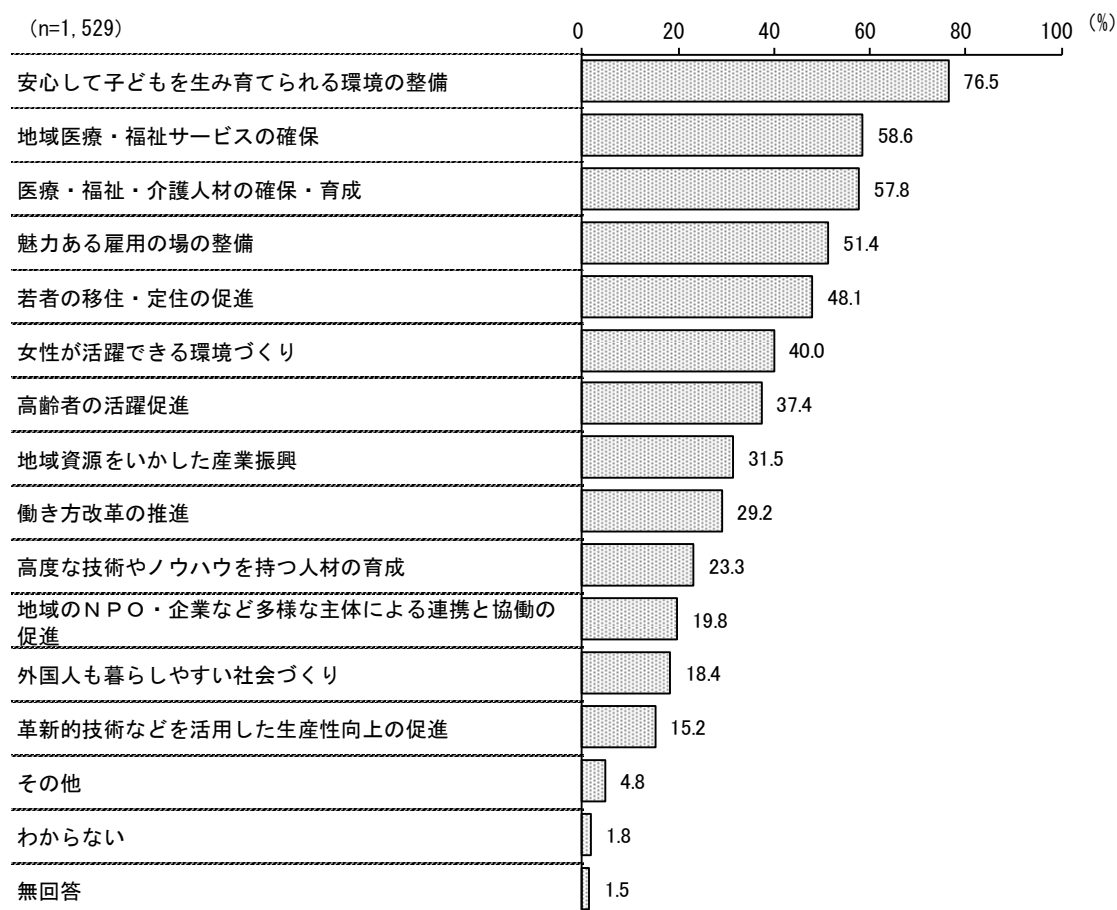


（15）人口減少の対策として県で必要な取組

◇「安心して子どもを生み育てられる環境の整備」が７割台半ば

問15 千葉県の人口は、出生数の減少や死亡数の増加などにより減少傾向にあります。今後、人口減少が進行すると、高齢化の進展とあいまって、働き手の減少や経済規模の縮小など、経済社会に影響を与えることが懸念されています。そうした中で、これからの千葉県はどのような取組が必要と考えますか。（〇はいくつでも）

<図表 1－29>人口減少の対策として県で必要な取組



人口減少の対策として県で必要な取組を聞いたところ、「安心して子どもを生み育てられる環境の整備」（76.5%）が７割台半ばで最も高く、以下、「地域医療・福祉サービスの確保」（58.6%）、「医療・福祉・介護人材の確保・育成」（57.8%）、「魅力ある雇用の場の整備」（51.4%）と続く。

（図表 1－29）

【地域別】

地域別にみると、「安心して子どもを生み育てられる環境の整備」は“東葛飾地域”（81.4%）が８割を超えて高くなっている。

「地域医療・福祉サービスの確保」は“香取地域”（79.2%）が約８割で高くなっている。

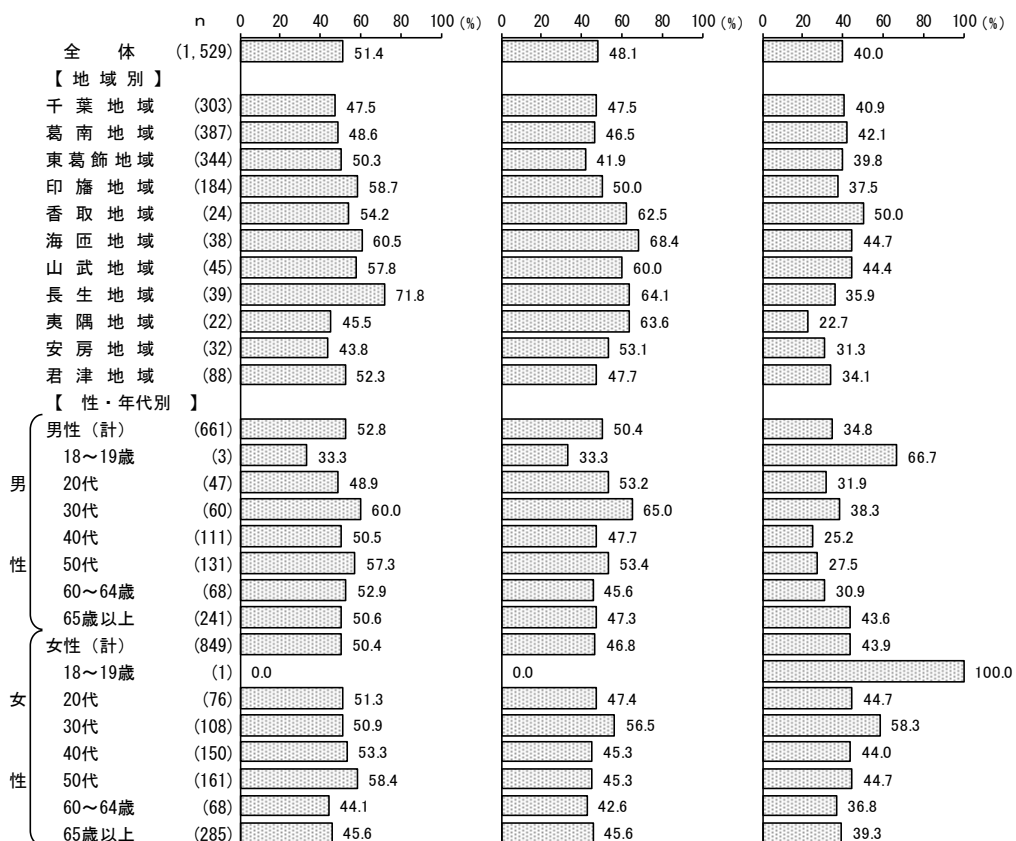
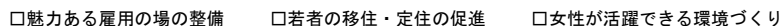
「魅力ある雇用の場の整備」は“長生地域”（71.8%）が７割を超え、“印旛地域”（58.7%）が約６割で高くなっている。（図表 1－30）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「安心して子どもを生み育てられる環境の整備」は女性の20代（88.2%）が約9割、女性の30代（86.1%）が8割台半ばで高くなっている。

「地域医療・福祉サービスの確保」は女性の60～64歳（79.4%）が約8割、女性の65歳以上（67.0%）が約7割で高くなっている。

「医療・福祉・介護人材の確保・育成」は女性の60～64歳（77.9%）が約8割、女性の65歳以上（65.6%）が6割台半ばで高くなっている。（図表1－30）



このほかに、県が今後力を入れていくべき分野や取組について、ご意見があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、385人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「県政全般に関する意識調査」の自由回答（抜粋）

○withコロナを念頭に入れた新しい生活様式の模範を行政が先頭に立ち示していただきたいです。また、行政にだけ頼るのではなく、千葉県民として自分たちの今後を守るために色々協力できることがあればぜひ発信いただき、協力を求めていると思います。

（男性、30代、山武地域）

○多様性の尊重は地域のPRになるとともに人口の増加にも多少なりとも寄与するのではないのでしょうか。

（男性、20代、印旛地域）

○行政からの情報をスマートフォンなどから得る機会が増えているが、高齢者などのデジタル機器の操作に慣れていない方々にも分かりやすい操作方法の周知、共有に力を入れていくべきだと思う。

（女性、20代、印旛地域）

○千葉県にも技術特区など新技術を体験出来るような場所を確保し小学生から身近に触れられる環境をつくってほしい。ソフト面やハード面の双方からアプローチ出来るような人材の育成に力をいれてほしい。

（男性、40代、東葛飾地域）

○チーパスなどで子供に支援を行なっているなら学生にもなにか支援をあげて欲しい。チーパスのような学割が受けられるカードを配布するなどもう少し学生に支援をいろんな形でしてあげて欲しい。

（女性、20代、印旛地域）

○子育て世代を支援して行かないと今後高齢化が進み、ますます少子化が進みます。子育てしている働き世代の家庭に対し、県からの支援が必要だと思います。

（女性、30代、葛南地域）

○コロナで不安定になった経済・雇用の持ち直し。

（男性、30代、東葛飾地域）

○高齢者が安心してコミュニケーションがとれる場所があれば嬉しい。

（女性、65歳以上、東葛飾地域）

○過疎地域での病院、医療の充実。高齢者が免許返納後に困らない環境作り。

（女性、60～64歳、夷隅地域）

○災害被害への早期対応の実施。低価格老人ホームの増設。

（女性、65歳以上、印旛地域）

２ 災害時における県民の備えや意識について

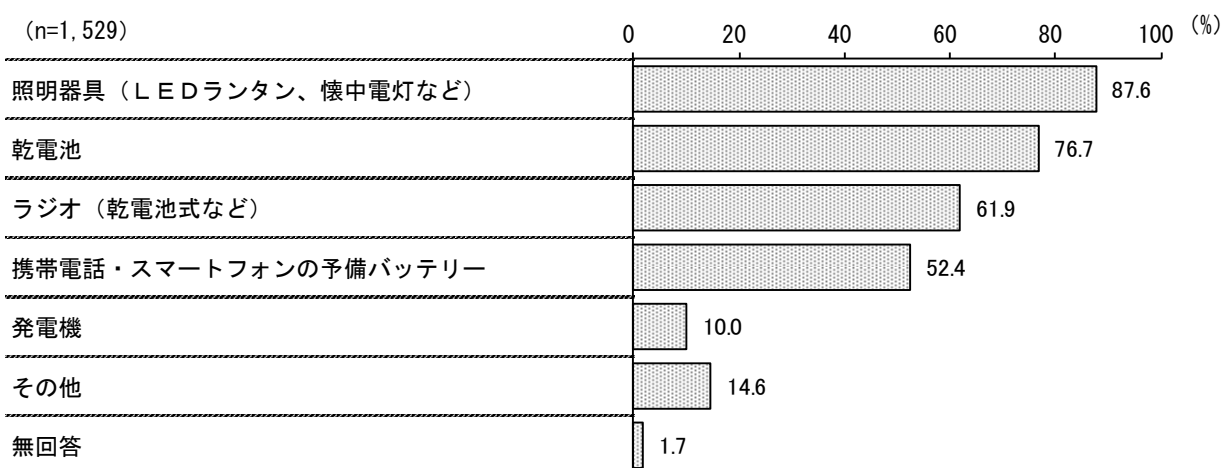
（１）災害時の停電に備えた準備

◇「照明器具（ＬＥＤランタン、懐中電灯など）」が約９割

県では、令和元年房総半島台風（台風１５号）をはじめとする一連の災害対応への検証を踏まえ、さまざまな防災対策に取り組んでいます。今後の取組推進の参考とするため、皆さまの意識をお聞きいたします。

問16 災害時の停電に備えて準備しているものはありますか。（○はいくつでも）

＜図表２－１＞災害時の停電に備えた準備



災害時の停電に備えて準備しているものを聞いたところ、「照明器具（ＬＥＤランタン、懐中電灯など）」(87.6%)が約９割で最も高く、以下、「乾電池」(76.7%)、「ラジオ(乾電池式など)」(61.9%)、「携帯電話・スマートフォンの予備バッテリー」(52.4%)が続く。(図表２－１)

【地域別】

地域別にみると、「照明器具（ＬＥＤランタン、懐中電灯など）」は“千葉地域” (91.1%) が９割を超えて高くなっている。

「発電機」は“安房地域” (31.3%) が３割を超えて高くなっている。(図表２－２)

【性・年代別】

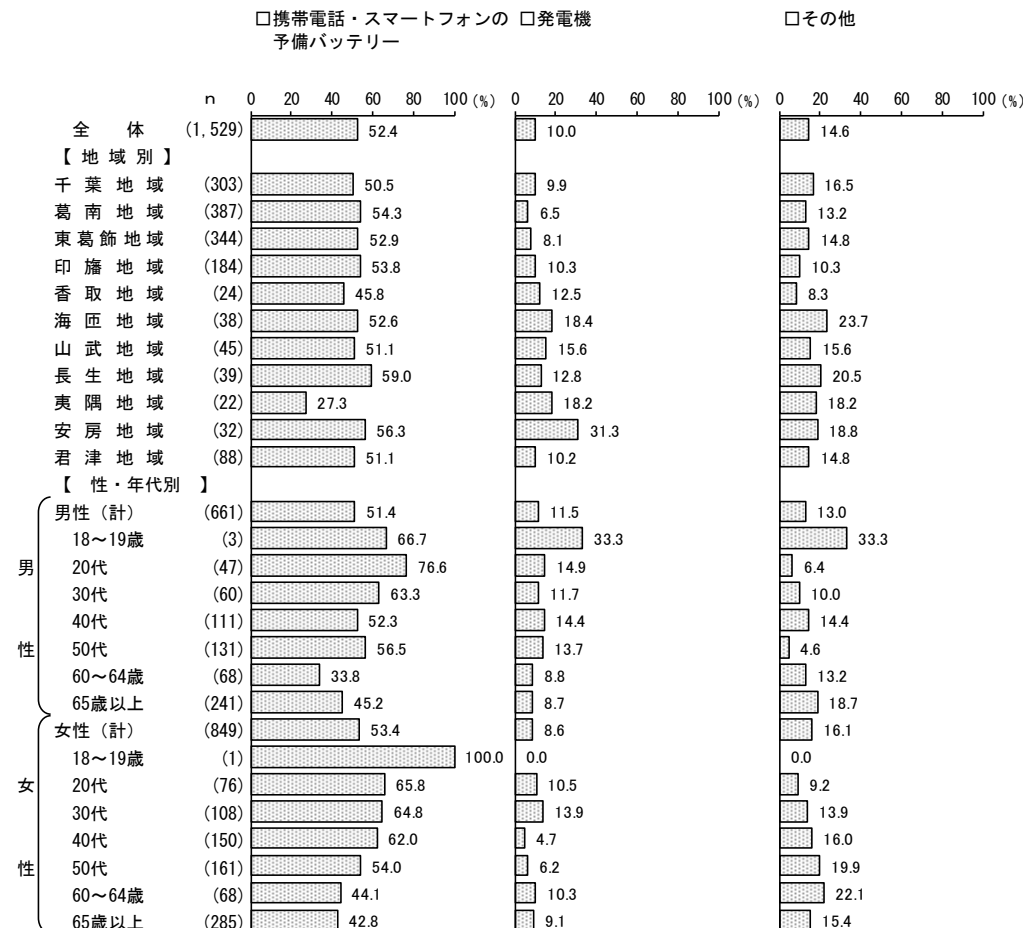
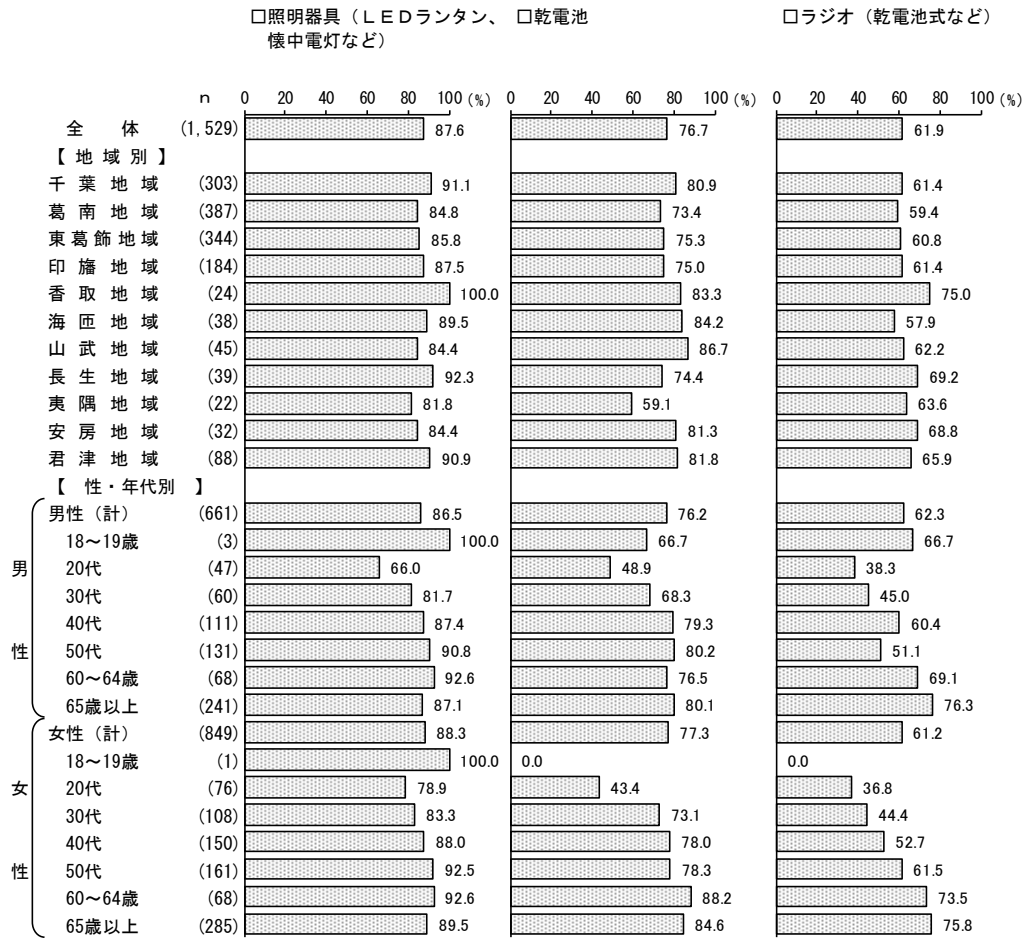
性・年代別にみると、「照明器具（ＬＥＤランタン、懐中電灯など）」は女性の50代 (92.5%) が９割を超えて高くなっている。

「乾電池」は女性の60～64歳 (88.2%) が約９割、女性の65歳以上 (84.6%) が８割台半ばで高くなっている。

「ラジオ（乾電池式など）」は男性の65歳以上 (76.3%)、女性の65歳以上 (75.8%)、女性の60～64歳 (73.5%) が７割台半ばで高くなっている。

「携帯電話・スマートフォンの予備バッテリー」は男性の20代 (76.6%) が７割台半ば、女性の20代 (65.8%) と女性の30代 (64.8%) が６割台半ば、女性の40代 (62.0%) が６割を超えて高くなっている。(図表２－２)

<図表 2-2>災害時の停電に備えた準備／地域別、性・年代別

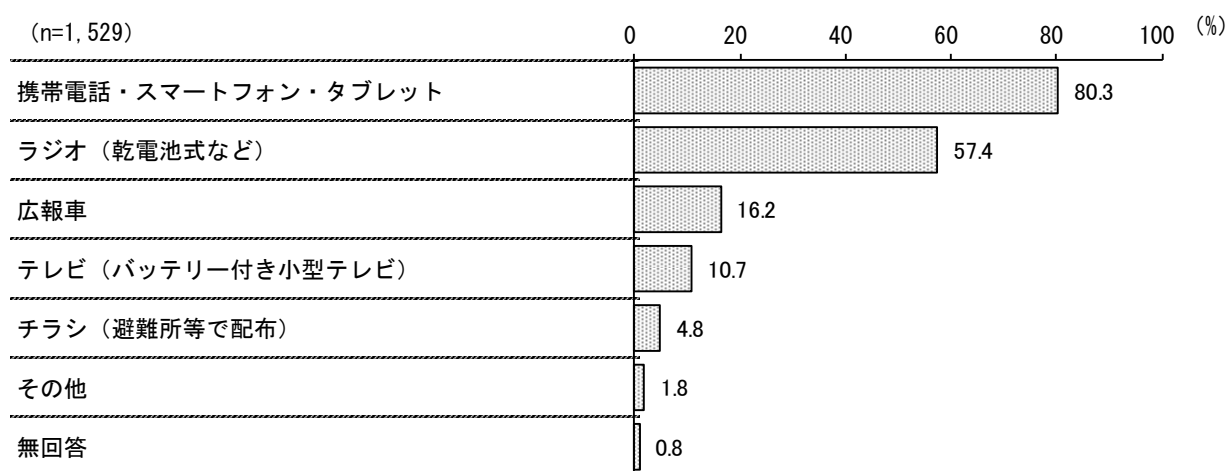


（２）停電時の情報入手手段

◇「携帯電話・スマートフォン・タブレット」が８割

問17 停電時の情報の入手手段として主に何を利用すると考えていますか。（○は２つまで）

＜図表２－３＞停電時の情報入手手段



停電時の情報の入手手段を聞いたところ、「携帯電話・スマートフォン・タブレット」（80.3%）が８割で最も高く、以下、「ラジオ（乾電池式など）」（57.4%）、「広報車」（16.2%）が続く。

（図表２－３）

【地域別】

地域別にみると、「携帯電話・スマートフォン・タブレット」は“東葛飾地域”（86.3%）が８割台半ばで高くなっている。（図表２－４）

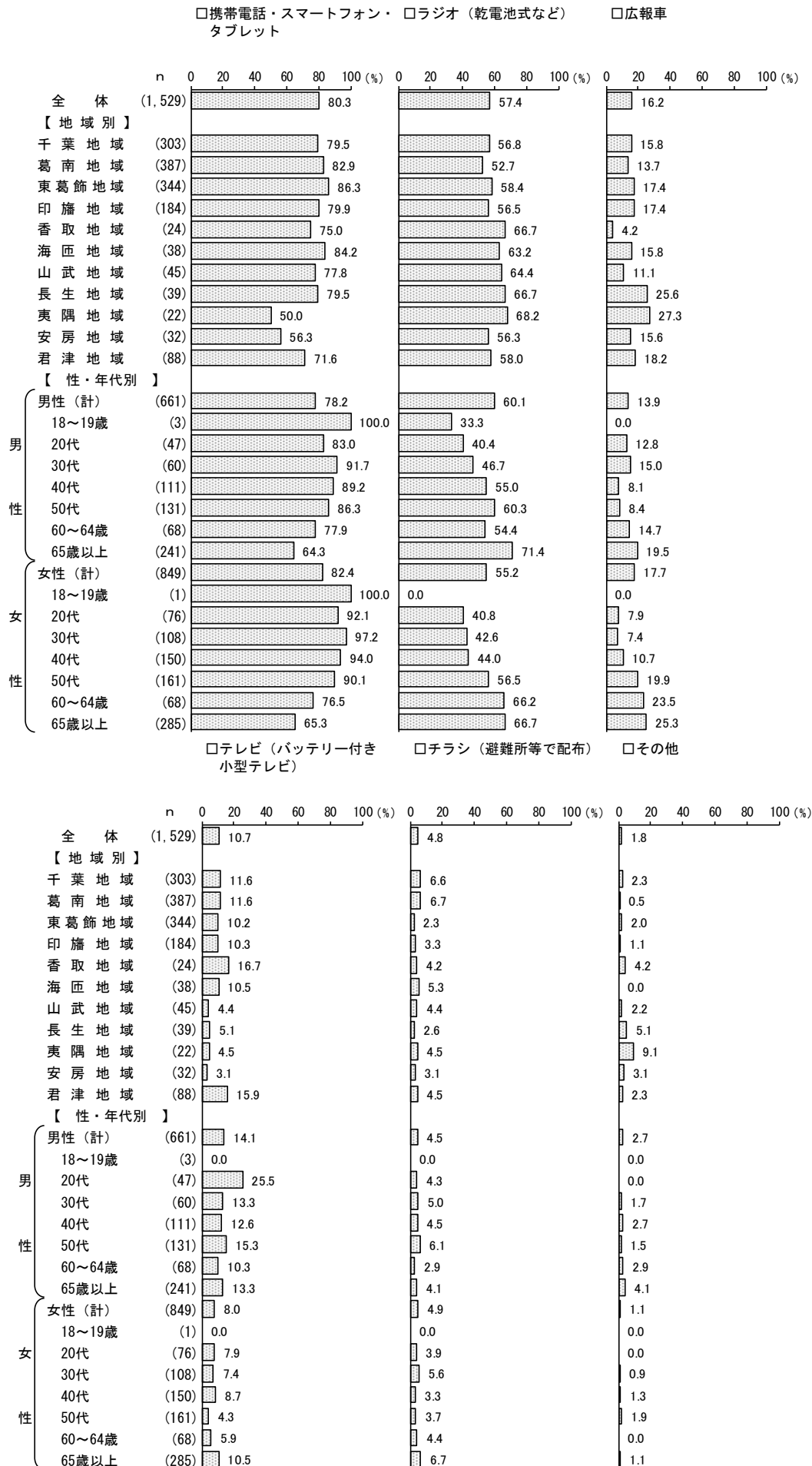
【性・年代別】

性・年代別にみると、「携帯電話・スマートフォン・タブレット」は女性の30代（97.2%）が約10割、女性の40代（94.0%）が９割台半ば、女性の20代（92.1%）と男性の30代（91.7%）が９割を超え、女性の50代（90.1%）が９割、男性の40代（89.2%）が約９割で高くなっている。

「ラジオ（乾電池式など）」は男性の65歳以上（71.4%）が７割を超え、女性の65歳以上（66.7%）が６割台半ばで高くなっている。

「広報車」は女性の65歳以上（25.3%）が２割台半ばで高くなっている。（図表２－４）

<図表 2-4> 停電時の情報入手手段／地域別、性・年代別



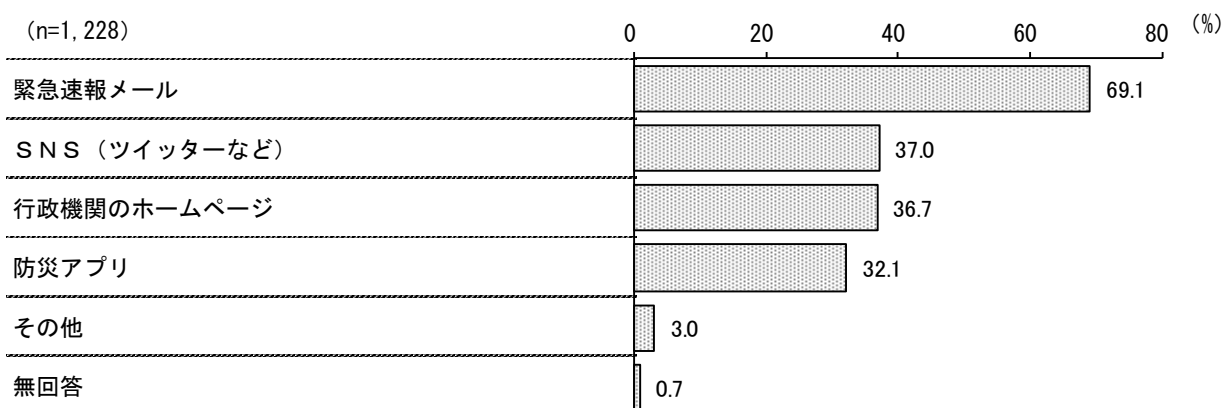
（２－１）携帯電話・スマートフォン・タブレットでの主な情報の入手手段

◇「緊急速報メール」が約７割

（問17で「携帯電話・スマートフォン・タブレット」をお答えの方に）

問17-1 主な情報の入手手段・入手先は何ですか。（○は２つまで）

＜図表２－５＞携帯電話・スマートフォン・タブレットでの主な情報の入手手段



停電時の情報入手手段で「携帯電話・スマートフォン・タブレット」と回答された方に、主な情報の入手手段・入手先を聞いたところ、「緊急速報メール」（69.1％）が約７割で最も高く、以下、「SNS（ツイッターなど）」（37.0％）、「行政機関のホームページ」（36.7％）、「防災アプリ」（32.1％）が続く。（図表２－５）

【地域別】

地域別にみると、「防災アプリ」は“海匠地域”（50.0％）が５割で高くなっている。

（図表２－６）

【性・年代別】

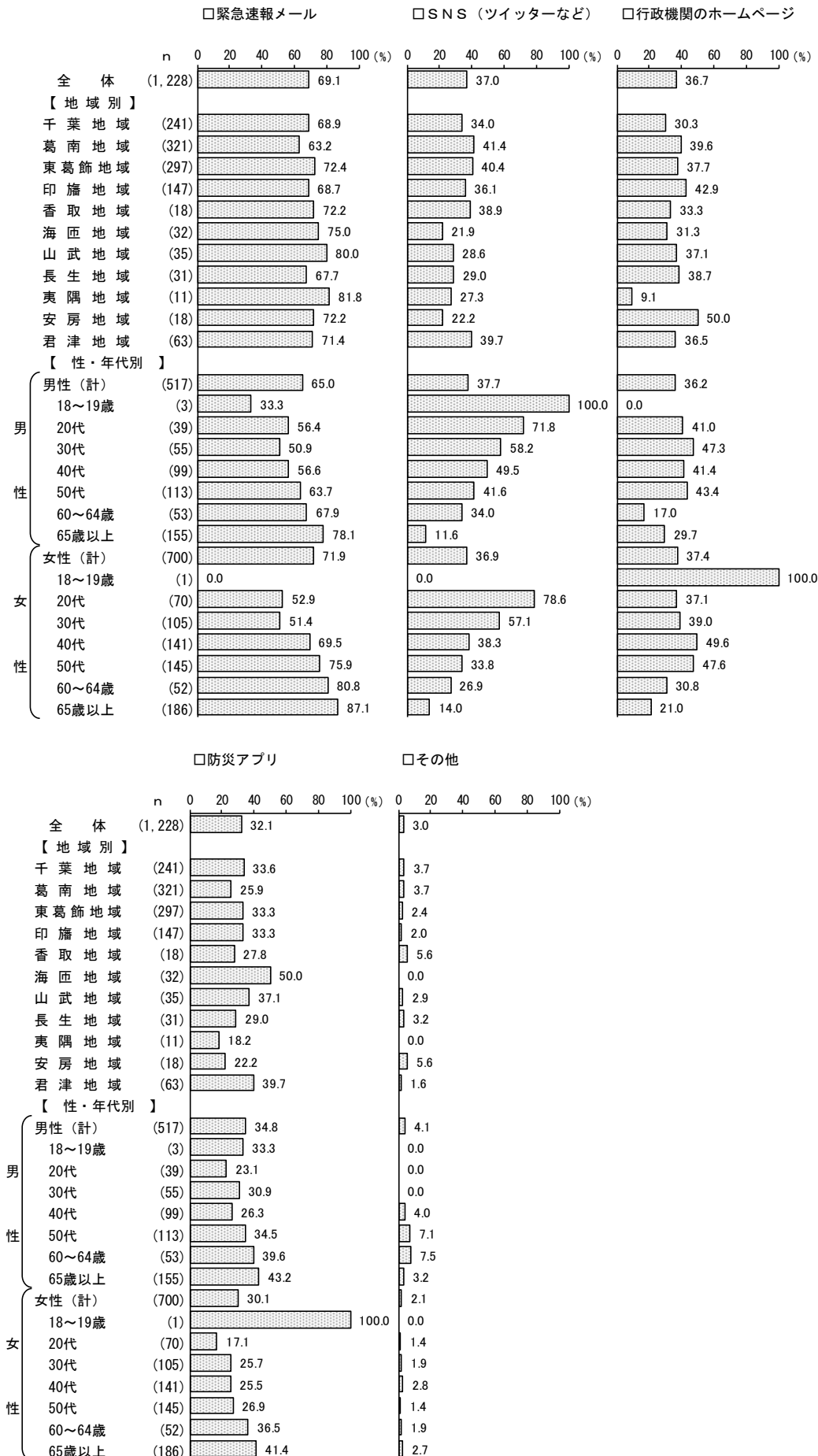
性・年代別にみると、「緊急速報メール」は女性の65歳以上（87.1％）が約９割、男性の65歳以上（78.1％）が約８割で高くなっている。

「SNS（ツイッターなど）」は女性の20代（78.6％）が約８割、男性の20代（71.8％）が７割を超え、男性の30代（58.2％）と女性の30代（57.1％）が約６割、男性の40代（49.5％）が約５割で高くなっている。

「行政機関のホームページ」は女性の40代（49.6％）と女性の50代（47.6％）が約５割で高くなっている。

「防災アプリ」は男性の65歳以上（43.2％）と女性の65歳以上（41.4％）が４割を超えて高くなっている。（図表２－６）

＜図表２－６＞携帯電話・スマートフォン・タブレットでの主な情報の入手手段／地域別、性・年代別

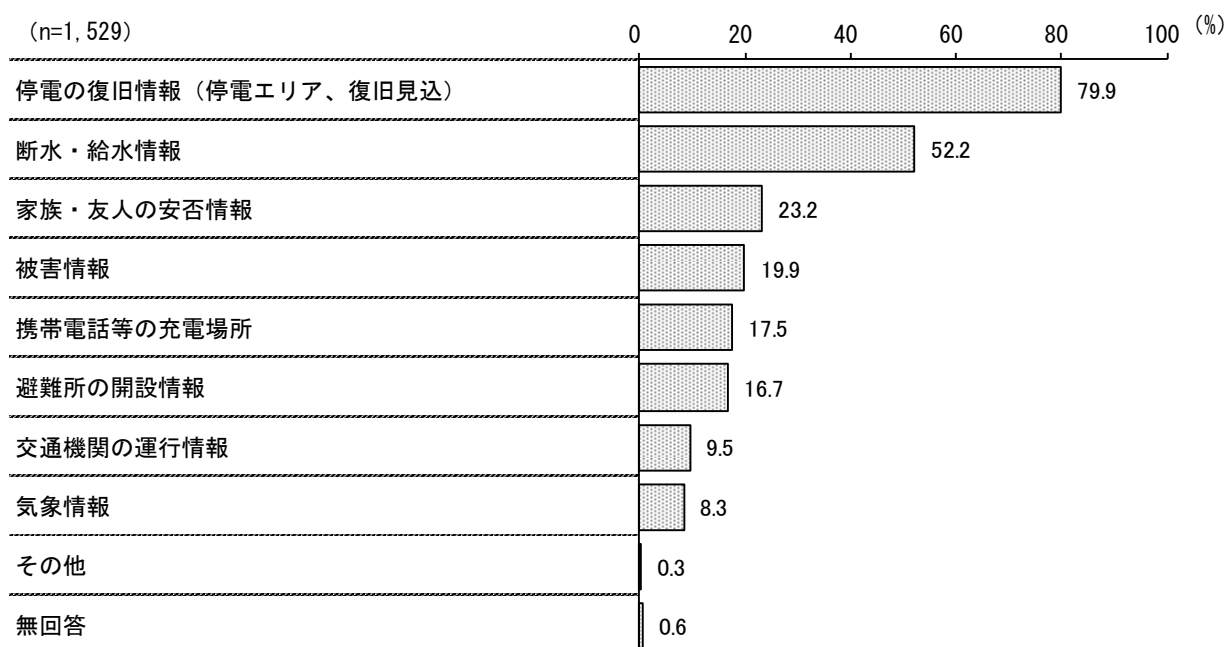


（３）停電時に必要な情報

◇「停電の復旧情報（停電エリア、復旧見込）」が約８割

問18 停電時に特に必要な情報は何ですか。（○は２つまで）

<図表２－７>停電時に必要な情報



停電時に必要な情報を聞いたところ、「停電の復旧情報（停電エリア、復旧見込）」（79.9%）が約８割で最も高く、以下、「断水・給水情報」（52.2%）、「家族・友人の安否情報」（23.2%）、「被害情報」（19.9%）が続く。（図表２－７）

【地域別】

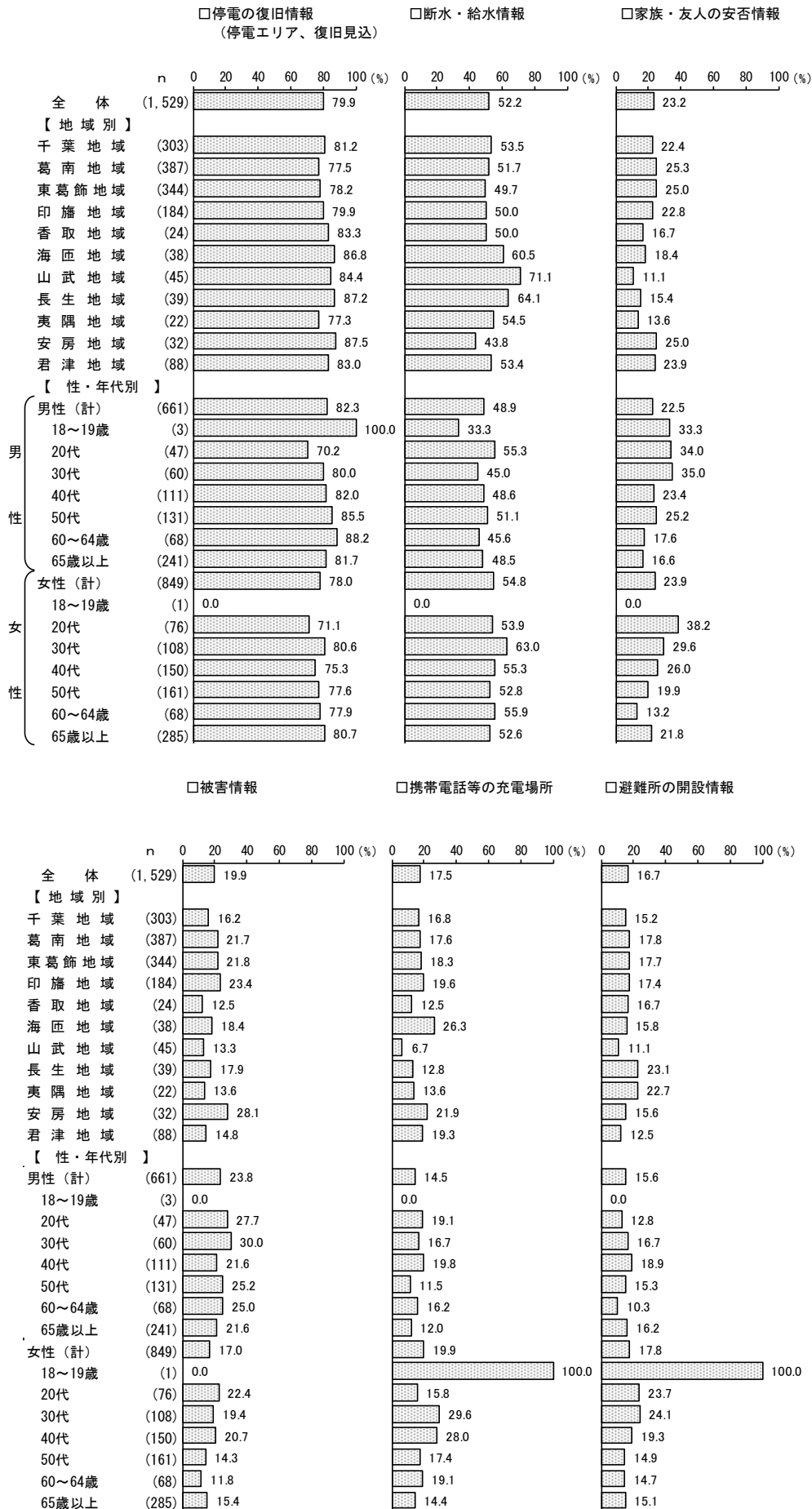
地域別にみると、「断水・給水情報」は“山武地域”（71.1%）が７割を超えて高くなっている。
（図表２－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「断水・給水情報」は女性の30代（63.0%）が６割を超えて高くなっている。

「家族・友人の安否情報」は女性の20代（38.2%）が約４割、男性の30代（35.0%）が３割台半ばで高くなっている。（図表２－８）

＜図表２－８＞停電時に必要な情報／地域別、性・年代別

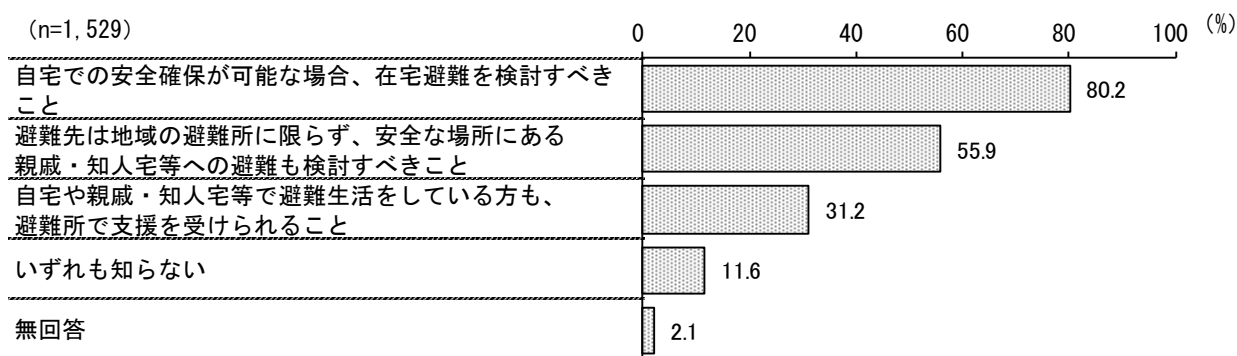


（４）災害時の避難方法の認知状況

◇「自宅での安全確保が可能な場合、在宅避難を検討すべきこと」が８割

問19 災害時の避難に関して、以下の事項を知っていますか。（○はいくつでも）

<図表２－９>災害時の避難方法の認知状況



災害時の避難方法の認知状況について聞いたところ、「自宅での安全確保が可能な場合、在宅避難を検討すべきこと」（80.2%）が８割で最も高く、以下、「避難先は地域の避難所に限らず、安全な場所にある親戚・知人宅等への避難も検討すべきこと」（55.9%）、「自宅や親戚・知人宅等で避難生活をしている方も、避難所で支援を受けられること」（31.2%）が続く。

一方で、「いずれも知らない」（11.6%）は１割を超えている。（図表２－９）

【地域別】

地域別にみると、「避難先は地域の避難所に限らず、安全な場所にある親戚・知人宅等への避難も検討すべきこと」は“海匝地域”（73.7%）が７割台半ばで高くなっている。

一方で、「いずれも知らない」は“君津地域”（20.5%）が２割で高くなっている。

（図表２－10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「自宅での安全確保が可能な場合、在宅避難を検討すべきこと」は女性の60～64歳（89.7%）が約９割で高くなっている。

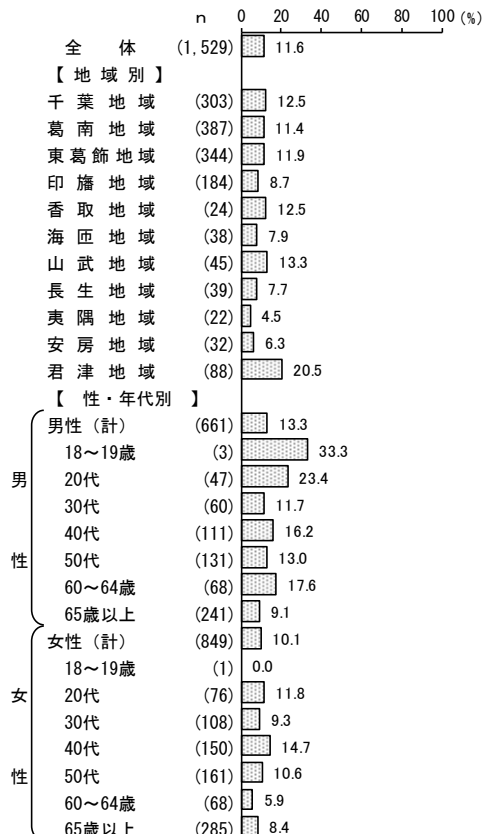
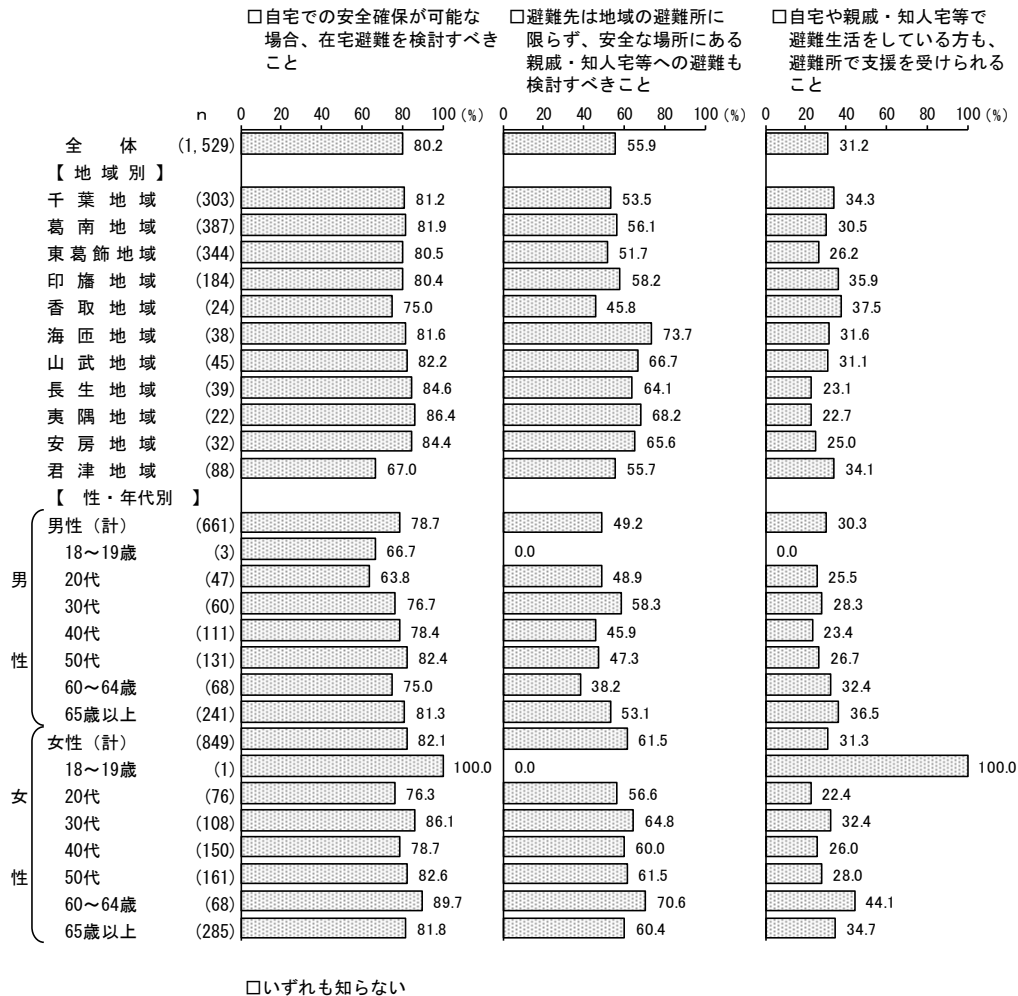
「避難先は地域の避難所に限らず、安全な場所にある親戚・知人宅等への避難も検討すべきこと」は女性の60～64歳（70.6%）が７割で高くなっている。

「自宅や親戚・知人宅等で避難生活をしている方も、避難所で支援を受けられること」は女性の60～64歳（44.1%）が４割台半ばで高くなっている。

一方で、「いずれも知らない」は男性の20代（23.4%）が２割を超えて高くなっている。

（図表２－10）

＜図表 2－10＞災害時の避難方法の認知状況／地域別、性・年代別

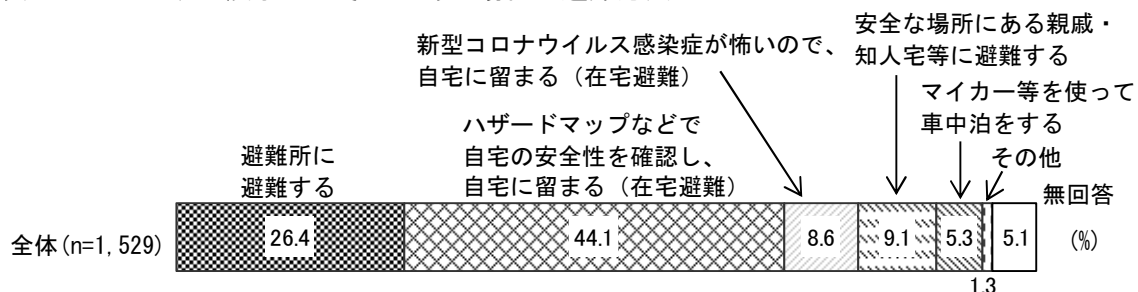


（５）地域に浸水のおそれがある場合の避難方法

◇「ハザードマップなどで自宅の安全性を確認し、自宅に留まる（在宅避難）」が４割台半ば

問20 お住まいの地域に浸水のおそれがある場合、どのように避難しますか。（○は１つ）

＜図表２－11＞地域に浸水のおそれがある場合の避難方法



地域に浸水のおそれがある場合の避難方法について聞いたところ、「ハザードマップなどで自宅の安全性を確認し、自宅に留まる（在宅避難）」（44.1%）が４割台半ばで最も高く、以下、「避難所に避難する」（26.4%）、「安全な場所にある親戚・知人宅等に避難する」（9.1%）が続く。

（図表２－11）

【地域別】

地域別にみると、「ハザードマップなどで自宅の安全性を確認し、自宅に留まる（在宅避難）」は“印旛地域”（52.2%）が５割を超え、“葛南地域”（48.6%）が約５割で高くなっている。

「避難所に避難する」は“夷隅地域”（50.0%）が５割、“東葛飾地域”（34.3%）が３割台半ばで高くなっている。

「安全な場所にある親戚・知人宅等に避難する」は“香取地域”（25.0%）が２割台半ば、“君津地域”（18.2%）が約２割で高くなっている。（図表２－12）

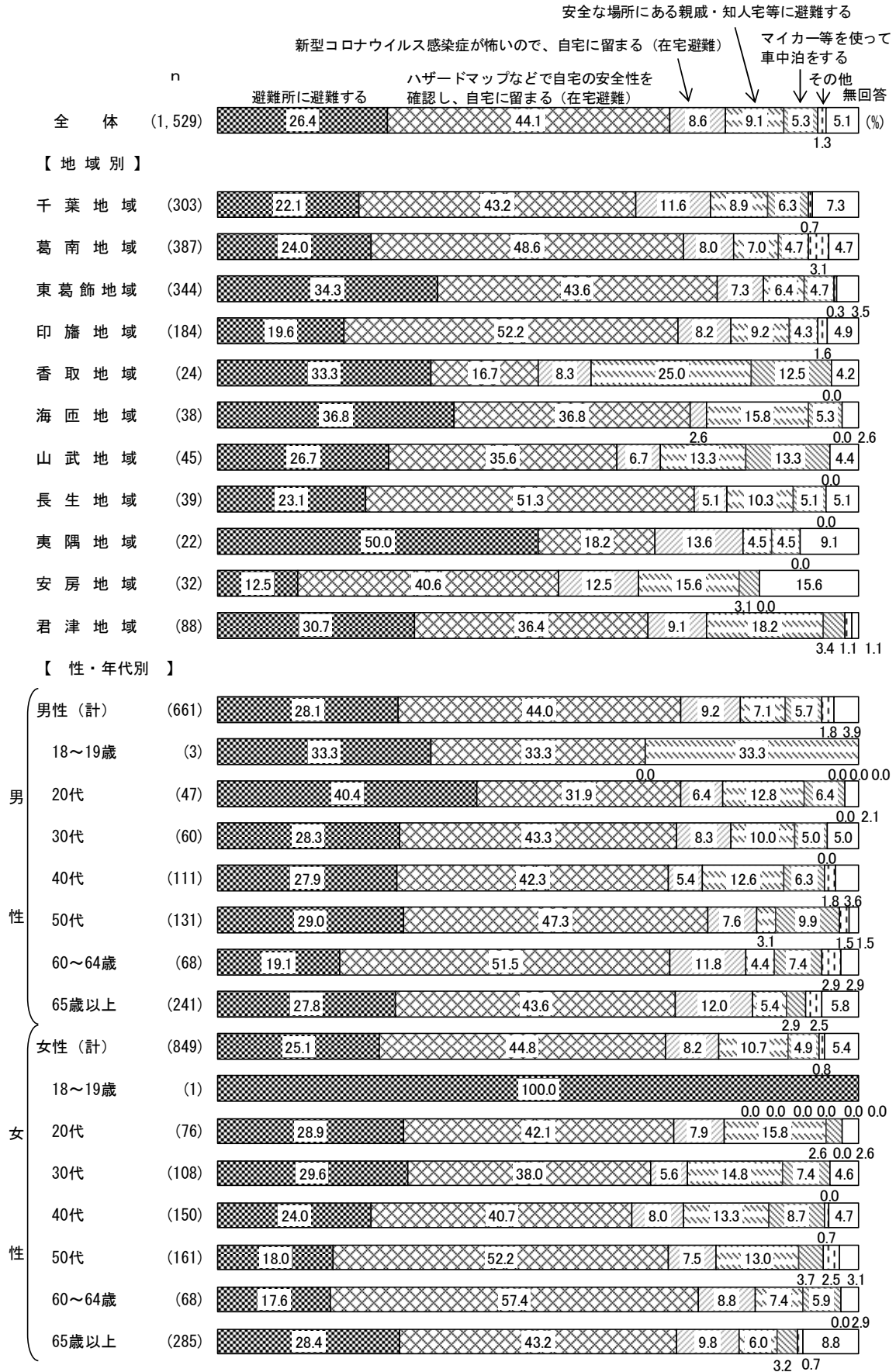
【性・年代別】

性・年代別にみると、「ハザードマップなどで自宅の安全性を確認し、自宅に留まる（在宅避難）」は女性の60～64歳（57.4%）が約６割、女性の50代（52.2%）が５割を超えて高くなっている。

「避難所に避難する」は男性の20代（40.4%）が４割で高くなっている。

「安全な場所にある親戚・知人宅等に避難する」は女性の20代（15.8%）と女性の30代（14.8%）が１割台半ばで高くなっている。（図表２－12）

＜図表 2－12＞地域に浸水のおそれがある場合の避難方法／地域別、性・年代別



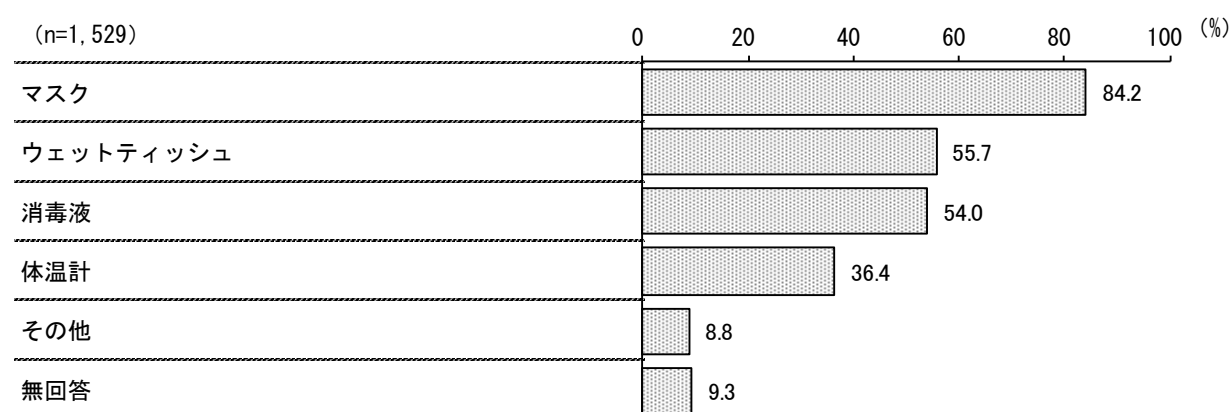
（６）避難に備えた新型コロナウイルス感染症対策

◇「マスク」が８割台半ば

問21 避難所に避難することになった場合に備えて、新型コロナウイルス感染症対策として、以下のものを持ち出せるように非常持ち出し袋に加えるなど準備をしていますか。

（○はいくつでも）

＜図表２－13＞避難に備えた新型コロナウイルス感染症対策



避難に備えた新型コロナウイルス感染症対策について聞いたところ、「マスク」（84.2％）が８割台半ばで最も高く、以下、「ウェットティッシュ」（55.7％）、「消毒液」（54.0％）、「体温計」（36.4％）が続く。（図表２－13）

【地域別】

地域別にみると、「体温計」は“海匠地域”（57.9％）が約６割、“千葉地域”（42.2％）が４割を超えて高くなっている。（図表２－14）

【性・年代別】

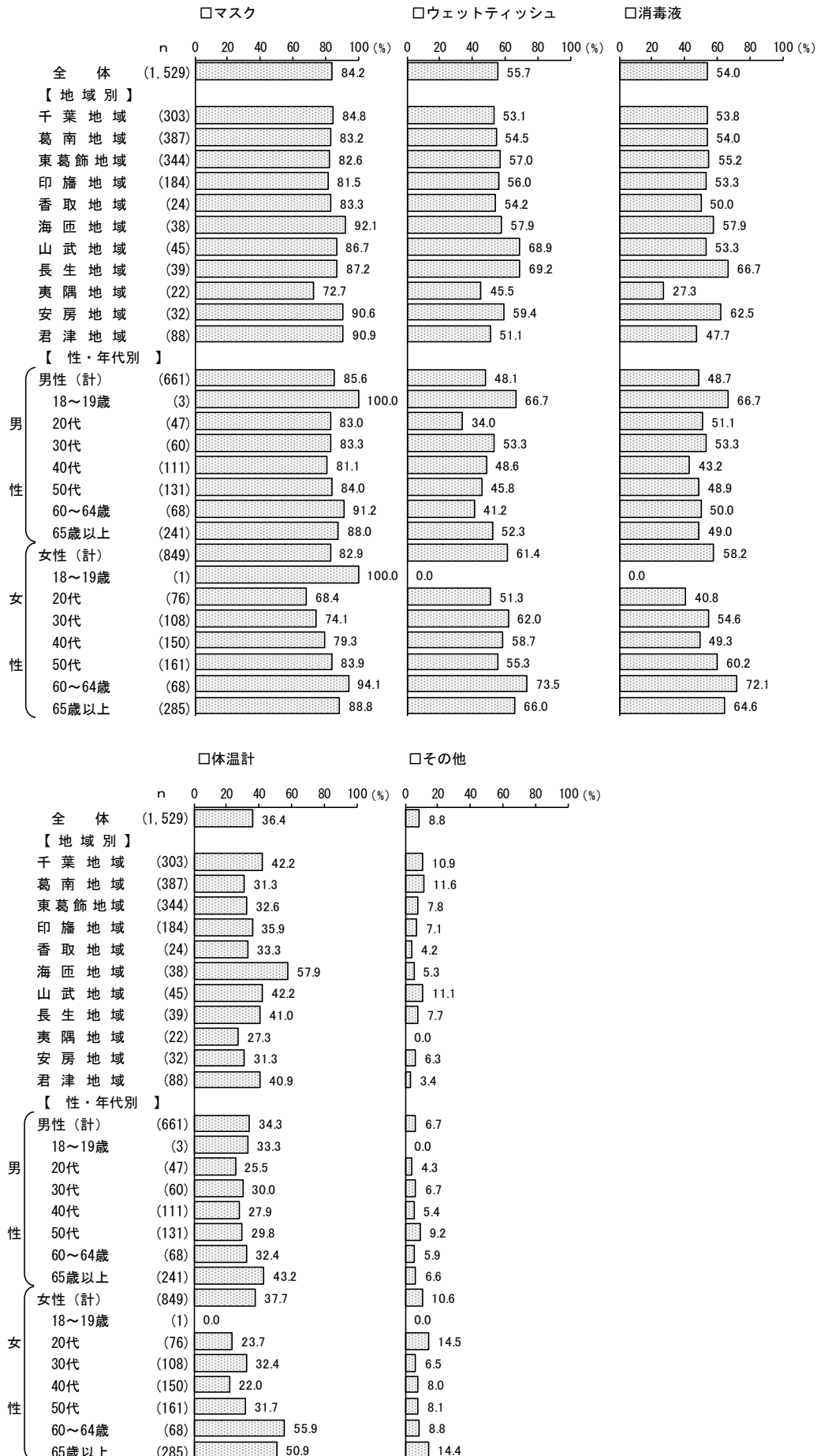
性・年代別にみると、「マスク」は女性60～64歳（94.1％）が９割台半ば、女性の65歳以上（88.8％）が約９割で高くなっている。

「ウェットティッシュ」は女性60～64歳（73.5％）が７割台半ば、女性の65歳以上（66.0％）が６割台半ばで高くなっている。

「消毒液」は女性60～64歳（72.1％）が７割を超え、女性の65歳以上（64.6％）が６割台半ばで高くなっている。

「体温計」は女性60～64歳（55.9％）が５割台半ば、女性の65歳以上（50.9％）が５割、男性の65歳以上（43.2％）が４割を超えて高くなっている。（図表２－14）

＜図表 2－14＞避難に備えた新型コロナウイルス感染症対策／地域別、性・年代別

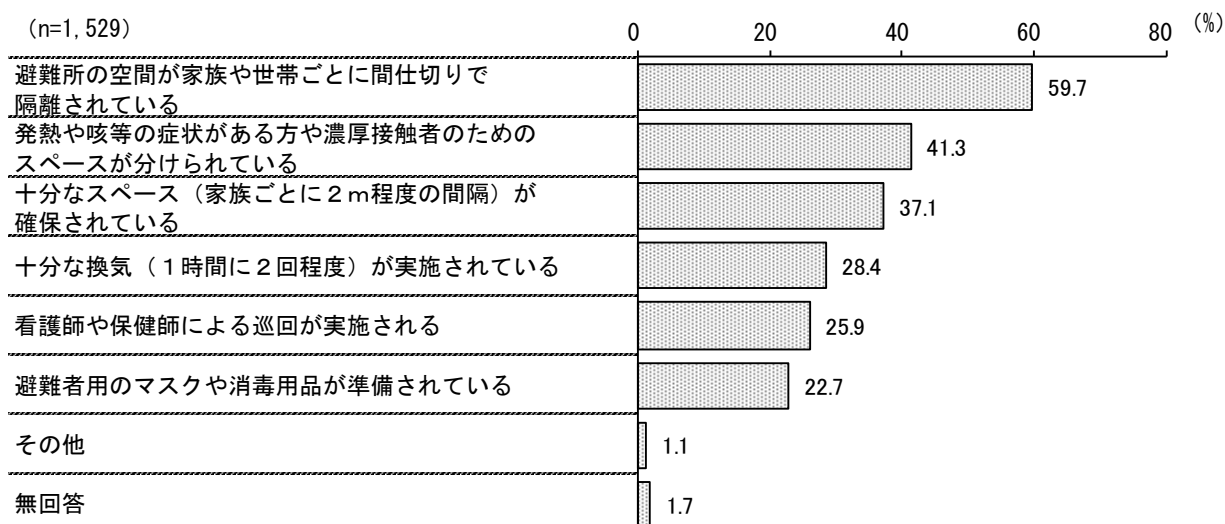


（７）避難所において安心できる新型コロナウイルス感染症対策

◇「避難所の空間が家族や世帯ごとに間仕切りで隔離されている」が約６割

問22 避難所において、どのような新型コロナウイルス感染症対策がなされていれば安心して避難できると思いますか。（○は２つまで）

<図表２－15> 避難所において安心できる新型コロナウイルス感染症対策



避難所において安心できる新型コロナウイルス感染症対策についてきいたところ、「避難所の空間が家族や世帯ごとに間仕切りで隔離されている」（59.7%）が約６割で最も高く、以下、「発熱や咳等の症状がある方や濃厚接触者のためのスペースが分けられている」（41.3%）、「十分なスペース（家族ごとに2 m程度の間隔）が確保されている」（37.1%）、「十分な換気（1時間に2回程度）が実施されている」（28.4%）が続く。（図表２－15）

【地域別】

地域別にみると、「避難所の空間が家族や世帯ごとに間仕切りで隔離されている」は“葛南地域”（64.1%）が６割台半ばで高くなっている。

「十分なスペース（家族ごとに2 m程度の間隔）が確保されている」は“長生地域”（53.8%）が５割台半ばで高くなっている。（図表２－16）

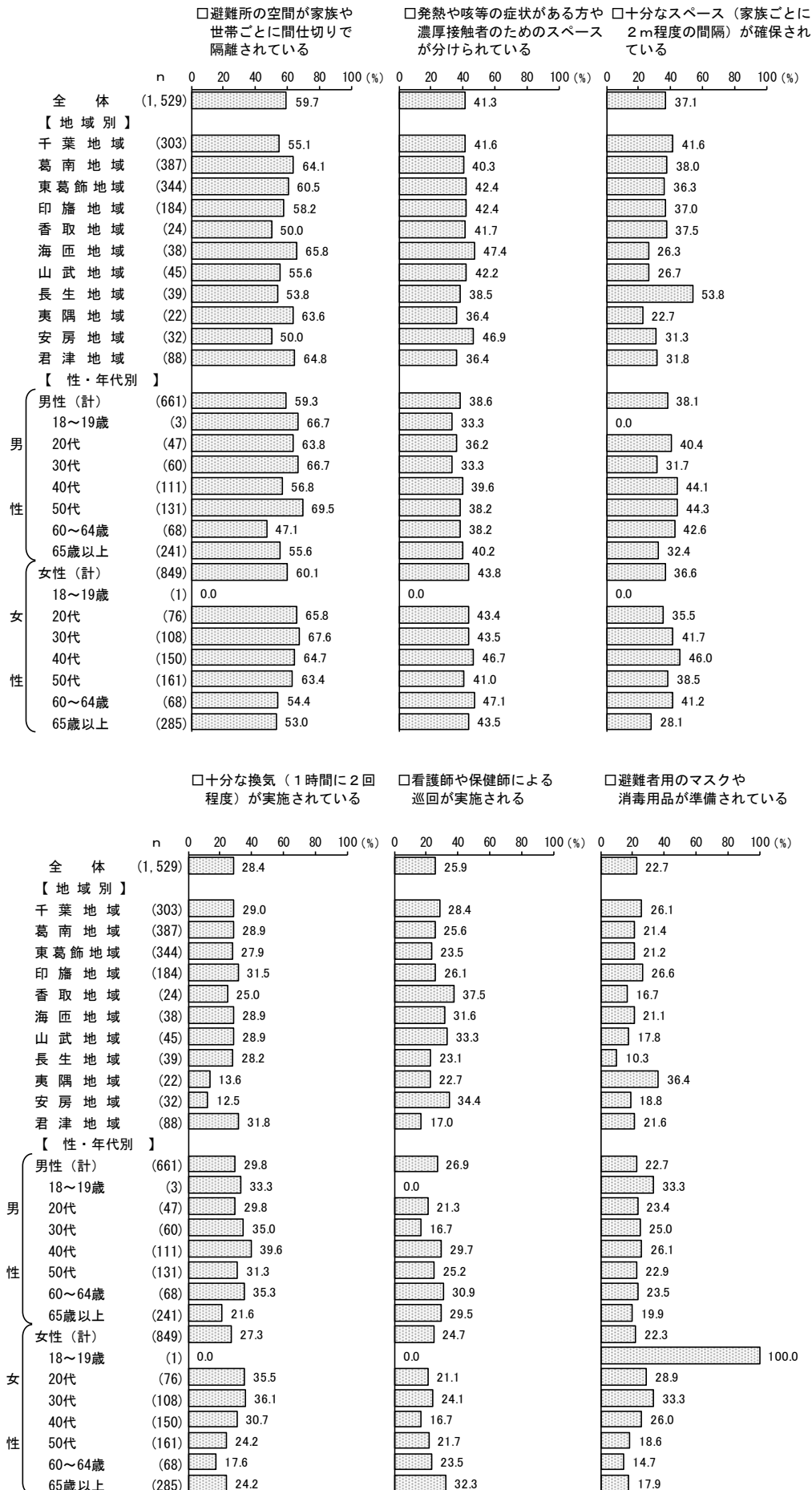
【性・年代別】

性・年代別にみると、「避難所の空間が家族や世帯ごとに間仕切りで隔離されている」は男性の50代（69.5%）が約７割で高くなっている。

「十分なスペース（家族ごとに2 m程度の間隔）が確保されている」は女性の40代（46.0%）が４割台半ばで高くなっている。

「十分な換気（1時間に2回程度）が実施されている」は男性の40代（39.6%）が約４割で高くなっている。（図表２－16）

<図表 2-16>避難所において安心できる新型コロナウイルス感染症対策／地域別、性・年代別



このほかに、「災害時における県民の備えや意識について」やここまでの質問（問16～問22）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、205人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「災害時における県民の備えや意識について」の自由回答（抜粋）

- 避難所において、衝立等を利用した家族単位でのスペースを原則としてほしい。特に長期化した場合、パーソナルスペースの欠如は精神的な疲弊につながる。（女性、40代、東葛飾地域）

- 今後もまだまだ不安な、新型コロナウイルスと合わせた視点で更なる災害の対策をしていく必要があると思います。（女性、30代、葛南地域）

- 避難所は大人数になることが懸念されるので、極力自宅避難を考えています。避難所での感染防止の周知をしていただきたいです。（女性、30代、千葉地域）

- 避難所ごとの受け入れキャパシティや受け入れ状況を、平素から、又、素早く知ることができるようにしてほしい。（男性、50代、千葉地域）

- 台風15号でかなりの被害を受けましたが、一番厳しかったのはスマホなどの電波が入らなかったことです。知人と連絡すらとれない、情報も入らなく、本当に最悪でした。また、通行止めも未だにあり不便です。電波の強化は特に力を入れてほしいです。電波さえあれば、自分で調べて情報は手に入るのです。（女性、20代、長生地域）

- 台風被害の際、携帯のアンテナ局へも被害が発生し、情報を得る手段がありませんでした。アンテナの拡充やWi-Fiの拡充を検討してほしいです。（男性、30代、君津地域）

- 停電の時の迅速な復旧工事ができるような体制を作してほしい。（女性、60～64歳、海匝地域）

- 昨年の台風15号では、自然災害の怖さを思い知らされた。備えなければと思いながら、まだまだ十分では無く、気がかりだ。避難先（親戚、知人宅等）の確保もしたい。（女性、65歳以上、安房地域）

- 未だに防災無線が聞き取りにくいので改善してほしい。（男性、40代、印旛地域）

- 重複災害を想定したガイドラインを、各地域ごとの特性を活かして策定されるといいと思います。あとは、情報難民が出ないよう、アナログの対策も意外と重要かと思います。（男性、40代、葛南地域）

3 災害ボランティア等について

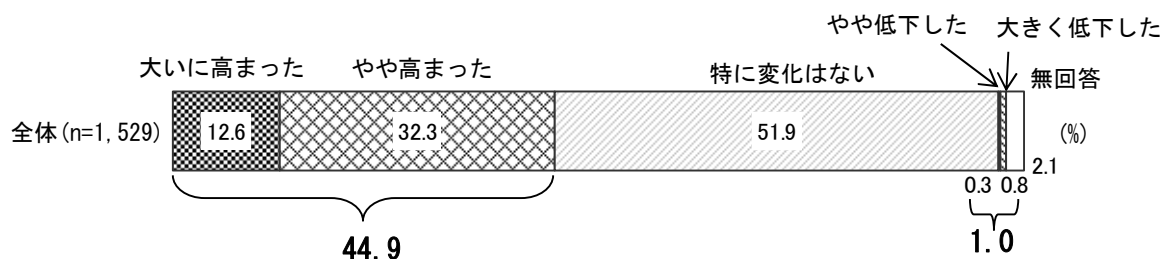
（１）市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度

◇『高まった（計）』が４割台半ば

県では、県民活動推進計画に基づき、市民活動団体の活動やボランティア活動など県民活動への理解や参加の促進を図っており、今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問23 あなたは、令和元年房総半島台風等、令和元年に本県で発生した一連の災害を通じて、市民活動団体の活動やボランティア活動への関心が高まりましたか。（○は１つ）

＜図表３－１＞市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度



市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度について、「大いに高まった」（12.6%）と「やや高まった」（32.3%）を合わせた『高まった（計）』（44.9%）が４割台半ばとなっている。

一方、「やや低下した」（0.3%）と「大きく低下した」（0.8%）を合わせた『低下した（計）』（1.0%）は１割未満となっている。（図表３－１）

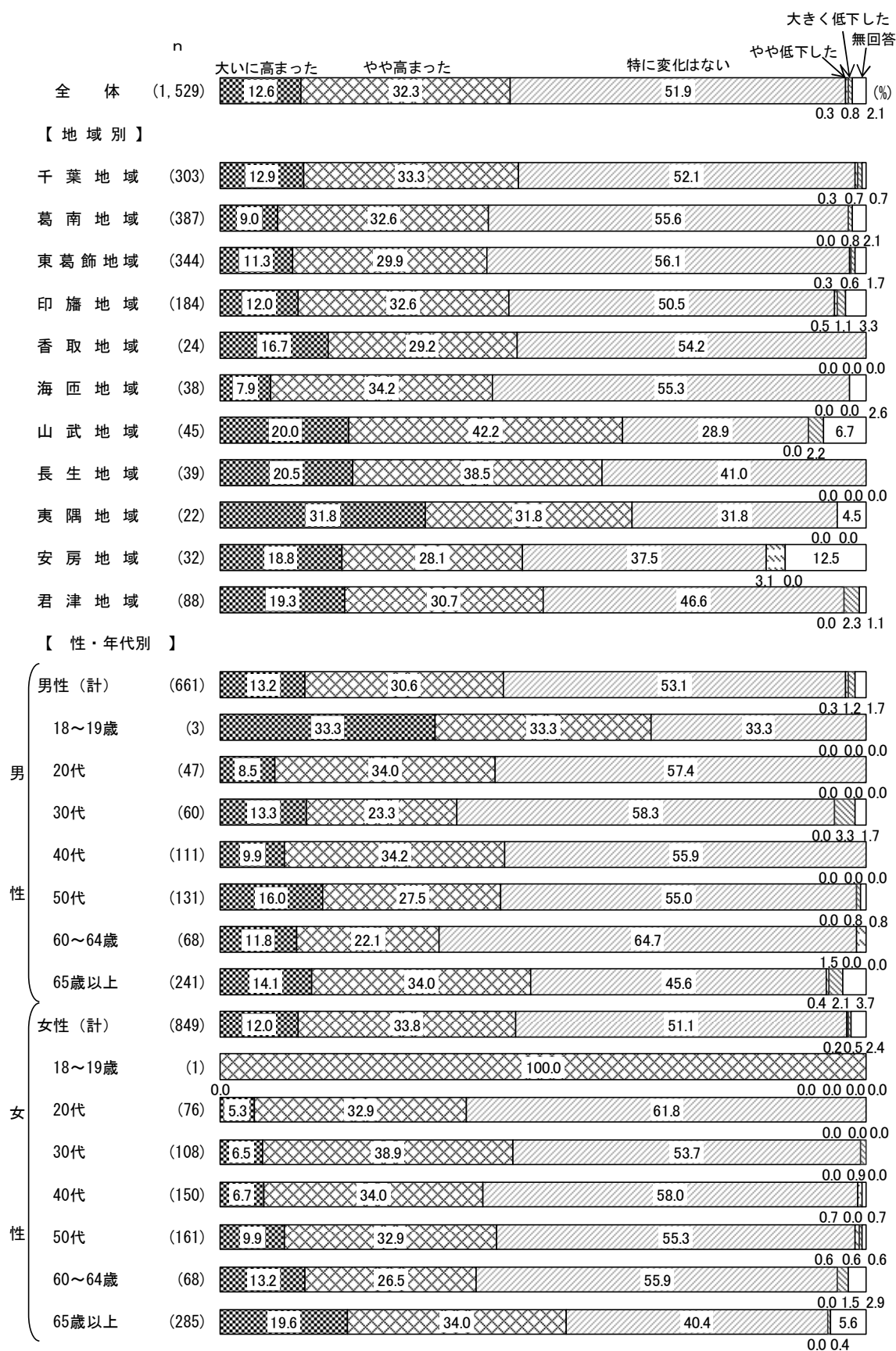
【地域別】

地域別にみると、『高まった（計）』は“山武地域”（62.2%）が６割を超えて高くなっている。
（図表３－２）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『高まった（計）』は女性の65歳以上（53.7%）が５割台半ばで高くなっている。（図表３－２）

＜図表３－２＞市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度／地域別、性・年代別



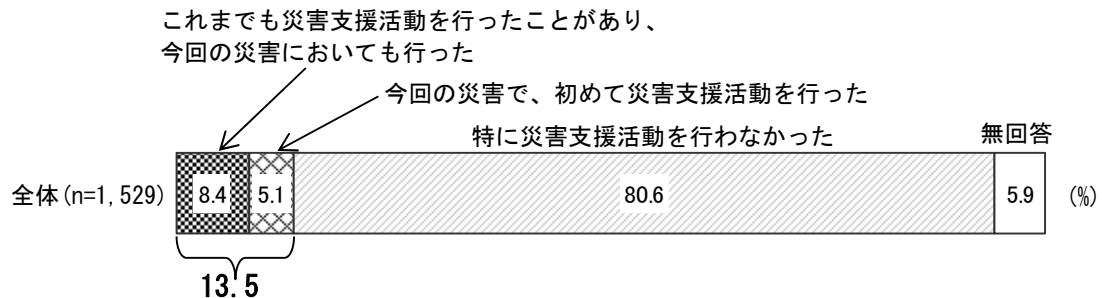
（２）令和元年に県で発生した一連の災害での災害支援活動の参加経験

◇『今回の災害で行った（計）』が１割台半ば

問24 あなたは、令和元年房総半島台風等、令和元年に本県で発生した一連の災害において災害支援活動を行いましたか。（○は１つ）

（※）ここでの「災害支援活動」とは、ボランティア活動への参加、被災した親戚・知人に対する支援、近隣被災住宅の片付け、自治体や市民活動団体への寄附、物資の提供など、広く被災者・被災地への支援を指します（以下の設問でも同様）。

＜図表３－３＞令和元年に県で発生した一連の災害での災害支援活動の参加経験



令和元年に県で発生した一連の災害での災害支援活動の参加経験を聞いたところ、「これまで災害支援活動を行ったことがあり、今回の災害においても行った」（8.4%）と「今回の災害で、初めて災害支援活動を行った」（5.1%）を合わせた『今回の災害で行った（計）』（13.5%）が１割台半ばとなっている。

一方、「特に災害支援活動を行わなかった」（80.6%）は８割となっている。（図表３－３）

【地域別】

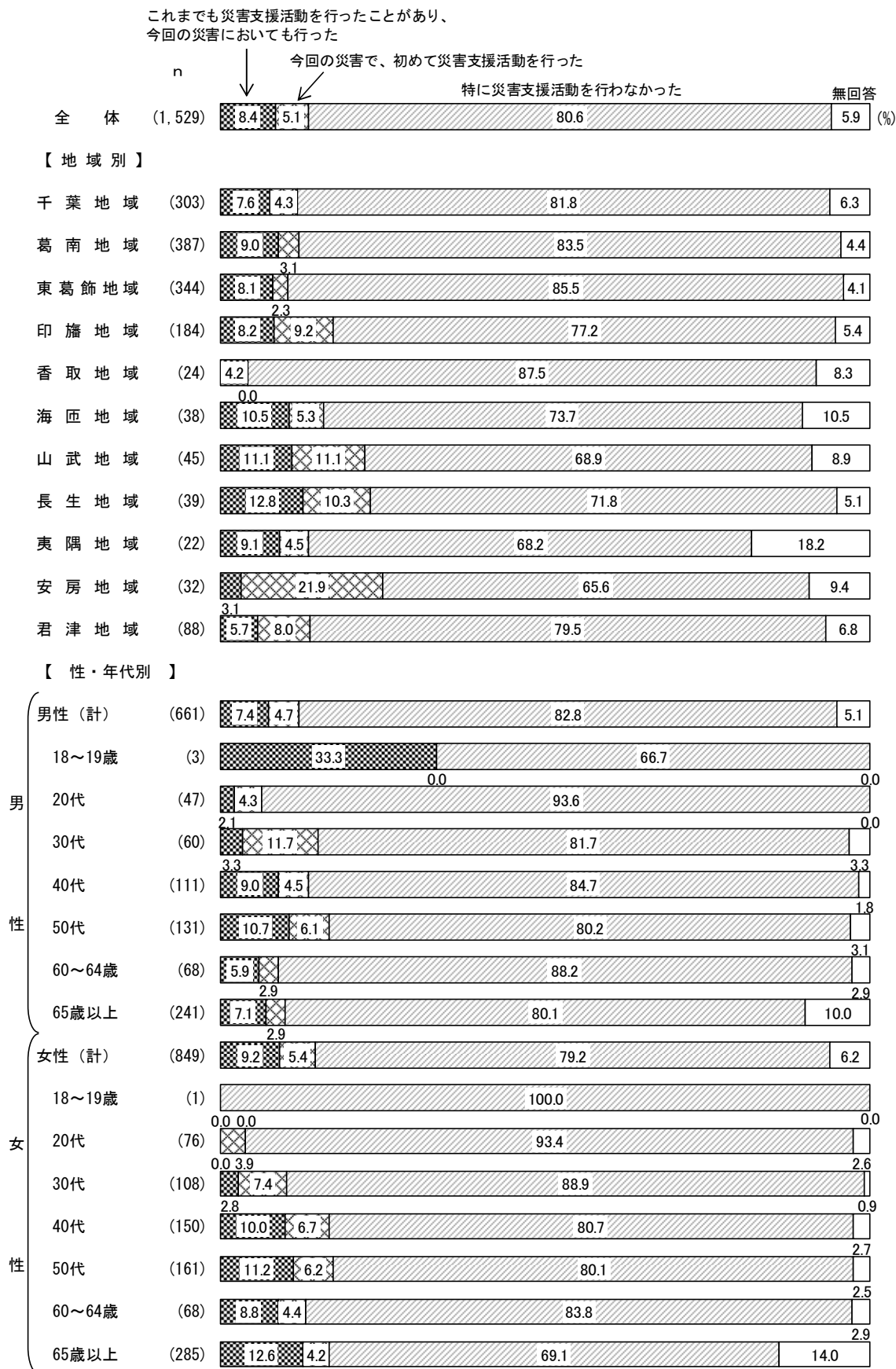
地域別にみると、「特に災害支援活動を行わなかった」は“東葛飾地域”（85.5%）が８割台半ばで高くなっている。（図表３－４）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「特に災害支援活動を行わなかった」は男性の20代（93.6%）が９割台半ば、女性の20代（93.4%）が９割を超え、女性の30代（88.9%）が約９割で高くなっている。

（図表３－４）

＜図表 3－4＞令和元年に県で発生した一連の災害での災害支援活動の参加経験／地域別、性・年代別



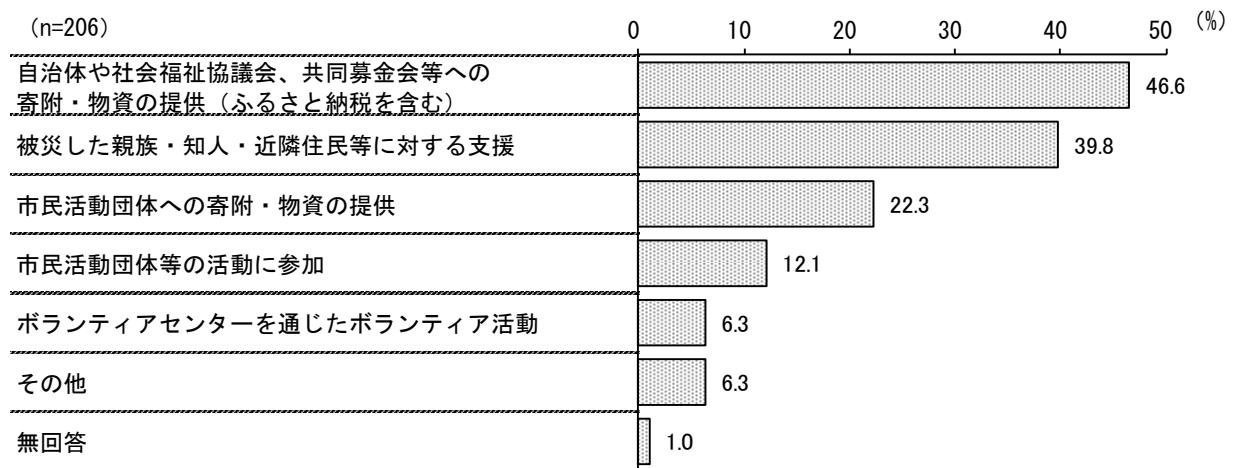
（２－１）参加した災害支援活動の内容

◇「自治体や社会福祉協議会、共同募金会等への寄附・物資の提供（ふるさと納税を含む）」が４割台半ば

（問24で「これまでも災害支援活動を行ったことがあり、今回の災害においても行った」、「今回の災害で、初めて災害支援活動を行った」とお答えの方に）

問24-1 支援活動の内容はどのようなものでしたか。（○はいくつでも）

<図表 3－5>参加した災害支援活動の内容

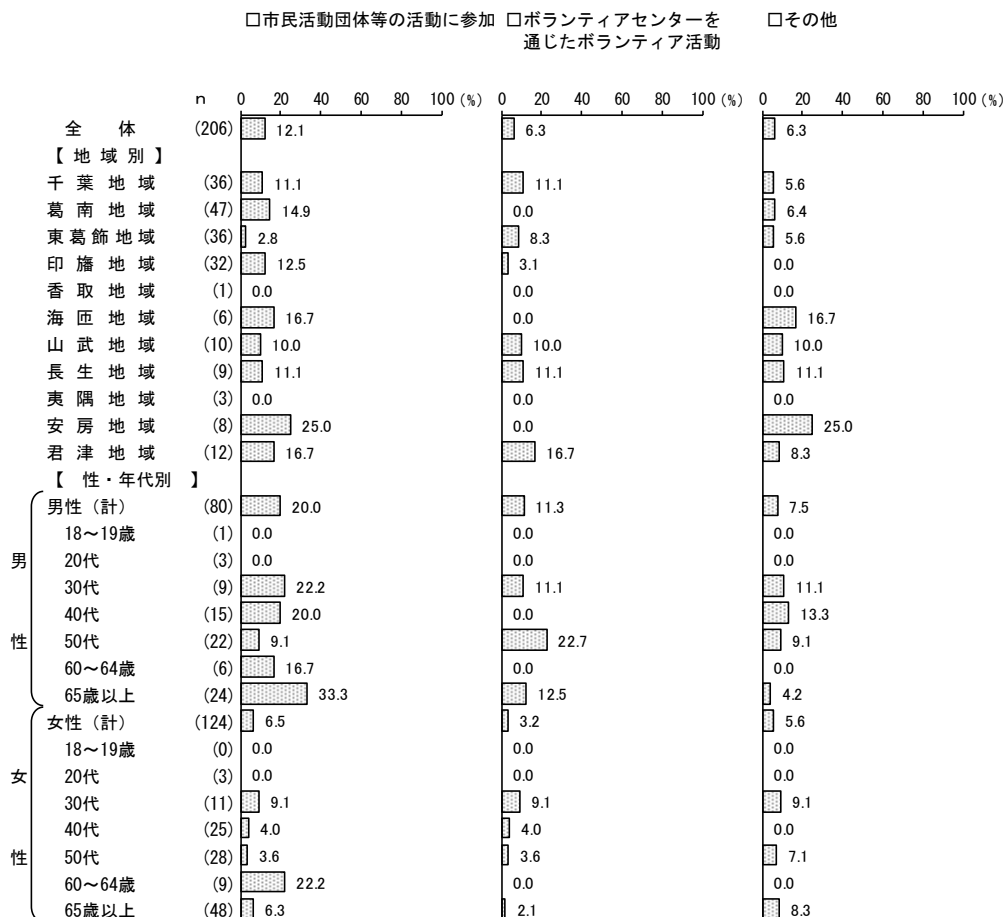
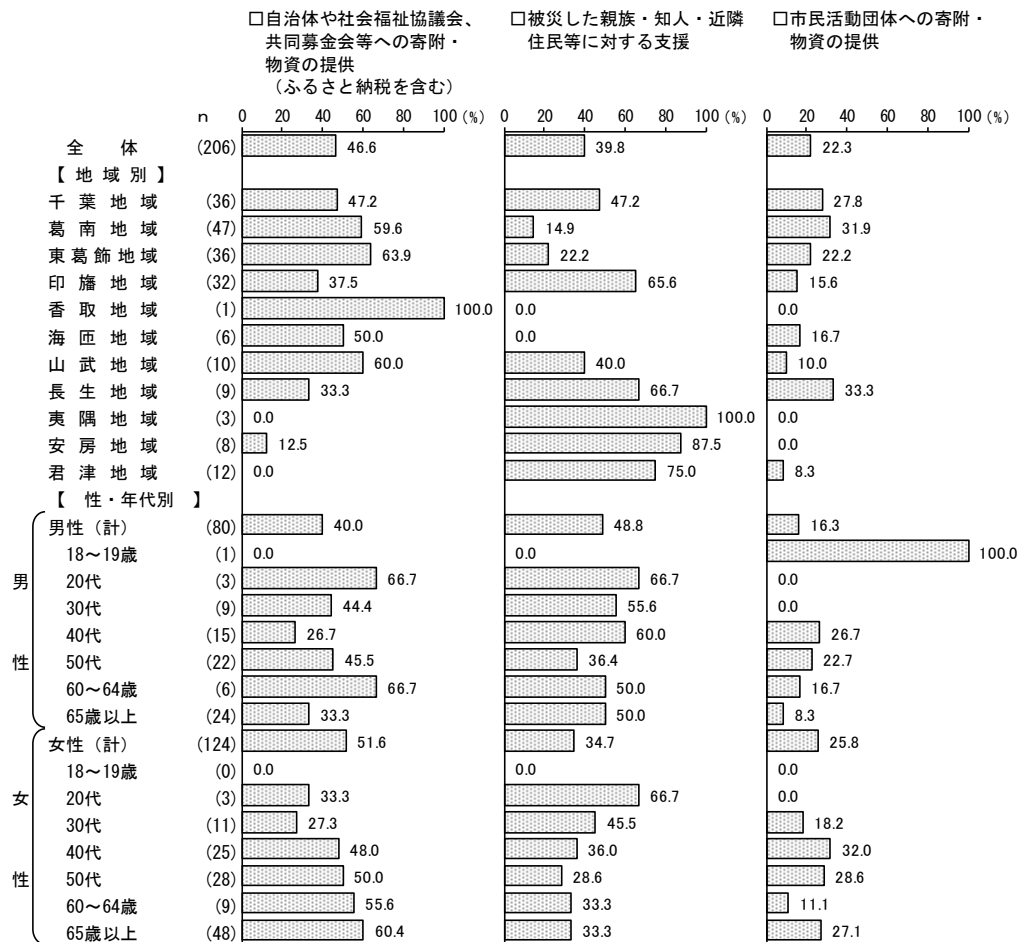


参加した災害支援活動の内容について聞いたところ、「自治体や社会福祉協議会、共同募金会等への寄附・物資の提供（ふるさと納税を含む）」（46.6%）が４割台半ばで最も高く、以下、「被災した親族・知人・近隣住民等に対する支援」（39.8%）、「市民活動団体への寄附・物資の提供」（22.3%）が続く。（図表 3－5）

※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。

（8ページ「報告書の見方（6）」を参照）

＜図表３－６＞参加した災害支援活動の内容／地域別、性・年代別

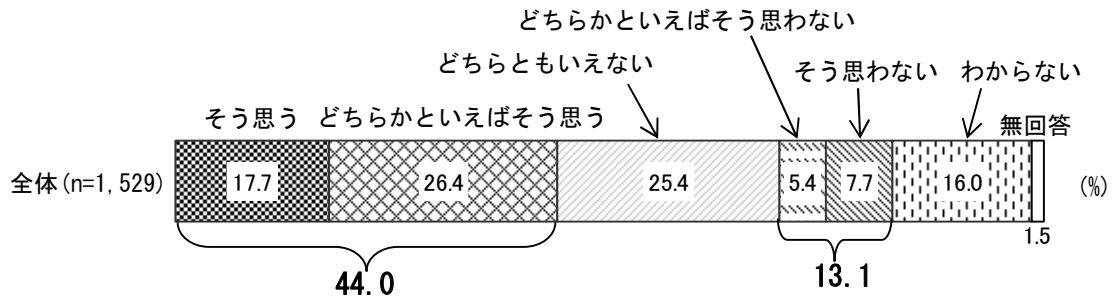


（３）今後の災害支援活動への参加意向

◇『そう思う（計）』が４割台半ば

問25 今後、災害が発生した際（県外での発災も含む）に支援活動を行いたいと思いますか。
（○は１つ）

＜図表３－７＞今後の災害支援活動への参加意向



今後の災害支援活動への参加意向について、「そう思う」（17.7%）と「どちらかといえばそう思う」（26.4%）を合わせた『そう思う（計）』（44.0%）が４割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（5.4%）と「そう思わない」（7.7%）を合わせた『そう思わない（計）』（13.1%）が１割を超えている。（図表３－７）

【地域別】

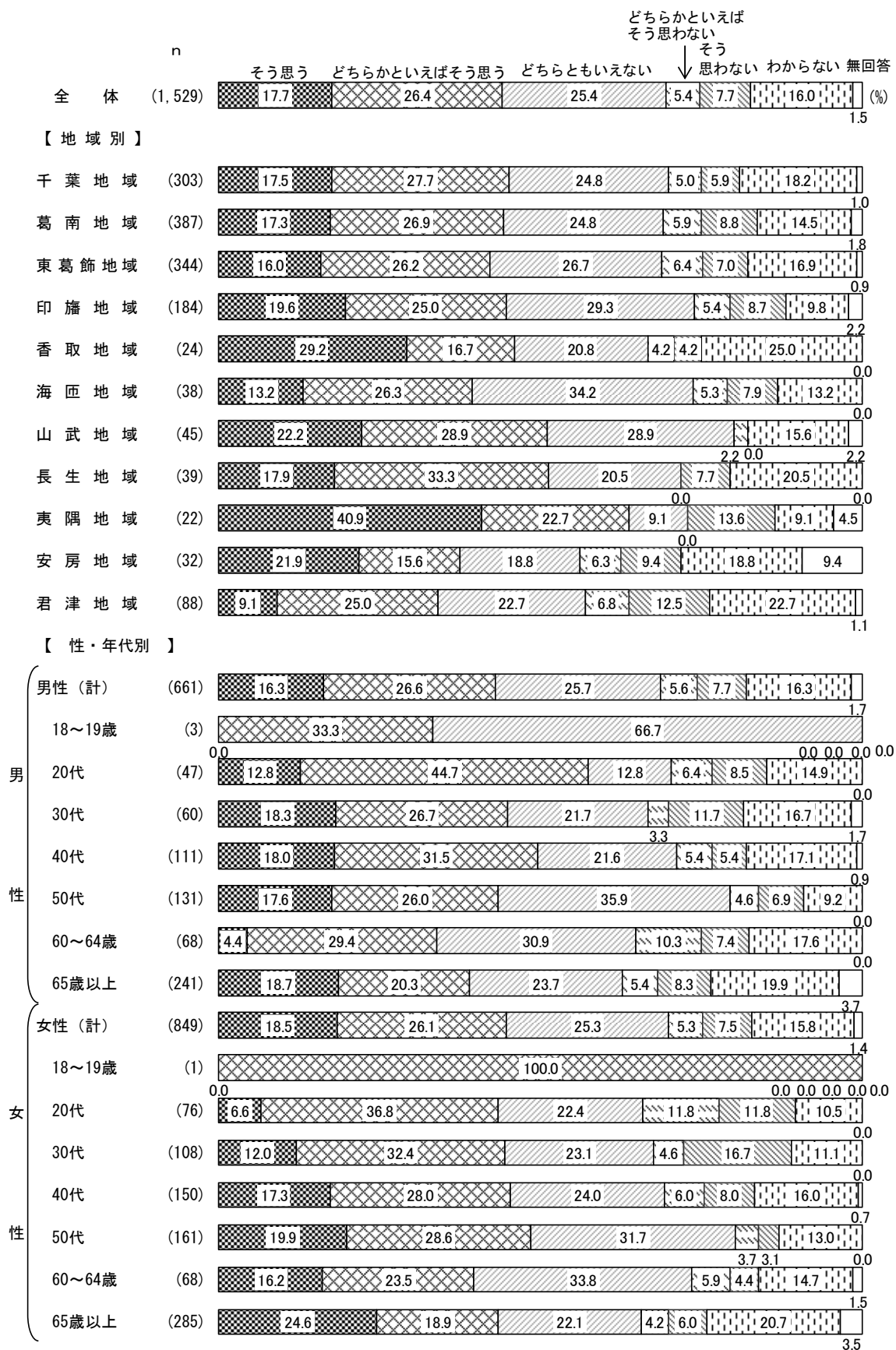
地域別にみると、「そう思う」は“夷隅地域”（40.9%）が４割で高くなっている。

（図表３－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思わない（計）』は女性の20代（23.7%）が２割台半ば、女性の30代（21.3%）が２割を超えて高くなっている。（図表３－８）

＜図表 3－8＞今後の災害支援活動への参加意向／地域別、性・年代別



このほかに、「災害ボランティア等について」やここまでの質問（問23～問25）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、171人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「災害ボランティア等について」の自由回答（抜粋）

○令和元年房総半島台風は、屋根がわら等、大工やかわら職人を要する被害の為、ボランティア等の募集も難を要したと思う。今後とも募集にあたっては、詳細を詰めて募集にあたることも考えられる。
(男性、65歳以上、君津地域)

○専門的な技術者などは有償ボランティアとして県や国が派遣する体制を整えるべきと思う。
例えば、住宅被害の復旧などでは、高所作業ができる建設業者など。
(女性、65歳以上、千葉地域)

○災害ボランティア活動の特別休暇となるような制度を整えて欲しい。現状では欠勤になってしまい参加することが難しい。
(女性、40代、葛南地域)

○できることを支援したいとは思っているが、現地まで行き活動するのは仕事があるので難しい。
(女性、40代、東葛飾地域)

○どこでどのような支援を必要としているかがわからないと行動できにくい。
(女性、20代、千葉地域)

○動画などで、どの様な事が行われているのか、知りたい。HP見て、文章で記されていてもあまり見よう、知ろうという気にならない。
(女性、30代、葛南地域)

○ボランティアをしたい気持ちはあるのですが現場で足手まといになってしまうのではと思い、参加する勇気が出ません。中年女性でもできることはあるのでしょうか？
(女性、40代、葛南地域)

○災害ボランティアに関して、参加できればやりたいと思いますが、何が出来ることがわからず一歩が踏みません。特にコロナ禍の中だと寄付金などしか行動出来ませんでした。
(女性、40代、千葉地域)

○ボランティアや物資の寄附など、分かりやすくしてもらえると行動に移しやすいと思います。
したい気持ちがあってもどうしたら良いか分からない為、市や県からネットやメールでもらって、場所の指定など知りたい。
(女性、40代、印旛地域)

4 ワーク・ライフ・バランスについて

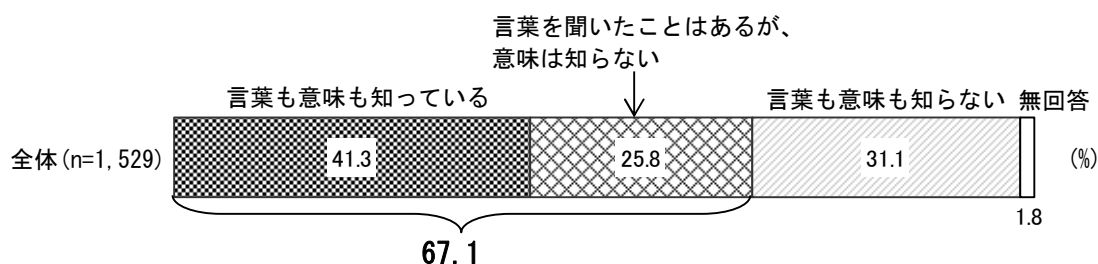
（１）「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度

◇『言葉を聞いたことがある（計）』が約７割

県では、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（以下「ワーク・ライフ・バランス」といいます）を図ることができる働き方の実現を目指して、様々な取組を進めています。今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問26 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか。（○は１つ）

＜図表４－１＞「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度



「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度を聞いたところ、「言葉も意味も知っている」（41.3%）と「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」（25.8%）を合わせた『言葉を聞いたことがある（計）』（67.1%）が約７割となっている。

一方、「言葉も意味も知らない」（31.1%）が３割を超えている。（図表４－１）

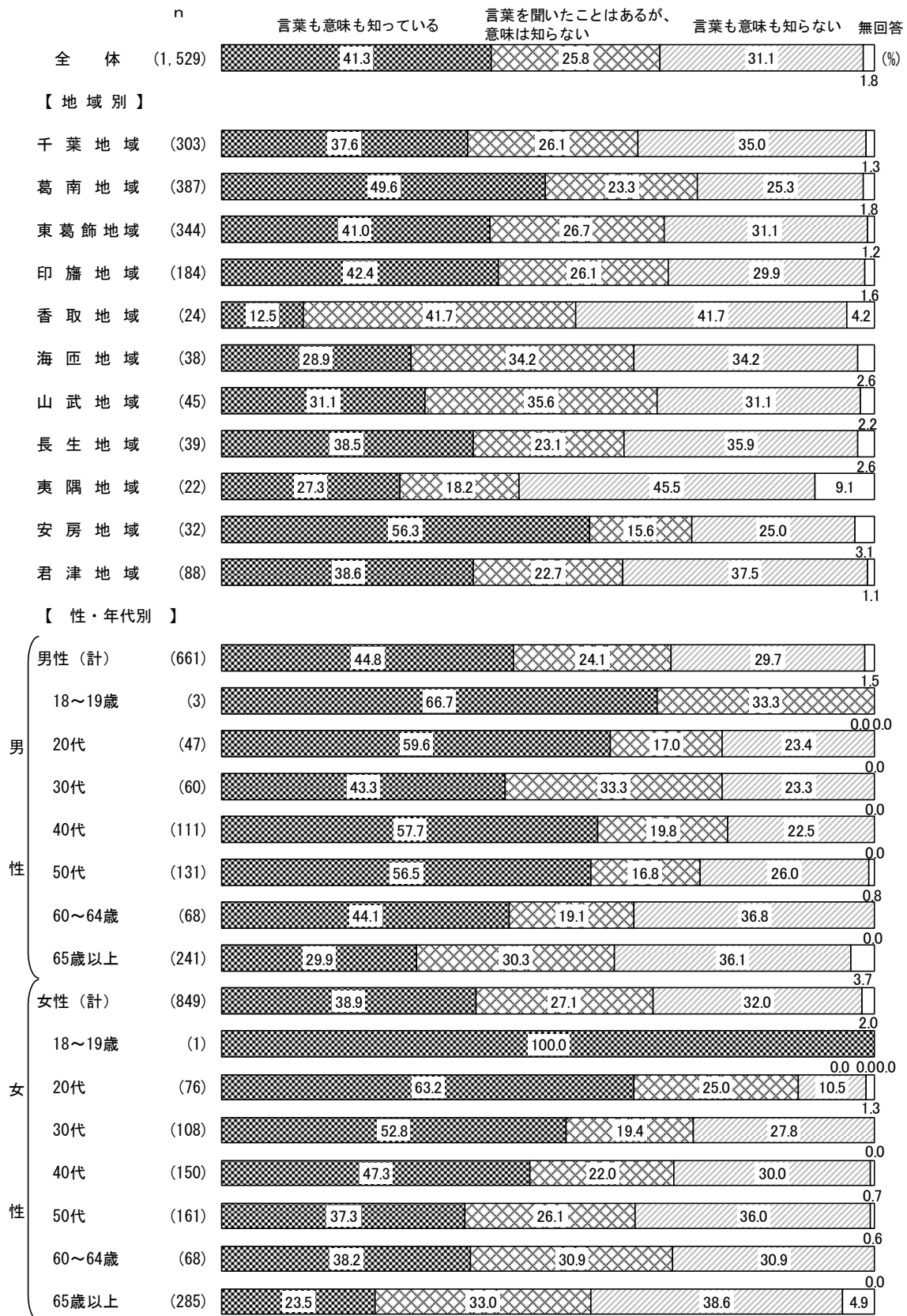
【地域別】

地域別にみると、『言葉を聞いたことがある（計）』は“葛南地域”（72.9%）が７割を超えて高くなっている。（図表４－２）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『言葉を聞いたことがある（計）』は女性の20代（88.2%）が約９割、男性の40代（77.5%）が約８割で高くなっている。（図表４－２）

<図表 4-2> 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度／地域別、性・年代別



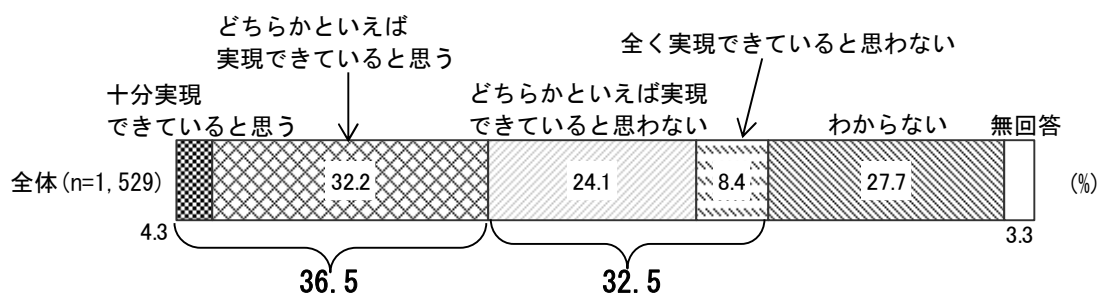
（２）ワーク・ライフ・バランスの実現度

◇『実現できていると思う（計）』が３割台半ば

問27 あなたは、自身のワーク・ライフ・バランスは、どの程度実現していると思いますか。現在、お仕事をされていない場合は、ご家族などの身近な人を想定してお答えください。

（○は１つ）

＜図表４－３＞ワーク・ライフ・バランスの実現度



ワーク・ライフ・バランスについて実現度を聞いたところ、「十分実現できていると思う」(4.3%)と「どちらかといえば実現できていると思う」(32.2%)を合わせた『実現できていると思う（計）』(36.5%)が３割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえば実現できていないと思う」(24.1%)と「全く実現できていないと思う」(8.4%)を合わせた『実現できていないと思う（計）』(32.5%)が３割を超えている。

（図表４－３）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表４－４）

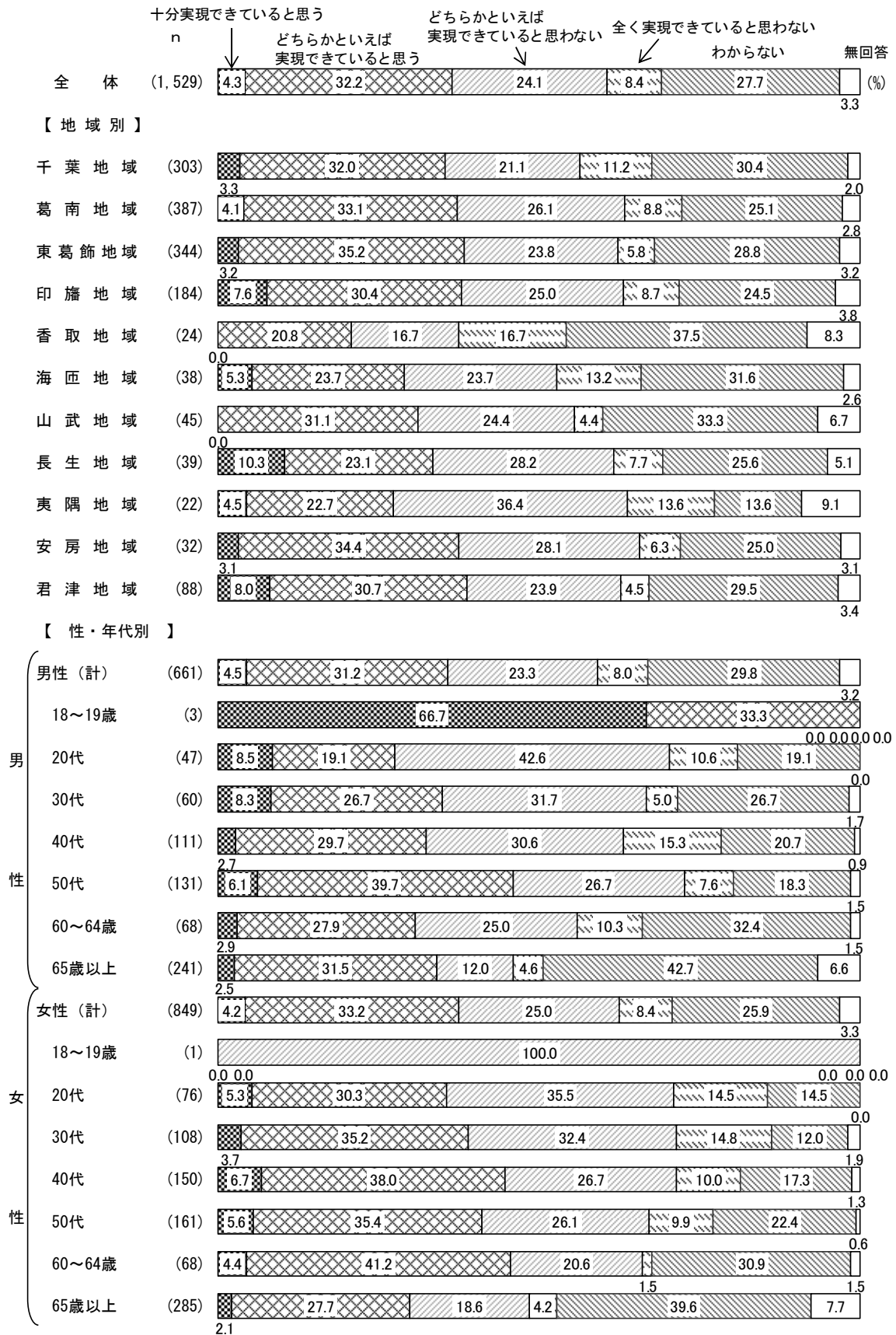
【性・年代別】

性・年代別にみると、『実現できていると思う（計）』は男性の50代(45.8%)と女性の40代(44.7%)が４割台半ばで高くなっている。

一方、『実現できていないと思う（計）』は男性の20代(53.2%)が５割を超え、女性の20代(50.0%)が５割、女性の30代(47.2%)が約５割、男性の40代(45.9%)が４割台半ばで高くなっている。

（図表４－４）

<図表 4-4>ワーク・ライフ・バランスの実現度／地域別、性・年代別



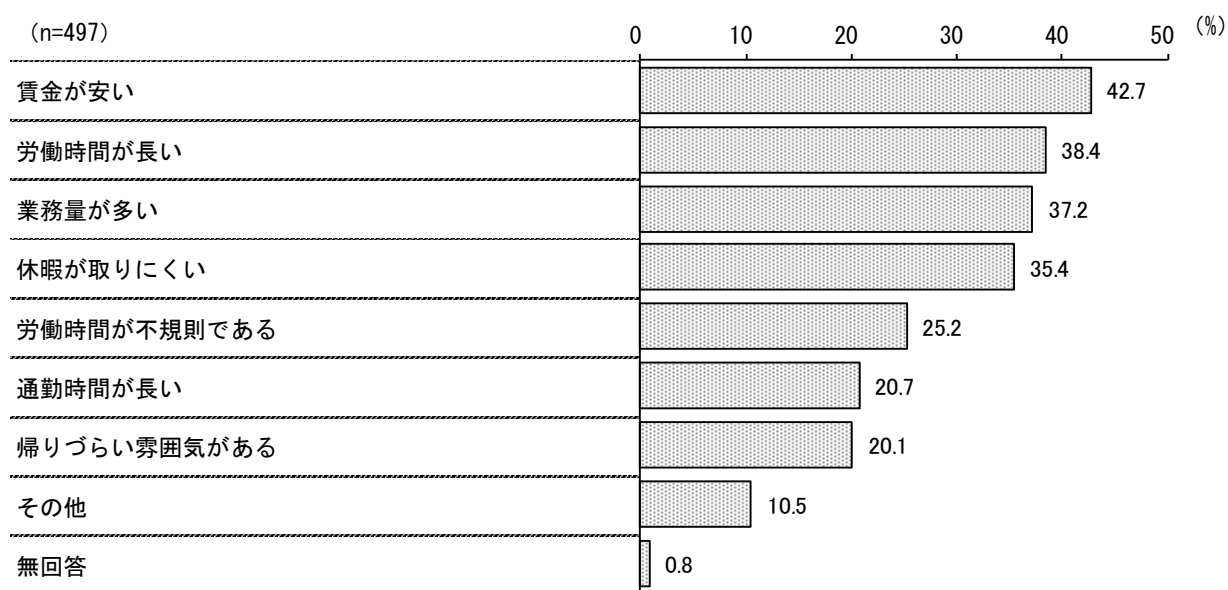
（２－１）職場において支障となっている点

◇「賃金が安い」（42.7%）が４割を超える

（問27で「どちらかといえば実現できていると思わない」、「全く実現できていると思わない」とお答えの方に）

問27-1 ワーク・ライフ・バランスの実現に当たり、職場において支障となっている点は何ですか。（〇はいくつでも）

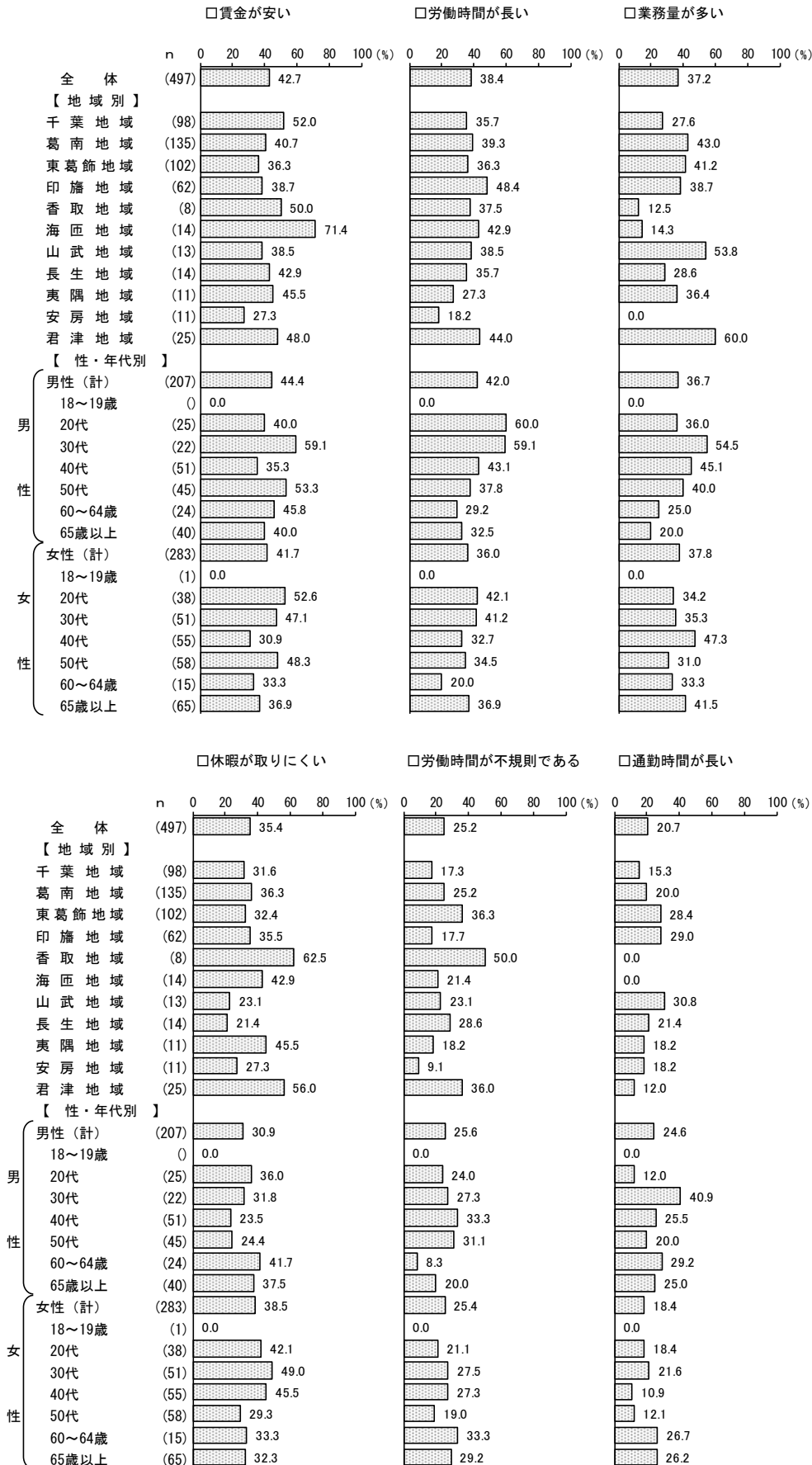
＜図表４－５＞職場において支障となっている点



ワーク・ライフ・バランスの実現度について、『実現できていると思わない（計）』と回答した497人に職場で支障となっている点を聞いたところ、「賃金が安い」（42.7%）が４割を超えて最も高く、以下、「労働時間が長い」（38.4%）、「業務量が多い」（37.2%）、「休暇が取りにくい」（35.4%）が続く。（図表４－５）

※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。
（8ページ「報告書の見方（6）」を参照）

＜図表４－６＞職場において支障となっている点／地域別、性・年代別

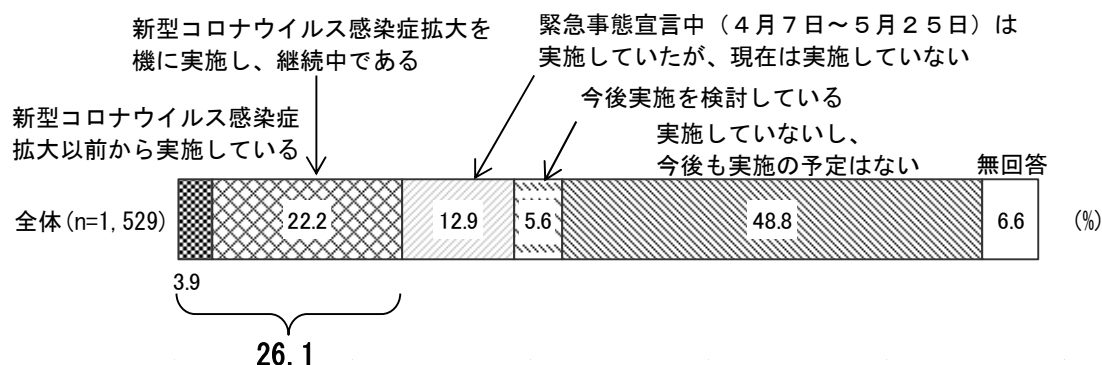


（３）新型コロナウイルス感染症対策としてのテレワークの実施状況

◇『実施している（計）』が２割台半ば

問28 新型コロナウイルス感染症対策として、テレワーク（インターネット等の情報通信技術を活用し、自宅等で仕事を行う勤務形態）を実施していますか（週数回等の部分的なテレワークも含む）。現在、お仕事をされていない場合は、ご家族などの身近な人を想定してお答えください。（○は１つ）

＜図表４－７＞新型コロナウイルス感染症対策としてのテレワークの実施状況



新型コロナウイルス感染症対策としてのテレワークの実施状況を聞いたところ、「新型コロナウイルス感染症拡大以前から実施している」（3.9%）と「新型コロナウイルス感染症拡大を機に実施し、継続中である」（22.2%）を合わせた『実施している（計）』（26.1%）が２割台半ばとなっている。

一方、「緊急事態宣言中（４月７日～５月２５日）は実施していたが、現在は実施していない」（12.9%）と「実施していないし、今後も実施の予定はない」（48.8%）を合わせた『現在実施していない、今後実施の予定はない（計）』（61.7%）が６割を超える。（図表４－７）

【地域別】

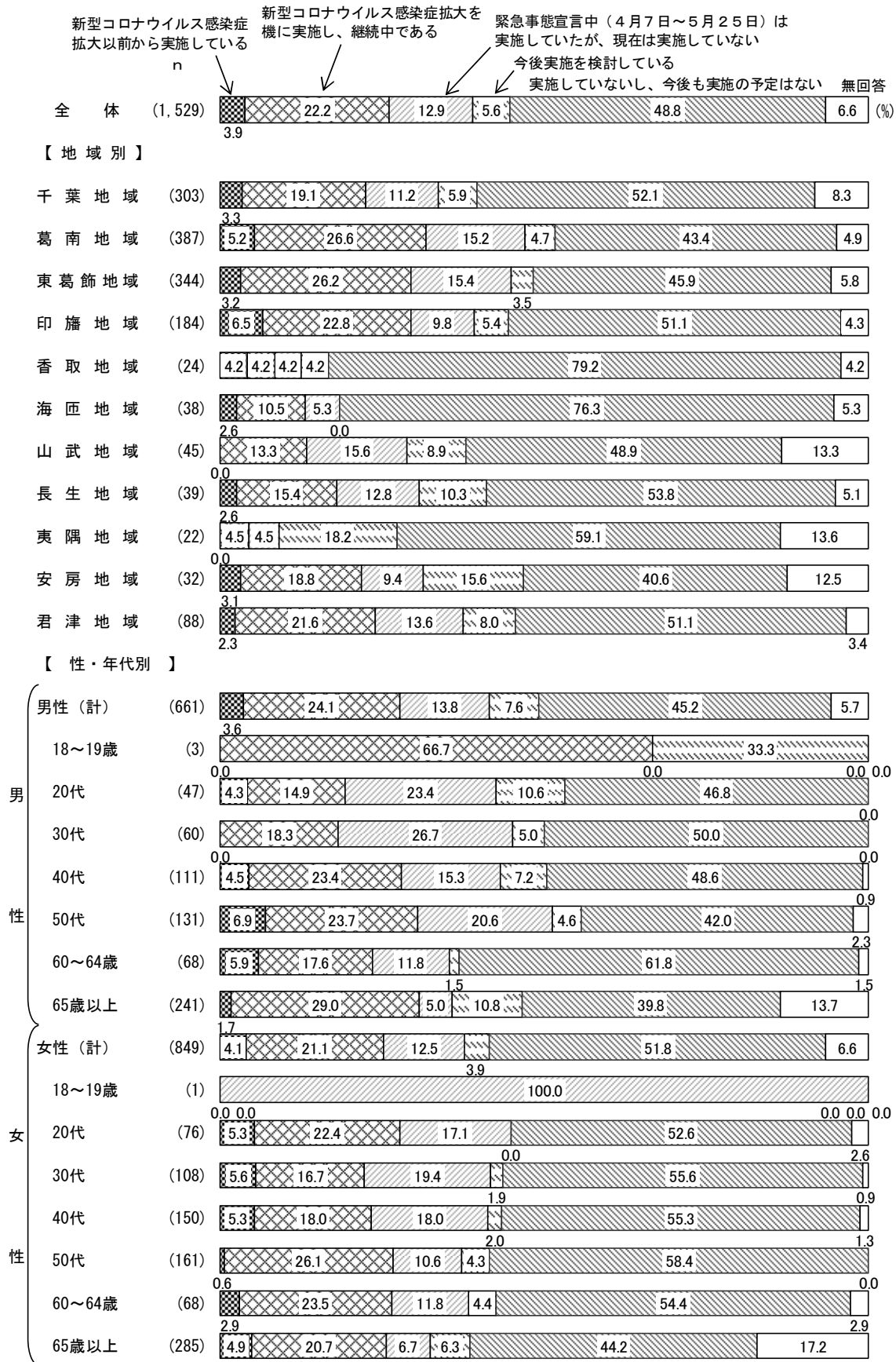
地域別にみると、『実施している（計）』は“葛南地域”（31.8%）が３割を超えて高くなっている。

『現在実施していない、今後実施の予定はない（計）』は“香取地域”（83.3%）と“海匠地域”（81.6%）が８割を超えて高くなっている。（図表４－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『現在実施していない、今後実施の予定はない（計）』は男性の30代（76.7%）と女性の30代（75.0%）、男性の60～64歳（73.5%）が７割台半ば、女性の40代（73.3%）が７割を超え、女性の50代（68.9%）が約７割で高くなっている。（図表４－８）

＜図表４－８＞新型コロナウイルス感染症対策としてのテレワークの実施状況／地域別、性・年代別



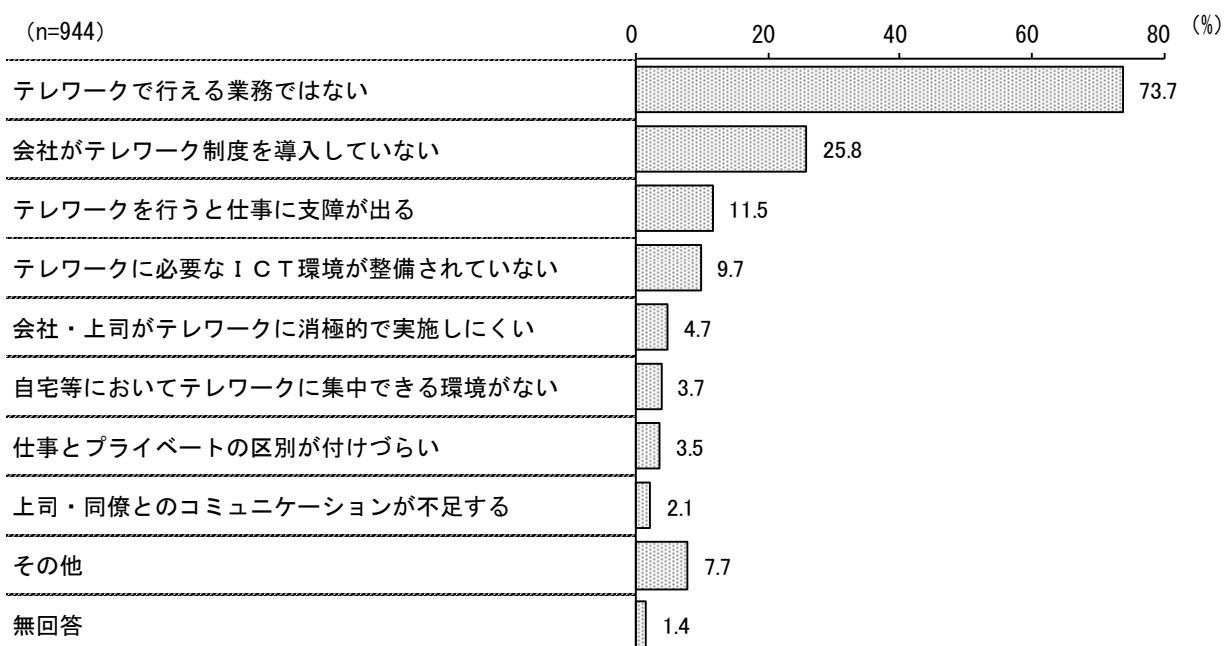
（３－１）テレワークを実施していない理由

◇「テレワークで行える業務ではない」が７割台半ば

（問28で「緊急事態宣言中（４月７日～５月２５日）は実施していたが、現在は実施していない」、
「実施していないし、今後も実施の予定はない」とお答えの方に）

問28-1 テレワークを実施していない理由をお答えください。（○はいくつでも）

＜図表４－９＞テレワークを実施していない理由



新型コロナウイルス感染症対策としてのテレワークについて、『現在実施していない、今後実施の予定はない（計）』と回答した944人にテレワークを実施していない理由を聞いたところ、「テレワークで行える業務ではない」（73.7%）が７割台半ばで最も高く、以下、「会社がテレワーク制度を導入していない」（25.8%）、「テレワークを行うと仕事に支障が出る」（11.5%）が続く。（図表４－９）

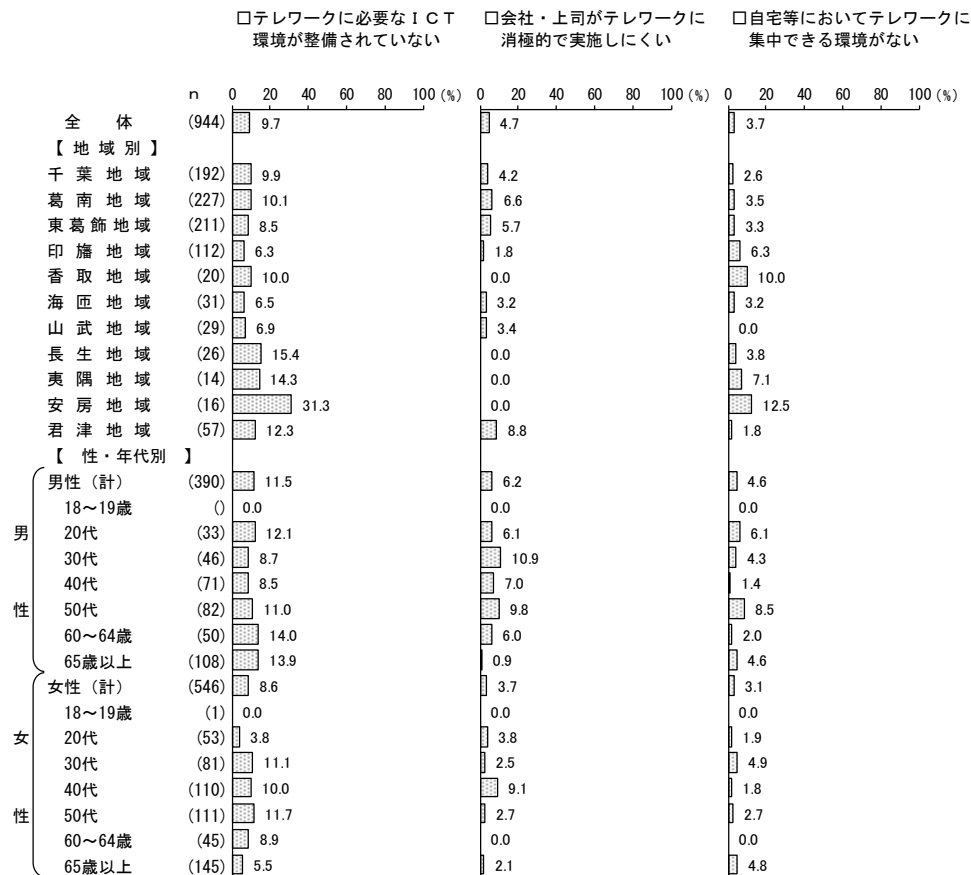
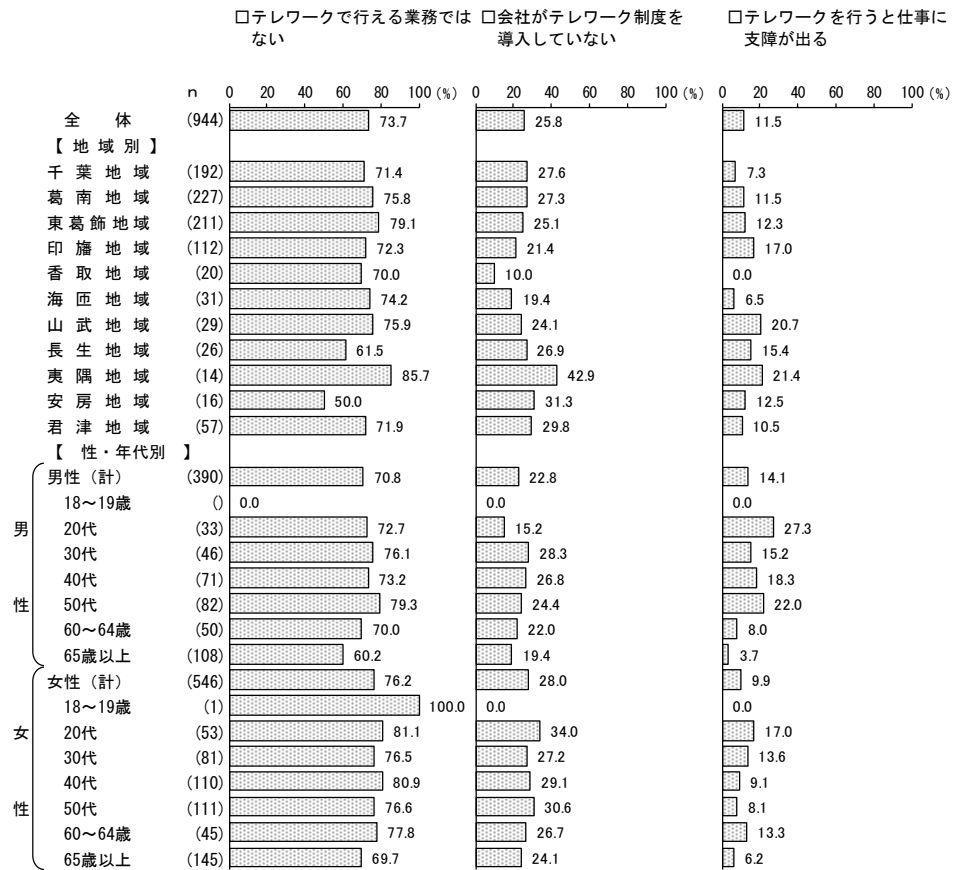
【地域別】

地域別にみると、「テレワークで行える業務ではない」は“東葛飾地域”（79.1%）が約８割で高くなっている。（図表４－10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「テレワークを行うと仕事に支障が出る」は男性の20代（27.3%）が約３割、男性の50代（22.0%）が２割を超えて高くなっている。（図表４－10）

＜図表 4－10＞テレワークを実施していない理由／地域別、性・年代別



このほかに、「ワーク・ライフ・バランスについて」やここまでの質問（問26～問28）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、136人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「ワーク・ライフ・バランスについて」の自由回答（抜粋）

○テレワークは家族も対応が大変です。会議や打ち合わせ中には物音をたてない、会話をひかえる、テレビを消すなどの対応をしていますが、とても大変です。政府や企業も「テレワークしてください」というだけでなく、環境整備の面も考えてほしいです。

（女性、40代、葛南地域）

○正規雇用と非正規雇用の労働条件の格差が多いと思う。

（女性、18～19歳、印旛地域）

○職場にも伝えているが、早く退勤することを推奨するならば、仕事量を精査してもらわないとバランスが取れない。

（女性、30代、千葉地域）

○育児のための時短制度があっても、替わりの職員を雇ってもらえないため、現実的に制度を活用できない。気兼ねなく堂々と時短制度を使えるとよい。

（女性、30代、印旛地域）

○ターミナル駅に公的なフリーオフィスを設置してほしい。

（男性、30代、東葛飾地域）

○無理な労働条件、職場環境は改善すべきであるが、労働意欲の盛んな者が自由意思で働くことまで過度に規制する制度、政策でなく、各々が自由に都合や事情に合わせて働ける職場づくりを目標としてほしいと思う。

（男性、20代、東葛飾地域）

○コロナ禍で広まったテレワーク等、働き方も変わり始めたものの、対応できない職種も多くあることを充分理解してほしい。

（女性、65歳以上、安房地域）

○制度があっても、「テレワーク＝サボリ」とみなす職場の空気があり活用しにくい。

（男性、50代、葛南地域）

○大企業や公務員については取り入れ易いと思いますが、地方の中小零細企業ではまだまだ難しい。

（男性、65歳以上、夷隅地域）

○男性も家事に参加していけば、ワーク・ライフ・バランスが実現できると思います。

（女性、50代、東葛飾地域）

5 高齢期の住まいについて

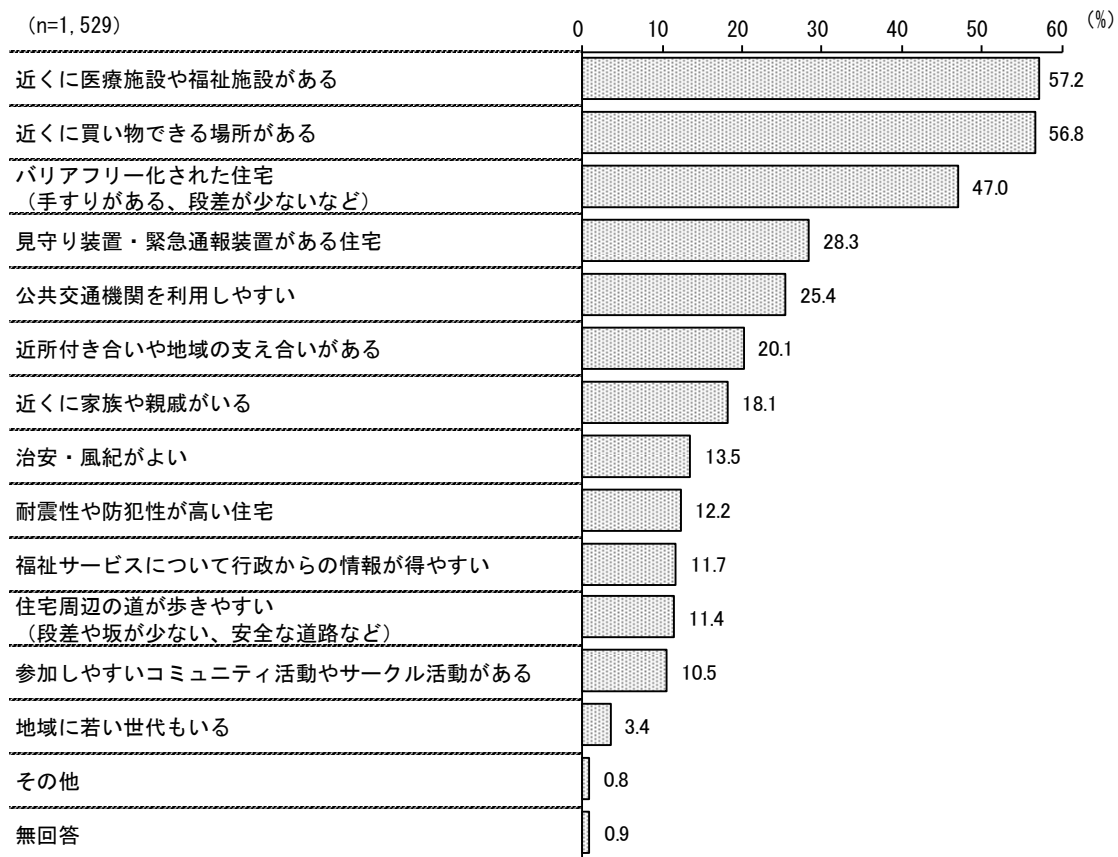
（１）高齢期の住まいで重要なこと

◇「近くに医療施設や福祉施設がある」が約６割

県では、千葉県高齢者居住安定確保計画に基づき、高齢者に配慮された住宅の確保や高齢者の在宅生活を支えるサービスの充実に向け各種施策に取り組んでおり、今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問29 高齢期における住まいで重要なことは何だと思いますか。（○は３つまで）

＜図表５－１＞高齢期の住まいで重要なこと



高齢期の住まいで重要なことを聞いたところ、「近くに医療施設や福祉施設がある」(57.2%)が約６割で最も高く、以下、「近くに買い物できる場所がある」(56.8%)、「バリアフリー化された住宅(手すりがある、段差が少ないなど)」(47.0%)、「見守り装置・緊急通報装置がある住宅」(28.3%)が続く。(図表５－１)

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表５－２)

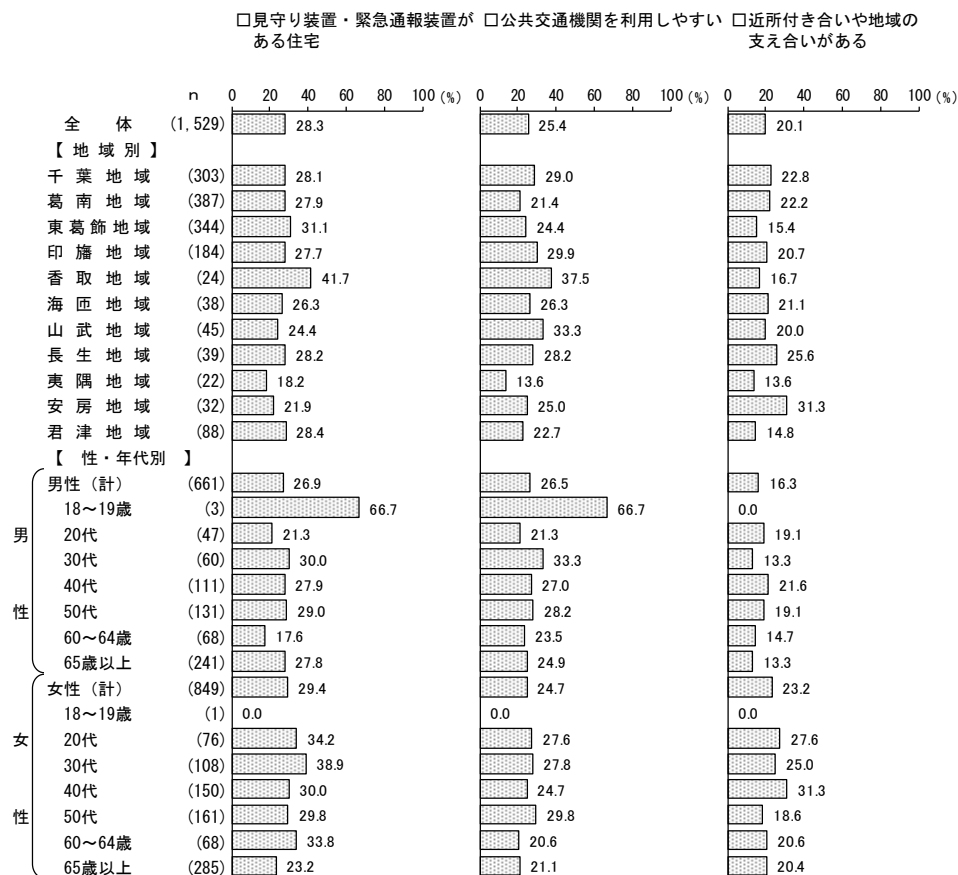
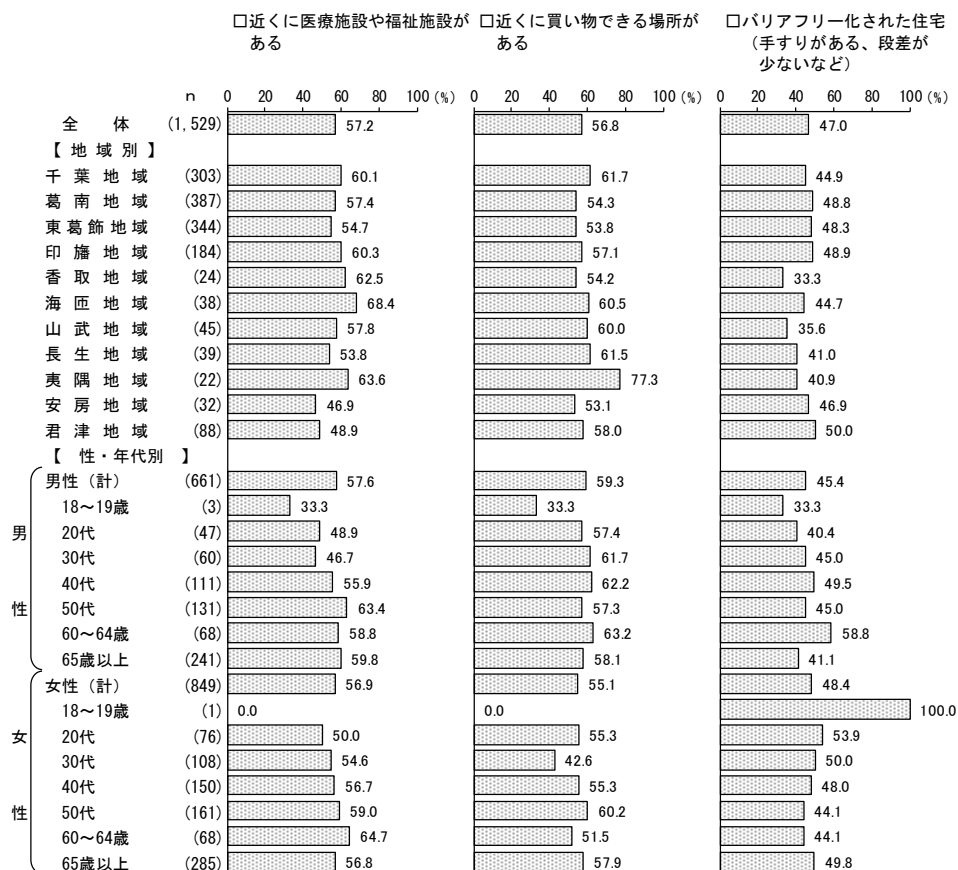
【性・年代別】

性・年代別にみると、「バリアフリー化された住宅(手すりがある、段差が少ないなど)」は男性の60～64歳(58.8%)が約６割で高くなっている。

「見守り装置・緊急通報装置がある住宅」は女性の30代(38.9%)が４割で高くなっている。

(図表５－２)

＜図表５－２＞高齢期の住まいで重要なこと／地域別、性・年代別

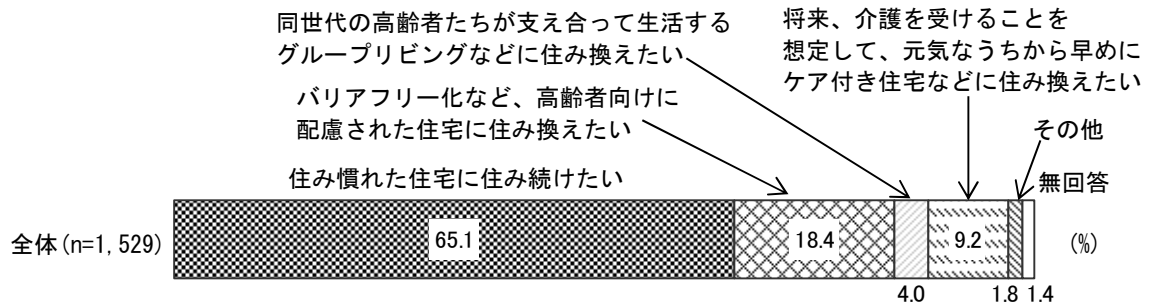


（２） 高齢期に住みたい住宅

◇「住み慣れた住宅に住み続けたい」が６割台半ば

問30 あなたは、高齢期を迎えたとき、どのような住宅に住みたいと思いますか。（○は１つ）

＜図表５－３＞高齢期に住みたい住宅



高齢期に住みたい住宅について聞いたところ、「住み慣れた住宅に住み続けたい」（65.1％）が６割台半ばで最も高く、以下、「バリアフリー化など、高齢者向けに配慮された住宅に住み換えたい」（18.4％）、「将来、介護を受けることを想定して、元気なうちから早めにケア付き住宅などに住み換えたい」（9.2％）が続く。（図表５－３）

【地域別】

地域別にみると、「住み慣れた住宅に住み続けたい」は“君津地域”（75.0％）が７割台半ばで高くなっている。

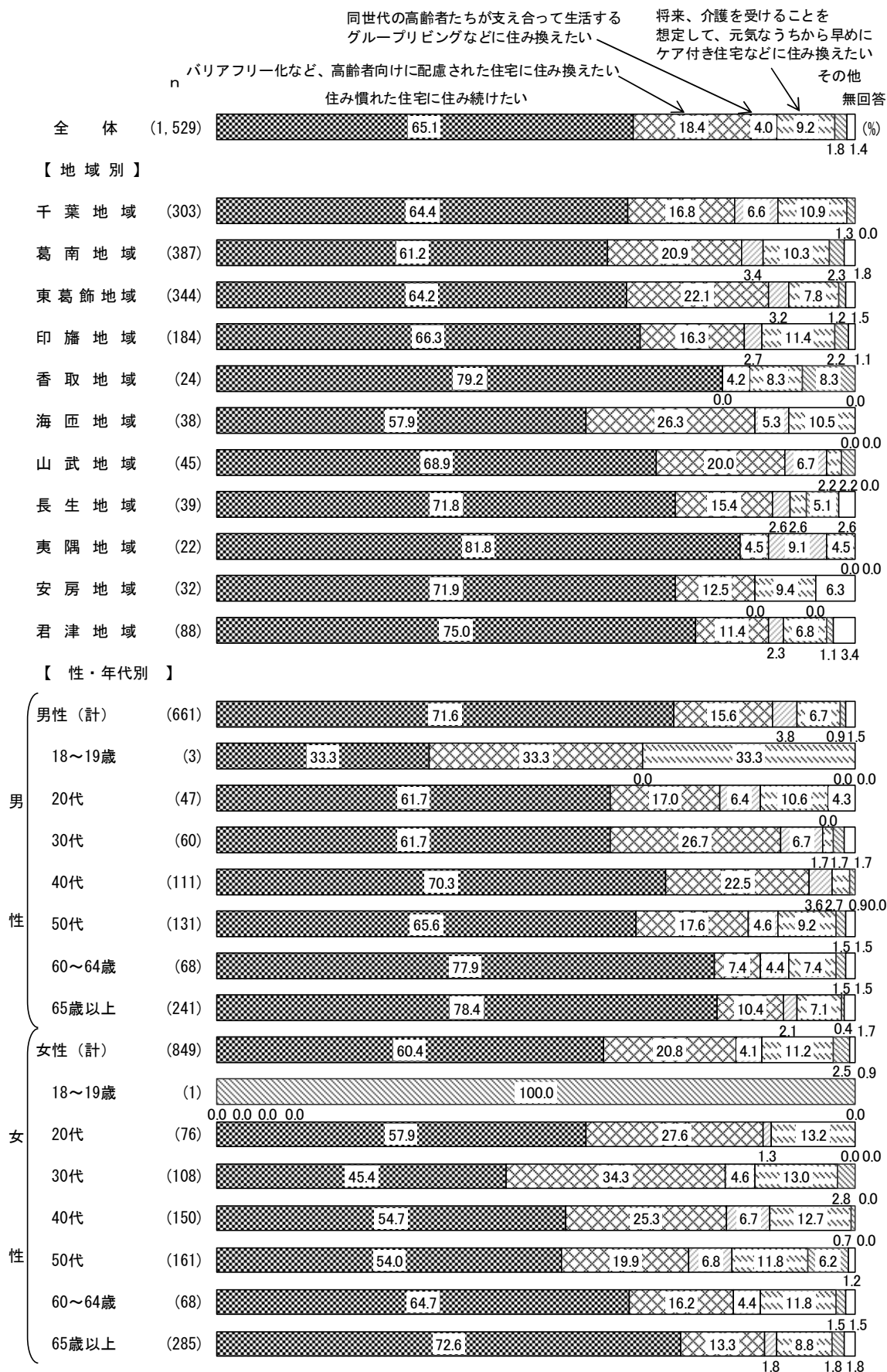
「バリアフリー化など、高齢者向けに配慮された住宅に住み換えたい」は“東葛飾地域”（22.1％）が２割を超えて高くなっている。（図表５－４）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「住み慣れた住宅に住み続けたい」は男性の65歳以上（78.4％）と男性の60～64歳（77.9％）が約８割、女性の65歳以上（72.6％）が７割を超えて高くなっている。

「バリアフリー化など、高齢者向けに配慮された住宅に住み換えたい」は女性の30代（34.3％）が３割台半ば、女性の20代（27.6％）が約３割、女性の40代（25.3％）が２割台半ばで高くなっている。（図表５－４）

＜図表5－4＞高齢期に住みたい住宅／地域別、性・年代別

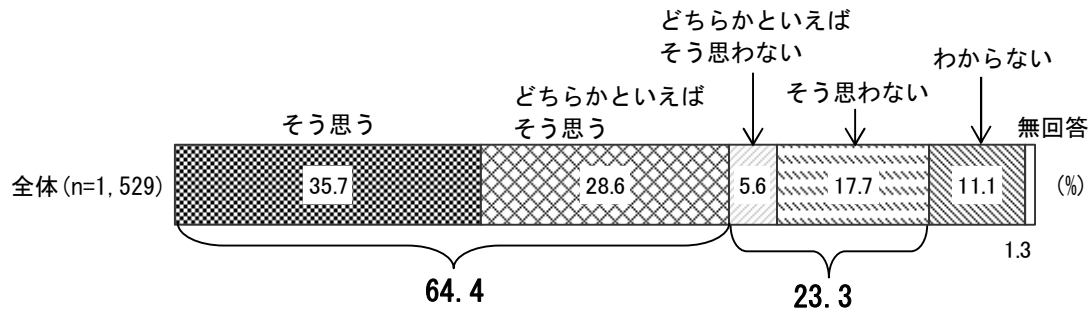


（３） 高齢期に備えた住宅の建て替え、買い替え、リフォームの必要性

◇『そう思う（計）』が６割台半ば

問31 高齢期に備え、あなたがお住まいの住宅の建て替え、買い替え、リフォームなどが必要だと思いますか。予定の有無にかかわらずお考えください。（○は１つ）

<図表５－５>高齢期に備えた住宅の建て替え、買い替え、リフォームの必要性



高齢期に備えた住宅の建て替え、買い替え、リフォームの必要性について、「そう思う」（35.7%）と「どちらかといえばそう思う」（28.6%）を合わせた『そう思う（計）』（64.4%）が６割台半ばとなっている。

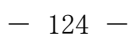
一方、「どちらかといえばそう思わない」（5.6%）と「そう思わない」（17.7%）を合わせた『そう思わない（計）』（23.3%）が２割を超えている。（図表５－５）

【地域別】

地域別にみると、『そう思う（計）』は“君津地域”（78.4%）が約８割、“東葛飾地域”（69.2%）が約７割で高くなっている。（図表５－６）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う（計）』は男性の30代（78.3%）が約８割、女性の50代（72.7%）が７割を超えて高くなっている。（図表５－６）

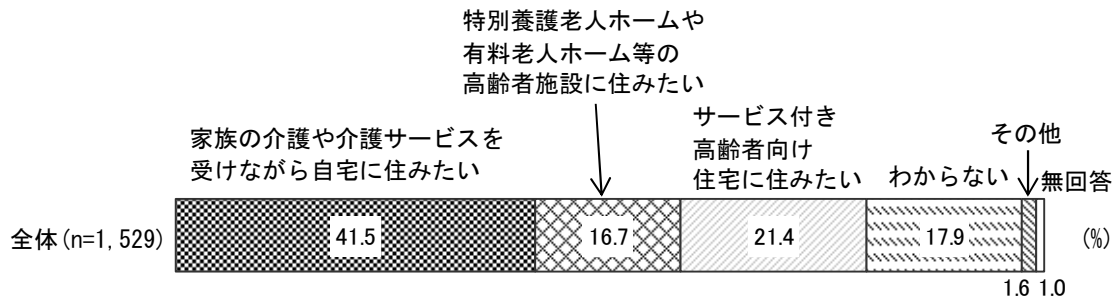


（４）介護が必要になった時に望む住まい方

◇「家族の介護や介護サービスを受けながら自宅に住みたい」が４割を超える

問32 あなたは、介護が必要になった時、どのような住まい方を望みますか。（○は１つ）

＜図表５－７＞介護が必要になった時に望む住まい方



介護が必要になった時に望む住まい方を聞いたところ、「家族の介護や介護サービスを受けながら自宅に住みたい」（41.5％）が４割を超えて、以下、「サービス付き高齢者向け住宅に住みたい」（21.4％）、「特別養護老人ホームや有料老人ホーム等の高齢者施設に住みたい」（16.7％）が続く。

（図表５－７）

【地域別】

地域別にみると、「家族の介護や介護サービスを受けながら自宅に住みたい」は“君津地域”（53.4％）が５割を超えて高くなっている。

「サービス付き高齢者向け住宅に住みたい」は“印旛地域”（27.7％）が約３割で高くなっている。

「特別養護老人ホームや有料老人ホーム等の高齢者施設に住みたい」は“香取地域”（33.3％）が３割を超えて高くなっている。（図表５－８）

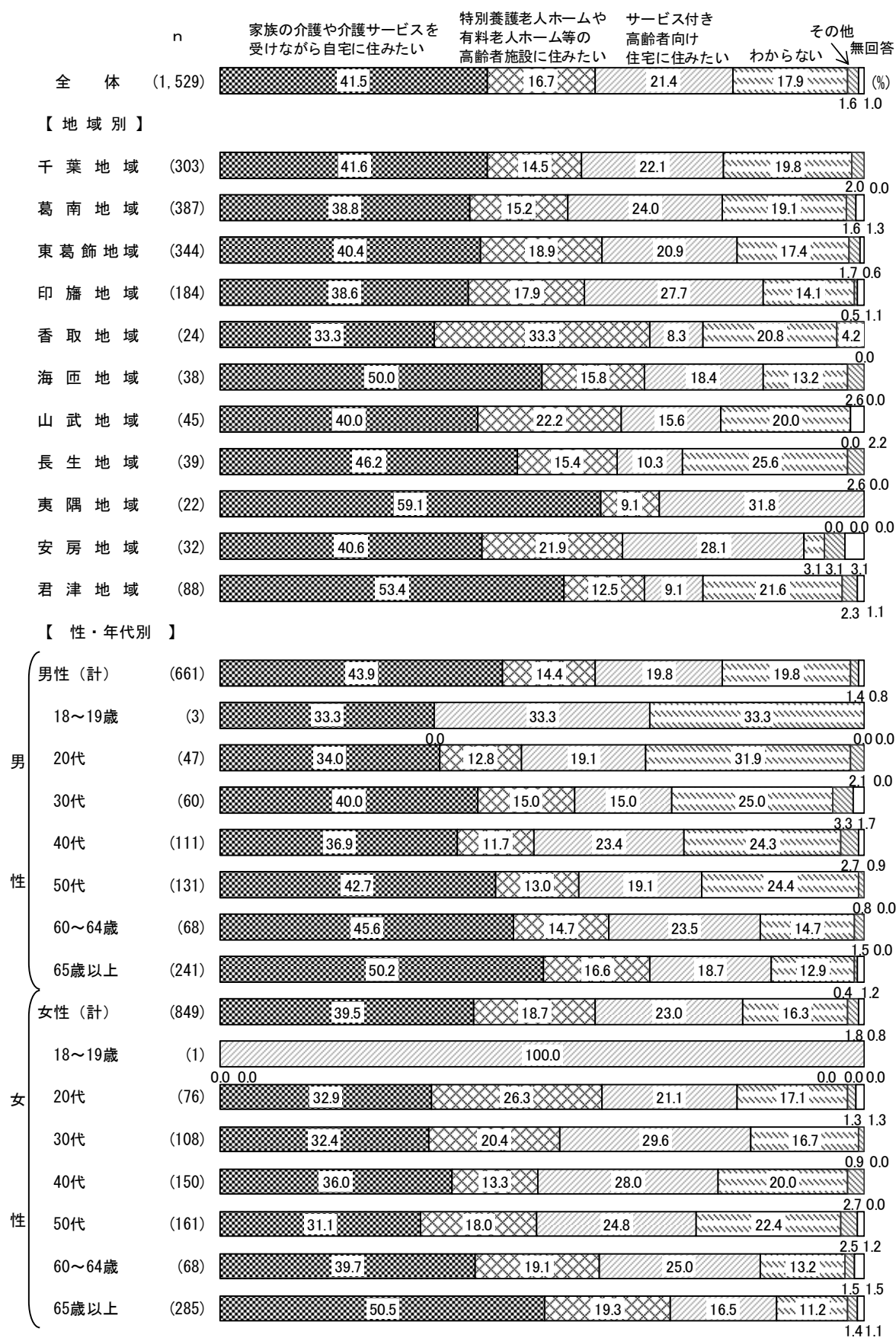
【性・年代別】

性・年代別にみると、「家族の介護や介護サービスを受けながら自宅に住みたい」は女性の65歳以上（50.5％）と男性の65歳以上（50.2％）が５割で高くなっている。

「サービス付き高齢者向け住宅に住みたい」は女性の30代（29.6％）と女性の40代（28.0％）が約３割で高くなっている。

「特別養護老人ホームや有料老人ホーム等の高齢者施設に住みたい」は女性の20代（26.3％）が２割台半ばで高くなっている。（図表５－８）

＜図表5－8＞介護が必要になった時に望む住まい方／地域別、性・年代別



このほかに、「高齢期の住まいについて」やここまでの質問（問29～問32）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、165人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「高齢期の住まいについて」の自由回答（抜粋）

○若者層は自分が高齢になった時まで考えていない人が多いと思います。県が高齢になった時の支援等発信して頂けるともっと考えるようになるのかなと思います。

（女性、20代、東葛飾地域）

○施設や高齢者向け住宅は家族も本人も安心でき、理想であるが、月額などが高すぎるイメージ。金銭的負担がもっと少なくなれば利用しやすい。

（女性、30代、葛南地域）

○見守り装置・緊急通報装置の自宅での設置→千葉県でもこういったサービスを充実させていけばいいと思います。

（男性、40代、東葛飾地域）

○建て替えやリフォームが簡単に高齢者自身で行える環境体制作り、アドバイザーや支援窓口の創設。

（男性、60～64歳、君津地域）

○住み慣れた我家に住みたいと思いますが、コロナ禍の現状将来から訪問ヘルパーさんの不足が考えられるので、なるべく安価で入れる高齢者施設を増やして欲しいと考えます。

（男性、65歳以上、夷隅地域）

○特養ホームや、低額の有料老人ホームは、希望しても現状では入所が極めて厳しいと聞きます。もっと容易に入所出来るよう、増やしていただきたいと考えます。

（男性、65歳以上、東葛飾地域）

○核家族世帯が増えて、孤独死などを迎える可能性が高い。配偶者がいても先立たれた場合、同様に確率が高くなる。今のうちから何らかの対応策を検討すべき。（男性、30代、葛南地域）

○住まい方は生活の質、人生の質に直結するので、それを含めた計画、策定を希望します。

（男性、40代、葛南地域）

○高齢化が進むなかで住宅設備の改善は必ず必要になると思う。防災の面や詐欺などの犯罪に会わないような対策も必要。

（女性、40代、東葛飾地域）

○自分で自分の事を出来るうちは自宅に住むが、出来なくなったらお世話になりたい。その時に何処に連絡したら良いか？必要な金額がわからない。

（男性、50代、千葉地域）

6 県民の治安に対する意識と警察に求めることについて

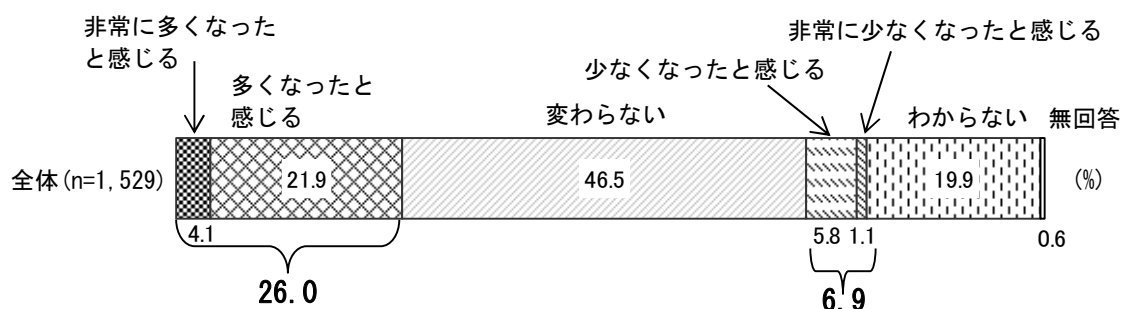
（１）お住まいの地域の犯罪発生状況

◇『多くなったと感じる（計）』が2割台半ば

県では、地域の安全を守るため県警をはじめとする各組織で、連携した取組を行っており、地域の安全を守るための今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問33 あなたは、現在お住まいの地域における最近の犯罪の発生状況について、どう感じますか。
（○は1つ）

＜図表6－1＞お住まいの地域の犯罪発生状況



お住まいの地域の犯罪発生状況について、「非常に多くなったと感じる」（4.1%）と「多くなったと感じる」（21.9%）を合わせた『多くなったと感じる（計）』（26.0%）が2割台半ばとなっている。

一方、「少なくなったと感じる」（5.8%）と「非常に少なくなったと感じる」（1.1%）を合わせた『少なくなったと感じる（計）』（6.9%）が1割未満となっている。（図表6－1）

【地域別】

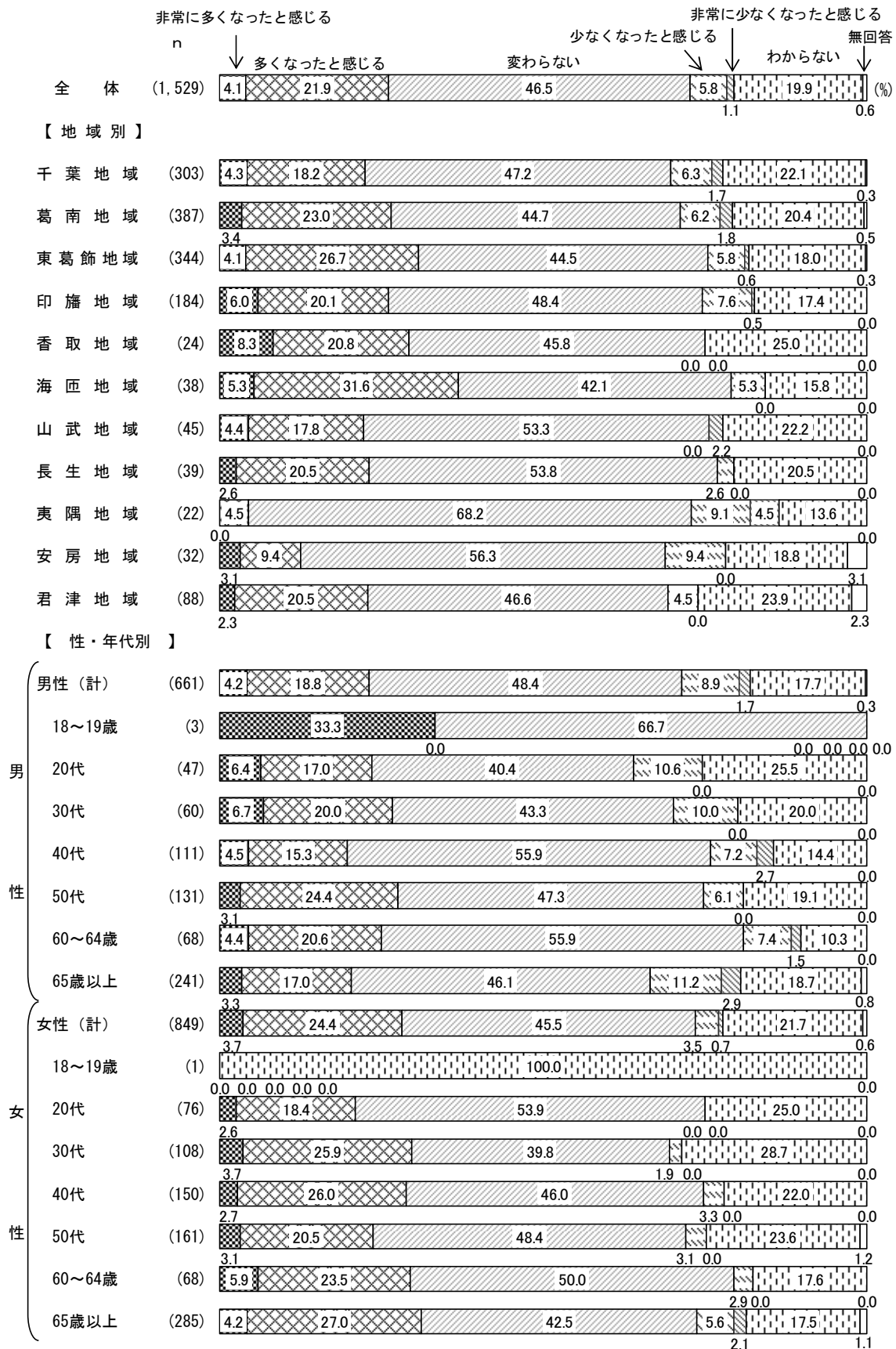
地域別にみると、『多くなったと感じる（計）』は“東葛飾地域”（30.8%）が3割で高くなっている。（図表6－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『多くなったと感じる（計）』は女性の65歳以上（31.2%）が3割を超えて高くなっている。

一方、『少なくなったと感じる（計）』は男性の65歳以上（14.1%）が1割台半ばで高くなっている。（図表6－2）

＜図表 6－2＞お住まいの地域の犯罪発生状況／地域別、性・年代別

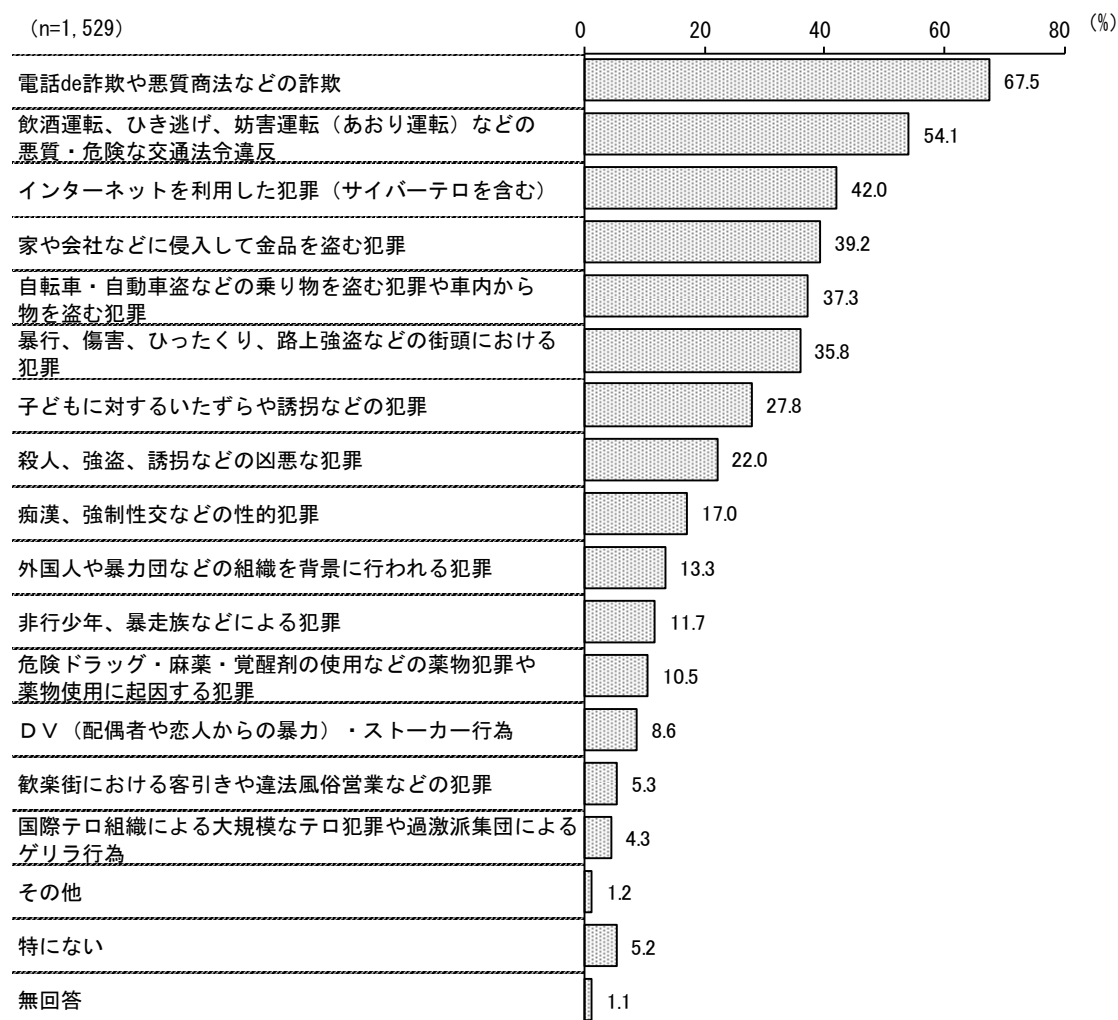


（２）自身や身近な人が巻き込まれる危険性に不安を感じる犯罪

◇「電話de詐欺や悪質商法などの詐欺」が約 7 割

問34 あなたは、あなた自身やあなたの家族、友人、同僚などの身近な人が巻き込まれる危険性について、不安を感じている犯罪はありますか。（○はいくつでも）

<図表 6－3> 自身や身近な人が巻き込まれる危険性に不安を感じる犯罪



自身や身近な人が巻き込まれる危険性に不安を感じる犯罪について聞いたところ、「電話de詐欺や悪質商法などの詐欺」(67.5%) が約 7 割で最も高く、以下、「飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」(54.1%)、「インターネットを利用した犯罪（サイバーテロを含む）」(42.0%)、「家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪」(39.2%) が続く。

(図表 6－3)

【地域別】

地域別にみると、「飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」は“印旛地域” (62.0%) が 6 割を超えて高くなっている。

「家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪」は“香取地域” (62.5%) が 6 割を超えて高くなっている。(図表 6－4)

【性・年代別】

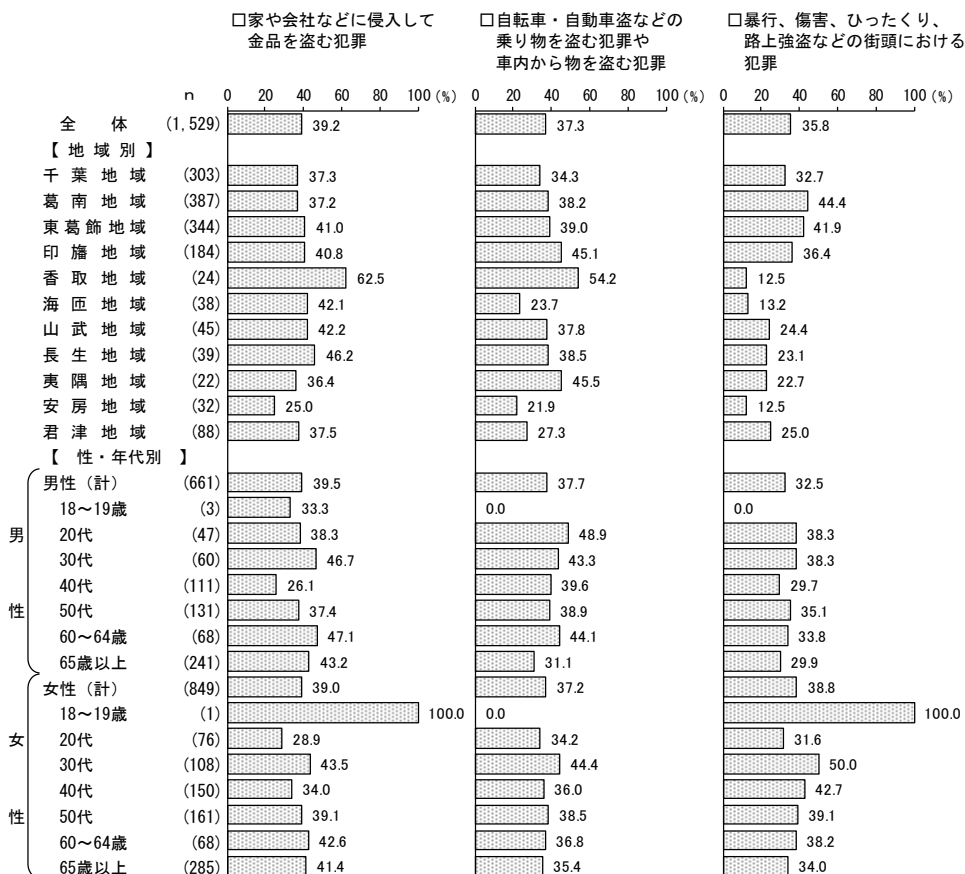
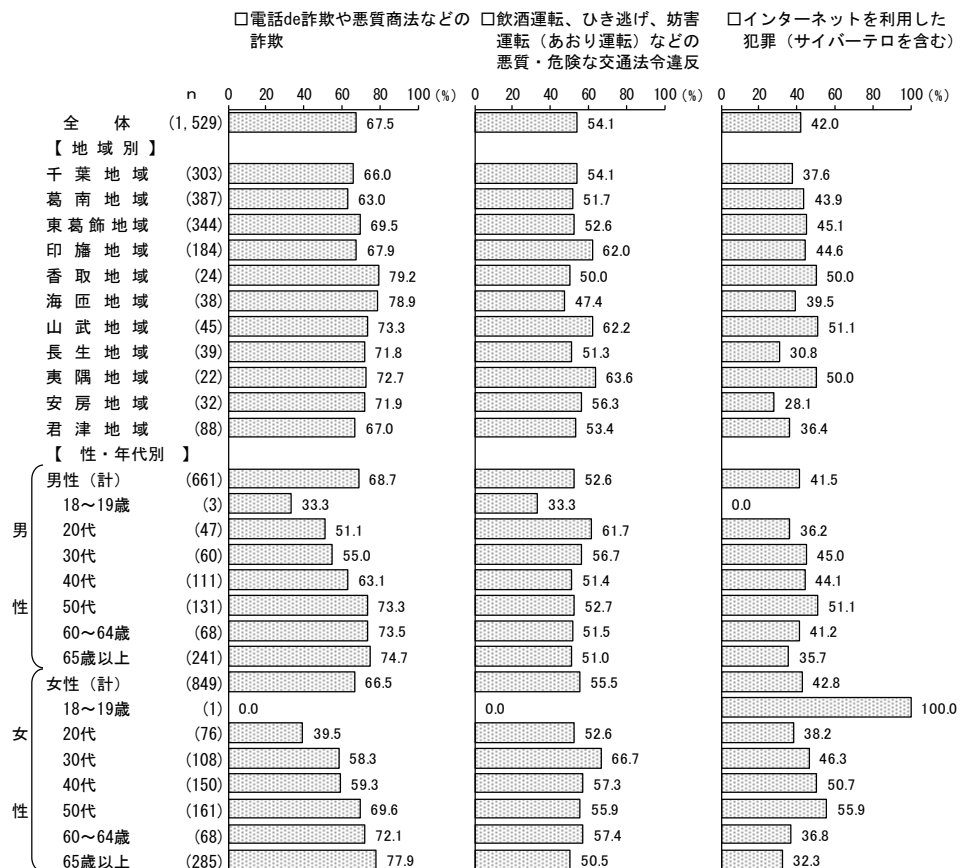
性・年代別にみると、「電話de詐欺や悪質商法などの詐欺」は女性の65歳以上（77.9%）が約8割、男性の65歳以上（74.7%）が7割台半ばで高くなっている。

「飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」は女性の30代（66.7%）が6割台半ばで高くなっている。

「インターネットを利用した犯罪（サイバーテロを含む）」は女性の50代（55.9%）が5割台半ば、男性の50代（51.1%）が5割を超え、女性の40代（50.7%）が5割で高くなっている。

（図表6－4）

＜図表６－４＞自身や身近な人が巻き込まれる危険性に不安を感じる犯罪／地域別、性・年代別

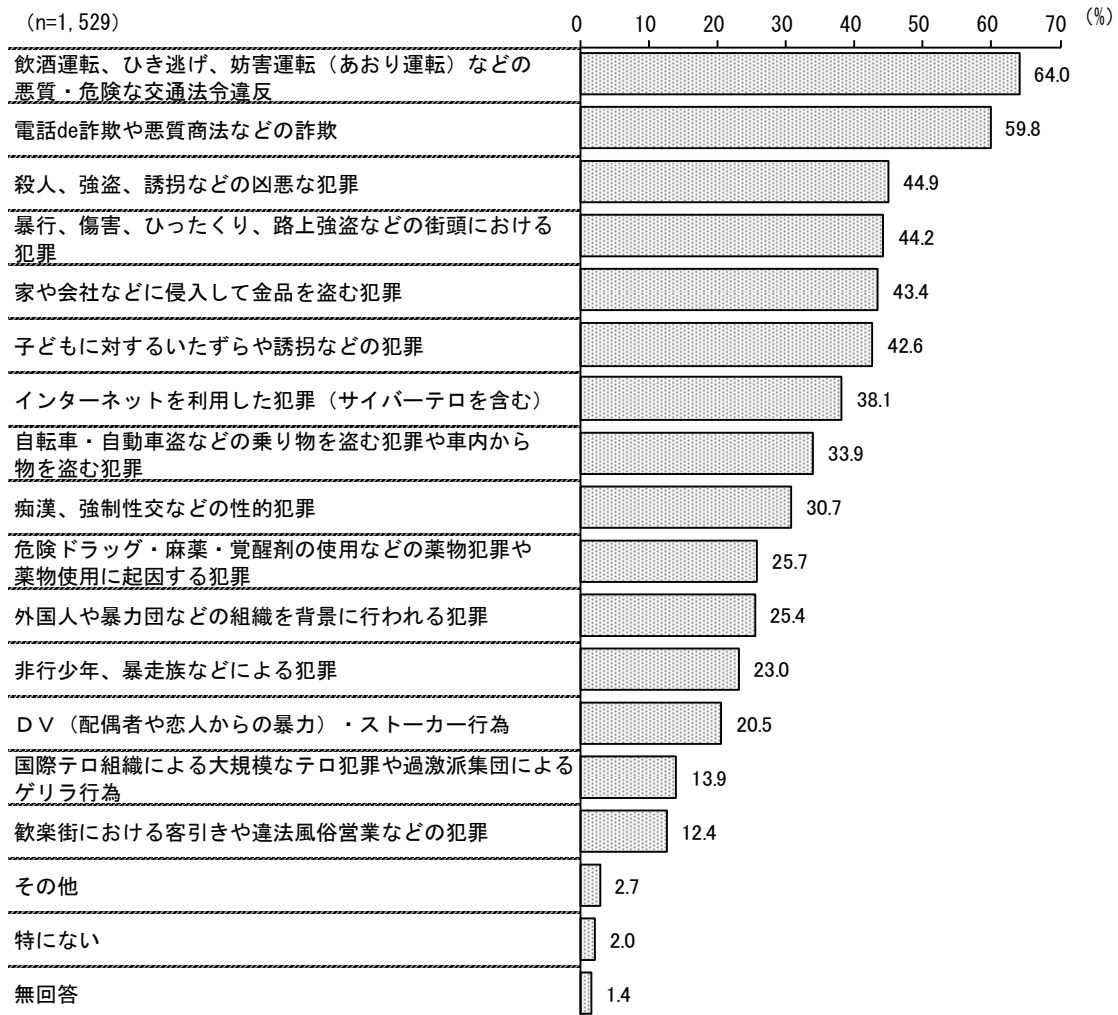


（３）警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪

◇「飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」が６割台半ば

問35 あなたが、警察に力を入れて取り締まって欲しい犯罪は何ですか。（○はいくつでも）

＜図表 6－5＞警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪



警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪について聞いたところ、「飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」（64.0%）が６割台半ばで最も高く、以下、「電話de詐欺や悪質商法などの詐欺」（59.8%）、「殺人、強盗、誘拐などの凶悪な犯罪」（44.9%）、「暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪」（44.2%）が続く。

（図表 6－5）

【地域別】

地域別にみると、「飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」は“印旛地域”（71.2%）が７割を超えて高くなっている。

「電話de詐欺や悪質商法などの詐欺」は“海匝地域”（76.3%）が７割台半ばで高くなっている。

「暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪」は“東葛飾地域”（50.0%）が

5割で高くなっている。（図表 6－6）

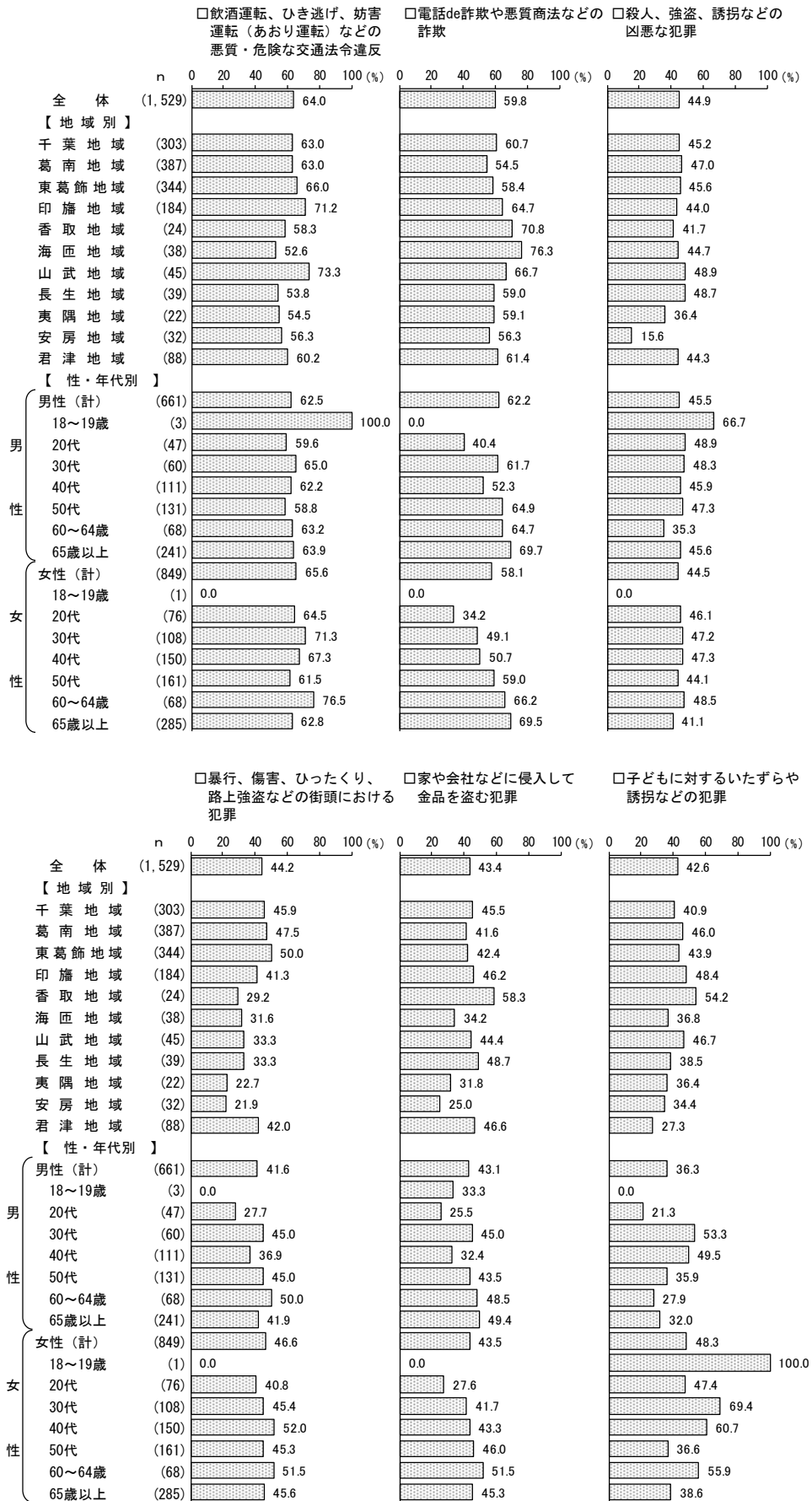
【性・年代別】

性・年代別にみると、「飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」は女性の60～64歳（76.5%）が7割台半ばで高くなっている。

「電話de詐欺や悪質商法などの詐欺」は男性の65歳以上（69.7%）と女性の65歳以上（69.5%）が約7割で高くなっている。

「暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪」は女性の40代（52.0%）が5割を超えて高くなっている。（図表 6－6）

＜図表 6－6＞警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪／地域別、性・年代別

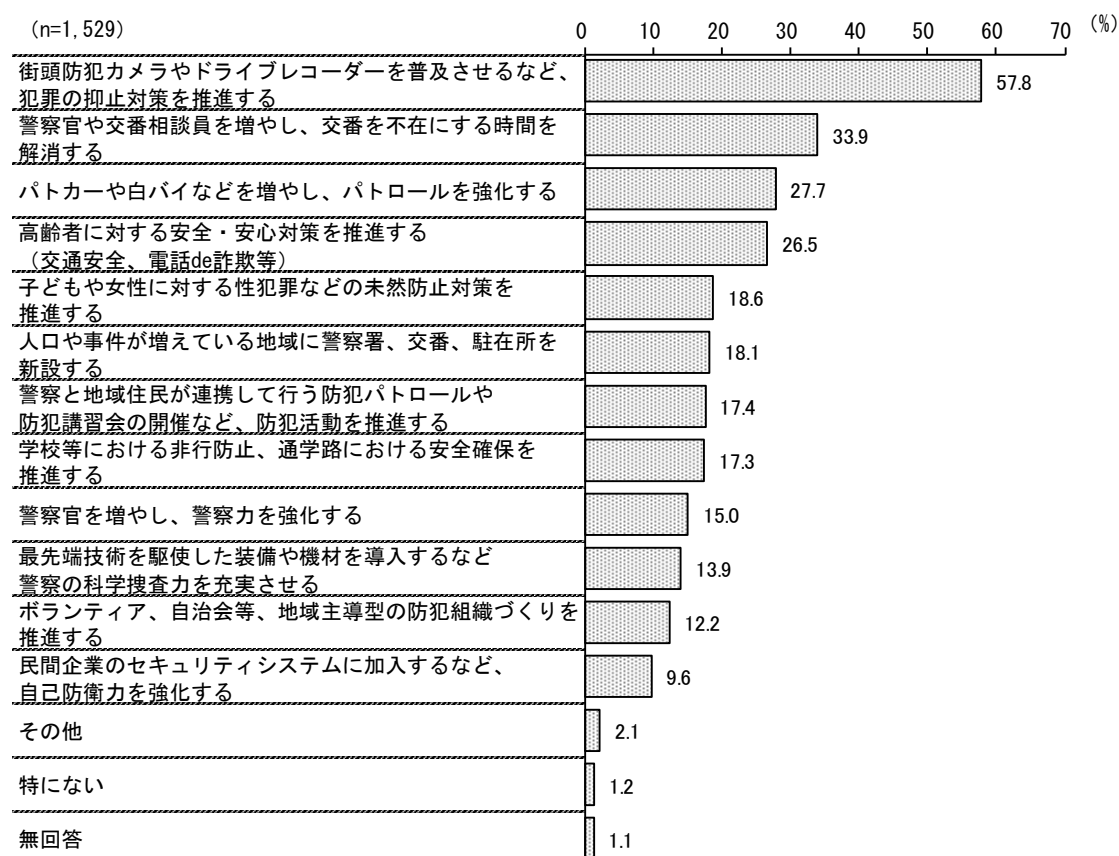


（４）安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと

◇「街頭防犯カメラやドライブレコーダーを普及させるなど、犯罪の抑止対策を推進する」が約６割

問36 あなたは、犯罪や事故の心配のない、安全で安心できる生活を守っていくために、何が必要だと思いますか。（○は３つまで）

＜図表６－７＞安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと



安全で安心できる生活を守っていくために必要なことについて聞いたところ、「街頭防犯カメラやドライブレコーダーを普及させるなど、犯罪の抑止対策を推進する」（57.8%）が約６割で最も高く、以下、「警察官や交番相談員を増やし、交番を不在にする時間を解消する」（33.9%）、「パトカーや白バイを増やし、パトロールを強化する」（27.7%）、「高齢者に対する安全・安心対策を推進する（交通安全、電話de詐欺等）」（26.5%）が続く。（図表６－７）

【地域別】

地域別にみると、「高齢者に対する安全・安心対策を推進する（交通安全、電話de詐欺等）」は“夷隅地域”（54.5%）が５割台半ば、“長生地域”（46.2%）が４割台半ば、“海匝地域”（42.1%）が４割を超えて高くなっている。（図表６－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「警察官や交番相談員を増やし、交番を不在にする時間を解消する」は男性の50代（42.7%）と女性の65歳以上（41.4%）が4割を超えて高くなっている。

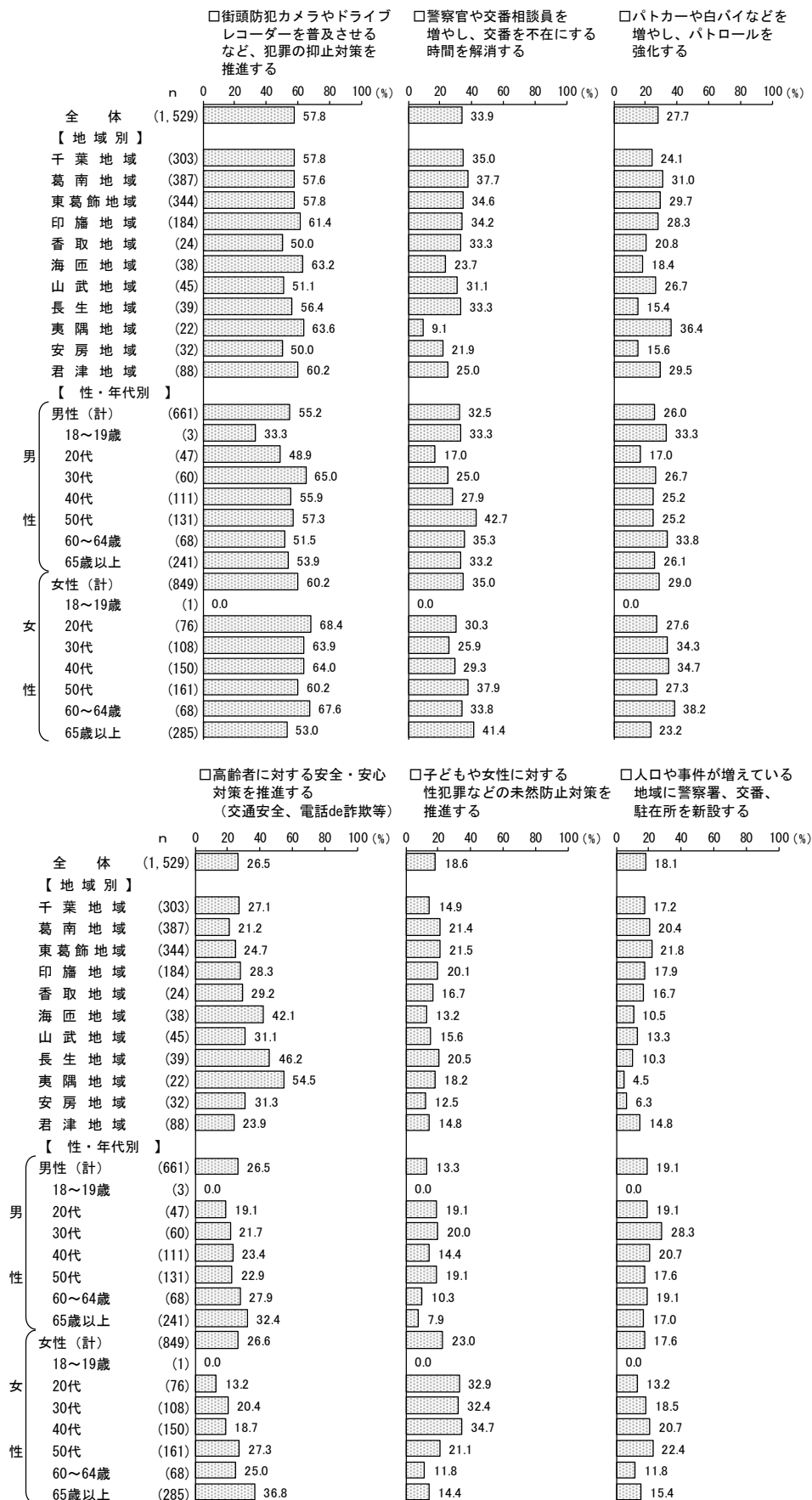
「パトカーや白バイなどを増やし、パトロールを強化する」は女性の60～64歳（38.2%）が約4割、女性の40代（34.7%）が3割台半ばで高くなっている。

「高齢者に対する安全・安心対策を推進する（交通安全、電話de詐欺等）」は女性の65歳以上（36.8%）が3割台半ば、男性の65歳以上（32.4%）が3割を超えて高くなっている。

「子どもや女性に対する性犯罪などの未然防止対策を推進する」は女性の40代（34.7%）が3割台半ば、女性の20代（32.9%）と女性の30代（32.4%）が3割を超えて高くなっている。

（図表6－8）

＜図表６－８＞安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと／地域別、性・年代別



このほかに、「県民の治安に対する意識と警察に求めることについて」やここまでの質問（問33～問36）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、153人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「県民の治安に対する意識と警察に求めることについて」の自由回答（抜粋）

○街頭防犯カメラは、もっと増やすべきだと思う。高齢者のいる家庭において、通知機能のある電話機を貸し出し。（女性、30代、葛南地域）

○不審者情報など、ラインなどの身近なアプリで調べる事ができたら良いと思った。犯罪しづらい町づくりというより、犯罪がおこらない地域にする事。（女性、40代、山武地域）

○これから警察も少子高齢化の影響でマンパワーが不足すると思う。新しい技術の活用や民間セキュリティや防犯ビデオの増設により補う必要があると思う。（男性、50代、東葛飾地域）

○交番を不在にしないこと。OBの活用など、地域ぐるみでの治安に努めること。（男性、65歳以上、葛南地域）

○治安について活動している事を、もっとこういう事をやってますとアピールすると意識が高まるのではないのでしょうか？（女性、50代、東葛飾地域）

○16号では爆音をならして通行するバイクが多いが、ある一定以上の騒音を出すバイクは取り締まるなどの法律整備や法律があるなら取り締まってほしい。（男性、50代、葛南地域）

○治安の問題は地域による格差が激しい。千葉県とひとくくりにできない。私が住んでいるあたりは非常に治安が良いが、少し離れるとかなり問題な地区もある。隣にそうした地区があると不安は解消されない。治安の地域格差解消をよく考えなければならないと思う。（男性、50代、印旛地域）

○警察に相談しても意味がない、警察に相談したのに追い返された、という意見をネット上で多く見ます。一件一件真摯な対応をお願いするのは効率的ではありませんが、そこに犯罪が存在しているなら対応をしてほしいです。（女性、20代、千葉地域）

○警察や自治体でかなり取り組んで頂いてると思いますが、まだまだ十分とは言えないので引き続き強化して欲しい。（男性、65歳以上、夷隅地域）

○児童虐待や、子、女性に対する性犯罪等は心が痛む。地域、児相、学校等々の連携で1件でも減ってほしい。（女性、65歳以上、安房地域）

7 犯罪被害者等支援について

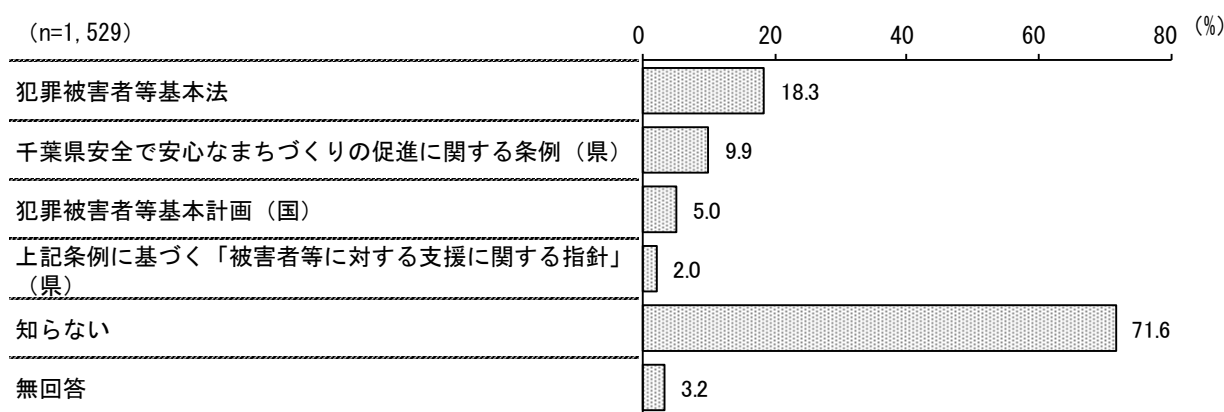
（1）犯罪被害者等の権利利益の保護を目的として制定された法令等の認知度

◇「犯罪被害者等基本法」が約2割

県では、「千葉県安全で安心なまちづくりの促進に関する条例」に基づき、「被害者等に対する支援に関する指針」を定め、犯罪被害者やその家族又は遺族（以下「犯罪被害者等」といいます）の支援に取り組んでおり、今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。※調査時点においては、「千葉県犯罪被害者等支援条例」（令和3年4月1日施行）は制定されていませんでした。

問37 あなたは、犯罪被害者等の権利利益の保護を目的として制定された法令等を知っていますか。名前を知っているものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

<図表7-1> 犯罪被害者等の権利利益の保護を目的として制定された法令等の認知度



犯罪被害者等の権利利益の保護を目的として制定された法令等についての認知度を聞いたところ、「犯罪被害者等基本法」（18.3%）が約2割で最も高く、以下、「千葉県安全で安心なまちづくりの促進に関する条例（県）」（9.9%）、「犯罪被害者等基本計画（国）」（5.0%）、「上記条例に基づく「被害者等に対する支援に関する指針」（県）」（2.0%）が続く。

一方、「知らない」（71.6%）が7割を超えている。（図表7-1）

【地域別】

地域別にみると、「千葉県安全で安心なまちづくりの促進に関する条例（県）」は“山武地域”（20.0%）が2割で高くなっている。

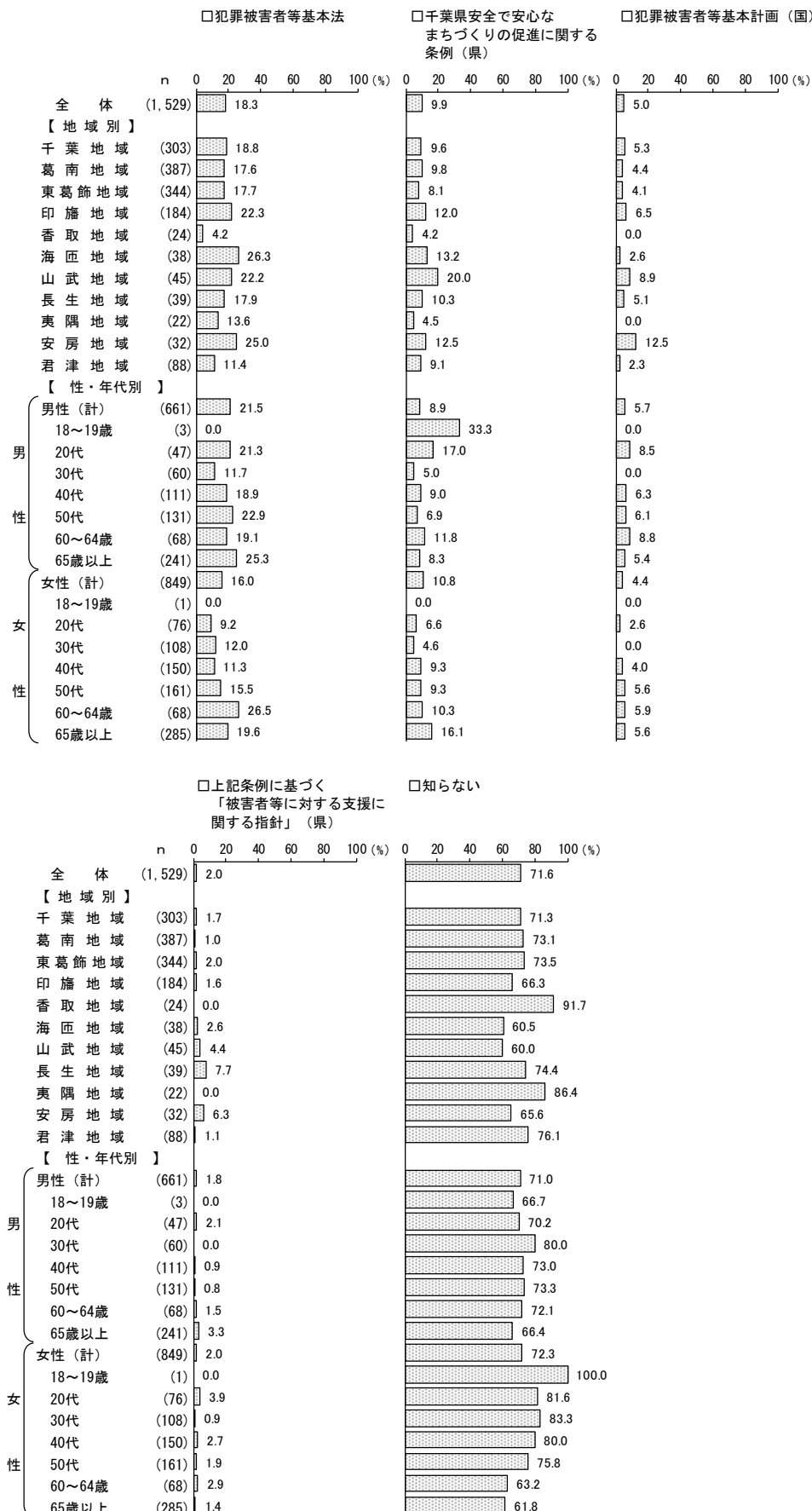
一方、「知らない」は“香取地域”（91.7%）が9割を超えて高くなっている。（図表7-2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「犯罪被害者等基本法」は男性の65歳以上（25.3%）が2割台半ばで高くなっている。

一方、「知らない」は女性の30代（83.3%）と女性の20代（81.6%）が8割を超え、女性の40代（80.0%）が8割で高くなっている。（図表7-2）

＜図表 7－2＞犯罪被害者等の権利利益の保護を目的として制定された法令等の認知度／地域別、性・年代別

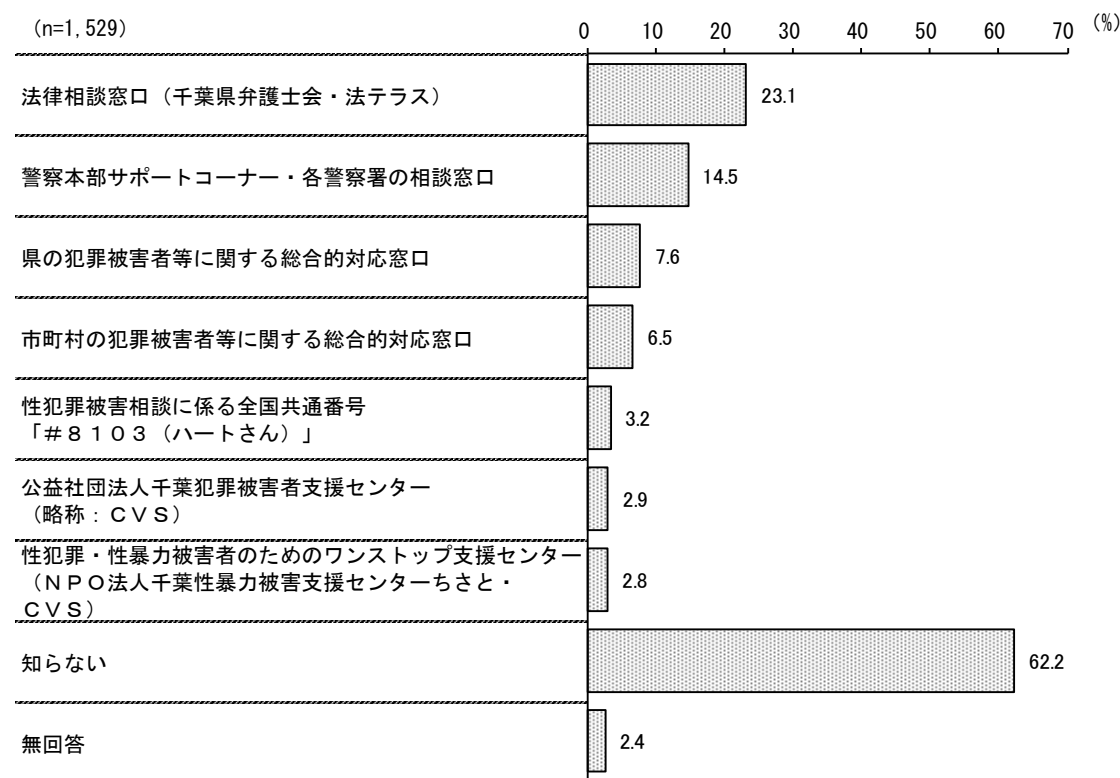


（２）犯罪被害者等のための相談窓口の認知度

◇「法律相談窓口（千葉県弁護士会・法テラス）」が２割を超える

問38 あなたは、犯罪被害者等のための相談窓口を知っていますか。名前を知っているものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

<図表 7－3> 犯罪被害者等のための相談窓口の認知度



犯罪被害者等のための相談窓口の認知度を聞いたところ、「法律相談窓口（千葉県弁護士会・法テラス）」（23.1%）が２割を超えて最も高く、以下、「警察本部サポートコーナー・各警察署の相談窓口」（14.5%）、「県の犯罪被害者等に関する総合的対応窓口」（7.6%）、「市町村の犯罪被害者等に関する総合的対応窓口」（6.5%）が続く。

一方、「知らない」（62.2%）が６割を超えている。（図表 7－3）

【地域別】

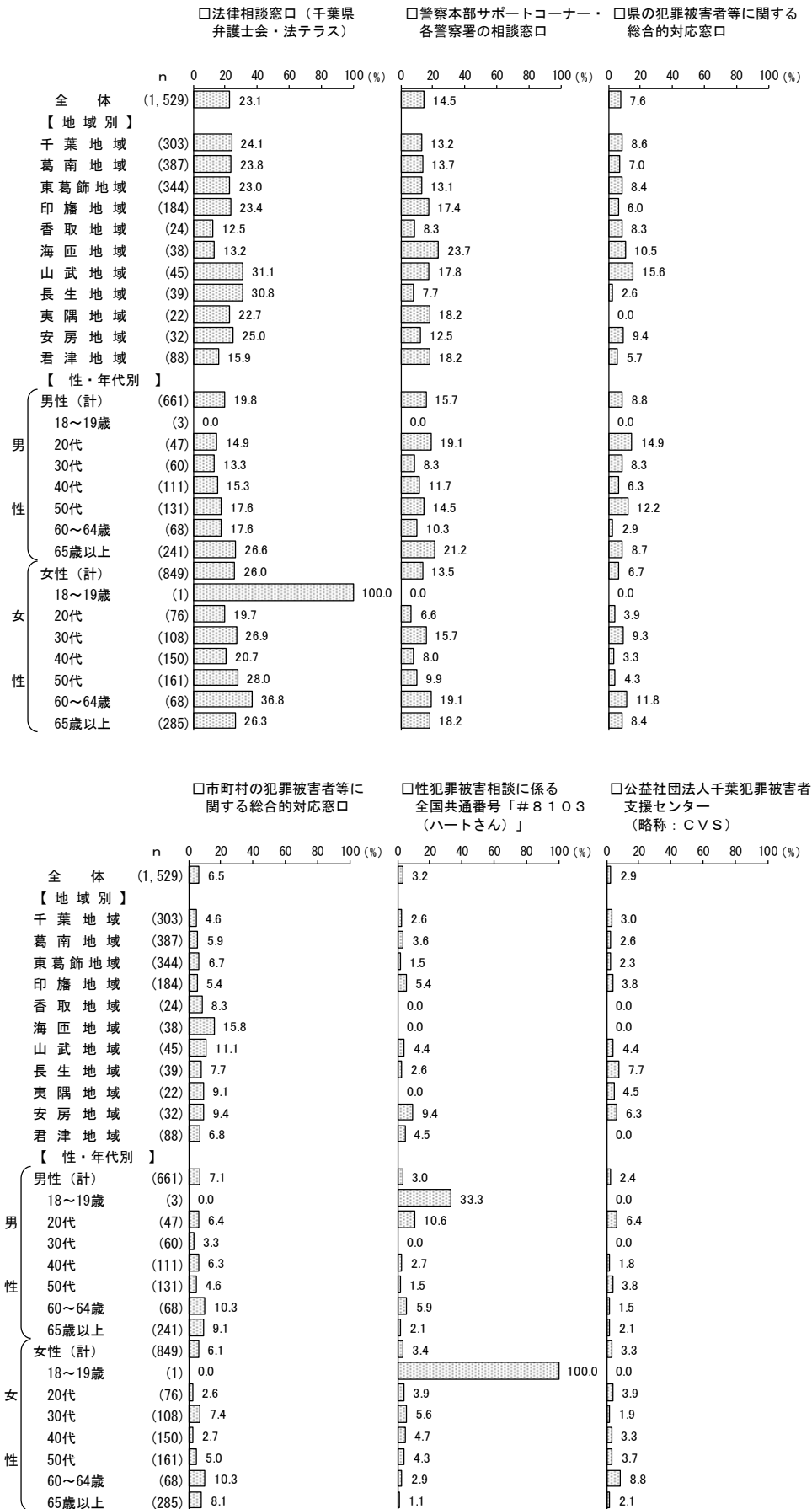
地域別にみると、「県の犯罪被害者等に関する総合的対応窓口」は“山武地域”（15.6%）が１割台半ばで高くなっている。

「市町村の犯罪被害者等に関する総合的対応窓口」は“海匝地域”（15.8%）が１割台半ばで高くなっている。（図表 7－4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「法律相談窓口（千葉県弁護士会・法テラス）」は女性の60～64歳（36.8%）が３割台半ばで高くなっている。（図表 7－4）

＜図表 7－4＞犯罪被害者等のための相談窓口の認知度／地域別、性・年代別

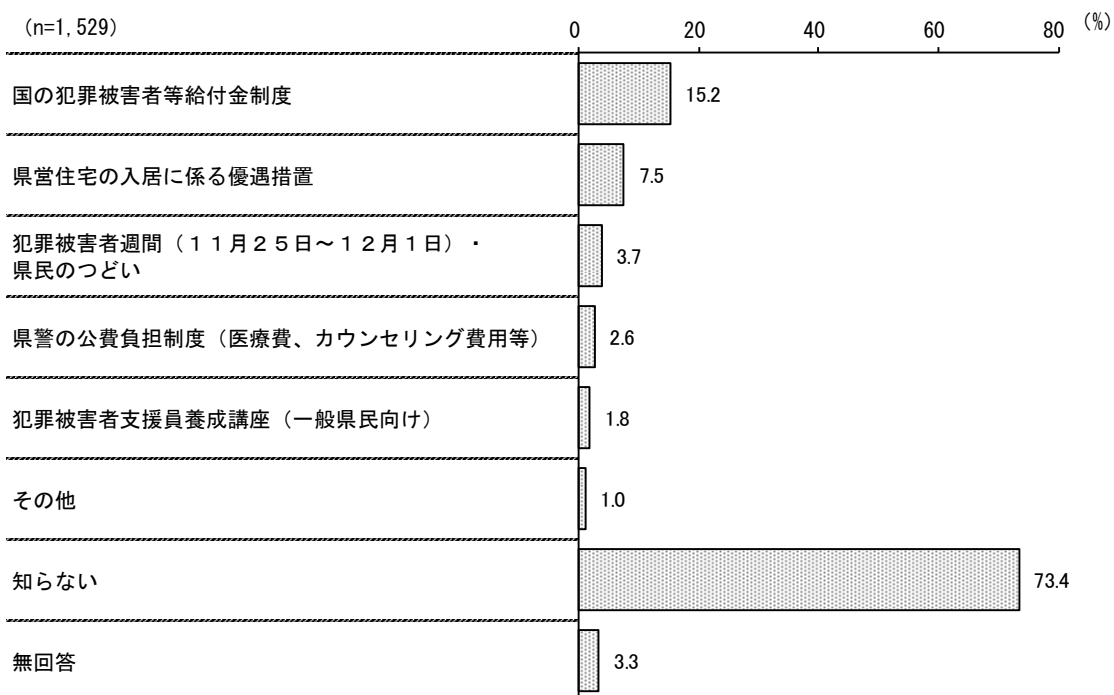


（３）犯罪被害者等のための施策の認知度

◇「国の犯罪被害者等給付金制度」が１割台半ば

問39 あなたは、以下の施策を知っていますか。名前を知っているものをすべて選んでください。
(○はいくつでも)

＜図表 7－5＞犯罪被害者等のための施策の認知度



犯罪被害者等のための施策の認知度を聞いたところ、「国の犯罪被害者等給付金制度」（15.2%）が１割台半ばで最も高く、以下、「県営住宅の入居に係る優遇措置」（7.5%）、「犯罪被害者週間（11月25日～12月1日）・県民のつどい」（3.7%）が続く。

一方、「知らない」（73.4%）が7割を超えている。（図表 7－5）

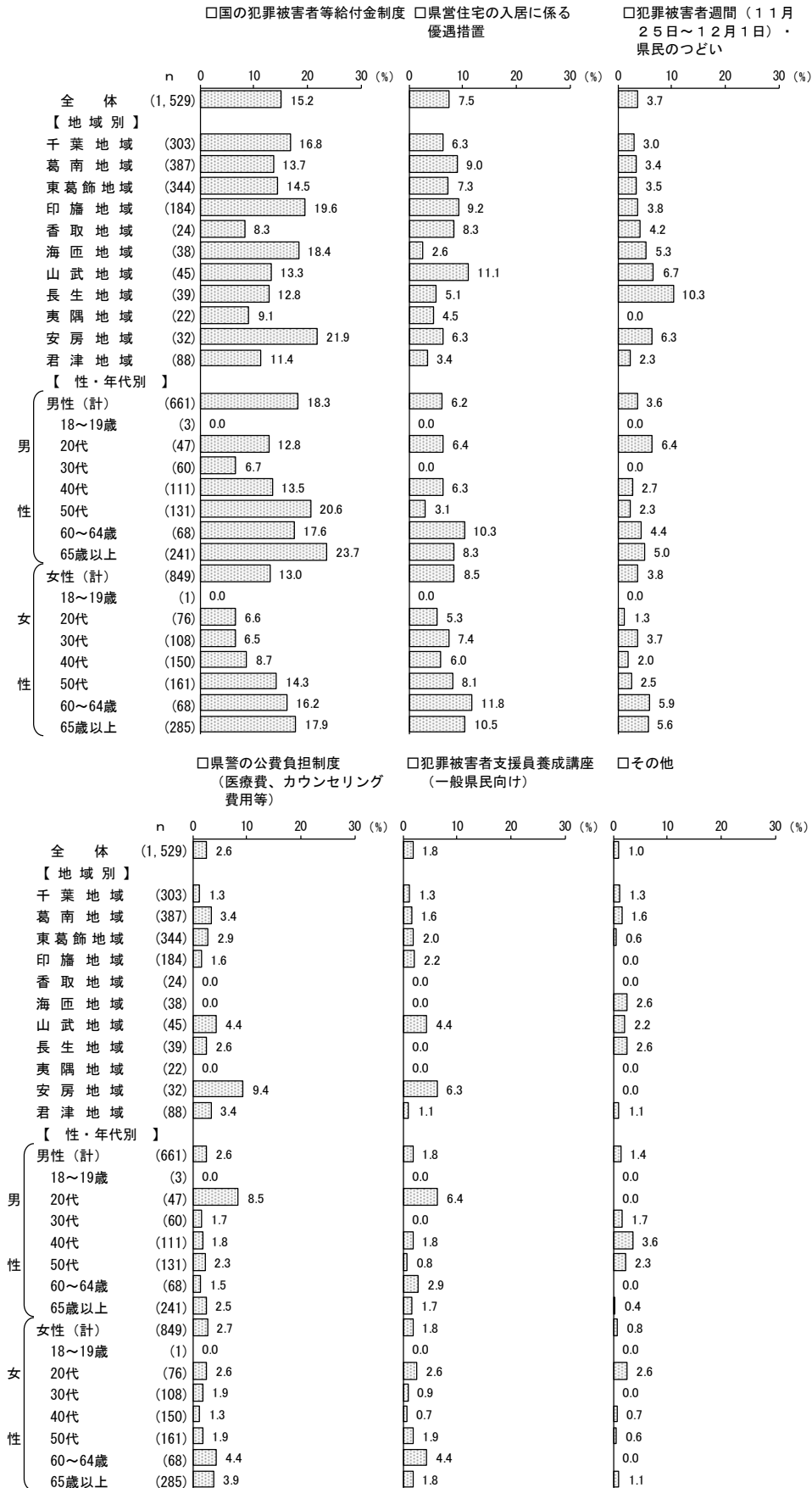
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表 7－6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「国の犯罪被害者等給付金制度」は男性の65歳以上（23.7%）が２割台半ばで高くなっている。（図表 7－6）

＜図表 7－6＞犯罪被害者等のための施策の認知度／地域別、性・年代別



このほかに、「犯罪被害者等支援について」やここまでの質問（問37～問39）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、63人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「犯罪被害者等支援について」の自由回答（抜粋）

○自分自身が犯罪に巻き込まれた時、どうすれば良いかの知識がないなと感じました。県が積極的に発信（SNS等）することで少しは身近に感じるかなと思いました。

（女性、20代、東葛飾地域）

○全く知らないところばかりなので、市役所からのメールなどで、定期的にこれらの情報を少しずつ発信するとよい。

（女性、30代、印旛地域）

○私の知識不足ですが、どれも知らなかったです。いざとなってから情報を得ていたのではおそすぎるので、身近に、情報を得やすい環境になっているとありがたいです。

（女性、30代、千葉地域）

○自分自身この様な支援がある事を知りませんでした。もっと広報等を通じてPRするとか住民に知らせる必要があると思います。

（男性、65歳以上、夷隅地域）

○犯罪被害者は、その時は大丈夫でも数年後急に日常生活に支障が出ることもあります。手厚いサポートをお願いします。また、泣き寝入りしたことで犯罪の立証ができなくても、サポートを受けられるようにしてほしい。

（女性、20代、千葉地域）

○被害者支援はもちろんのこと、加害者の更生保護や支援、加害者家族や関係者への支援も両輪であると思います。

（男性、40代、葛南地域）

○被害者は心に深く傷を負っています。専門家のカウンセリングやサポートが何より必要です。素人ではできない気がします。

（女性、65歳以上、葛南地域）

○多くの支援活動が行われていること自体、知りませんでした。被害者の方の権利が守られるよう協力していきたいと思います。

（男性、40代、千葉地域）

○犯罪の被害にあわれた方におくやみ申し上げます。被害にあわれた方への一層の制度の充実、フォロー、バックアップを国や警察機関をあげて強化して欲しいです。

（女性、40代、東葛飾地域）

○被害者の報道に関する規制をもっとしてほしい。

（女性、30代、葛南地域）

8 サイバー空間の安全対策について

（１）ネット犯罪への危機感

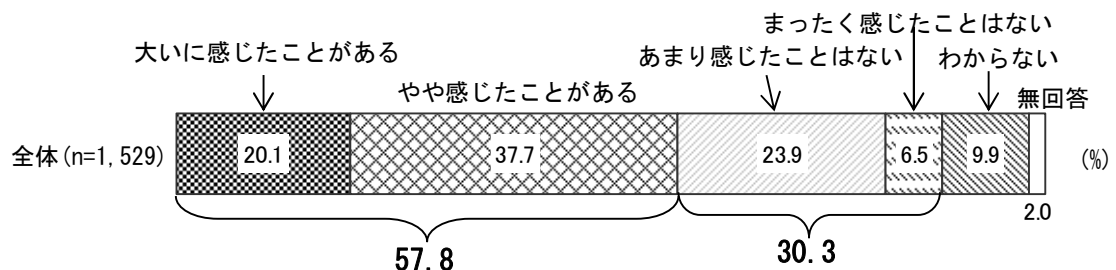
◇『感じたことがある（計）』が約６割

インターネットが県民生活に浸透する中で、コミュニケーション手段がオンラインを中心としたものへ移行するとともに、様々な場面においてインターネットの利用が拡大しています。一方、サイバー犯罪が多発するなど、サイバー空間の脅威が深刻化しており、効果的な対策を検討するため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

（※）サイバー犯罪とは、コンピュータネットワーク上で行われる犯罪をいい、ここでは、以下「ネット犯罪」と称します。

問40 あなたは、ネット犯罪を身近なものとして感じたことがありますか。（○は１つ）

<図表８－１> ネット犯罪への危機感



ネット犯罪への危機感について、「大いに感じたことがある」（20.1％）と「やや感じたことがある」（37.7％）を合わせた『感じたことがある（計）』（57.8％）が約６割となっている。

一方、「あまり感じたことはない」（23.9％）と「まったく感じたことはない」（6.5％）を合わせた『感じたことはない（計）』（30.3％）が３割となっている。（図表８－１）

【地域別】

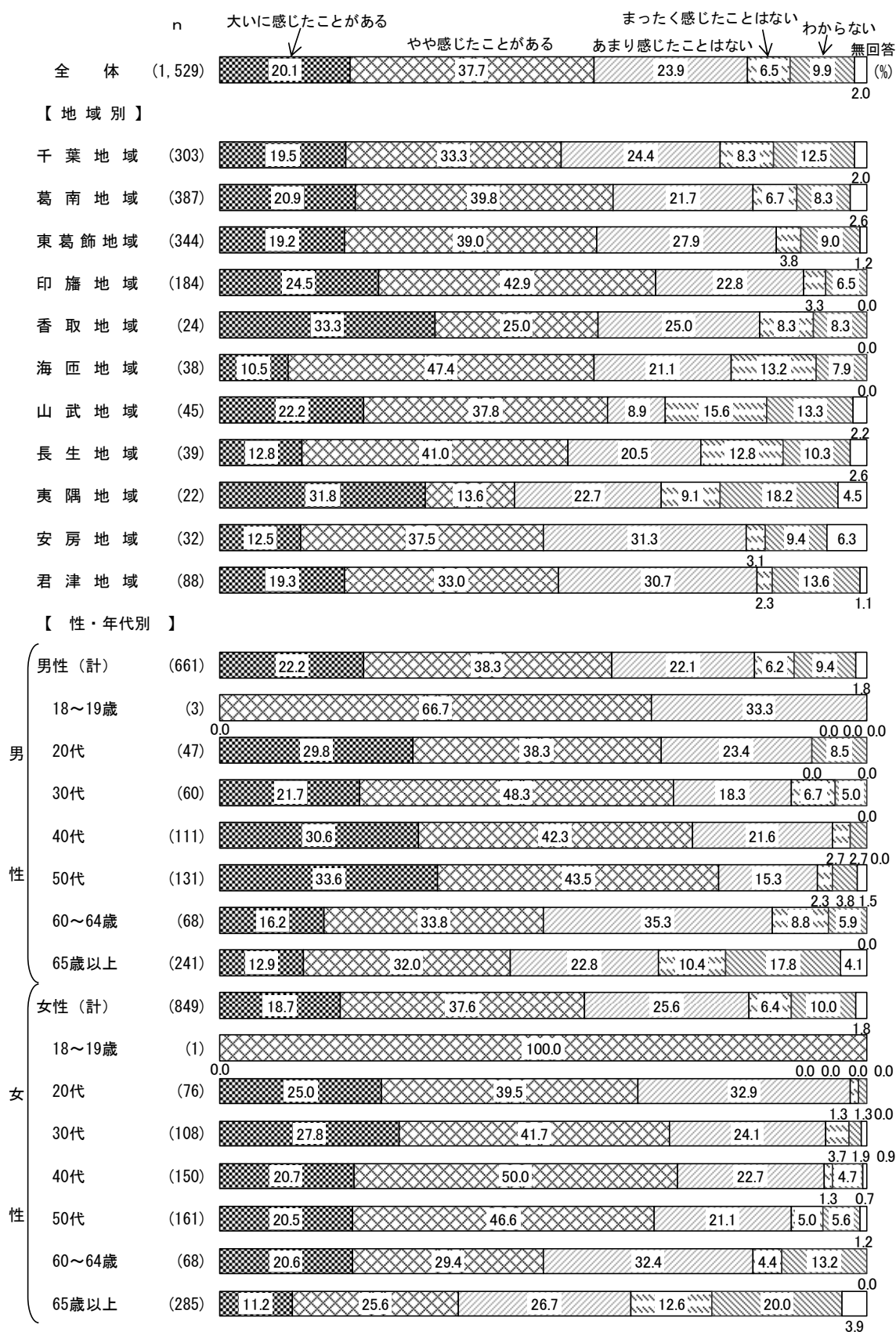
地域別にみると、『感じたことがある（計）』は“印旛地域”（67.4％）が約７割で高くなっている。（図表８－２）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『感じたことがある（計）』は男性の50代（77.1％）が約８割、男性の40代（73.0％）が７割を超え、女性の40代（70.7％）が７割、女性の30代（69.4％）と女性の50代（67.1％）が約７割で高くなっている。

一方、『感じたことはない（計）』は男性の60～64歳（44.1％）が４割台半ば、女性の65歳以上（39.3％）が約４割で高くなっている。（図表８－２）

＜図表８－２＞ネット犯罪への危機感／地域別、性・年代別

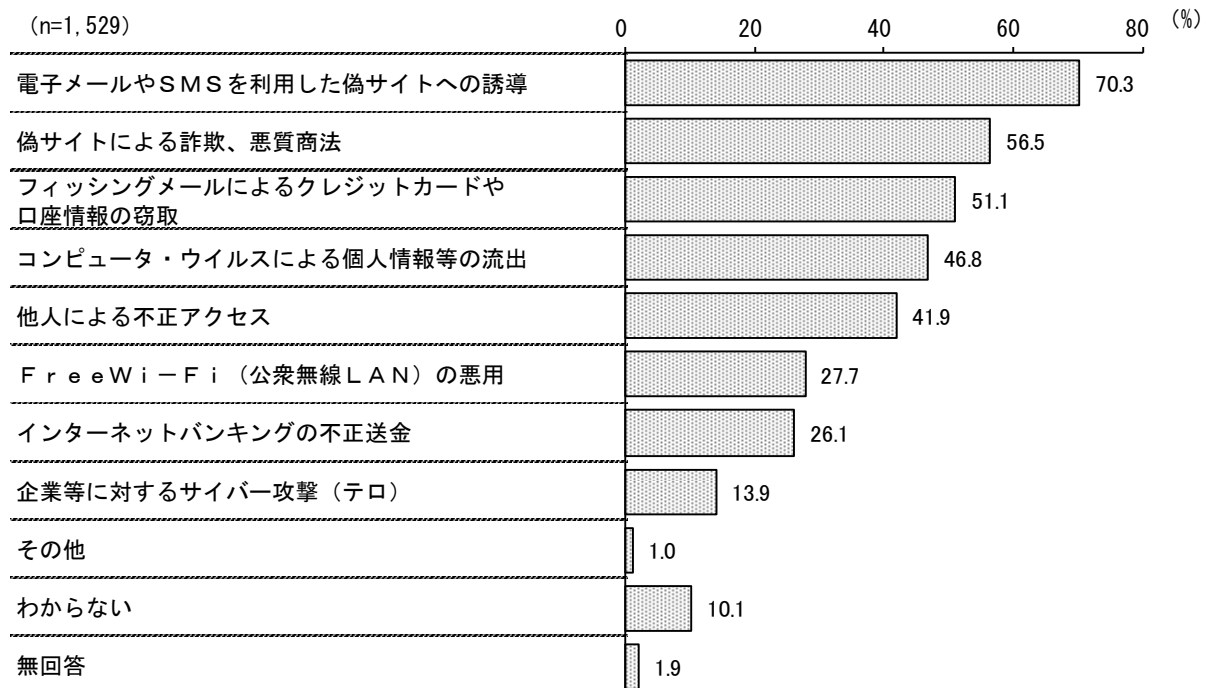


（２）危険性や不安を感じるネット犯罪

◇「電子メールやSMSを利用した偽サイトへの誘導」が７割

問41 あなたは、自身又は家族を含めて、どのようなネット犯罪に危険性や不安を感じますか。
(○はいくつでも)

<図表 8－3>危険性や不安を感じるネット犯罪



危険性や不安を感じるネット犯罪について聞いたところ、「電子メールやSMSを利用した偽サイトへの誘導」（70.3%）が7割で最も高く、以下、「偽サイトによる詐欺、悪質商法」（56.5%）、「フィッシングメールによるクレジットカードや口座情報の窃取」（51.1%）、「コンピュータ・ウイルスによる個人情報等の流出」（46.8%）が続く。（図表 8－3）

【地域別】

地域別にみると、「フィッシングメールによるクレジットカードや口座情報の窃取」は“葛南地域”（56.1%）が5割台半ばで高くなっている。

「コンピュータ・ウイルスによる個人情報等の流出」は“東葛飾地域”（51.7%）が5割を超えて高くなっている。（図表 8－4）

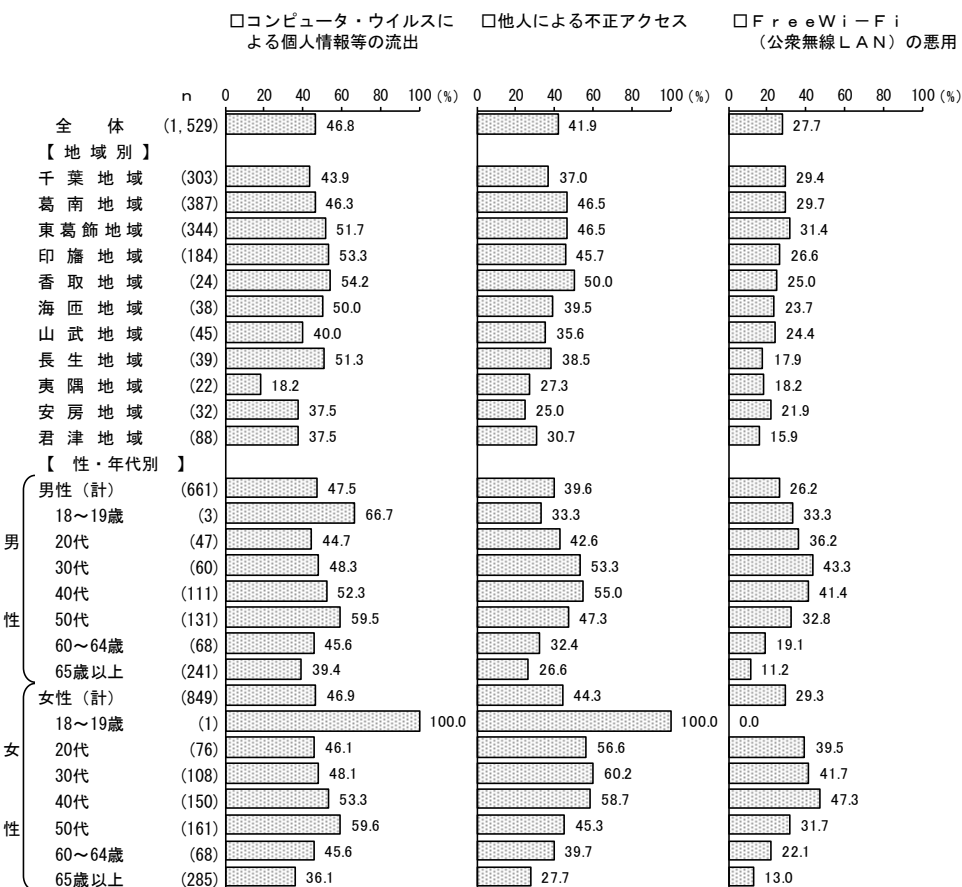
【性・年代別】

性・年代別にみると、「電子メールやSMSを利用した偽サイトへの誘導」は女性の30代（91.7%）が9割を超え、女性の20代（82.9%）と男性の50代（82.4%）、男性の40代（82.0%）が8割を超え、女性の50代（78.3%）と女性の40代（77.3%）が約8割で高くなっている。

「偽サイトによる詐欺、悪質商法」は女性の30代（70.4%）と男性の50代（70.2%）が7割、男性の40代（66.7%）が6割台半ばで高くなっている。

「フィッシングメールによるクレジットカードや口座情報の窃取」は女性の30代（71.3%）が7割を超え、女性の40代（66.0%）が6割台半ば、男性の50代（63.4%）が6割を超え、女性の50代（60.9%）が6割で高くなっている。

「コンピュータ・ウイルスによる個人情報等の流出」は女性の50代（59.6%）と男性の50代（59.5%）が約6割で高くなっている。（図表 8－4）



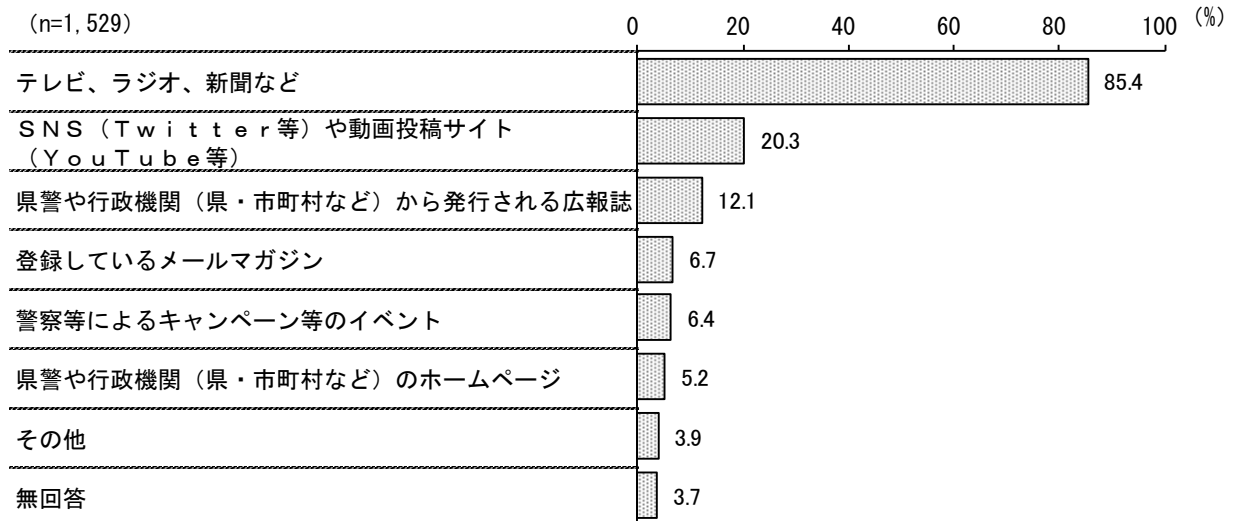
（３） ネット犯罪に関する防犯情報の入手方法

◇「テレビ、ラジオ、新聞など」が８割台半ば

問42 あなたは、ネット犯罪に関する防犯情報等をどのように入手していますか。

（○はいくつでも）

<図表 8－5> ネット犯罪に関する防犯情報の入手方法



ネット犯罪に関する防犯情報の入手方法を聞いたところ、「テレビ、ラジオ、新聞など」(85.4%) が8割台半ばで最も高く、以下、「SNS (Twitter等) や動画投稿サイト (YouTube等)」(20.3%)、「県警や行政機関 (県・市町村など) から発行される広報誌」(12.1%)が続く。

(図表 8－5)

【地域別】

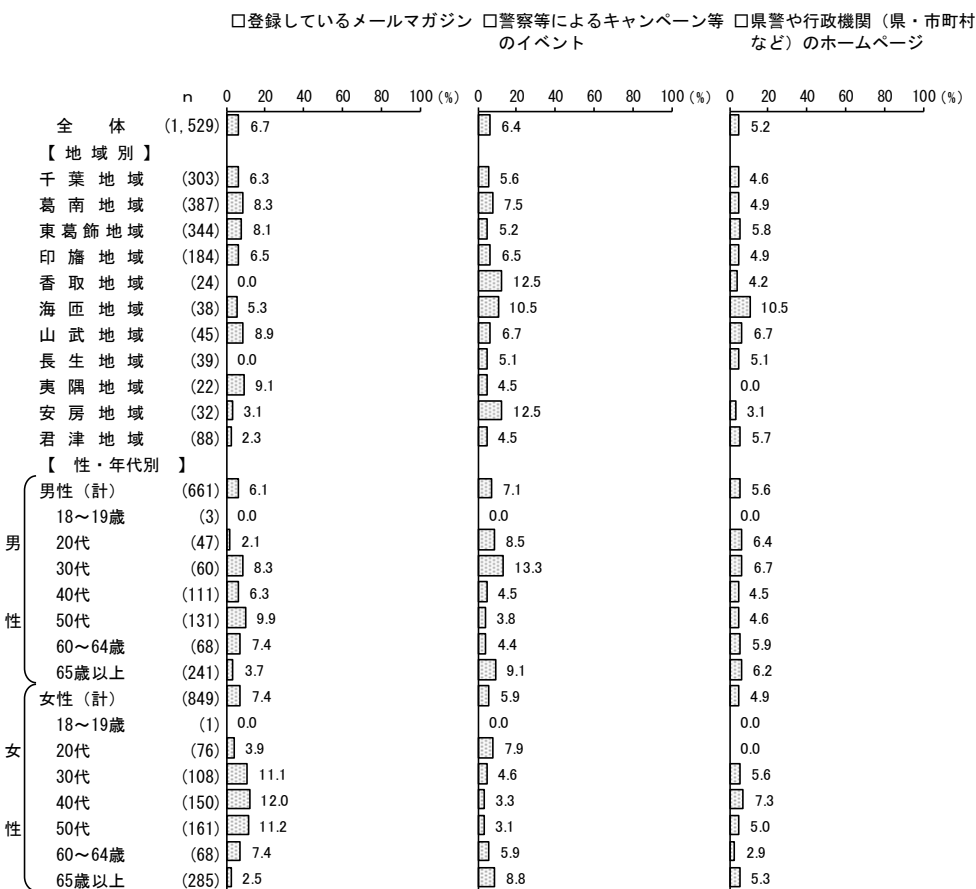
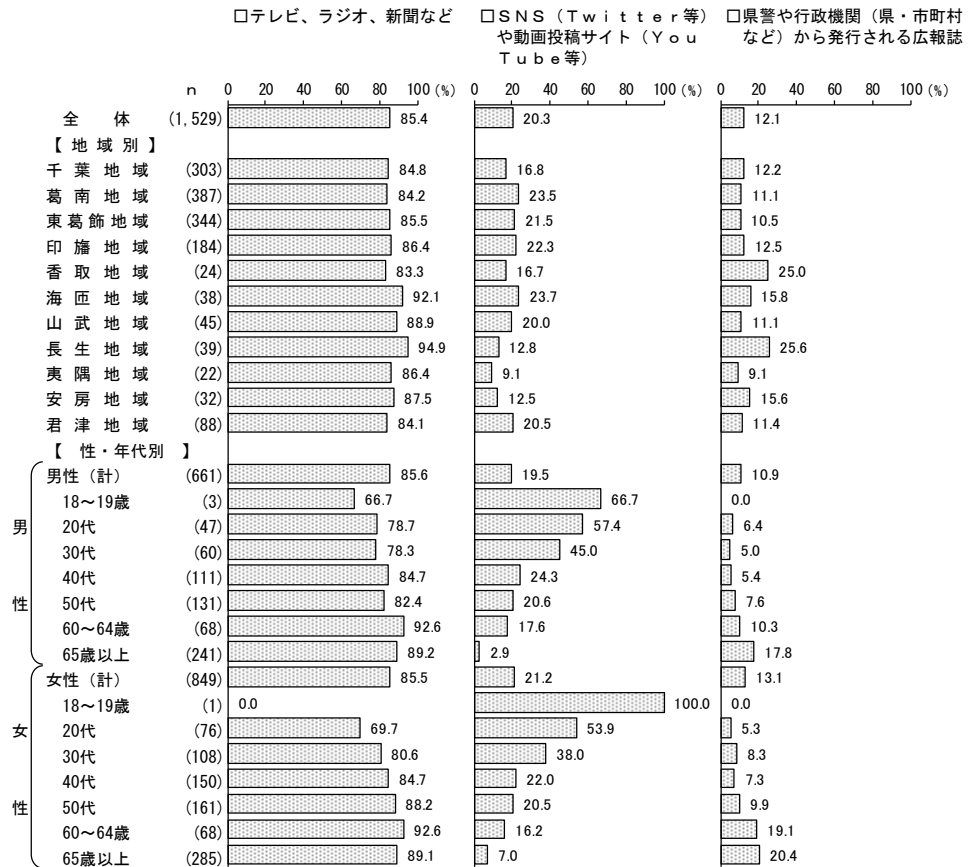
地域別にみると、「県警や行政機関 (県・市町村など) から発行される広報誌」は“長生地域”(25.6%) が2割台半ばで高くなっている。(図表 8－6)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「テレビ、ラジオ、新聞など」は女性の65歳以上 (89.1%) が約9割で高くなっている。

「SNS (Twitter等) や動画投稿サイト (YouTube等)」は男性の20代 (57.4%) が約6割、女性の20代 (53.9%) が5割台半ば、男性の30代 (45.0%) が4割台半ば、女性の30代 (38.0%) が約4割で高くなっている。(図表 8－6)

＜図表８－６＞ネット犯罪に関する防犯情報の入手方法／地域別、性・年代別

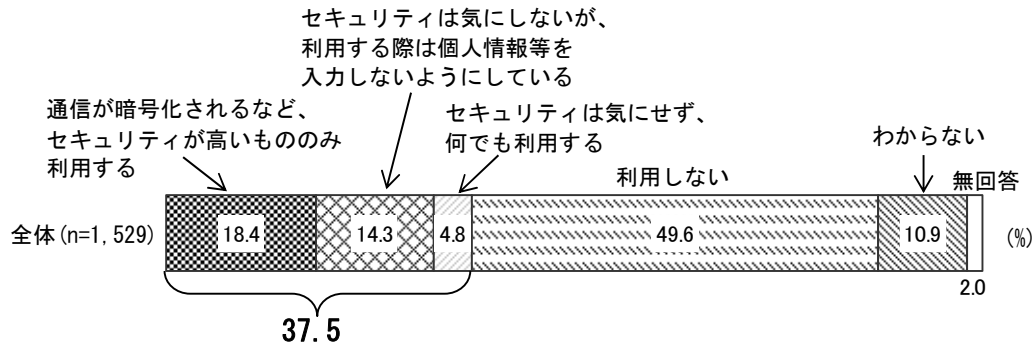


（４）Ｆｒｅｅ Ｗｉ－Ｆｉ（公衆無線ＬＡＮ）の利用状況

◇「通信が暗号化されるなど、セキュリティが高いもののみ利用する」が約２割

問43 あなたは、飲食店、ホテル、空港などの街中に設置されているＦｒｅｅ Ｗｉ－Ｆｉ（公衆無線ＬＡＮ）を利用しますか。（○は１つ）

<図表８－７> Ｆｒｅｅ Ｗｉ－Ｆｉ（公衆無線ＬＡＮ）の利用状況



Ｆｒｅｅ Ｗｉ－Ｆｉ（公衆無線ＬＡＮ）の利用状況について聞いたところ、「通信が暗号化されるなど、セキュリティが高いもののみ利用する」（18.4％）が約２割で最も高く、以下、「セキュリティは気にしないが、利用する際は個人情報等を入力しないようにしている」（14.3％）が続く。

一方、「利用しない」（49.6％）は約５割となっている。（図表８－７）

【地域別】

地域別にみると、「通信が暗号化されるなど、セキュリティが高いもののみ利用する」は“東葛飾地域”（22.4％）が２割を超えて高くなっている。

「セキュリティは気にしないが、利用する際は個人情報等を入力しないようにしている」は“印旛地域”（21.2％）が２割を超えて高くなっている。

一方、「利用しない」は“長生地域”（69.2％）が約７割で高くなっている。（図表８－８）

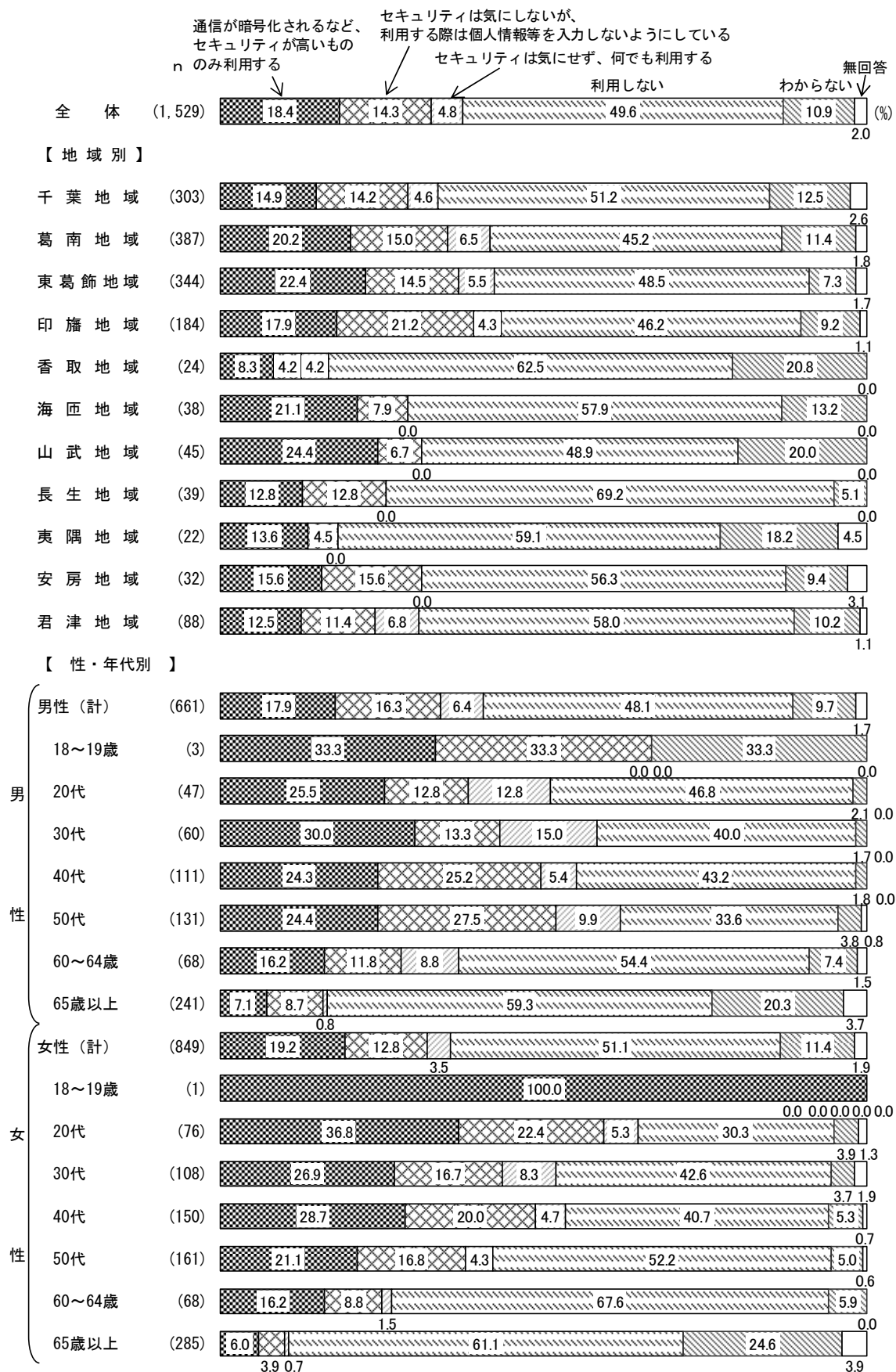
【性・年代別】

性・年代別にみると、「通信が暗号化されるなど、セキュリティが高いもののみ利用する」は女性の20代（36.8％）が３割台半ば、男性の30代（30.0％）が３割、女性の40代（28.7％）が約３割、女性の30代（26.9％）が２割台半ばで高くなっている。

「セキュリティは気にしないが、利用する際は個人情報等を入力しないようにしている」は男性の50代（27.5％）が約３割、男性の40代（25.2％）が２割台半ば、女性の20代（22.4％）が２割を超え、女性の40代（20.0％）が２割で高くなっている。

一方、「利用しない」は女性の60～64歳（67.6％）が約７割、女性の65歳以上（61.1％）が６割を超え、男性の65歳以上（59.3％）が約６割で高くなっている。（図表８－８）

<図表８－８>Free Wi-Fi（公衆無線LAN）の利用状況／地域別、性・年代別

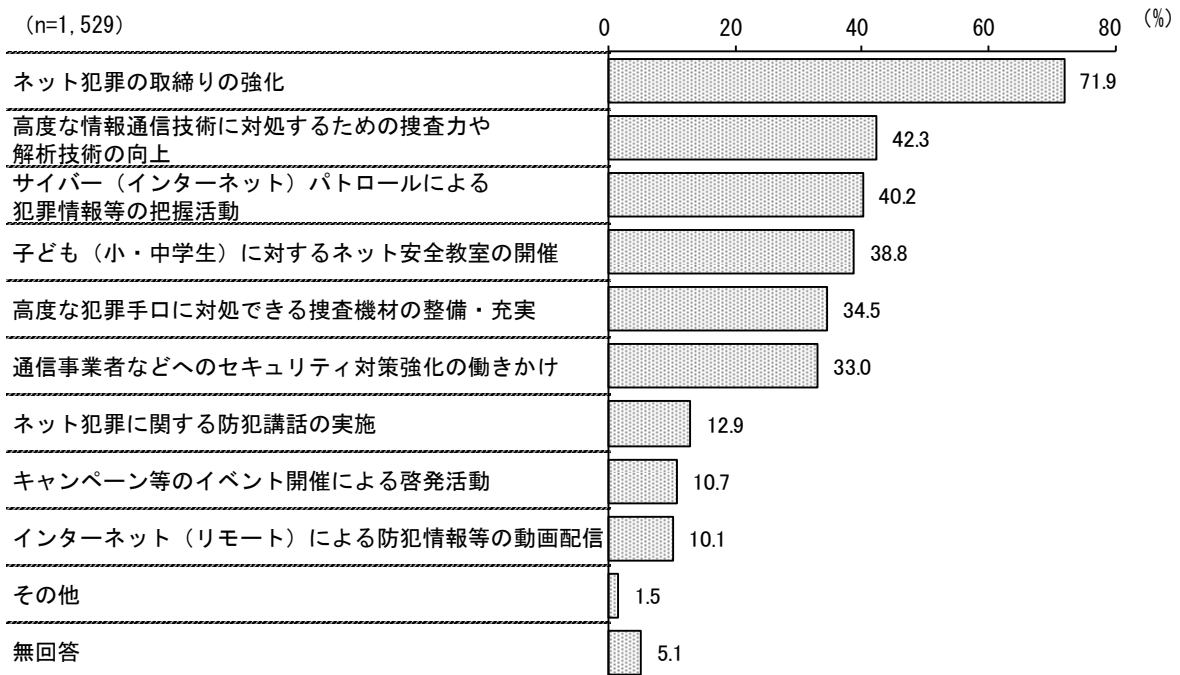


（５）インターネット空間の安全確保に向けて期待する警察活動

◇「ネット犯罪の取締りの強化」が７割を超える

問44 あなたは、インターネット空間の安全確保に向けてどのような警察活動を期待しますか。
(○はいくつでも)

<図表８－９>インターネット空間の安全確保に向けて期待する警察活動



インターネット空間の安全確保に向けて期待する警察活動を聞いたところ、「ネット犯罪の取締りの強化」（71.9%）が７割を超えて最も高く、以下、「高度な情報通信技術に対処するための捜査力や解析技術の向上」（42.3%）、「サイバー（インターネット）パトロールによる犯罪情報等の把握活動」（40.2%）、「子ども（小・中学生）に対するネット安全教室の開催」（38.8%）が続く。

（図表８－９）

【地域別】

地域別にみると、「ネット犯罪の取締りの強化」は“海匠地域”（86.8%）が８割台半ば、“東葛飾地域”（76.7%）が７割台半ばで高くなっている。

「サイバー（インターネット）パトロールによる犯罪情報等の把握活動」は“葛南地域”（44.7%）が４割台半ばで高くなっている。

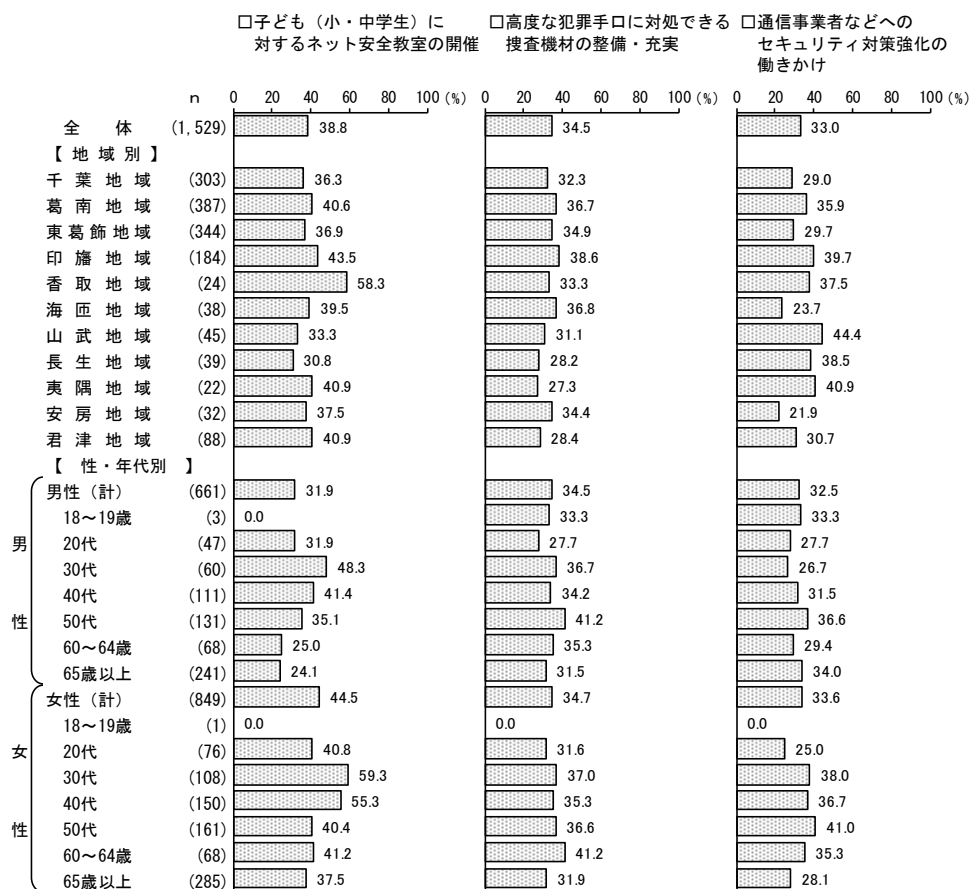
「子ども（小・中学生）に対するネット安全教室の開催」は“香取地域”（58.3%）が約６割で高くなっている。（図表８－10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「高度な情報通信技術に対処するための捜査力や解析技術の向上」は男性の50代（51.9%）が５割を超え、女性の50代（49.7%）が約５割で高くなっている。

「サイバー（インターネット）パトロールによる犯罪情報等の把握活動」は男性の50代（58.0%）が約６割、男性の30代（55.0%）が５割台半ば、女性の40代（48.7%）が約５割で高くなっている。

「子ども（小・中学生）に対するネット安全教室の開催」は女性の30代（59.3%）が約６割、女性の40代（55.3%）が５割台半ばで高くなっている。（図表８－10）



このほかに、「サイバー空間の安全対策について」やここまでの質問（問40～問44）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、62人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「サイバー空間の安全対策について」の自由回答（抜粋）

○日々スマホを使っている割に安全対策はソフトを入れているだけ。今回もアンケート調査と一緒に入っていたフリーWi-Fiの危険性を再認識しました。今後気を付けたいと思う。

（男性、50代、東葛飾地域）

○近年、未成年の子供がインターネットを利用することが増加傾向にあります。ゲームなどの利用規約を理解しないまま遊んだり、SNSやゲーム内チャット等で見知らぬ人に名前や住所などの個人情報教えてしまったり、勝手に課金したりすることが自分の知り合いにも起こっているので、警察の方からの児童向けの対策講義などをもっと行い、幼い頃からサイバー犯罪に対する知識を高めていくべきだと思います。特に小学生、中学生あたりに集中して「インターネットやオンラインゲームの怖いところ」を周知させるべきだと思います。

（女性、20代、印旛地域）

○警察だと身近に感じないので、小中学生への講義などではユーチューバーに依頼してみてもどうか。動画投稿やSNSでの身バレ対策、炎上対策(他者への配慮の仕方)など、学ぶことはたくさんあると思う。

（女性、20代、千葉地域）

○ネット犯罪は分かりにくいと思います。市民が理解しやすい啓発活動があると良いと思います。

（男性、40代、印旛地域）

○証拠がきちんと取れる悪質サイトについては、野放しにせず、アカウント停止命令できるような法改正が必要だと思います。

（男性、20代、印旛地域）

○子どもが巻き込まれる可能性が大きいので、フィルタリング等の法整備が必要と考える（年齢制限等）。

（男性、50代、長生地域）

○誹謗中傷などもきちんと取り締まってほしい。

（女性、30代、葛南地域）

○利用者自身注意することはもちろんですが、警察官や行政等の監視の強化が望まれます。

（男性、65歳以上、夷隅地域）

○特に何も知らない子どもや若年層をどのようにして犯罪に巻き込まれないようにするのか、強い対策が望まれていると思います。

（男性、40代、千葉地域）

9 都市農業について

（１）千葉県の都市農地の保全意向

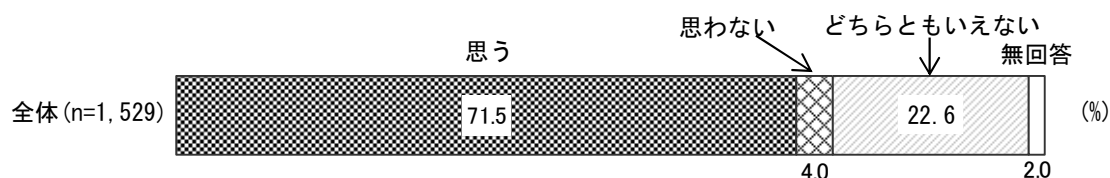
◇「思う」が7割を超える

県では、都市農業を支える様々な担い手を支援するとともに、都市農業や都市農地がもっと身近なものとなるよう理解の醸成を図っており、今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします

（※）「千葉県内の市街地及びその周辺の地域で行われる農業・農地」を本調査では、都市農業・都市農地と呼びます。

問45 あなたは、千葉県に都市農地を残したいと思いますか。（○は1つ）

<図表9-1>千葉県の都市農地の保全意向



千葉県に都市農地を残したいと思うか聞いたところ、「思う」（71.5％）が7割を超えている。一方、「思わない」（4.0％）は1割未満となっている。また、「どちらともいえない」（22.6％）は2割を超えている。（図表9-1）

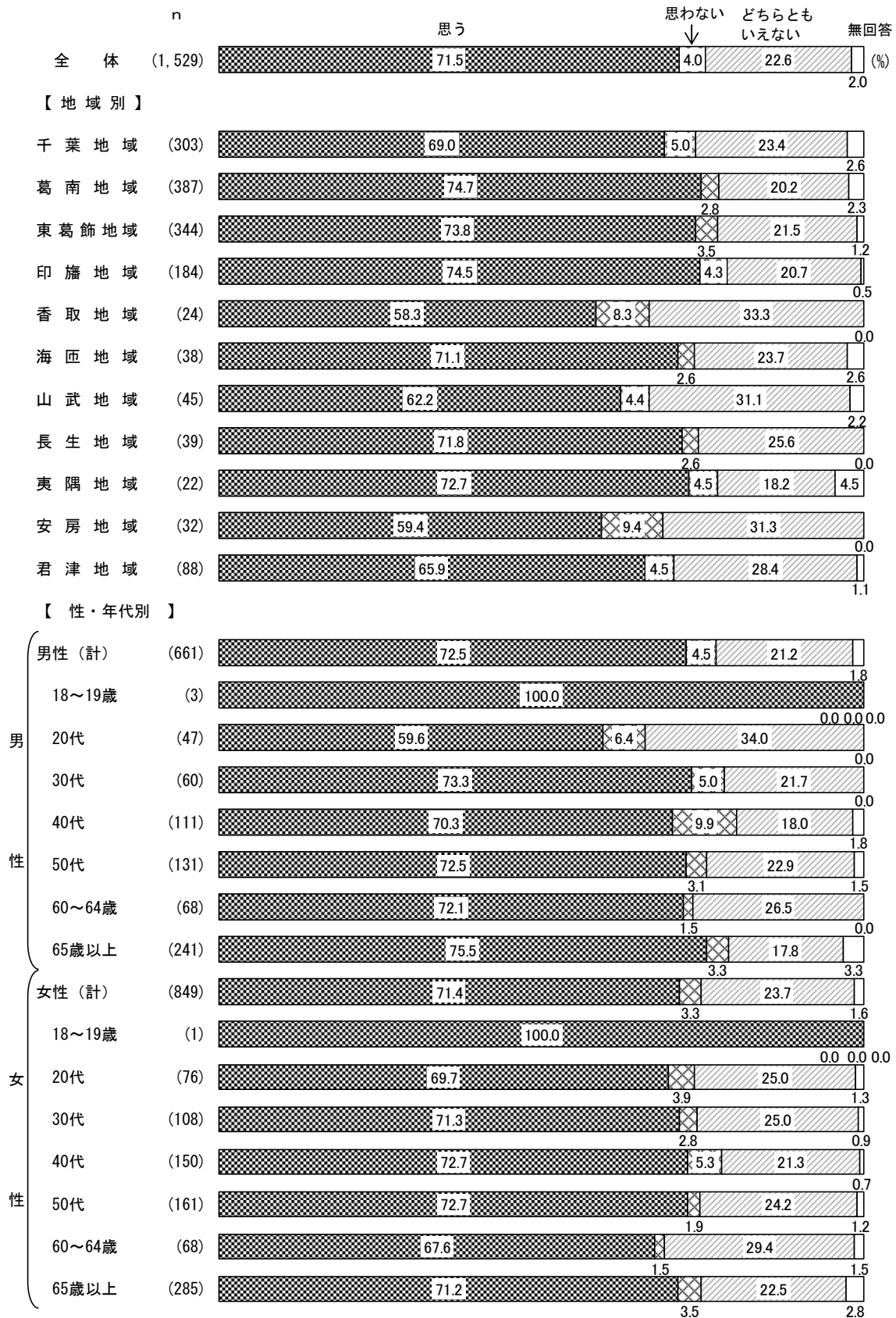
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表9-2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表9-2）

<図表 9 - 2> 千葉県の都市農地の保全意向／地域別、性・年代別



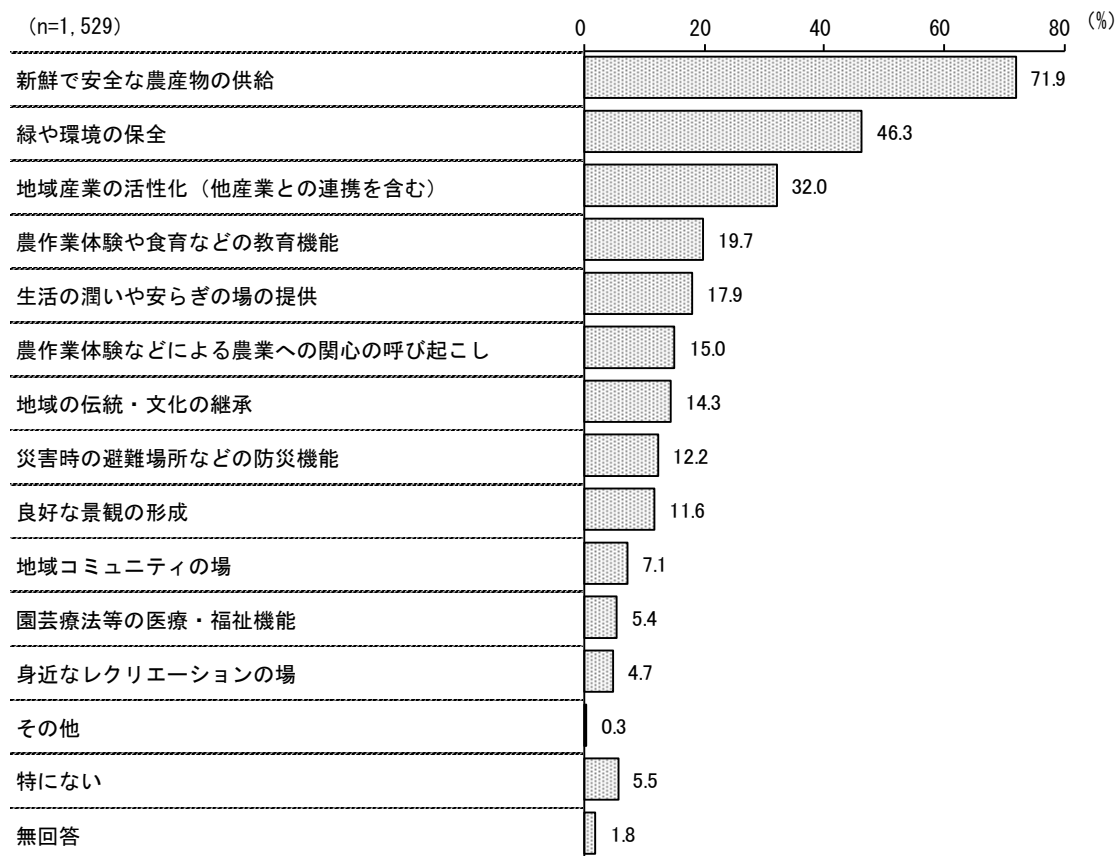
（２）千葉県都市農業・都市農地に期待する機能や役割

◇「新鮮で安全な農産物の供給」が７割を超える

問46 あなたは、千葉県の都市農業・都市農地にどのような機能や役割を期待しますか。

（○は３つまで）

<図表 9－3> 千葉県の都市農業・都市農地に期待する機能や役割



千葉県の都市農業・都市農地に期待する機能や役割について聞いたところ、「新鮮で安全な農産物の供給」（71.9%）が7割を超えて最も高く、以下、「緑や環境の保全」（46.3%）、「地域産業の活性化（他産業との連携を含む）」（32.0%）、「農作業体験や食育などの教育機能」（19.7%）が続く。（図表 9－3）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表 9－4）

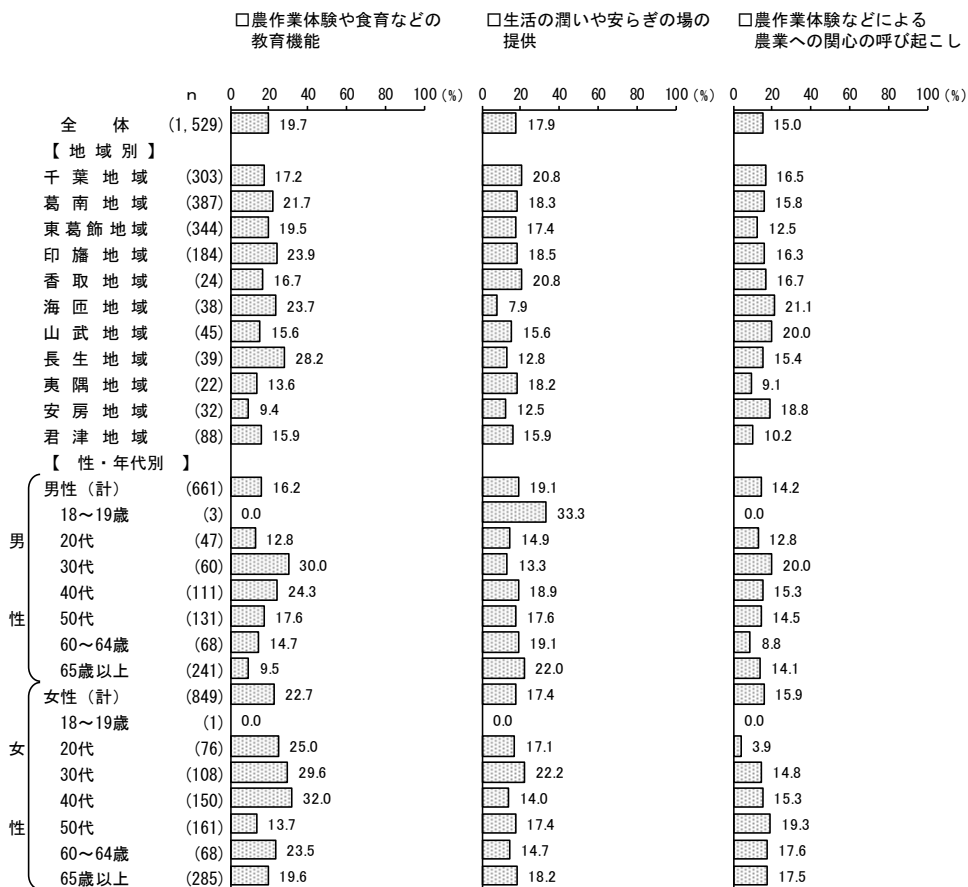
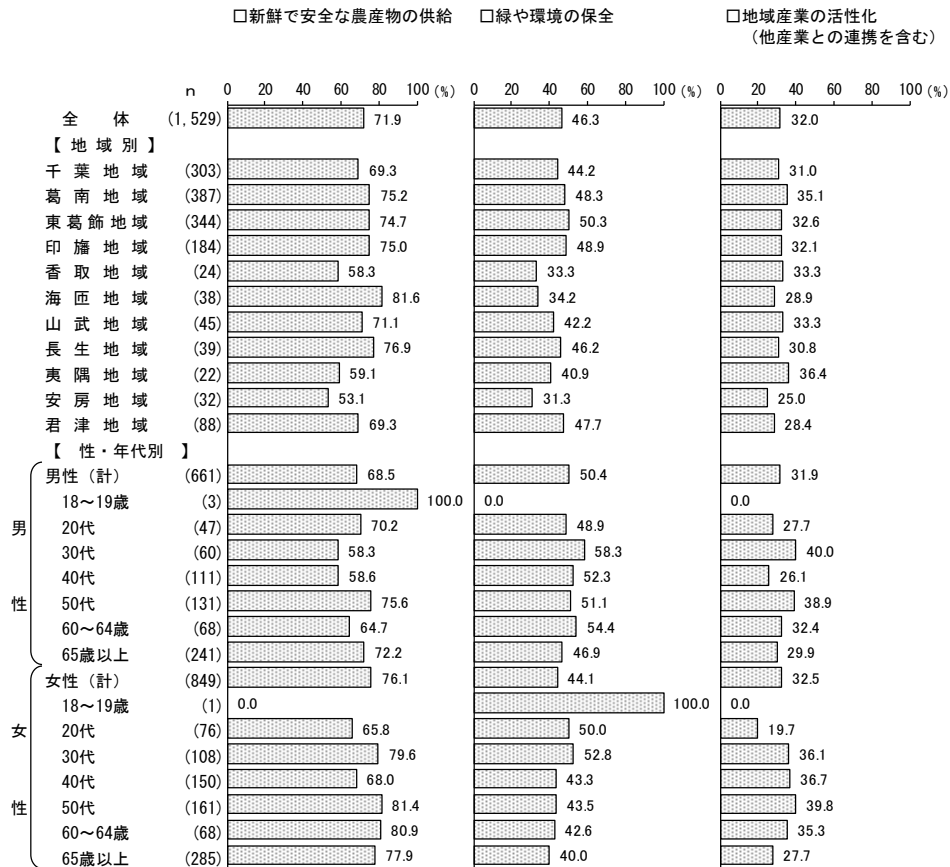
【性・年代別】

性・年代別にみると、「新鮮で安全な農産物の供給」は女性の50代（81.4%）が8割を超え、女性の65歳以上（77.9%）が約8割で高くなっている。

「地域産業の活性化（他産業との連携を含む）」は女性の50代（39.8%）が約4割で高くなっている。

「農作業体験や食育などの教育機能」は女性の40代（32.0%）が3割を超え、男性の30代（30.0%）が3割、女性の30代（29.6%）が約3割で高くなっている。（図表 9－4）

＜図表 9－4＞千葉県都市農業・都市農地に期待する機能や役割／地域別、性・年代別



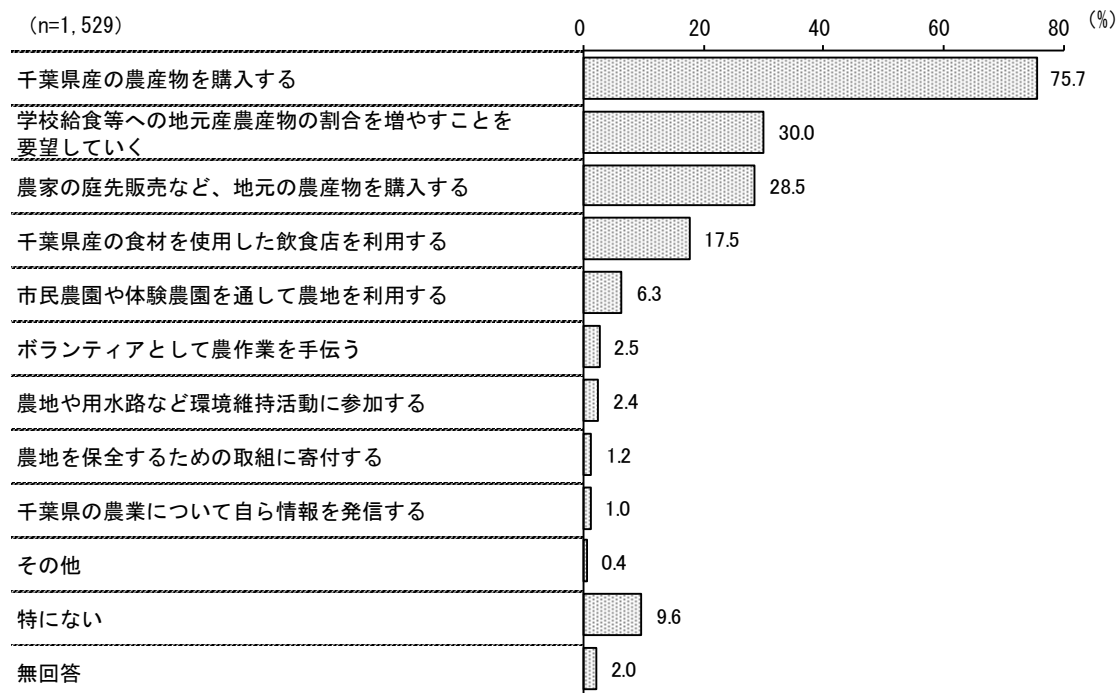
（３）都市農地を守るために行いたい支援

◇「千葉県産の農産物を購入する」が７割台半ば

問47 あなたは、都市農地を守るために、どのような支援を行いたいと思いますか。

（○は２つまで）

<図表 9－5>都市農地を守るために行いたい支援



都市農地を守るために行いたい支援を聞いたところ、「千葉県産の農産物を購入する」（75.7%）が7割台半ばで最も高く、以下、「学校給食等への地元産農産物の割合を増やすことを要望していく」（30.0%）、「農家の庭先販売など、地元の農産物を購入する」（28.5%）、「千葉県産の食材を使用した飲食店を利用する」（17.5%）が続く。（図表 9－5）

【地域別】

地域別にみると、「学校給食等への地元産農産物の割合を増やすことを要望していく」は“夷隅地域”（50.0%）が5割で高くなっている。

「農家の庭先販売など、地元の農産物を購入する」は“長生地域”（43.6%）が4割台半ば、“印旛地域”（35.3%）が3割台半ばで高くなっている。（図表 9－6）

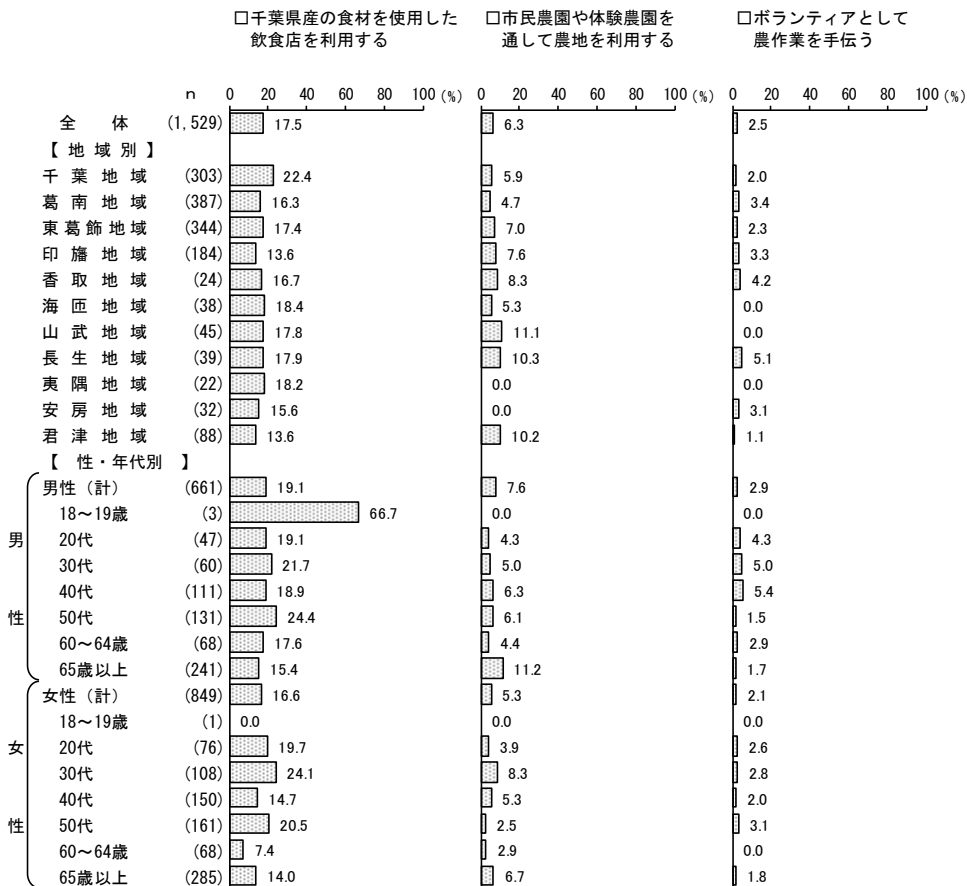
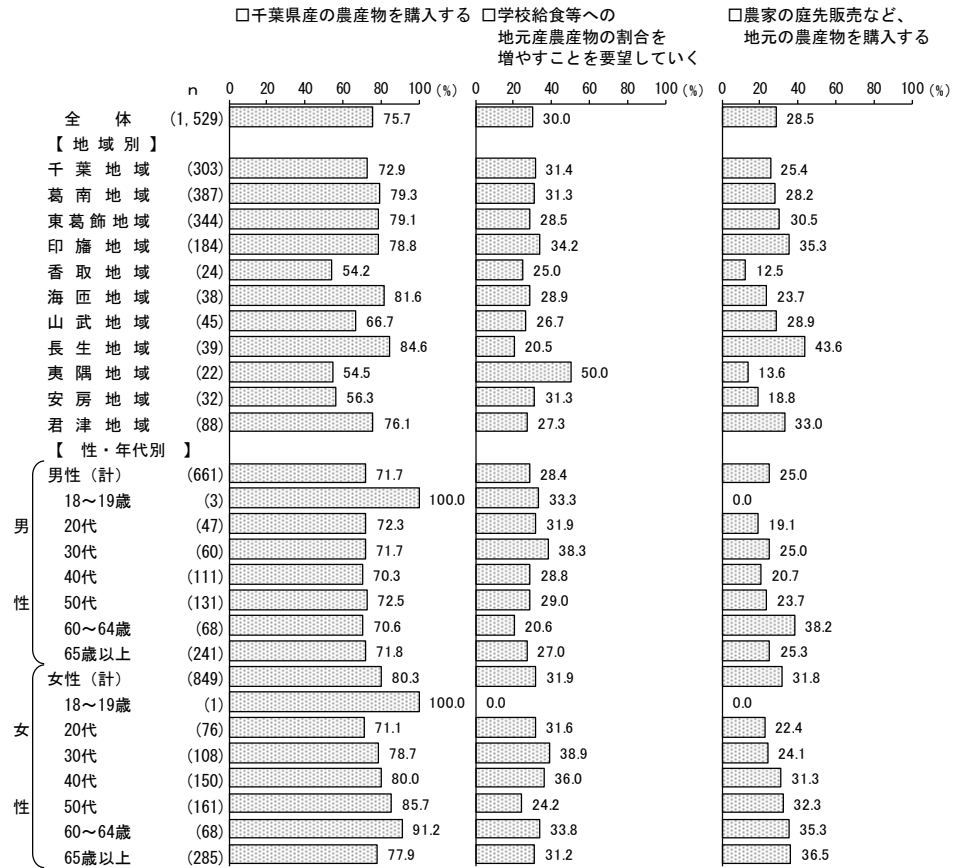
【性・年代別】

性・年代別にみると、「千葉県産の農産物を購入する」は女性の60～64歳（91.2%）が9割を超え、女性の50代（85.7%）が8割台半ばで高くなっている。

「学校給食等への地元産農産物の割合を増やすことを要望していく」は女性の30代（38.9%）が約4割で高くなっている。

「農家の庭先販売など、地元の農産物を購入する」は女性の65歳以上（36.5%）が3割台半ばで高くなっている。（図表 9－6）

＜図表 9－6＞都市農地を守るために行いたい支援／地域別、性・年代別

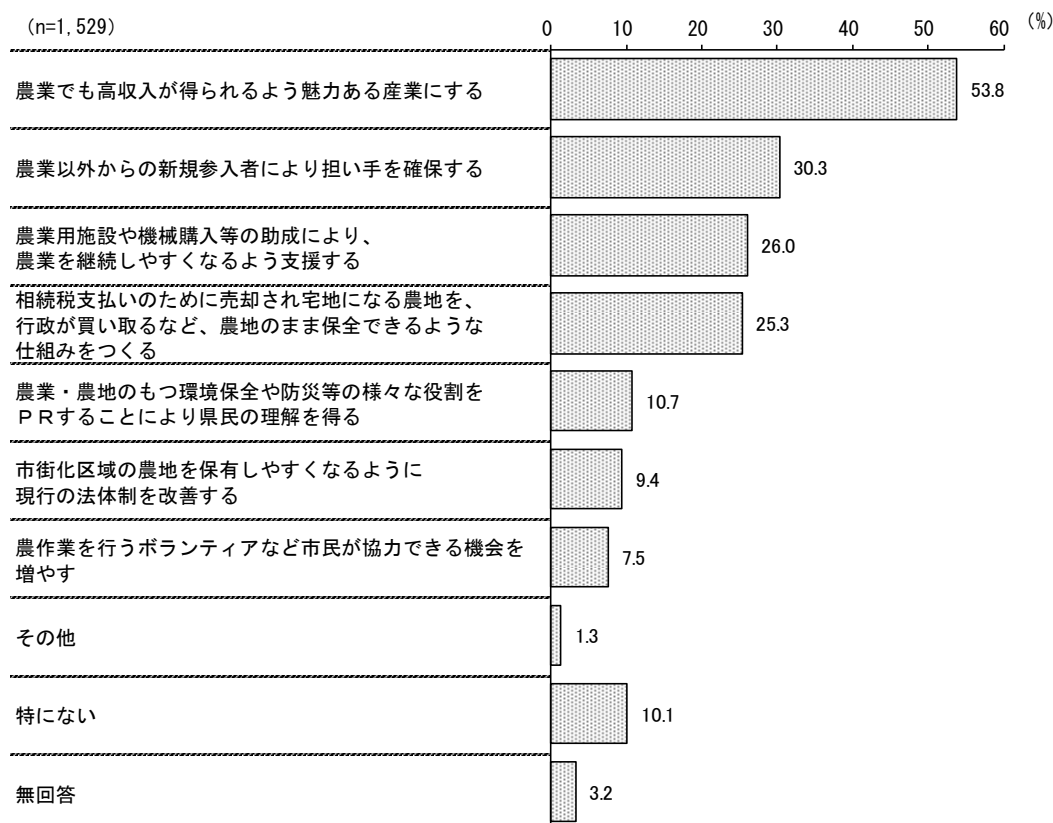


（４）都市農地を保全するために行政が行う必要がある施策

◇「農業でも高収入が得られるよう魅力ある産業にする」が５割台半ば

問48 あなたは、行政が都市農地を保全するためにどのような対策を行う必要があると思いますか。（○は２つまで）

<図表９－７>都市農地を保全するために行政が行う必要がある施策



都市農地を保全するために行政が行う必要がある施策について聞いたところ、「農業でも高収入が得られるよう魅力ある産業にする」（53.8%）が５割台半ばで最も高く、以下、「農業以外からの新規参入者により担い手を確保する」（30.3%）、「農業用施設や機械購入等の助成により、農業を継続しやすくなるよう支援する」（26.0%）、「相続税支払いのために売却され宅地になる農地を、行政が買い取るなど、農地のまま保全できるような仕組みをつくる」（25.3%）が続く。

（図表９－７）

【地域別】

地域別にみると、「農業以外からの新規参入者により担い手を確保する」は“長生地域”（46.2%）が４割台半ばで高くなっている。

「農業用施設や機械購入等の助成により、農業を継続しやすくなるよう支援する」は“香取地域”（45.8%）が４割台半ば、“印旛地域”（35.3%）が３割台半ばで高くなっている。

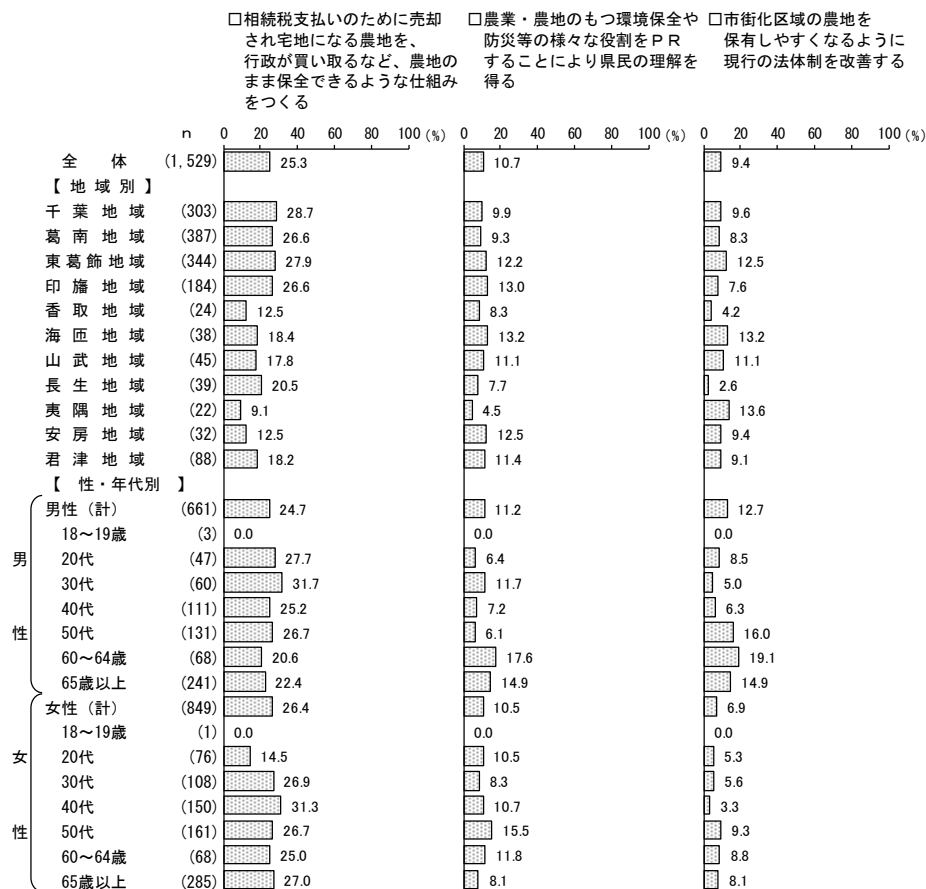
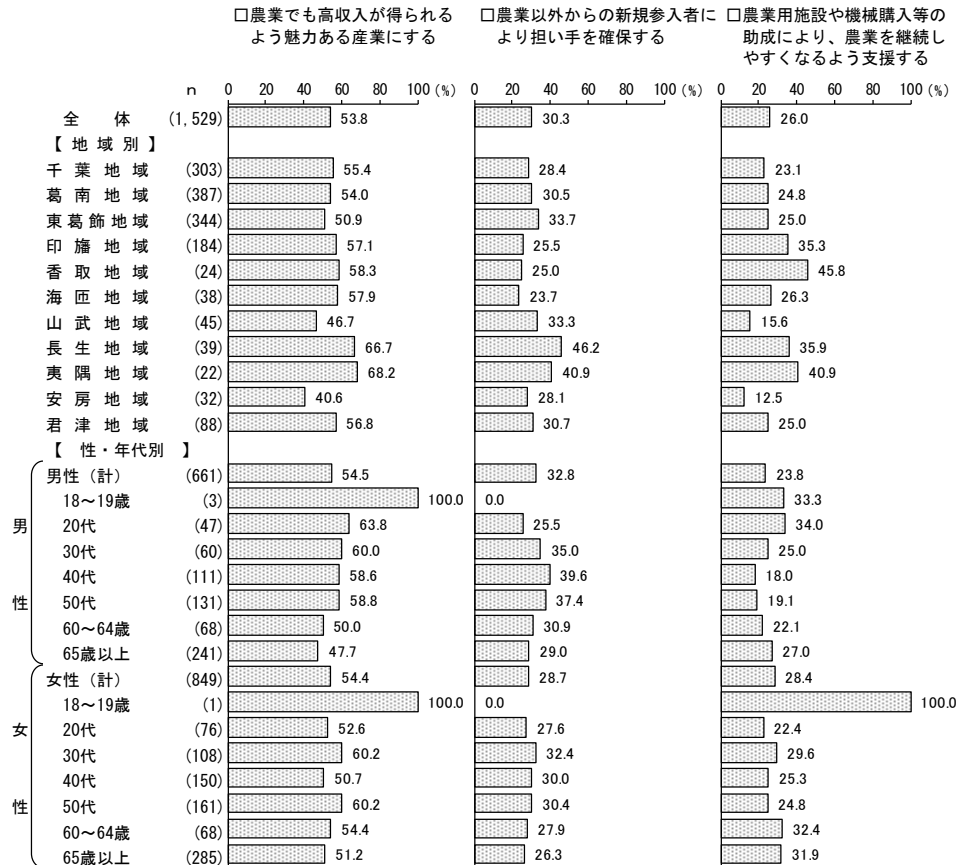
（図表９－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「農業以外からの新規参入者により担い手を確保する」は男性の40代（39.6%）が約４割で高くなっている。

「農業用施設や機械購入等の助成により、農業を継続しやすくなるよう支援する」は女性の65歳以上（31.9%）が３割を超えて高くなっている。（図表９－８）

＜図表 9－8＞都市農地を保全するために行政が行う必要がある施策／地域別、性・年代別



このほかに、「都市農業について」やここまでの質問（問45～問48）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、104人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「都市農業について」の自由回答（抜粋）

- 子どもが産まれたら農業体験など自然に関われるイベントや機会が増えたら参加していきたい（芋ほりや落花生ほり、昔子供の時毎年やっていた）。（女性、20代、印旛地域）

- セカンドキャリアとして都市農業に興味はあるが、それらを知る術がない。SNSなどでの発信、説明会や講習会、体験会などが身近であったら参加したい。（女性、30代、印旛地域）

- 農業に関しては、興味はあっても専門にするには二の足を踏む人が多いと思うので、バイトなどのダブルワーク等で携わるキッカケがあれば少しは人が流れたりするのかなと思います。都心部で自然と触れた仕事をしていると土（自然）に触れたいと思うことがあるので、個人的には需要はあるのかと思います。（男性、30代、印旛地域）

- 地産地消を推進する為に購入施設を増やしたり、体験農園の活用により農業に興味をもてるようにしてほしい。（女性、50代、海匝地域）

- 市民が月ぎめなどで利用できる農地を増やしてほしい。ふと作物を育てたくなる瞬間はあるが、土地がない。農作の潜在需要はあるのでは。一度、県民に調査してほしい。せっかく土地が安いのだし。（男性、20代、葛南地域）

- A I の活用、後押し。後継者がいない人のために、A I を活用して株式会社方式にして収入の安定化など、若者が参入しやすいように後押し。（女性、30代、葛南地域）

- 新規参入希望者が農地を購入したり、その地域に住宅を確保したり出来ない現状があると思います。農村地域は開かれていないと感じます。市街化調整区域等の区分により住宅が建てられないわけで、若い新規参入者を阻んでしまっています。（女性、60～64歳、印旛地域）

- 耕作放棄地の増加、農家の高齢化等々、問題山積み。収入の安定、担い手の確保等の為、税制面での優遇を。（女性、65歳以上、安房地域）

- 都市型農業は、自然環境の保全の役割を果たすとともに、地元の新鮮な食料を確保し、食べることが出来るといったメリットがある。食料をなくして人は生きることが出来ない。印西に「白鳥の里」があるが、本来、ヒトは動物と共存して生活していくものである。都市農業とは、そのような自然の醍醐味を人々に認知させる役割も持っているのではないだろうか。（男性、50代、千葉地域）

10 自由回答

問 このほかにも、県へのご意見があればご自由にお書きください。

県への意見を自由に記述していただいたところ、213人から延べ277件の回答が寄せられた。
記述いただいた内容は多岐にわたり、県政の各施策におおむね沿った形（合計32項目）で整理した。

なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、原文の内容の趣旨をそこなわないよう回答を分け、それぞれの項目へ分類した。

また、紙面の都合上、全ての意見を掲載することはできないが、意見の多い項目に関しては、一部抜粋してご意見を記載するものとする。

【自由回答の項目順位】

順位	項目	件数
第1位	県政全般に関する要望	84
第2位	災害から県民を守る	23
第3位	道路を整備する	19
"	新型コロナウイルス感染症対策について	19
第5位	県政の情報発信について	17
第6位	公共交通網（バス・鉄道）を整備する	12
第7位	犯罪防止対策をすすめる	9
第8位	次世代を担う子どもの育成支援を充実する	8
第9位	世論調査について	6
第10位	交通事故から県民を守る	5
第11位	廃棄物対策をすすめる	4
"	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する	4
第13位	障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する	3
"	高齢者の福祉を充実する	3
"	医療サービス体制を整備する	3
"	観光を振興する	3
"	雇用の場を広げる	3
"	農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する	3
"	住宅対策を充実する	3
"	公園・緑地を整備する	3
"	芸術・文化活動を振興する	3
第22位	国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる	2
"	健康づくりをすすめて、病気を予防する	2
"	自然を守り、緑を育てる	2
"	安心して飲める良質な水道水を供給する	2
"	学校教育を充実する	2
"	生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する	2
第28位	ひとり親家庭等の福祉を充実する	1
"	地域課題解決に向けた市民活動や協働の取組を推進する	1
"	下水道を整備する	1
"	施策実現や地域活性化のためのICTの利活用をすすめる	1
"	東京湾アクアラインについて	1
	その他	23
	その他 うち、国政への要望	(2)
	その他 うち、住んでいる市町村への要望	(2)
合 計（再掲分を含む 延べ人数）		277

【自由回答の記述】（意見の多い項目の一部抜粋）

■県政全般に関する要望

- 千葉県は日本一の水揚げ量をほこる銚子港や農産物でもねぎをはじめ生産高一位となる農業県。また京葉工業地域など工業地帯もある。九十九里浜や養老山系と、海も山もある。何でもある千葉県のアピールをもっとどんどんしてほしい。（女性、60～64歳、葛南地域）
- 観光県を目指して、もっとPRしたり、広告活動をした方が良いと思う。利用出来ていない、空いた土地の活用や、山森の開発がうまく進むと良いです。公民館や図書館等が一部の人達のたまり場と化しているのは残念です。千葉県は全体的に見ると住みやすいと思う（車があればですが）。（女性、20代、千葉地域）
- 子供達に千葉県の仕事を見せてあげてほしいです。将来、自分もこういう仕事がしたいと思われるような仕事をして夢をあたえてあげて下さい。（女性、40代、千葉地域）
- いつまでも住んでいたい千葉にして欲しいです。（女性、30代、葛南地域）
- 県都市部だけでなく千葉県全体がよくなるように、そして県都市部だけがよく見えるのではなく千葉県全体がよく見えるようにしていただきたいです。（男性、50代、印旛地域）
- 縦に長い県なので、南の方、北の方、かなりの温度差があります。当然に困ったりしてる事が当然違うので、その地区にあった対応の進め方を希望する。（男性、65歳以上、東葛飾地域）
- 県民がどのような事に感心を持っているのかといった視点に立って情報発信すること。予算執行の明確化（例をあげて説明）。（男性、60～64歳、東葛飾地域）
- 千葉県の財政は全国の中でも豊かであると思うが、その割に県民の福祉のために使われる予算は十分といえませんが。教育予算も医師・看護師数も全く不十分です。県民生活に直接関係のない巨大道路や施設建設などはもう必要ないと思います。医療・介護・教育・福祉のために税金を使ってほしい。（女性、65歳以上、千葉地域）
- 先例主義、部署主義、天下り等の排除。とりあえず、申請書等のハンコはやめてみたらいかがでしょうか。（男性、60～64歳、千葉地域）

■災害から県民を守る

○災害など何か起きた時にあわてて準備からはじめるのではなく、起きる前から何かの時にはこうするというマニュアルや訓練をしておいて、スピーディーに動けるようにしておく。

（女性、60～64歳、葛南地域）

○ブロック塀が劣化して、ヒビがあったり、傾いてたり、穴があったり、地震の時に倒れそうでこわいです。そのような住宅には、改善するように指導や改善命令をしてほしいです。

（女性、30代、葛南地域）

○災害発生時などに発せられる放送の音声が非常に聞き取りづらいです。改善してもらえると嬉しいです。

（女性、20代、東葛飾地域）

○自然災害が起きた時の動きによって信頼感はすごく違ってきます。千葉県の職員はやっぱり頼りになることを証明してください。県民は、台風15号以後は見る目が違っていると思います。

（男性、60～64歳、安房地域）

■道路を整備する

○最近どこの市でも道路の白線が消えかけている場所が多い気がします。中央の線が消えている所は特に危険を感じました。市や県の予算が無いのですか？それとも人手不足のせいなのでしょうか？

（女性、50代、東葛飾地域）

○千葉の道路は汚い。ゴミを捨てる人が多いのか？道路わきの雑草の処理もいかなものか。きれいな町作りも大事。行政がもっとやるべきでは！！

（男性、60～64歳、印旛地域）

○通学路の整備（特に小学生）。

（男性、65歳以上、夷隅地域）

■新型コロナウイルス感染症対策について

○コロナウイルスについて、県として、充実した情報をわかりやすく発信してほしい。今後ワクチンの接種が行われると思いますが、その情報はもとより、地域ごとに格差が生じないようお願いしたい。

（女性、20代、居住地域無回答）

○千葉県は災害も少なく、気候も温暖で暮らしやすい所と思います。しかし去年の台風などで県の対応がすみやかに対応できていないと思う事が多々ありました。現在はコロナで世の中が混乱しています。もっと具体的に県は積極的、具体的にコロナ対策を政府に働きかける必要があると思います。

（女性、65歳以上、印旛地域）

○コロナ関連支援、補助金等の予算を多くとって頂きたい。

（男性、60～64歳、君津地域）

■県政の情報発信について

○インターネットを使用していない高齢者に対する情報を丁寧に発信して欲しい。「インターネット」や「ホームページで！！」はやめてほしい。利用出来ない者は多くいると思います。
(男性、65歳以上、葛南地域)

○台風被害、コロナなど発信力が弱い。法的な制約はあるにせよ千葉独自の具体的な発信が欲しい。「検討する」「早急に…」は要らない。県民が安心感を持てる言葉が必要。
(男性、65歳以上、東葛飾地域)

○千葉県が大好きです。もっと元気な県になればなあと思います。人気がある千葉県出身のタレントさんがPRをたくさんするとか、特産品や新製品がたくさん売れたら元気な千葉県になれそうな気がします。
(女性、50代、葛南地域)

■公共交通網（バス・鉄道）を整備する

○交通の便が悪いので、電車の本数を増やすなどしてほしい。地下鉄が欲しい。→働き盛り世代を増やすためには、交通は大事！
(女性、40代、千葉地域)

○車を使わなくても良いように巡回バスを！！
(女性、65歳以上、印旛地域)

○千葉駅から勝田台、勝田台から柏間にモノレールなどの鉄道があると利便性が向上し、通勤通学の幅が広がってよい。とにかく教育への予算が少ない。地域の宝である子どもを、大切に育ててほしい。
(女性、30代、印旛地域)

■犯罪防止対策をすすめる

○50才以上でもスマートフォンを持ち歩くようになっているが、セキュリティやウイルス、有害サイトからの金銭被害など多くの危険があるのもかわらず、知識がないためひっかかりやすい。防止活動に取り組んでほしい。
(男性、20代、印旛地域)

○時々、地域などにパトロールをして欲しい。交番が夜間無人にならない様に配慮して下さい。
(女性、65歳以上、千葉地域)

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

○若者が働きやすく、子育てや生活がしやすい環境を整備すべき。(男性、50代、印旛地域)

○待機児童問題をどうにかしてほしい。保育園の申請に希望先を複数あげなくては優先順位が下がるとあるが、地域によっては保育園を複数選べないことも考えてほしい。また、親族が近くに居住しているからといって、必ずしも助けを受けられる状態であるとは限らないので、点数にカウントされても困る。
(女性、20代、千葉地域)

問 また、この「世論調査」について、ご意見やご提案があればお書きください。

この「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、148人からの回答が寄せられた。これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載するものとする。

○電子申請ができて便利でした。国民のITリテラシーが上がり、アンケート用紙が早くな
ることを願います。（女性、30代、葛南地域）

○長いのもう少しコンパクトにしていいただけると嬉しいです。（男性、20代、夷隅地域）

○良いと思います。現場の声として知事に聞いてもらえると嬉しいです。
（男性、50代、東葛飾地域）

○少し専門用語が多く、一般の県民に調査するには、わかりやすい設問にしていきたいで
す。（女性、30代、葛南地域）

○この調査結果がしっかりと反映され、千葉県がより魅力のある街になるとうれしく思います。
（女性、30代、千葉地域）

○質問の内容が多岐に渡っているため、個人の理解度に差がありすぎると思います。もう少し、
内容を細分化して調査を実施した方が良いと思います。（男性、65歳以上、東葛飾地域）

○師走になりますと何かと気忙しい。もう少し別の月ではいけないのでしょうか？
（女性、65歳以上、千葉地域）

○届いてから返信するまでの期間が短いのもう少し期限を延ばしてほしい。
（女性、50代、君津地域）

○私の周りでは、このような調査が行われているのを知っている人はいませんでした。これか
ら、千葉県に住み続け、千葉県にいることを誇りに思えるような行政を期待しております。
チーバくんボールペンありがとうございました。チーバくん、かわいくて大好きです。
（女性、40代、香取地域）

○東京に近い地域と遠く離れた地域では環境が全く異なるので、対策も違ってくる。アンケー
トの質問事項が、もう少し多様性があると良かったのではないかと思います。
（女性、60～64歳、海匝地域）

（付）調査票および単純集計結果

ちば

第 61 回 千葉県政に関する世論調査

ご記入にあたってのお願い

- 1 宛名のご本人様がお答えくださるようお願いいたします。
お名前やご住所などの個人情報、ご記入不要です。
なお、諸事情によりご本人様にご記入することが困難な場合は、ご家族等によりご本人様のお答えを代筆いただくことも可能です。
- 2 ご回答は、この調査票に黒か青のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
- 3 （１）ご回答は、原則、あてはまる選択肢の番号に○をつけてください。
質問の中に、（○は１つ）、（○は３つまで）、（○はいくつでも）などと表示していますので、そちらに合わせて○をつけてください。
（２）質問によってご回答していただく方が限られる場合がありますので、ことわり書きや矢印にしたがってください。特にことわりのない場合は、全ての方にご回答いただく質問になります。
（３）お答えが選択肢の中になく、「その他」を選んだ場合は、（ ）内にその内容を具体的にご記入ください。
- 4 （１）ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れて、
12月11日（金）までに郵便ポストにご投函ください。
返信用封筒へのお名前やご住所のご記入、切手は不要です。
※調査票は、折り目に合わせて三つ折でお願いします。
（２）インターネットでご回答される場合は、別添の「インターネット回答操作案内」をご覧ください。ご回答には、右下に貼られた「申請者ID」「パスワード」が必要になります。
なお、セキュリティ保護のため、回答入力ページへ移動後、60分で接続が切断（タイムアウト）しますので、案内に記載の回答一時保存をお願いいたします。
（３）「申請者ID」等は、ランダムに調査票へ貼っており、個人を特定するものではありません。
- 5 ご回答に当たってご不明な点等がございましたら、お手数ですが下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

千葉県 総合企画部
報道広報課 広聴室

〒260-8667

千葉市中央区市場町1番1号

電 話 043-223-2469

FAX 043-227-3613

アドレス kouchou@mz.pref.chiba.lg.jp

ネット回答者用
「申請者ID」
「パスワード」の
記載シール添付場所

【県政全般に関する意識調査】

中長期的な視点に立った県政運営の基礎資料とするため、日頃、県民の皆さまが感じていることや思っていることについてお聞きいたします。

問1 あなたは、防災に関する次の項目についてどう思いますか。

n=1,529（○はそれぞれ1つ）

		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない	無回答
(ア)	自助・共助・公助（※）の取組により、災害に対して安心して暮らせる地域になっている	5.6	27.9	31.1	16.0	11.9	7.4	0.2
(イ)	橋りょうや護岸、防潮堤などの社会インフラの整備や耐震化が進み、災害に強いまちづくりが行われている	3.5	21.3	28.6	19.2	14.7	12.1	0.6
(ウ)	大規模災害やテロなど様々な危機に対して、迅速かつ的確に対応できている	1.2	9.5	28.0	21.1	25.0	14.9	0.4

（※）自助・共助・公助…「自助」とは、日頃から家庭で災害に備えるなど、自らの身の安全を自らが守ること、「共助」とは、近隣住民が助け合い、災害から自らの地域を守ること、「公助」とは、消防・警察や自治体による救助や支援のこと。

問2 あなたは、暮らしの安全・安心に関する次の項目についてどう思いますか。

n=1,529（○はそれぞれ1つ）

(ア)	自主防犯団体（※）が行う防犯パトロールなど、行政と地域住民が連携した取組により、犯罪が起りにくいまちづくりが行われている	6.0	31.8	28.3	14.7	12.8	6.1	0.4
(イ)	道路や標識の整備、交通指導などにより、交通事故が起きにくい環境が整っている	4.1	24.7	30.4	19.6	17.8	3.1	0.3
(ウ)	消費生活に関する情報提供や身近な相談窓口の整備などにより、消費者が安全で、安心な消費生活を送ることができる	4.1	26.2	33.7	15.4	9.9	10.1	0.5

（※）自主防犯団体…地域の犯罪防止のために自治会などが結成する組織のこと。



千葉県マスコット

キャラクター

チーパくん

問 3 あなたは、医療・福祉・健康に関する次の項目についてどう思いますか。

n=1,529（○はそれぞれ1つ）

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
(ア)	安心して良質な医療を受けられる環境が整っている	12.1	42.6	20.7	11.7	9.7	2.6	0.5
(イ)	生活習慣病予防などの健康づくりにより、健康で生き生きと生活できる環境が整っている	5.7	34.6	31.8	13.6	7.0	6.8	0.5
(ウ)	在宅介護サービスの充実などにより、高齢になっても住み慣れた地域で暮らせる環境が整っている	4.3	24.3	28.2	14.5	11.1	17.3	0.3
(エ)	障害のある人が、地域社会の中で人々と共生し、その人らしく暮らせる環境が整っている	2.2	15.0	31.9	19.0	15.2	16.3	0.5

問 4 あなたは、文化芸術・スポーツに関する次の項目についてどう思いますか。

n=1,529（○はそれぞれ1つ）

(ア)	音楽や美術の鑑賞・創造や、伝統芸能への参加など、文化芸術に触れ親しむ環境が整っている	4.1	26.6	29.2	17.4	13.0	9.4	0.3
(イ)	スポーツ施設の利用やイベントへの参加の機会など、スポーツに親しむことができる環境が整っている	5.5	29.4	28.4	16.3	11.1	8.9	0.5

問 5 あなたは、環境問題に関する次の項目についてどう思いますか。

n=1,529（○はそれぞれ1つ）

(ア)	家庭や企業の省エネルギーの推進などにより、二酸化炭素の排出削減（地球温暖化対策）の取組が進んでいる	2.2	17.3	32.6	19.2	14.7	13.5	0.6
(イ)	ごみの減量化やリサイクルの推進により、資源が有効に活用されている	6.1	34.1	26.6	13.3	8.6	11.1	0.3
(ウ)	良好な大気・水環境が保全されている	5.5	32.3	29.7	13.1	9.4	9.7	0.3
(エ)	外来生物の捕獲・駆除や、絶滅のおそれのある野生生物の保護などが適切に行われている	1.8	12.3	28.9	16.5	15.7	24.3	0.5

問6 あなたは、子育てに関する次の項目についてどう思いますか。

n=1,529（○はそれぞれ1つ）

		そう思う	ええそう思う	どちらかとい いえない	どちらとも そう思わない	どちらかとい ええ	そう思わない	わからない	無回答
(ア)	妊娠・出産・育児に対する相談支援などにより、安心して子どもを生み育てられる環境が整っている	5.0	28.4	23.7	11.8	7.7	22.5	0.9	
(イ)	保育所の整備などにより保育サービスが充実し、子育てを支える環境が整っている	5.9	27.9	22.4	12.9	8.2	21.6	1.0	
(ウ)	子ども・若者が健やかに成長し、社会的・経済的に自立できる環境が整っている	2.7	20.0	31.3	15.8	12.2	17.0	0.9	
(エ)	ひきこもり、不登校、ニート（※）等社会生活上の困難を有する子ども・若者が、相談窓口の設置などにより、自立できる環境が整っている	1.1	6.1	27.3	15.3	15.0	34.3	1.0	

（※）ニート…就職せず、就職活動もしていない人のうち、家事も通学もしていない15歳から34歳までの人のこと。

問7 あなたは、教育に関する次の項目についてどう思いますか。

n=1,529（○はそれぞれ1つ）

(ア)	確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスの取れた人材を育てる教育が行われている	2.7	24.0	29.8	12.4	9.8	20.1	1.2	
(イ)	子どもたちが、基本的な生活習慣や社会的なマナーなどを学校や社会などの中で身に付けている	4.0	30.1	27.9	11.4	10.1	15.5	1.0	
(ウ)	子どもたちが生き生きと勉強や部活動に取り組み、安心して学校に通っている	6.7	37.2	25.0	7.3	5.9	16.7	1.1	
(エ)	家庭・学校・地域・企業などが相互に連携し、地域社会全体で子どもたちを育成している	3.5	25.4	29.0	13.3	8.6	18.7	1.5	

問8 あなたは、千葉県の魅力発信に関する次の項目についてどう思いますか。

n=1,529（○はそれぞれ1つ）

(ア)	観光・農林水産物・自然・文化など、千葉県の魅力が県内外に発信され、多くの人知っている	6.1	31.0	26.9	16.1	12.1	7.1	0.7	
(イ)	地域の特色や魅力を十分にいかした観光地づくりが行われている	4.0	24.8	32.7	17.3	12.2	8.2	0.7	
(ウ)	県産農林水産物を活用した加工食品や地域の特性をいかした工業製品などの新商品が生み出されている	3.3	23.0	29.0	17.1	9.3	17.7	0.7	

問９ あなたは、地域生活に関する次の項目についてどう思いますか。

n=1,529（○はそれぞれ１つ）

		そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない	無回答
(ア)	地域住民が互いに支え合って暮らせる環境が整っている	3.1	23.9	35.0	17.5	13.3	6.4	0.9
(イ)	外国人住民が、地域の中で孤立せず、日本人住民と共に生活している	2.8	17.3	27.3	12.2	9.3	30.0	1.1

問１０ あなたは、商工業に関する次の項目についてどう思いますか。

n=1,529（○はそれぞれ１つ）

(ア)	県内への新たな企業立地や新商品・新技術開発により、地域経済が活性化している	1.6	9.9	28.4	17.7	13.7	27.3	1.3
(イ)	県内の中小企業が自らの特徴をいかし、事業の継続や強化により、積極的な活動を展開している	1.1	8.7	31.1	15.8	10.6	31.7	1.1
(ウ)	商店街をはじめとする地域に根差した商業の活動が活性化している	1.3	7.7	22.1	24.7	27.9	14.8	1.4

問１１ あなたは、農林水産業に関する次の項目についてどう思いますか。

n=1,529（○はそれぞれ１つ）

(ア)	野菜や果物、米、魚、肉等の食材や花など、千葉県の農林水産物の良さが、消費者に知られている	7.0	40.7	23.2	13.1	7.8	7.5	0.7
(イ)	県産農林水産物の積極的な販売促進や情報通信技術（ＩＣＴ）を活用した効率的な生産などにより、農林水産業が活性化している	2.0	14.6	31.2	13.4	9.2	28.7	0.9
(ウ)	農林水産物の直売所や農林漁業体験を通じた都市住民との交流が進み、農山漁村の地域が活性化している	2.6	17.1	29.6	15.3	11.2	23.0	1.2

問１２ あなたは、雇用・労働に関する次の項目についてどう思いますか。

n=1,529（○はそれぞれ１つ）

(ア)	ワーク・ライフ・バランス（※）の確保などにより、企業等における働きやすい環境が整っている	1.4	13.4	29.8	18.9	16.6	19.0	0.9
(イ)	企業等における理解や良好な職場環境の整備が進み、女性が個性と能力を発揮し活躍できる環境が整っている	2.0	11.3	30.6	18.2	17.0	19.9	0.9

（※）ワーク・ライフ・バランス…老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態のこと。

問 13 あなたは、県の基盤づくりに関する次の項目についてどう思いますか。

n=1,529（○はそれぞれ1つ）

		そう思う	え ば そう 思う	ど ち ら か と い い え な い	ど ち ら と も	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
(ア)	鉄道網・道路網・港湾の整備が進められ、交通及び物流の利便性が高まっている	9.4	38.5	19.8	11.1	12.9	7.7	0.9	
(イ)	成田国際空港の機能の拡充や県内外から成田国際空港への交通アクセスの充実により、利便性が向上している	11.3	37.6	20.3	9.2	9.3	11.5	0.7	
(ウ)	道路・河川・港湾・上下水道などの社会インフラが、計画的な改修により、適切に維持管理されている	5.0	28.5	29.4	12.4	10.6	13.4	0.7	
(エ)	バリアフリー設備の整備促進などにより、誰もが安心して、快適に暮らすことのできる環境が整っている	1.9	15.8	32.0	21.5	18.4	9.7	0.7	

問 14 あなたは、情報通信技術（ICT）に関する次の項目についてどう思いますか。

n=1,529（○はそれぞれ1つ）

(ア)	公的機関からのインターネットによる情報提供や、電子申請手続きの拡充が進み、利便性が向上している	6.1	27.7	25.6	11.5	12.3	15.6	1.1
(イ)	情報通信技術（ICT）の活用によって、日常生活での利便性が向上している	7.1	26.9	25.6	11.2	11.7	16.2	1.2

問 15 千葉県の人口は、出生数の減少や死亡数の増加などにより減少傾向にあります。今後、人口減少が進行すると、高齢化の進展とあいまって、働き手の減少や経済規模の縮小など、経済社会に影響を与えることが懸念されています。そうした中で、これからの千葉県はどのような取組が必要と考えますか。

n=1,529（○はいくつでも）

76.5	安心して子どもを生み育てられる環境の整備	
40.0	女性が活躍できる環境づくり	
58.6	地域医療・福祉サービスの確保	
57.8	医療・福祉・介護人材の確保・育成	
37.4	高齢者の活躍促進	
48.1	若者の移住・定住の促進	
18.4	外国人も暮らしやすい社会づくり	
29.2	働き方改革の推進	
51.4	魅力ある雇用の場の整備	
31.5	地域資源をいかした産業振興	
23.3	高度な技術やノウハウを持つ人材の育成	
15.2	革新的技術などを活用した生産性向上の促進	
19.8	地域のNPO・企業など多様な主体による連携と協働の促進	
4.8	その他（具体的に	）
1.8	わからない	1.5 無回答

（すべての方に）

このほかに、県が今後力を入れていくべき分野や取組について、ご意見があればご自由にお書きください。

【災害時における県民の備えや意識について】

県では、令和元年房総半島台風（台風15号）をはじめとする一連の災害対応への検証を踏まえ、さまざまな防災対策に取り組んでいます。
今後の取組推進の参考とするため、皆さまの意識をお聞きいたします。

問16 災害時の停電に備えて準備しているものはありますか。
n=1,529（○はいくつでも）

76.7	乾電池	87.6	照明器具（LEDランタン、懐中電灯など）
52.4	携帯電話・スマートフォンの予備バッテリー	61.9	ラジオ（乾電池式など）
10.0	発電機	14.6	その他（具体的に）
		1.7	無回答

問17 停電時の情報の入手手段として主に何を利用すると考えていますか。
n=1,529（○は2つまで）

80.3	携帯電話・スマートフォン・タブレット
10.7	テレビ（バッテリー付き小型テレビ）
57.4	ラジオ（乾電池式など）
4.8	チラシ（避難所等で配布）
16.2	広報車
1.8	その他（具体的に）
	0.8 無回答

→（問17で「1」をお答えの方に）

問17-1 主な情報の入手手段・入手先は何ですか。
n=1,228（○は2つまで）

37.0	SNS（ツイッターなど）	69.1	緊急速報メール
32.1	防災アプリ	3.0	その他（具体的に）
36.7	行政機関のホームページ	0.7	無回答

（すべての方に）

問18 停電時に特に必要な情報は何か。
n=1,529（○は2つまで）

79.9	停電の復旧情報（停電エリア、復旧見込）	9.5	交通機関の運行情報
52.2	断水・給水情報	17.5	携帯電話等の充電場所
8.3	気象情報	23.2	家族・友人の安否情報
19.9	被害情報	0.3	その他（具体的に）
16.7	避難所の開設情報	0.6	無回答

問 19 災害時の避難に関して、以下の事項を知っていますか。

n=1,529（○はいくつでも）

- | | | |
|------|--|---------|
| 80.2 | 自宅での安全確保が可能な場合、在宅避難を検討すべきこと | |
| 55.9 | 避難先は地域の避難所に限らず、安全な場所にある親戚・知人宅等への避難も検討すべきこと | |
| 31.2 | 自宅や親戚・知人宅等で避難生活をしている方も、避難所で支援を受けられること | |
| 11.6 | いずれも知らない | 2.1 無回答 |

問 20 お住まいの地域に浸水のおそれがある場合、どのように避難しますか。

n=1,529（○は1つ）

- | | | |
|------|-----------------------------------|-----------|
| 26.4 | 避難所に避難する | |
| 44.1 | ハザードマップなどで自宅の安全性を確認し、自宅に留まる（在宅避難） | |
| 8.6 | 新型コロナウイルス感染症が怖いので、自宅に留まる（在宅避難） | |
| 9.1 | 安全な場所にある親戚・知人宅等に避難する | |
| 5.3 | マイカー等を使って車中泊をする | |
| 1.3 | その他（具体的に | ） 5.1 無回答 |

問 21 避難所に避難することになった場合に備えて、新型コロナウイルス感染症対策として、以下のものを持ち出せるように非常持ち出し袋に加えるなど準備をしていますか。

n=1,529（○はいくつでも）

- | | | | |
|------|-----------|------|----------|
| 84.2 | マスク | 54.0 | 消毒液 |
| 36.4 | 体温計 | 8.8 | その他（具体的に |
| 55.7 | ウェットティッシュ | 9.3 | 無回答 |

問 22 避難所において、どのような新型コロナウイルス感染症対策がなされていれば安心して避難できると思いますか。

n=1,529（○は2つまで）

- | | | |
|------|------------------------------------|-----------|
| 59.7 | 避難所の空間が家族や世帯ごとに間仕切りで隔離されている | |
| 28.4 | 十分な換気（1時間に2回程度）が実施されている | |
| 37.1 | 十分なスペース（家族ごとに2m程度の間隔）が確保されている | |
| 41.3 | 発熱や咳等の症状がある方や濃厚接触者のためのスペースが分けられている | |
| 22.7 | 避難者用のマスクや消毒用品が準備されている | |
| 25.9 | 看護師や保健師による巡回が実施される | |
| 1.1 | その他（具体的に | ） 1.7 無回答 |

（すべての方に）

このほかに、「災害時における県民の備えや意識について」やここまでの質問（問16～問22）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【災害ボランティア等について】

県では、県民活動推進計画に基づき、市民活動団体の活動やボランティア活動など県民活動への理解や参加の促進を図っており、今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問 23 あなたは、令和元年房総半島台風等、令和元年に本県で発生した一連の災害を通じて、市民活動団体の活動やボランティア活動への関心が高まりましたか。

n=1,529（〇は1つ）

12.6	大いに高まった	51.9	特に変化はない	0.8	大きく低下した
32.3	やや高まった	0.3	やや低下した	2.1	無回答

問 24 あなたは、令和元年房総半島台風等、令和元年に本県で発生した一連の災害において災害支援活動を行いましたか。

n=1,529（〇は1つ）

（※）ここでいう「災害支援活動」とは、ボランティア活動への参加、被災した親戚・知人に対する支援、近隣被災住宅の片付け、自治体や市民活動団体への寄附、物資の提供など、広く被災者・被災地への支援を指します（以下の設問でも同様）。

8.4	これまでも災害支援活動を行ったことがあります、今回の災害においても行った	
5.1	今回の災害で、初めて災害支援活動を行った	
80.6	特に災害支援活動を行わなかった	5.9 無回答

→（問 24 で「1」、「2」とお答えの方に）

問 24-1 支援活動の内容はどのようなものでしたか。 n=206（〇はいくつでも）

6.3	ボランティアセンターを通じたボランティア活動	
12.1	市民活動団体等の活動に参加	
46.6	自治体や社会福祉協議会、共同募金会等への寄附・物資の提供（ふるさと納税を含む）	
22.3	市民活動団体への寄附・物資の提供	
39.8	被災した親族・知人・近隣住民等に対する支援	
6.3	その他（具体的に	） 1.0 無回答

（すべての方に）

問 25 今後、災害が発生した際（県外での発災も含む）に支援活動を行いたいと思いますか。

n=1,529（〇は1つ）

17.7	そう思う	5.4	どちらかといえばそう思わない		
26.4	どちらかといえばそう思う	7.7	そう思わない		
25.4	どちらともいえない	16.0	わからない	1.5	無回答



（すべての方に）

このほかに、「災害ボランティア等について」やここまでの質問（問 23～問 25）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【ワーク・ライフ・バランスについて】

県では、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（以下「ワーク・ライフ・バランス」といいます）を図ることができる働き方の実現を目指して、様々な取組を進めています。今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問 26 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか。

n=1,529（○は1つ）

41.3	言葉も意味も知っている	
25.8	言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない	
31.1	言葉も意味も知らない	1.8 無回答

問 27 あなたは、自身のワーク・ライフ・バランスは、どの程度実現していると思いますか。現在、お仕事をされていない場合は、ご家族などの身近な人を想定してお答えください。

n=1,529（○は1つ）

4.3	十分実現できていると思う	
32.2	どちらかといえば実現できていると思う	
24.1	どちらかといえば実現できていないと思う	
8.4	全く実現できていないと思う	
27.7	わからない	3.3 無回答

→（問 27 で「3」、「4」とお答えの方に）

問 27-1 ワーク・ライフ・バランスの実現に当たり、職場において支障となっている点は何ですか。

n=497（○はいくつでも）

38.4	労働時間が長い	20.1	帰りづらい雰囲気がある
25.2	労働時間が不規則である	35.4	休暇が取りにくい
20.7	通勤時間が長い	42.7	賃金が安い
37.2	業務量が多い	10.5	その他（具体的に）
		0.8	無回答

（すべての方に）

問 28 新型コロナウイルス感染症対策として、テレワーク（インターネット等の情報通信技術を活用し、自宅等で仕事を行う勤務形態）を実施していますか（週数回等の部分的なテレワークも含む）。現在、お仕事をされていない場合は、ご家族などの身近な人を想定してお答えください。 n=1,529（○は1つ）

- | | | |
|------|--|---------|
| 3.9 | 新型コロナウイルス感染症拡大以前から実施している | |
| 22.2 | 新型コロナウイルス感染症拡大を機に実施し、継続中である | |
| 12.9 | 緊急事態宣言中（4月7日～5月25日）は実施していたが、現在は実施していない | |
| 5.6 | 今後実施を検討している | |
| 48.8 | 実施していないし、今後も実施の予定はない | 6.6 無回答 |

→（問 28 で「3」、「5」とお答えの方に）

問 28-1 テレワークを実施していない理由をお答えください。

n=944（○はいくつでも）

- | | | |
|------|-----------------------------|-----------|
| 25.8 | 会社がテレワーク制度を導入していない | |
| 73.7 | テレワークで行える業務ではない | |
| 9.7 | テレワークに必要な I C T 環境が整備されていない | |
| 11.5 | テレワークを行うと仕事に支障が出る | |
| 2.1 | 上司・同僚とのコミュニケーションが不足する | |
| 4.7 | 会社・上司がテレワークに消極的で実施しにくい | |
| 3.7 | 自宅等においてテレワークに集中できる環境がない | |
| 3.5 | 仕事とプライベートの区別が付けづらい | |
| 7.7 | その他（具体的に | ） 1.4 無回答 |

（すべての方に）

このほかに、「ワーク・ライフ・バランスについて」やここまでの質問（問 26～問 28）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。



【高齢期の住まいについて】

県では、千葉県高齢者居住安定確保計画に基づき、高齢者に配慮された住宅の確保や高齢者の在宅生活を支えるサービスの充実に向け各種施策に取り組んでおり、今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問 29 高齢期における住まいで重要なことは何だと思えますか。

n=1,529（○は3つまで）

- | | | |
|------|--------------------------------|-----------|
| 47.0 | バリアフリー化された住宅（手すりがある、段差が少ないなど） | |
| 28.3 | 見守り装置・緊急通報装置がある住宅 | |
| 12.2 | 耐震性や防犯性が高い住宅 | |
| 56.8 | 近くに買い物できる場所がある | |
| 57.2 | 近くに医療施設や福祉施設がある | |
| 11.4 | 住宅周辺の道が歩きやすい（段差や坂が少ない、安全な道路など） | |
| 25.4 | 公共交通機関を利用しやすい | |
| 18.1 | 近くに家族や親戚がいる | |
| 20.1 | 近所付き合いや地域の支え合いがある | |
| 11.7 | 福祉サービスについて行政からの情報が得やすい | |
| 10.5 | 参加しやすいコミュニティ活動やサークル活動がある | |
| 3.4 | 地域に若い世代もいる | |
| 13.5 | 治安・風紀がよい | |
| 0.8 | その他（具体的に | ） 0.9 無回答 |

問 30 あなたは、高齢期を迎えたとき、どのような住宅に住みたいと思えますか。

n=1,529（○は1つ）

- | | | |
|------|--|-----------|
| 65.1 | 住み慣れた住宅に住み続けたい | |
| 18.4 | バリアフリー化など、高齢者向けに配慮された住宅に住み換えたい | |
| 4.0 | 同世代の高齢者たちが支え合って生活するグループリビングなどに住み換えたい | |
| 9.2 | 将来、介護を受けることを想定して、元気なうちから早めにケア付き住宅などに住み換えたい | |
| 1.8 | その他（具体的に | ） 1.4 無回答 |

問 31 高齢期に備え、あなたがお住まいの住宅の建て替え、買い替え、リフォームなどが必要だと思えますか。予定の有無にかかわらずお考えください。

n=1,529（○は1つ）

- | | | | |
|------|----------------|------|--------|
| 35.7 | そう思う | 17.7 | そう思わない |
| 28.6 | どちらかといえばそう思う | 11.1 | わからない |
| 5.6 | どちらかといえばそう思わない | 1.3 | 無回答 |

問 32 あなたは、介護が必要になった時、どのような住まい方を望みますか。

n=1,529（○は1つ）

- | | | |
|------|-------------------------------|-----------|
| 41.5 | 家族の介護や介護サービスを受けながら自宅に住みたい | |
| 16.7 | 特別養護老人ホームや有料老人ホーム等の高齢者施設に住みたい | |
| 21.4 | サービス付き高齢者向け住宅に住みたい | |
| 17.9 | わからない | |
| 1.6 | その他（具体的に | ） 1.0 無回答 |

（すべての方に）

このほかに、「高齢期の住まいについて」やここまでの質問（問 29～問 32）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【県民の治安に対する意識と警察に求めることについて】

県では、地域の安全を守るため県警をはじめとする各組織で、連携した取組を行っており、地域の安全を守るための今後の取組の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問 33 あなたは、現在お住まいの地域における最近の犯罪の発生状況について、どう感じますか。n=1,529（○は1つ）

4.1 非常に多くなったと感じる	5.8 少なくなったと感じる
21.9 多くなったと感じる	1.1 非常に少なくなったと感じる
46.5 変わらない	19.9 わからない
	0.6 無回答

問 34 あなたは、あなた自身やあなたの家族、友人、同僚などの身近な人が巻き込まれる危険性について、不安を感じている犯罪はありますか。n=1,529（○はいくつでも）

22.0 殺人、強盗、誘拐などの凶悪な犯罪
67.5 電話 de 詐欺や悪質商法などの詐欺
35.8 暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪
37.3 自転車・自動車盗などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪
39.2 家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪
13.3 外国人や暴力団などの組織を背景に行われる犯罪
10.5 危険ドラッグ・麻薬・覚醒剤の使用などの薬物犯罪や薬物使用に起因する犯罪
17.0 痴漢、強制性交などの性的犯罪
8.6 DV（配偶者や恋人からの暴力）・ストーカー行為
27.8 子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪
5.3 歓楽街における客引きや違法風俗営業などの犯罪
11.7 非行少年、暴走族などによる犯罪
42.0 インターネットを利用した犯罪（サイバーテロを含む）
4.3 国際テロ組織による大規模なテロ犯罪や過激派集団によるゲリラ行為
54.1 飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反
1.2 その他（具体的に
5.2 特にな
1.1 無回答

問 35 あなたが、警察に力を入れて取り締まって欲しい犯罪は何ですか。

n = 1,529（○はいくつでも）

- | | | |
|------|--------------------------------------|---------|
| 44.9 | 殺人、強盗、誘拐などの凶悪な犯罪 | |
| 59.8 | 電話 de 詐欺や悪質商法などの詐欺 | |
| 44.2 | 暴行、傷害、ひったくり、路上強盗などの街頭における犯罪 | |
| 33.9 | 自転車・自動車盗などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪 | |
| 43.4 | 家や会社などに侵入して金品を盗む犯罪 | |
| 25.4 | 外国人や暴力団などの組織を背景に行われる犯罪 | |
| 25.7 | 危険ドラッグ・麻薬・覚醒剤の使用などの薬物犯罪や薬物使用に起因する犯罪 | |
| 30.7 | 痴漢、強制性交などの性的犯罪 | |
| 20.5 | D V（配偶者や恋人からの暴力）・ストーカー行為 | |
| 42.6 | 子どもに対するいたずらや誘拐などの犯罪 | |
| 12.4 | 歓楽街における客引きや違法風俗営業などの犯罪 | |
| 23.0 | 非行少年、暴走族などによる犯罪 | |
| 38.1 | インターネットを利用した犯罪（サイバーテロを含む） | |
| 13.9 | 国際テロ組織による大規模なテロ犯罪や過激派集団によるゲリラ行為 | |
| 64.0 | 飲酒運転、ひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反 | |
| 2.7 | その他（具体的に | ） |
| 2.0 | 特にな | 1.4 無回答 |

問 36 あなたは、犯罪や事故の心配のない、安全で安心できる生活を守っていくために、何が必要だと思いますか。

n = 1,529（○は3つまで）

- | | | |
|------|--|---------|
| 15.0 | 警察官を増やし、警察力を強化する | |
| 33.9 | 警察官や交番相談員を増やし、交番を不在にする時間を解消する | |
| 27.7 | パトカーや白バイなどを増やし、パトロールを強化する | |
| 18.1 | 人口や事件が増えている地域に警察署、交番、駐在所を新設する | |
| 57.8 | 街頭防犯カメラやドライブレコーダーを普及させるなど、犯罪の抑止対策を推進する | |
| 26.5 | 高齢者に対する安全・安心対策を推進する（交通安全、電話 de 詐欺等） | |
| 18.6 | 子どもや女性に対する性犯罪などの未然防止対策を推進する | |
| 17.3 | 学校等における非行防止、通学路における安全確保を推進する | |
| 13.9 | 最先端技術を駆使した装備や機材を導入するなど警察の科学捜査力を充実させる | |
| 17.4 | 警察と地域住民が連携して行う防犯パトロールや防犯講習会の開催など、防犯活動を推進する | |
| 9.6 | 民間企業のセキュリティシステムに加入するなど、自己防衛力を強化する | |
| 12.2 | ボランティア、自治会等、地域主導型の防犯組織づくりを推進する | |
| 2.1 | その他（具体的に | ） |
| 1.2 | 特にな | 1.1 無回答 |



（すべての方に）

このほかに、「県民の治安に対する意識と警察に求めることについて」やここまでの質問（問 33～問 36）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【犯罪被害者等支援について】

県では、「千葉県安全で安心なまちづくりの促進に関する条例」に基づき、「被害者等に対する支援に関する指針」を定め、犯罪被害者やその家族又は遺族（以下「犯罪被害者等」といいます）の支援に取り組んでおり、今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

問 37 あなたは、犯罪被害者等の権利利益の保護を目的として制定された法令等を知っていますか。名前を知っているものをすべて選んでください。

n=1,529（○はいくつでも）

- | | |
|-----------------------------------|---------|
| 18.3 犯罪被害者等基本法 | |
| 5.0 犯罪被害者等基本計画（国） | |
| 9.9 千葉県安全で安心なまちづくりの促進に関する条例（県） | |
| 2.0 上記条例に基づく「被害者等に対する支援に関する指針」（県） | |
| 71.6 知らない | 3.2 無回答 |

問 38 あなたは、犯罪被害者等のための相談窓口を知っていますか。名前を知っているものをすべて選んでください。

n=1,529（○はいくつでも）

- | | |
|---|---------|
| 7.6 県の犯罪被害者等に関する総合的対応窓口 | |
| 14.5 警察本部サポートコーナー・各警察署の相談窓口 | |
| 6.5 市町村の犯罪被害者等に関する総合的対応窓口 | |
| 2.9 公益社団法人千葉犯罪被害者支援センター（略称：CVS） | |
| 23.1 法律相談窓口（千葉県弁護士会・法テラス） | |
| 3.2 性犯罪被害相談に係る全国共通番号「#8103（ハートさん）」 | |
| 2.8 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター（NPO法人千葉性暴力被害支援センターちさと・CVS） | |
| 62.2 知らない | 2.4 無回答 |

問 39 あなたは、以下の施策を知っていますか。名前を知っているものをすべて選んでください。

n=1,529（○はいくつでも）

- | | |
|----------------------------------|---------|
| 15.2 国の犯罪被害者等給付金制度 | |
| 2.6 県警の公費負担制度（医療費、カウンセリング費用等） | |
| 7.5 県営住宅の入居に係る優遇措置 | |
| 1.8 犯罪被害者支援員養成講座（一般県民向け） | |
| 3.7 犯罪被害者週間（11月25日～12月1日）・県民のつどい | |
| 1.0 その他（具体的に | ） |
| 73.4 知らない | 3.3 無回答 |

（すべての方に）

このほかに、「犯罪被害者等支援について」やここまでの質問（問37～問39）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【サイバー空間の安全対策について】

インターネットが県民生活に浸透する中で、コミュニケーション手段がオンラインを中心としたものへ移行するとともに、様々な場面においてインターネットの利用が拡大しています。一方、サイバー犯罪が多発するなど、サイバー空間の脅威が深刻化しており、効果的な対策を検討するため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします。

（※）サイバー犯罪とは、コンピュータネットワーク上で行われる犯罪をいい、ここでは、以下「ネット犯罪」と称します。

問40 あなたは、ネット犯罪を身近なものとして感じたことがありますか。

n=1,529（○は1つ）

20.1 大いに感じたことがある	6.5 まったく感じたことはない
37.7 やや感じたことがある	9.9 わからない
23.9 あまり感じたことはない	2.0 無回答

問41 あなたは、自身又は家族を含めて、どのようなネット犯罪に危険性や不安を感じますか。

n=1,529（○はいくつでも）

70.3 電子メールやSMSを利用した偽サイトへの誘導	
56.5 偽サイトによる詐欺、悪質商法	
51.1 フィッシングメールによるクレジットカードや口座情報の窃取	
41.9 他人による不正アクセス	
26.1 インターネットバンキングの不正送金	
46.8 コンピュータ・ウイルスによる個人情報等の流出	
27.7 F r e e W i - F i （公衆無線LAN）の悪用	
13.9 企業等に対するサイバー攻撃（テロ）	
1.0 その他（具体的に	）
10.1 わからない	1.9 無回答

問42 あなたは、ネット犯罪に関する防犯情報等をどのように入手していますか。

n=1,529（○はいくつでも）

85.4 テレビ、ラジオ、新聞など	
5.2 県警や行政機関（県・市町村など）のホームページ	
12.1 県警や行政機関（県・市町村など）から発行される広報誌	
6.7 登録しているメールマガジン	
20.3 SNS（T w i t t e r 等）や動画投稿サイト（Y o u T u b e 等）	
6.4 警察等によるキャンペーン等のイベント	
3.9 その他（具体的に	） 3.7 無回答

問 43 あなたは、飲食店、ホテル、空港などの街中に設置されている F r e e W i - F i （公衆無線LAN）を利用しますか。 n=1,529（○は1つ）

- | | |
|---|---------|
| 18.4 通信が暗号化されるなど、セキュリティが高いもののみ利用する | |
| 14.3 セキュリティは気にしないが、利用する際は個人情報等を入力しないようにしている | |
| 4.8 セキュリティは気にせず、何でも利用する | |
| 49.6 利用しない | |
| 10.9 わからない | 2.0 無回答 |

問 44 あなたは、インターネット空間の安全確保に向けてどのような警察活動を期待しますか。 n=1,529（○はいくつでも）

- | | |
|--------------------------------------|-----------|
| 71.9 ネット犯罪の取締りの強化 | |
| 40.2 サイバー（インターネット）パトロールによる犯罪情報等の把握活動 | |
| 42.3 高度な情報通信技術に対処するための捜査力や解析技術の向上 | |
| 34.5 高度な犯罪手口に対処できる捜査機材の整備・充実 | |
| 38.8 子ども（小・中学生）に対するネット安全教室の開催 | |
| 12.9 ネット犯罪に関する防犯講話の実施 | |
| 10.1 インターネット（リモート）による防犯情報等の動画配信 | |
| 10.7 キャンペーン等のイベント開催による啓発活動 | |
| 33.0 通信事業者などへのセキュリティ対策強化の働きかけ | |
| 1.5 その他（具体的に | ） 5.1 無回答 |

（すべての方に）

このほかに、「サイバー空間の安全対策について」やここまでの質問（問 40～問 44）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

【都市農業について】

県では、都市農業を支える様々な担い手を支援するとともに、都市農業や都市農地がもっと身近なものとなるよう理解の醸成を図っており、今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの意識をお聞きいたします

（※）「千葉県内の市街地及びその周辺の地域で行われる農業・農地」を本調査では、都市農業・都市農地と呼びます。

問 45 あなたは、千葉県に都市農地を残したいと思いますか。 n=1,529（○は1つ）

71.5 思う	4.0 思わない	22.6 どちらともいえない	2.0 無回答
---------	----------	----------------	---------



問 46 あなたは、千葉県の都市農業・都市農地にどのような機能や役割を期待しますか。
n=1,529（○は3つまで）

- | | | |
|------|------------------------|---------|
| 71.9 | 新鮮で安全な農産物の供給 | |
| 46.3 | 緑や環境の保全 | |
| 32.0 | 地域産業の活性化（他産業との連携を含む） | |
| 19.7 | 農作業体験や食育などの教育機能 | |
| 15.0 | 農作業体験などによる農業への関心の呼び起こし | |
| 17.9 | 生活の潤いや安らぎの場の提供 | |
| 14.3 | 地域の伝統・文化の継承 | |
| 12.2 | 災害時の避難場所などの防災機能 | |
| 11.6 | 良好な景観の形成 | |
| 7.1 | 地域コミュニティの場 | |
| 5.4 | 園芸療法等の医療・福祉機能 | |
| 4.7 | 身近なレクリエーションの場 | |
| 0.3 | その他（具体的に | ） |
| 5.5 | 特にな | 1.8 無回答 |

問 47 あなたは、都市農地を守るために、どのような支援を行いたいと思いますか。
n=1,529（○は2つまで）

- | | | |
|------|-------------------------------|---------|
| 75.7 | 千葉県産の農産物を購入する | |
| 30.0 | 学校給食等への地元産農産物の割合を増やすことを要望していく | |
| 28.5 | 農家の庭先販売など、地元の農産物を購入する | |
| 17.5 | 千葉県産の食材を使用した飲食店を利用する | |
| 6.3 | 市民農園や体験農園を通して農地を利用する | |
| 2.5 | ボランティアとして農作業を手伝う | |
| 2.4 | 農地や用水路など環境維持活動に参加する | |
| 1.2 | 農地を保全するための取組に寄付する | |
| 1.0 | 千葉県の農業について自ら情報を発信する | |
| 0.4 | その他（具体的に | ） |
| 9.6 | 特にな | 2.0 無回答 |

問 48 あなたは、行政が都市農地を保全するためにどのような対策を行う必要がある
と思いますか。
n=1,529（○は2つまで）

- | | | |
|------|---|---------|
| 53.8 | 農業でも高収入が得られるよう魅力ある産業にする | |
| 30.3 | 農業以外からの新規参入者により担い手を確保する | |
| 25.3 | 相続税支払いのために売却され宅地になる農地を、行政が買い取るなど、
農地のまま保全できるような仕組みをつくる | |
| 26.0 | 農業用施設や機械購入等の助成により、農業を継続しやすくなるよう支援する | |
| 9.4 | 市街化区域の農地を保有しやすくなるように現行の法体制を改善する | |
| 7.5 | 農作業を行うボランティアなど市民が協力できる機会を増やす | |
| 10.7 | 農業・農地のもつ環境保全や防災等の様々な役割をPRすることにより県民の
理解を得る | |
| 1.3 | その他（具体的に | ） |
| 10.1 | 特にな | 3.2 無回答 |

（すべての方に）

このほかに、「都市農業について」やここまでの質問（問 45～問 48）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

以上で質問は終わりですが、調査結果を統計的に分析するために必要なことがらをお聞かせください。

F 1 あなたの性別は。 n=1,529（○は1つ）

43.2	男性	55.5	女性	0.1	その他	1.2	無回答
------	----	------	----	-----	-----	-----	-----

F 2 あなたは満何歳ですか。 n=1,529（○は1つ）

0.3	18～19 歳	17.1	40～49 歳	34.5	65 歳以上
8.1	20～29 歳	19.1	50～59 歳	1.0	無回答
11.0	30～39 歳	9.0	60～64 歳		

F 3 あなたのご職業は何ですか。 n=1,529（○は1つ）

6.1	自営業者	20.0	主婦・主夫	21.3	無職
44.1	勤め人	2.2	学生	4.4	その他（ ）
				1.9	無回答

F 4 あなたは、次のどの市町村にお住まいですか。 n=1,529（○は1つ）

15.7	千葉市	2.6	佐倉市	1.0	匝瑳市	0.3	勝浦市
4.1	市原市	1.5	四街道市	1.0	東金市	0.6	いすみ市
8.8	船橋市	1.2	八街市	0.6	山武市	0.6	夷隅郡大多喜町
8.6	市川市	2.0	印西市	0.6	大網白里市	0.0	夷隅郡御宿町
2.9	習志野市	1.0	白井市	0.5	山武郡九十九里町	1.1	館山市
2.5	八千代市	0.5	富里市	0.0	山武郡芝山町	0.3	鴨川市
2.5	浦安市	0.5	印旛郡酒々井町	0.3	山武郡横芝光町	0.7	南房総市
7.6	松戸市	0.0	印旛郡栄町	1.6	茂原市	0.0	安房郡鋸南町
2.5	野田市	0.9	香取市	0.0	長生郡一宮町	2.5	木更津市
5.5	柏 市	0.0	香取郡神崎町	0.6	長生郡睦沢町	2.0	君津市
2.9	流山市	0.0	香取郡多古町	0.0	長生郡長生村	0.3	富津市
2.1	我孫子市	0.7	香取郡東庄町	0.0	長生郡白子町	1.0	袖ヶ浦市
2.0	鎌ヶ谷市	1.0	銚子市	0.3	長生郡長柄町	1.5	無回答
2.7	成田市	0.5	旭 市	0.0	長生郡長南町		

以上で質問はすべて終わりです。

このほかにも、県へのご意見があればご自由にお書きください。

また、この「世論調査」について、ご意見やご提案があればお書きください。

お忙しいところご協力いただき、ありがとうございました。

ご記入いただいた調査用紙は、同封の返信用封筒に入れて、12月11日（金）
までに、郵便ポストにご投函ください。

なお、返信用封筒へのお名前やご住所の記入、切手は不要です。



令和２年度

(第61回)

県政に関する世論調査

令和３年５月発行

(令和２年11月実施)

千葉県総合企画部報道広報課

千葉市中央区市場町１番１号

(広聴室) 電話０４３－２２３－２４６９
